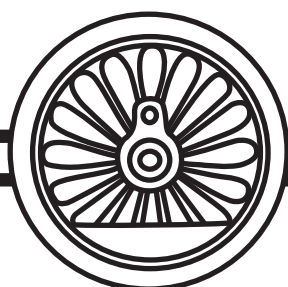


吹田市

吹田操車場遺跡 14

国立循環器病研究センター建替整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書



2017年8月

公益財団法人 大阪府文化財センター

公益財団法人 大阪府文化財センター調査報告書 第284集

吹田市

吹田操車場遺跡14

国立循環器病研究センター建替整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2017年8月

公益財団法人 大阪府文化財センター



1. 群集土坑全景（4トレンチ）（北東から）

原色写真図版 2



2. 掘立柱建物1近接（7トレンチ）（北から）



3. 緑釉陶器（遺物番号17）

序 文

本書に記す吹田操車場遺跡は大阪府の北部に位置する吹田市に所在し、千里丘陵より一段下がった岸部・千里丘台地の上に広がる複合遺跡です。遺跡の名が示すとおり、当地にはかつて「吹田操車場」と呼ばれた貨物列車の組成や入換えを行うための巨大な停車場がありました。大正12（1923）年に操業を開始した吹田操車場は、国内経済の成長とともにその規模を拡大し続け、国鉄時代には「東洋一の操車場」と称されるようになりましたが、物流のモーダルシフトによる貨物輸送量の低下や、鉄道貨物輸送がヤード方式から拠点間直行方式へと転換されたこと等により、昭和59（1984）年にその役割を終えることになりました。

残された広大な操車場の跡地は、南半部をJ R貨物の梅田貨物駅の機能移転による吹田貨物ターミナル駅として整備され、北半部を市街地として再開発することとなり、平成12（2000）年より独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構国鉄清算事業西日本支社による吹田信号場駅基盤整備事業、平成21（2009）年より独立行政法人都市再生機構西日本支社による区画整理事業、平成26（2014）年より各事業者による再開発事業が開始されました。これらに伴い、当センターが実施した発掘調査に関する成果については、これまでに14冊以上の報告書にまとめて広く一般に公開しております。

今回の調査は、J R岸辺駅前において平成31（2019）年に運用開始が予定されている国立循環器病研究センターの建設に伴う発掘調査であり、平成26（2014）年度に実施した約19,000㎡の調査の追加部分に相当します。今回の調査においても、前回の調査で検出した多数の掘立柱建物や群集土坑に関連する遺構や遺物がみつかっており、当地域ではあまり例をみない広範囲の調査成果が得られたことは、非常に貴重なものといえます。

最後になりましたが、今回の調査にあたって地元関係各位をはじめ、大阪府教育庁、吹田市教育委員会、国立研究開発法人国立循環器病研究センター、株式会社竹中工務店、株式会社島田組から多大なる御協力と御尽力を賜りました。記してここに感謝いたします。

平成29年 8月

公益財団法人 大阪府文化財センター
理 事 長 田 邊 征 夫

例 言

1. 本書は吹田市岸部新町地内に位置する吹田操車場遺跡（調査名：吹田操車場遺跡16-1）の発掘調査報告書である。
2. 調査は、国立研究開発法人国立循環器病研究センターの委託を受け、大阪府教育庁の指導の下、公益財団法人大阪府文化財センターが実施した。
3. 受託契約名、受託期間、調査および整理解体制については以下の通りである。
受託契約名：国立循環器病研究センター建替整備事業に伴う吹田操車場遺跡発掘調査
受託期間：平成26年3月4日～平成29年8月31日
（平成28年5月と同年11月に変更委託契約を行ったものである）
調査体制：平成28・29年度
事務局長 江浦 洋 調整課長 岡本茂史
調査課長 岡戸哲紀 調査課長補佐 三好孝一 主査 亀井 聡・佐伯博光
4. 調査にあたっては、下記の方々のご指導、ご協力を賜った。記して謝意を表する（順不同・所属機関毎、敬称略）。
岡本敏行・原田昌浩（大阪府教育庁）、安藤大介・賀納章雄・西本安秀・増田真木（吹田市立博物館・吹田市教育委員会）、国立研究開発法人国立循環器病研究センター
5. 本書の編集・執筆は、亀井が行った。
6. 今回の調査は、前回の調査である『吹田操車場遺跡12』に隣接しており、多くの共通する成果や事実関係が認められる。本書では、特に第1・2章において重複する内容が多いことから、報告上の必要な点については統一性を保つために前書を転用する。
7. 本調査に関わる写真・実測図等の記録類および出土遺物は、公益財団法人大阪府文化財センターにおいて保管している。広く活用されることを希望する。

凡 例

1. 基準高は東京湾平均海面（T.P.）を使用し、表記は省略する。使用単位はmを基準とし、値が正数の場合は+表記を省略する。
2. 遺構平面図の使用測地系は、平面直角座標系の世界測地系（測地成果2011）第Ⅵ系を使用する。単位はすべてmであり、図中の表記は省略する。
3. 本書の遺構図に付与された方位は、すべて平面直角座標系に基づく座標北とする。磁北は西に $6^{\circ}18'$ 、真北は東に $0^{\circ}12'$ 振っている。
4. 発掘調査および遺物整理は『財団法人大阪府文化財センター 遺跡調査基本マニュアル』2010に準拠して実施した。
5. 本書の土色は、小山正忠・竹原秀雄編著『新版 標準土色帖』2010 農林水産省農林水産技術会議事務所監修・財団法人日本色彩研究所色票監修に基づいて表記する。記述は、記号・土色名・主たる土質・補足内容の順であり、現地調査時のままとする。
6. 遺構名は遺構番号と遺構種類の組み合わせ（例：123柱穴）で表記し、遺構番号はトレンチや種類に関わらず、重複しないように個体識別番号として通し番号を付与した。複数の遺構で構成される掘立柱建物等については別に集合体名を与え、その場合は遺構名と区別するために集合体種類とその種類毎の通し番号の組み合わせ（例：掘立柱建物1）と表記する。
7. 遺構名は現地における記録をそのまま使用することを基本とするが、小穴については現地において混乱が生じていたため、本書では建物を構成する場合は柱穴、それ以外はピットと区別する。
8. 遺構・遺物の成果報告において、座標・規模・法量・調整等の詳細な数値や内容については第5章末の一覧

表をもって行うものとし、本文中では遺構に関連するものを中心に、一覧では表せない出土状況や特徴等に重点を絞って記載する。

9. 遺構図の縮尺は40分の1を基本とする。紙面の大きさに合わせて適宜変更を行うので、図示したスケールバーを参照されたい。
10. 遺構図における断面図の切断位置については、平面図上に鉤矢印で示す。なお、矢の指す方向は、断面を見通した先を示す。
11. 遺構図において、説明上の対象外となるものや既往の調査から引用した部分は、線色を灰色で表示するものがある。
12. 遺物実測図の縮尺は土器・瓦において4分の1を基本とし、土製品は4分の1・2分の1、石器は3分の2、銭貨は3分の2とする。写真図版における遺物の多くは任意の縮尺であるが、石器については実寸に揃えている。
13. 遺物実測図のうち、断面が黒塗りのものは須恵器、白抜きはそれ以外を指す。
14. 石器における後世の欠損部分は、すべて黒塗りで表示する。
15. 表中の（ ）表記は、遺構が調査区外等に広がり、全体量が把握できないものを示す。[]表記は、攪乱や上層の遺構による攪乱のため、表記が実測値ではない復元値であることを示す。
16. 本書を作成するにあたっては、以下のものを引用および参照にした。

大阪府立近つ飛鳥博物館 2006 『年代のものさし—陶邑の須恵器—』大阪府立近つ飛鳥博物館図録 40

公益財団法人大阪府文化財センター 2011 『吹田操車場遺跡Ⅶ』

公益財団法人大阪府文化財センター 2012 『明和池遺跡 1 吹田操車場遺跡 8 西の庄東遺跡』

公益財団法人大阪府文化財センター 2013 『吹田操車場遺跡 9』

公益財団法人大阪府文化財センター 2014 『吹田操車場遺跡 10・明和池遺跡 3』

公益財団法人大阪府文化財センター 2015 『吹田操車場遺跡 11』

公益財団法人大阪府文化財センター 2016 『吹田操車場遺跡 12』

公益財団法人大阪府文化財センター 2017 『吹田操車場遺跡 13』

公益財団法人大阪府文化財センター 2017 『総持寺遺跡 4』

古代の土器研究会 1992 『古代の土器 1 都城の土器集成Ⅰ』

古代の土器研究会 1993 『古代の土器 2 都城の土器集成Ⅱ』

古代の土器研究会 1994 『古代の土器 3 都城の土器集成Ⅲ』

小森俊寛 2005 『京から出土する土器の編年的研究』京都編集工房

財団法人大阪府文化財センター 1999 『吹田操車場遺跡』

財団法人大阪府文化財センター 2001 『吹田操車場遺跡・吹田操車場遺跡B地点』

財団法人大阪府文化財センター 2008 『吹田操車場遺跡Ⅲ』

財団法人大阪府文化財センター 2010 『吹田操車場遺跡Ⅳ』

財団法人大阪府文化財センター 2011 『吹田操車場遺跡Ⅴ』

財団法人大阪府文化財センター 2011 『吹田操車場遺跡Ⅵ』

吹田市教育委員会 1984 『昭和 58 年度 埋蔵文化財緊急発掘調査概報 七尾瓦窯跡 垂水南遺跡』

吹田市教育委員会 1985 『昭和 59 年度 埋蔵文化財緊急発掘調査概報 垂水南遺跡 七尾瓦窯跡』

吹田市教育委員会 1986 『昭和 60 年度 埋蔵文化財緊急発掘調査概報 蔵人遺跡 七尾瓦窯跡 垂水南遺跡 吹田32号須恵器窯跡』

吹田市教育委員会 1987 『昭和 61 年度 埋蔵文化財緊急発掘調査概報 吉志部瓦窯跡』

吹田市教育委員会 1987 『吉志部瓦窯跡(府営岸辺住宅建替に伴う発掘調査報告書)』

吹田市教育委員会 1988 『昭和 62 年度 埋蔵文化財緊急発掘調査概報 吉志部瓦窯跡 垂水遺跡』

吹田市教育委員会 1992 『史跡七尾瓦窯跡環境整備報告書』

吹田市教育委員会 2008 『吹田操車場遺跡確認調査報告書』

吹田市教育委員会 2011 『吉志部瓦窯跡—出土瓦整理報告書—図版編』

吹田市教育委員会 2012 『吉志部瓦窯跡—出土瓦整理報告書—』

吹田市史編さん委員会 1981 『吹田市史 第8巻』吹田市役所

吹田市史編さん委員会 1990 『吹田市史 第1巻』吹田市役所

吹田市立博物館 1992 『吹田市立博物館常設展示図録 吹田の歴史と文化』

吹田市立博物館 1994 『平成6年度特別展 瓦—平安の都へ—』

吹田市立博物館 2001 『平成13年度特別陳列 吹田市立博物館とその周辺』

中世土器研究会編 1995 『概説 中世の土器・陶磁器』真陽社

目 次

卷 頭 図 版
序 文
例 言
凡 例
目 次

第1章 調査の経緯と経過

第1節 調査に至る経緯	1
第2節 発掘調査の経過	3

第2章 位置と環境

第1節 遺跡の位置と地理的環境	3
第2節 歴史的環境	4

第3章 発掘調査の方法

第1節 現地調査	8
第2節 整理作業	13

第4章 調査の成果

第1節 基本層序と遺構面	14
第2節 調査区域毎の遺構と遺物	18
1. 北東地区<1トレンチ>	19
2. 北地区<2・3・(1)・(5)・(6)・①~⑫トレンチ>	21
3. 北西地区<4・6・(2)~(4)・⑬~⑯トレンチ>	25
4. 西地区<4・5・⑰トレンチ>	45
5. 南地区<7・⑱トレンチ>	51

第5章 総括

第1節 概要	58
第2節 古墳時代以降の群集土坑	58
第3節 古代の掘立柱建物群	62

付表 遺構一覧・遺物一覧	63
--------------	----

報告書抄録

挿 図 目 次

図1	調査位置	2	図22	群集土坑の平面・断面(8)	40
図2	調査区周辺の遺跡分布	5	図23	群集土坑 出土遺物(1)	41
図3	調査区配置	9	図24	群集土坑 出土遺物(2)	42
図4	地区割	10	図25	北西地区 83溝断面	44
図5	1トレンチ北東壁 土層断面	15	図26	西地区 遺構平面(第6-2層上面)	46
図6	4トレンチ西部 土層断面	16	図27	西地区 遺構平面(第7-1層上面)	47
図7	北東地区 遺構平面(第1層)	18	図28	西地区 遺構平面(第7-2層上面)、 第5・7層出土遺物	48
図8	北東地区 遺構断面・出土遺物(第1層)	19	図29	南地区 遺構平面	49・50
図9	北東地区 遺構平面(地山)	20	図30	南地区 501~503・513土坑断面	52
図10	北地区 出土遺物	22	図31	南地区 掘立柱建物22 (『吹田操車場遺跡12』) 平面・断面	53
図11	北地区 遺構平面・遺構断面	23・24	図32	南地区 掘立柱建物1 平面・断面	54
図12	北西地区 出土遺物(包含層)	26	図33	掘立柱建物1 遺構断面・土色、 掘立柱建物1・22関連遺物	55
図13	北西地区 遺構平面	27・28	図34	南地区 498・499・500溝、 495・516土坑 断面	56
図14	群集土坑の埋土分類	29	図35	調査区周辺における群集土坑の 埋土分類別分布状況	59
図15	群集土坑の平面・断面(1)	30	図36	調査地周辺の土地利用	61
図16	群集土坑の平面・断面(2)	31			
図17	群集土坑の平面・断面(3)	32			
図18	群集土坑の平面・断面(4)	33・34			
図19	群集土坑の平面・断面(5)	35			
図20	群集土坑の平面・断面(6)	36			
図21	群集土坑の平面・断面(7)	39			

表 目 次

表1	調査区面積一覧	8
----	---------	---

原 色 写 真 図 版 目 次

原色写真図版1

1. 群集土坑全景(4トレンチ)(北東から)

原色写真図版2

2. 掘立柱建物1近接(7トレンチ)(北から)
3. 緑釉陶器(遺物番号17)

写 真 目 次

写真1	旧吹田操車場関連資料	7	写真3	調査の作業風景2	12
写真2	調査の作業風景1	11			

写真図版目次

図版 1

1. 土層断面(4トレンチ東部北壁) (南東から)
2. 土層断面(4トレンチ西部北壁) (北から)
3. 土層断面(4トレンチ西部北壁) (北西から)

図版 2

1. 土層断面(4トレンチ西部北壁) (北から)
2. 土層断面(4トレンチ西部北壁) (北から)
3. 土層断面(4トレンチ西部北壁) (北西から)

図版 3

1. 旧東海道線 2 溝近接(1トレンチ) (南西から)
2. 旧東海道線・土層断面(1トレンチ) (南から)
3. 坪境・1 溝断面(1トレンチ) (西から)

図版 4

1. 第 1 層下面(1トレンチ北部) (北から)
2. 第 3 層下面(1トレンチ北部) (北から)
3. 4 溝・3 井戸近接(1トレンチ) (南西から)

図版 5

1. 遺構全景(1トレンチ) (南東から)
2. 3 井戸断面(1トレンチ) (南西から)
3. 4 溝断面(1トレンチ) (南西から)

図版 6

1. 520 溝近接、北壁断面(①トレンチ) (南東から)
2. 遺構全景(③トレンチ) (東から)
3. 北西壁断面(④トレンチ) (南東から)

図版 7

1. 第 2・3 層下面(⑥トレンチ) (南西から)
2. 528・529 溝検出状況(⑥トレンチ) (南から)

図版 8

1. 528・529 溝近接、531 流路検出状況(⑥トレンチ) (南から)
2. 529 溝検出状況(⑤トレンチ) (西から)
3. 529 溝近接(⑤トレンチ) (北から)

図版 9

1. 遺構全景(⑥トレンチ) (南西から)
2. 531 流路近接(⑥トレンチ) (東から)

図版 10

1. 531 流路近接(⑤トレンチ) (北西から)
2. 遺構全景(2トレンチ) (南西から)
3. 遺構全景(①トレンチ) (南西から)
4. 遺構全景(⑤トレンチ) (北東から)

図版 11

1. 70・71ピット検出状況(2トレンチ) (南から)
2. 70・71ピット周辺近接(2トレンチ) (南から)
3. 遺構全景(⑥トレンチ) (西から)

図版 12

1. 遺構全景(⑪トレンチ) (南西から)
2. 524・527ピット(⑪トレンチ) (北西から)
3. 遺構全景(⑩トレンチ) (西から)

図版 13

1. 71ピット断面(2トレンチ) (南東から)
2. 70ピット断面(2トレンチ) (南東から)
3. 438ピット断面(⑥トレンチ) (南東から)
4. 79土坑断面(2トレンチ) (南東から)
5. 遺構全景(⑧トレンチ) (北西から)
6. 遺構全景(⑨トレンチ) (北西から)

図版 14

1. 523 犁溝断面(⑨トレンチ) (南東から)
2. 遺構全景(3トレンチ) (南西から)

図版 15

1. 群集土坑検出状況(3トレンチ) (北から)
2. 10土坑断面・遺物出土状況(3トレンチ) (北から)
3. 第 1 層下面(4トレンチ東部) (北東から)

図版 16

1. 群集土坑検出状況(4トレンチ東部) (北東から)
2. 群集土坑検出状況(②トレンチ) (北東から)
3. 群集土坑検出状況(③トレンチ) (北東から)

図版 17

1. 群集土坑検出状況(④トレンチ) (北東から)
2. 遺構全景(4トレンチ東部) (西から)
3. 遺構全景(②トレンチ) (南西から)

図版 18

1. 遺構全景(③トレンチ) (南西から)
2. 遺構全景(④トレンチ) (西から)
3. 481～483ピット検出状況(④トレンチ) (北西から)
4. 483ピット断面(④トレンチ) (西から)

図版 19

1. 485土坑断面(④トレンチ) (西から)
2. 33土坑断面(4トレンチ東部) (南西から)
3. 49土坑断面(4トレンチ東部) (南東から)
4. 51土坑断面(4トレンチ東部) (南から)
5. 56土坑断面(4トレンチ東部) (南西から)
6. 56土坑遺物出土状況(4トレンチ東部) (南から)
7. 332・333土坑検出状況(②トレンチ) (南東から)
8. 333土坑遺物出土状況(②トレンチ) (南から)

図版 20

1. 349土坑断面(②トレンチ) (南から)
2. 348土坑断面(②トレンチ) (西から)
3. 422土坑断面(③トレンチ) (西から)

4. 429土坑断面((3)トレンチ) (北西から)
5. 408土坑断面((3)トレンチ) (南から)
6. 421・408土坑断面((3)トレンチ) (東から)
7. 419・420土坑断面((3)トレンチ) (南から)
8. 427・462土坑断面((4)トレンチ) (北西から)

図版 21

1. 413・414・431土坑断面((3)トレンチ) (南西から)
2. 413・414・431土坑断面((3)トレンチ) (東から)
3. 472土坑断面((4)トレンチ) (北西から)
4. 473・464土坑断面((4)トレンチ) (東から)
5. 491土坑断面((4)トレンチ) (北から)
6. 451・450土坑断面((4)トレンチ) (南から)
7. 422土坑遺物出土状況((3)トレンチ) (南から)
8. 466土坑遺物出土状況((4)トレンチ) (北から)

図版 22

1. 445土坑遺物出土状況((4)トレンチ) (南から)
2. 473土坑遺物出土状況((4)トレンチ) (北から)
3. 489～491土坑検出状況((4)トレンチ) (南東から)
4. 489～491土坑断面((4)トレンチ) (西から)
5. 39土坑遺物出土状況(4トレンチ東部) (南西から)
6. 81井戸断面(4トレンチ中央) (南から)
7. 62井戸断面(4トレンチ中央) (南から)

図版 23

1. 杭列検出状況(4トレンチ西部) (北東から)
2. 遺構全景(4トレンチ拡張部) (南西から)
3. 群集土坑・83溝検出状況(4トレンチ中央) (北東から)
4. 遺構全景(4トレンチ西部) (南東から)

図版 24

1. 83溝周辺近接(4トレンチ中央) (南から)
2. 83溝断面(4トレンチ中央) (北から)
3. 149・153・154・156～159土坑断面(4トレンチ中央) (西から)

図版 25

1. 263土坑断面(4トレンチ中央) (北東から)
2. 158・159土坑断面(4トレンチ中央) (北から)
3. 158・159土坑断面(4トレンチ中央) (北西から)
4. 248土坑検出状況(4トレンチ中央) (南西から)
5. 355土坑断面(4トレンチ中央) (南から)
6. 358・321土坑断面(4トレンチ中央) (南から)
7. 115～117・124土坑断面(4トレンチ中央) (東から)
8. 100・94・93土坑断面(4トレンチ中央) (北から)

図版 26

1. 161土坑断面(4トレンチ中央) (南東から)
2. 179土坑断面(4トレンチ中央) (南東から)

3. 361土坑断面(4トレンチ西部) (南から)
4. 362・363土坑断面(4トレンチ西部) (西から)
5. 362土坑遺物出土状況(4トレンチ西部) (西から)
6. 214土坑断面・遺物出土状況(4トレンチ中央) (西から)
7. 229・232土坑断面・遺物出土状況(4トレンチ中央) (西から)
8. 239土坑断面・遺物出土状況(4トレンチ中央) (南西から)

図版 27

1. 238土坑断面・遺物出土状況(4トレンチ中央) (南西から)
2. 157土坑遺物出土状況(4トレンチ中央) (西から)
3. 303土坑断面・遺物出土状況(4トレンチ中央) (北東から)
4. 土層断面(⑩トレンチ) (南東から)
5. 第7-1層上面(⑩トレンチ) (南から)
6. 第7-2層上面(⑩トレンチ) (南から)
7. 第4層 257溝検出状況(4トレンチ西部) (南東から)
8. 第5層 533畦畔・足跡検出状況(4トレンチ西部) (南西から)

図版 28

1. 第5層 遺構全景(5トレンチ) (南東から)
2. 畦畔痕跡検出状況(5トレンチ) (西から)
3. 534耕作痕検出状況(5トレンチ) (南から)
4. 534耕作痕・足跡近接(5トレンチ) (南東から)

図版 29

1. 第6層 遺構全景(5トレンチ) (南東から)
2. 308畦畔・足跡近接(5トレンチ) (北から)
3. 207畦畔・535浸食痕近接(4トレンチ) (南西から)

図版 30

1. 第7-1層 遺構全景(5トレンチ) (南東から)
2. 537浸食溝検出状況(4トレンチ) (北東から)
3. 足跡検出状況(4トレンチ) (南から)
4. 538畦畔・539水口近接(5トレンチ) (南西から)

図版 31

1. 第7-2層 遺構全景(5トレンチ) (南東から)
2. 540畦畔近接(4トレンチ) (南から)
3. 540・541畦畔近接(5トレンチ) (北西から)

図版 32

1. 第8層 遺構全景(4・5トレンチ) (南から)
2. 378土坑断面(4トレンチ) (南から)
3. 378土坑近接(4トレンチ) (南西から)
4. 380土坑断面(4トレンチ) (南西から)

5. 379土坑断面(4トレンチ)(南から)

図版 33

1. 群集土坑検出状況(6トレンチ)(北から)
2. 遺構全景(6トレンチ)(北から)
3. 385土坑断面(6トレンチ)(西から)
4. 399土坑断面・遺物出土状況(6トレンチ)(西から)

図版 34

1. 遺構全景(7トレンチ東半)(西から)
2. 遺構全景(7トレンチ西半)(北東から)

図版 35

1. 461井戸周辺(7トレンチ)(北西から)
2. 456井戸断面(7トレンチ)(北西から)
3. 461井戸断面(7トレンチ)(北西から)

図版 36

1. 501～503土坑検出状況(7トレンチ)(南西から)
2. 501～503土坑断面(7トレンチ)(南西から)
3. 501～503土坑近接(7トレンチ)(南西から)

図版 37

1. 500溝検出状況(7トレンチ)(南東から)
2. 500溝断面(7トレンチ)(北西から)
3. 513土坑断面(7トレンチ)(北東から)
4. 掘立柱建物 22・1周辺(7トレンチ)(北から)

図版 38

1. 掘立柱建物 22検出状況(7トレンチ)(北東から)
2. 掘立柱建物 22近接(7トレンチ)(北から)
3. 504柱穴検出状況(7トレンチ)(南から)
4. 504柱穴断面(7トレンチ)(北から)
5. 504柱穴近接(7トレンチ)(北から)
6. 505柱穴検出状況(7トレンチ)(南から)
7. 505柱穴断面(7トレンチ)(北から)
8. 505柱穴近接(7トレンチ)(北から)

図版 39

1. 掘立柱建物 1 検出状況(7トレンチ)(北から)
2. 506柱穴検出状況(7トレンチ)(北から)
3. 506柱穴断面(7トレンチ)(北から)
4. 506柱穴近接(7トレンチ)(北から)
5. 507柱穴検出状況(7トレンチ)(北から)
6. 507柱穴断面(7トレンチ)(北から)
7. 507柱穴近接(7トレンチ)(北から)

図版 40

1. 510柱穴検出状況(7トレンチ)(北から)
2. 510柱穴断面(7トレンチ)(北から)
3. 510柱穴近接(7トレンチ)(北から)
4. 508柱穴断面(7トレンチ)(北から)
5. 509柱穴断面(7トレンチ)(北西から)
6. 511柱穴断面(7トレンチ)(北から)

7. 掘立柱建物 1 完掘状況(7トレンチ)(北から)

図版 41

1. 遺構検出状況(7トレンチ拡張部)(南西から)
2. 498・499溝検出状況(7トレンチ)(南から)
3. 498・499溝近接(7トレンチ)(北から)

図版 42

1. 498溝断面(7トレンチ)(南から)
2. 499溝断面(7トレンチ)(南から)
3. 遺構全景(18トレンチ)(南東から)

図版 43

- 1・3・10・8トレンチ出土遺物

図版 44

- 4トレンチ出土遺物

図版 45

- 4・(4)トレンチ出土遺物

図版 46

- 4トレンチ出土遺物

図版 47

- 4・6・(4)トレンチ出土遺物

図版 48

- 4・(2)・14トレンチ出土遺物

図版 49

- 4・6・(2)・(4)トレンチ出土遺物

図版 50

- 7トレンチ出土遺物

第1章 調査の経緯と経過

第1節 調査に至る経緯

今回の発掘調査は国立循環器病研究センターの建替えに伴う事業であり、吹田操車場跡地に関する再開発計画の北部大阪都市計画事業の一環として、土地区画整理事業区域5街区1画地に建設することが起因となっている。吹田操車場跡地の再開発に関するこれまでの経緯については、先に刊行した『吹田操車場遺跡12』に紹介しており、同文に新たな知見を加えて以下に記す。

大正12（1923）年に旧国有鉄道によって開設された吹田操車場は、車扱貨物のためのヤード集約輸送の要として発展し、「東洋一の操車場」と呼ばれるまでになった。しかし、昭和40年代以降は車社会への偏向が著しく、これに対抗するために貨車の入換えが不要なコンテナ輸送方式へと転換を行ったが、輸送に占める貨物列車の減少に歯止めはかからず、昭和50年代のダイヤ改正により貨物運行本数は大幅に削減され、昭和59（1984）年2月のダイヤ改正により当地の操車場機能が廃止、吹田信号場に変更された。昭和62（1987）年に制定された国鉄改革法において梅田貨物駅の機能を廃止して吹田操車場跡地に移転する計画が明らかとなり、長い協議期間を経て、平成10（1998）年に日本国有鉄道清算事業団近畿支社（現在の独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構）はJR梅田貨物駅の機能の半分を吹田操車場跡地へ移転することを明らかにした。大阪府教育委員会（現大阪府教育庁）は操車場跡地内全域を対象に確認調査を実施することを決定し、委託を受けた財団法人大阪府文化財調査研究センター（現公益財団法人大阪府文化財センター）は61箇所のトレンチ調査を実施し、操車場建設時の盛土によって保護された遺構が良好に残存することが判明した（大文セ1999）。

平成12（2000）年、日本鉄道建設公団国鉄清算事業本部西日本支社は吹田信号場基盤整備工事を開始し、大阪府教育委員会との協議により、平成23（2011）年までに貨物駅舎・倉庫の建設、貨車区の改良工事、調整池や導水路の造成、JR第二・第三職員通路部の付け替えや南北自由通路の建設、岸辺駅駐車場等の建設、連絡地下道の改築、保線検修庫・モーターカー検修庫の建設、通信ケーブル防護管発信立坑、導水路到達立坑、貨物専用道路に伴う調査を財団法人大阪府文化財センター（現公益財団法人大阪府文化財センター）が委託を受けて実施した。調査では弥生時代の土坑、古墳時代の溝や井戸、古墳時代後半から飛鳥・奈良時代にかけての群集土坑、飛鳥・奈良時代および平安時代の掘立柱建物や条里型水田等、中世以降の耕作地や灌漑施設、土壌墓等を確認した。また、遺物としては山陰系弥生土器、円面硯、墨書土器、七尾瓦窯・吉志部瓦窯産の軒丸瓦、陶棺、越州窯系青磁碗、白磁碗、緑釉・灰釉陶器等が出土している（大文セ2001、大文セ2008、大文セ2010、大文セ2011a、大文セ2011b・c）。

吹田市教育委員会は、平成13（2001）年に吹田市営岸部中住宅建替工事に伴う試掘調査を8箇所、平成19（2007）年に「緑と水につつまれた健康・教育創生拠点の創出」として59箇所の確認調査をそれぞれ実施した。調査では中世以前と考えられている耕作関連溝、飛鳥時代の建物跡、平安時代のピット、古墳時代後期の大型土坑群等が検出され、国府型ナイフ形石器、東海系弥生土器、古墳時代後期から飛鳥時代にかけての焼成不良須恵器や飛鳥時代の陶硯片等が出土している（吹田市2004、吹田市教育委員会2008）。

平成21（2009）年からは、前述のまちづくり計画を受けて独立行政法人都市再生機構西日本支社が

土地区画整理事業を開始し、これに伴う事前の発掘調査を財団法人大阪府文化財センターが受託した。平成24（2012）年までの4年間に約23,000㎡の区画道路用地等の調査を実施し、弥生時代以前の古地形、谷地の周囲に広がる古墳時代の群集土坑や古代の集落跡等を確認した（大文セ2014）。

このような発掘調査に並行して再開発事業も進展しており、平成24（2012）年に岸辺駅の橋上化と北側駅前広場の整備が完成し、平成25（2013）年には梅田貨物駅移転に伴う吹田貨物ターミナル駅が開業した。

昭和52（1977）年に大阪府吹田市千里ニュータウン内に開設された国立循環器病研究センターは、心臓病と脳卒中を専門とする最先端の医療・研究施設であり、開設後30年以上を経て、建物の老朽化と施設増設による敷地の手狭化が指摘され、移転建替えが計画されるようになった。平成21（2009）年、吹田市は「吹田操車場跡地まちづくり全体構想」に基づき、医療クラスター拠点の形成に向けて国立循環器病研究センターの移転要請を行う等の誘致活動を行い、平成25（2013）年、独立行政法人国立循環器病研究センター（現国立研究開発法人国立循環器病研究センター）と吹田市は平成30年度（2018年度）に旧吹田操車場跡地であるJR岸辺駅北側街区へ同センターを移転建替えすることを決定した。独立行政法人国立循環器病研究センターは大阪府教育委員会や吹田市教育委員会と建設予定地における事前協議を行い、平成26（2014）年度に委託を受けた公益財団法人大阪府文化財センターが国立循環器病研究センターの病院棟および研究所の主要建物部分の発掘調査を実施した。平成27（2015）年、国立循環器病研究センター移転建替整備事業を落札した竹中工務店グループが作成した詳細設計に基づ

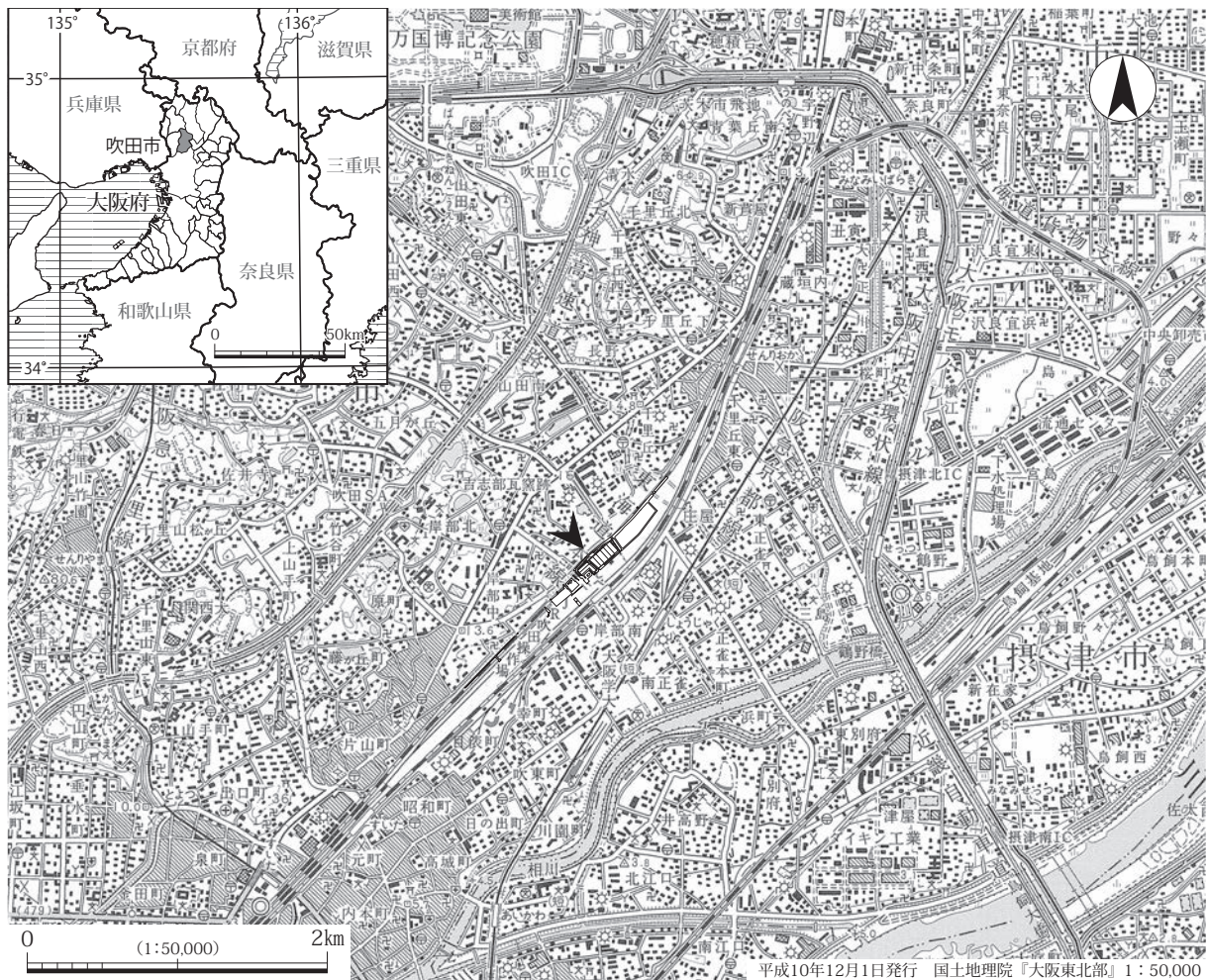


図1 調査位置

き、国立研究開発法人国立循環器病研究センターと大阪府教育庁による協議を行った結果、追加調査の必要性が明らかとなり、公益財団法人大阪府文化財センターは平成28（2016）年に受託契約の変更を行い、追加部分の発掘調査を実施することとなった。

第2節 発掘調査の経過

本調査にかかる委託業務については、平成26（2014）年1月14日に締結した大阪府教育委員会、吹田市、独立行政法人国立循環器病研究センター（以下国立循環器病研究センター）、独立行政法人都市再生機構西日本支社（以下、UR都市再生機構）、公益財団法人大阪府文化財センター（以下、当センター）の5者による協定の下、国立循環器病研究センターと当センターが同年3月4日に締結した「国立循環器病研究センター建替整備事業に伴う吹田操車場遺跡発掘調査」の業務委託契約を基盤としている。平成28（2016）年5月9日に追加調査に関する変更委託契約を結び、契約締結日から平成29（2017）年8月31日までの期間に、調査準備と現地調査、遺物整理、報告書の印刷製本業務を実施した。

今回の現地調査は、建替建設工事と並行して実施するため、場内における施工業者間の調整が非常に困難になると予想されたことから、国立循環器病研究センターが発注した工事請負に発掘調査工事と航空測量委託を合わせ、当センターが現地作業の調整・監督・指示を行う形で業務を遂行した。

前回と同様、建設予定地である吹田5街区は、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構（以下、鉄道運輸機構）とUR都市再生機構、国立循環器病研究センターの三者協定により、地下埋設支障物の処理については原地権者である鉄道運輸機構が実施することとなっていたため、当該支障物の発見に際してはその都度にUR都市再生機構による立会を行っている。

第2章 位置と環境

第1節 遺跡の位置と地理的環境

吹田操車場遺跡は、大阪府北部、淀川右岸の吹田市所在の遺跡であり、吹田市片山町・天道町・目俵町・岸部新町・芝田町・岸部中町地内に位置する（図1・2）。当遺跡は、大正12（1923）年に操業を開始し、かつては「東洋一の操車場」と称され、昭和59（1984）年にその役割を終えた旧国鉄吹田操車場（現：JR貨物吹田信号場駅）の地下に広がっており、今回の調査区は本遺跡の北東端に位置し、平成26（2014）年に実施した『吹田操車場遺跡12』における調査範囲の周辺に分布する。

当地は、千里丘陵と安威川・淀川に挟まれた扇状地にあたり、千里丘陵は第3紀末鮮新世から第4紀更新世中期に形成された「大阪層群」とよばれる地層の模式地になったことで知られる。また歴史的には、古墳時代中期末以降に当丘陵の傾斜地を利用して大量の須恵器窯が築かれ、千里古窯址群が形成されたことでも有名である。この南側を流れる一級河川の淀川は、滋賀県の琵琶湖を起点として大阪平野を北東から南西へ横断しながら大阪湾に流れ込むことから、古くより交通や水運、灌漑等に利用される重要な河川として様々な歴史の舞台として登場する。

吹田市域の大半は、上述の大阪層群の隆起によって形成された千里丘陵が占めており、吹田市南部および摂津市域、そして遺跡の立地する地域は沖積層に分類される地質にあたる。千里丘陵の周辺地域には、大阪層群を不整合に覆って高位・中位・低位段丘堆積層が分布している箇所がみられるが、土地条

件図によれば、吹田市岸部付近にも中位段丘の形成が認められる。

吹田・摂津市域には、正雀川や山田川等の千里丘陵に源を発し、安威川や神崎川に注ぐ河川が存在するが、いずれも短流で水量が豊富ではなかったこともあり、特に吹田市側では古くから水を確保するための溜池が地形に即して築かれている。これまでの吹田操車場遺跡の調査においても溜池状遺構を多数確認しており、これを首肯させる。

第2節 歴史的環境

吹田市の立地は淀川の水運が利用し易く、また東西日本を結ぶ交通の要衝でもあったことから、有史以降には重要な遺跡が形成されている。以下に、周辺域の主要な遺跡を時代順に概観しておく（図2）。

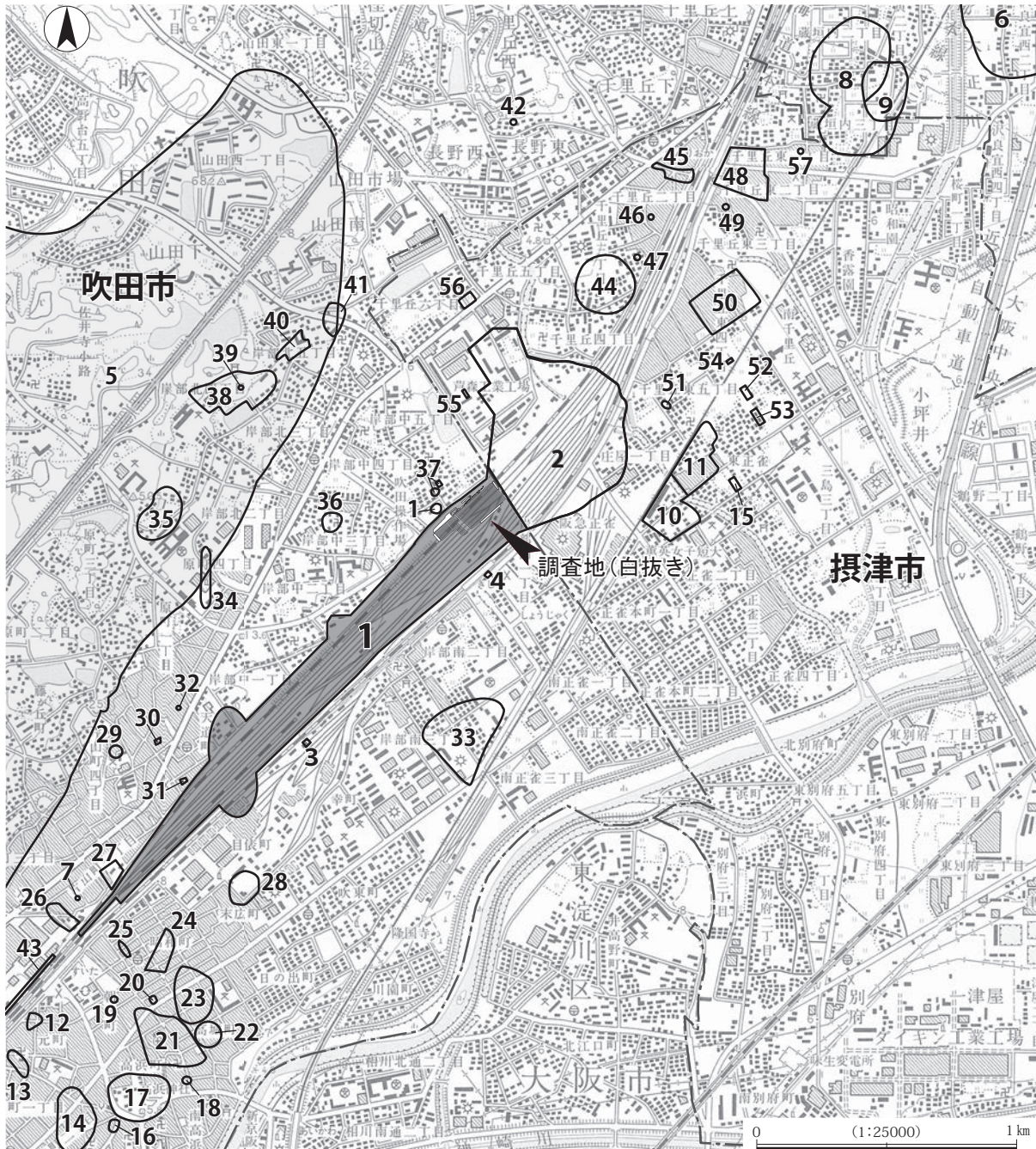
旧石器時代には、千里丘陵末端に位置する吉志部遺跡や吉志部瓦窯跡下層で石器製作址や礫群が確認されている。出土遺物にはサヌカイト製のナイフ形石器・搔器・削器・彫器、チャート製ナイフ形石器等がみられる。石材としてサヌカイトが一般的に用いられる近畿地方において、チャート製石器の存在は珍しく、箕面市粟生間谷遺跡の旧石器資料とともに、原産地から遠く離れた遺跡の出土事例として注目される。また、生活痕跡は確認されていないが、沖積地に位置する目俵遺跡や高城遺跡でもナイフ形石器が出土している。

縄文時代には、中ノ坪遺跡で草創期の所産とみられるチャート製有舌尖頭器が、吉志部・吹田操車場遺跡ではサヌカイト製有舌尖頭器、高浜遺跡で中期前半の船元式土器、七尾瓦窯跡下層で晩期後半の船橋式土器、目俵遺跡では長原式土器が確認されている。縄文時代の遺構や遺物の発見例は弥生時代以降に比して非常に少ない。なお、先述した吉志部遺跡では有舌尖頭器を含めて8点の尖頭器が集中的に出土しており、全国的にも稀有な例として注目される。

弥生時代になると、大幅に遺構や遺物の検出例が増加する。五反島遺跡では前期の土器、丘陵上に位置する垂水遺跡では中期から後期の集落跡が確認されている。後期に最も栄えたようで、竪穴建物や掘立柱建物が検出されている。出土遺物には近江や東海・四国・山陰といった外来の土器も多くみられ、他地域との交流が盛んであったことが窺える。また、垂水遺跡直下の低地に位置する垂水南遺跡でも弥生時代の土器が多量に出土していることから、両者の関係は注目される。七尾東遺跡では中期の竪穴建物や掘立柱建物が検出され、そのうちの竪穴建物内からは土器のほか、石庖丁や石鎌等も出土している。これ以外にも、近年は目俵遺跡・中の坪遺跡・榎坂遺跡において後期を中心とした資料がみつまっている。

古墳時代では、垂水南遺跡の微高地上で竪穴建物や掘立柱建物が検出され、その集落周辺に水田や灌漑用水路も確認されている。出土遺物は多岐にわたり、多量の須恵器や土師器のほかに韓式系土器や製塩土器、木製農具、木鏃、勾玉や管玉等も出土している。土器の中には瀬戸内西部から南関東地域のものがみつかり、広範な地域との交流を窺わせる。さらに、鍛冶関連遺物や遺構も確認されており、鉄器生産が行われていたことも明らかになった。初期須恵器や韓式系土器は垂水遺跡や五反島遺跡でも出土しており、当地域が渡来系の人々に深く関わっていたことを示す。また、垂水遺跡では溶解途中の仿製鏡（方格規矩鏡）が出土しており、同地に鑄造関連の施設があった可能性を示唆する。

吹田市域で知られる古墳は10基ほどであり、周辺地域に比べると少ない。これは、各地で古墳が多量に築造される同じ時期に、市内にある千里丘陵が大規模な須恵器生産地として発達したため、古墳を築造し難い環境にあったことが一因とみられる。片山公園遺跡では大量の埴輪片がみつかり、操車場を造成する際に削られた丘陵の尾根上に古墳群が形成されていた可能性が考えられる。片山荒池遺跡



平成 12 年国土地理院発行 1/50,000 「大阪東北部」をベースに、大阪府地図情報提供システムの埋蔵文化財に基づき作成

- | | | | | |
|-----------------|---------------|-----------------|------------------|-------------------|
| 1. 吹田操車場遺跡 | 13. 浜の堂遺跡 | 25. 昭和町遺跡 B 地点 | 37. 岸部東遺跡 | 49. 千里丘東 3 丁目所在遺跡 |
| 2. 明和池遺跡 | 14. 都呂須遺跡 | 26. 片山遺跡 | 38. 吉志部瓦窯跡 | 50. 千里丘東 4 丁目遺跡 |
| 3. 吹田操車場遺跡 B 地点 | 15. 東正雀第 2 地点 | 27. 片山荒池遺跡 | 39. 吉志部 1 号墳 | 51. 庄屋 1 丁目所在遺跡 |
| 4. 吹田操車場遺跡 C 地点 | 16. 宮之前遺跡 | 28. 目依遺跡 | 40. 七尾瓦窯跡 | 52. 庄屋 2 丁目所在遺跡 |
| 5. 吹田須恵器窯跡群 | 17. 高浜遺跡 | 29. 円塚古墳 | 41. 七尾東遺跡 | 53. 東正雀所在遺跡 |
| 6. 東奈良遺跡 | 18. 神境町遺跡 | 30. 片山芝田遺跡 | 42. 似禅寺山遺跡 | 54. 千里丘東 4 丁目所在遺跡 |
| 7. 片山前遺跡 | 19. 朝日町遺跡 | 31. 天道遺跡 | 43. 西の庄東遺跡 | 55. 千里丘 7 丁目所在遺跡 |
| 8. 常楽寺跡 | 20. 昭和町遺跡 | 32. 片山芝田遺跡 B 地点 | 44. 蜂前寺跡 | 56. 千里丘 6 丁目所在遺跡 |
| 9. 三宅城跡 | 21. 高城 B 遺跡 | 33. 中ノ坪遺跡 | 45. 千里丘遺跡 | 57. 千里丘東 1 丁目遺跡 |
| 10. 正雀 1 丁目遺跡 | 22. 吹田城跡推定地 | 34. 原東遺跡 | 46. 千里丘 2 丁目所在遺跡 | |
| 11. 東正雀遺跡 | 23. 高城遺跡 | 35. 吉志部遺跡 | 47. 千里丘 3 丁目所在遺跡 | |
| 12. 元町遺跡 | 24. 高畑遺跡 | 36. 岸部中遺跡 | 48. 千里丘東 2 丁目遺跡 | |

図 2 調査区周辺の遺跡分布

でも古墳時代中期中葉の円筒埴輪が出土しており、吹田操車場遺跡直近にも古墳が築造されていたと推定される。千里丘陵一帯では、須恵器窯跡が数多く発見されている。その中で最古のものは吹田32号窯跡（ST32）である。窯内部から鋸歯文や斜格子文等の文様が施された須恵器が出土しており、5世紀前半の初期段階の須恵器窯であることが明らかとなった。その後、須恵器生産は6世紀中頃に最盛期を迎え、7世紀代には完全に操業を停止する。なお、片山荒池遺跡では6世紀から7世紀代に掘削された群集土坑がみられ、粘土採掘用の土坑として千里古窯跡群との関係が示唆されている。

古代に入ると、千里丘陵一帯では瓦生産が盛んに行われるようになる。8世紀初頭には七尾瓦窯跡が操業され、後期難波宮で葺かれた瓦が焼かれている。また、8世紀末操業の吉志部瓦窯では平安京へ供給する瓦の生産が行われたが、短期間のうちに当地での操業は終了し、京都の西賀茂瓦窯跡・角社瓦窯跡へと移っている。

文献によると、当地周辺は平安時代に春日社領や東寺領の荘園が営まれるようになり、鎌倉時代にかけて一層進展する。垂水南遺跡では、東寺領垂水庄との関係が指摘される「垂庄」や「中庄」と書かれた墨書土器が出土している。また、蔵人遺跡は垂水庄蔵人村との関連が指摘されており、掘立柱建物や鍛冶工房、水田や畑等がみつまっている。

吹田砂堆上に位置する高城B遺跡や高城遺跡、高畑遺跡等では、短期間のうちに営まれた平安時代の集落が確認されており、さらに高城B遺跡では14世紀前半代に掘削されたとみられる群集土坑がみつまっている。また、高城町辺りや西の庄町のアサヒビール吹田工場付近は14世紀から16世紀に営まれた吹田城址推定地とされているが、現在のところ城跡と断定出来る資料は確認されていない。

明治に入ると、明治7（1874）年に大阪・神戸間に鉄道が敷設され、明治22（1889）年までには大阪・敦賀間が官営鉄道として順次開通した。その後、関西圏の鉄道網が整備され、貨物輸送も発展していく。その中で、貨物輸送の向上と円滑化を図るため、「東洋一の操車場」と謳われた吹田操車場の操業が大正12（1923）年に開始された。また、吹田市では明治23（1890）年に建築を開始された煉瓦造りの大阪麦酒吹田村醸造所（現アサヒビール吹田工場）の存在が近代化への大きな転機となった。

これまでの旧吹田操車場跡地内における発掘調査では、機械掘削の過程や攪乱の中から、陶磁器に混じって汽車土瓶、牛乳瓶、ビール瓶、木製弁当箱の蓋、ダニエル電池素焼き容器、荷札木簡、煉瓦、トロッコ用レール、陶製弁当箱、各種ガラス瓶等、多種多様な近代資料が採取されており、鉄道関連施設や大阪麦酒吹田村醸造所で使用されたものとして近代遺産の貴重な資料の一つとなっている。

今回の調査においても、1トレンチ北部を中心に同様の資料や遺構を確認できたため、参考として簡単な紹介をさせていただく。

現代の整地土を除去すると、調査区の北部を中心に地表下約50cmでバラストを検出し、これより以南には地山ブロックを含む操車場造成時の盛土が広がっていた。これらの近現代の操車場関連土層を除去すると、北東南西にのびる花崗岩製の間知石による側溝を検出した（図版3）。『吹田操車場遺跡12』に報告した通り、当地区には明治10（1877）年に敷設された旧東海道線の軌道が位置したと考えられ、本遺構もその一部と推測される。この周囲の盛土やゴミ穴等には当時の陶磁器やガラス製品、雑貨類が含まれており、旧吹田操車場関連資料として貴重なものである。採集した資料の一部を簡単に紹介しておきたい。

写真1は、操車場盛土および第0層より出土した遺物である。Aは高さ約29.6cm、胴径約8.5cmを測り、橙褐色で円柱形を呈する陶製ボトルである。肩部のやや下方に、『ErvenLucasBols』『Amsterdam』と

2行に書かれたスタンプが確認できる。ボルス社は、1575年にオランダのアムステルダムで誕生した世界有数の酒造会社である。出土品は、同社の製造するスピリッツ（ジン）として知られる「ジュネヴァ」の容器として用いられたものである。製造初期のボトルは本例よりやや小振りで片耳の把手が付けられており、出土品の形状から、1800年代から1950年代にかけて使用された1ℓ用のボトルと考えられる。但し、アンティークとして世の中に広く出回っている同品では、刻印の文字がすべて大文字のものや、文字列が1行や3行以上にわたるもの、底部付近に別のスタンプがみられるもの等、いくつかの種類に分かれるようである。本例は頭文字以外は小文字であり、類品がほとんど見当たらないことから、ボトルの製造元が異なるか、輸出用等の特殊な容器である可能性が考えられる。

Bは天面にガス抜き孔のある金属製スクリーキャップが残るガラス瓶であり、前面に「消毒全乳」「一合入」、後面に「豊川牧場」と浮き出しがみられる。Cは王冠を用いるガラス瓶で、前面に「消毒全乳」「正味 180c.c.」と浮き出し、後面に「ホモゲナイザー全乳」「みな（変体字）みのちち」「電話吹田一二五番」と研磨加工されている。Dはスクリーキャップ式のガラス小瓶であり、全体は面取りされた撥形を呈し、底面に「AJINOMOTO」と浮き出しがみられる。味の素は明治42（1909）年に発売が開始された化学調味料であり、本例は昭和2（1927）年に宮内省御用品の指定を受けた当時に採用されていたデザインである。



写真1 旧吹田操車場関連資料

第3章 発掘調査の方法

第1節 現地調査

今回は、平成26（2014）年度に実施した国立循環器病研究センター建設に伴う発掘調査に関連する追加調査であり、前回の調査区の周囲に点在する。今年度の調査対象とされた当初の1～7トレンチに加え、追加された時期により(1)～(6)、①～⑱と異なる名称を設定した計31のトレンチ、合計面積約4,253㎡において、同年11月末まで調査を実施した（図3）。各調査区の詳細な面積については、下記の表1を参照されたい。なお、記載の面積は、1～7トレンチにおいては攪乱や側溝を含み、(1)～(4)・①～⑱トレンチにおいては図上の計算値となっているため、実際の最終調査面に一致していない。

本調査にあたっては、当センター発行の『遺跡調査基本マニュアル』2010にしたがって実施した。調査名は、遺跡毎に事業受託年度と調査次数の組み合わせで示すことから、本件では「吹田操車場遺跡16-1」となる。

遺構名については、遺構の種類に関わらない通し番号を基本とし、記録する時点で認知する種類を付加して「○△土坑」等と表すことになっている。調査の進展によって遺構の認識が変化した場合、遺構番号はそのまま残し、遺構種類のみを変更して「○△溝」等と表記する。単体の遺構である「柱穴」が複数集まって「建物」を構成するような場合は、個々の遺構名はそのままとし、集合体に別の名称を与えている。この場合、個別の遺構と混同しないよう、集合体の種類毎に通し番号を付与することとしており、「建物△」と示す。

現地調査は躯体の建設工事作業と並行するため、事前あるいは施工中に関係各社と綿密な調整を行いながら実施した。調査の対象となる地区は建設工事用の進入路や資材置場等に使用する場合が多く、予め更地になるよう手配した。また、調査区が建設工事エリアと用地外との間の限られたスペースに設定される場合もあり、調査面積や周囲の安全性を確保するための土留工を実施しなければならない箇所もあった。これらの準備工を含めた発掘調査について、建設工事担当と文化財調査担当間で時間や作業の割り振りを行い、準備が整った段階ではじめて調査開始となった。現地調査では、まず現代の整地土や旧吹田操車場造成に伴う盛土や整地土、さらに旧東海道線軌道や路盤の盛土を重機により慎重に除去し

表1 調査区面積一覧

トレンチ	面積(㎡)	トレンチ	面積(㎡)	トレンチ	面積(㎡)	トレンチ	面積(㎡)	
1	274	追加(1)	65	追加①	4	追加⑩	41	
2	112	追加(2)	42	追加②	4	追加⑪	27	
3	245	追加(3)	81	追加③	8	追加⑫	5	
4	1,686	追加(4)	100	追加④	4	追加⑬	16	
5	386	追加(5)	33	追加⑤	15	追加⑭	52	
6	21	追加(6)	10	追加⑥	40	追加⑮	4	
7	907			追加⑦	4	追加⑯	4	
				追加⑧	8	追加⑰	4	
		立会	43	追加⑨	4	追加⑱	4	
							【合計】	4,253

※過去の調査との軽微な重複は除外していない

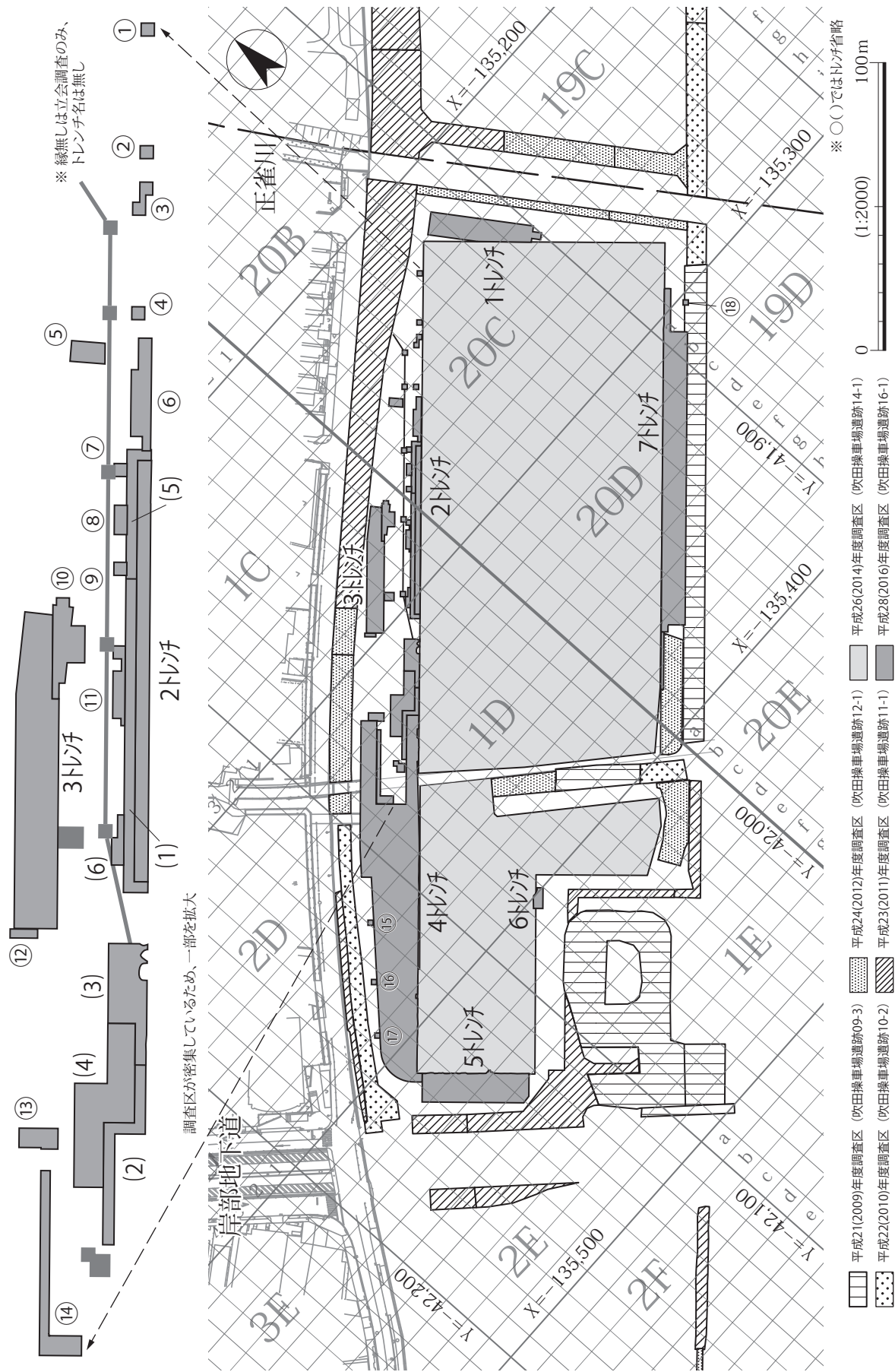


図3 調査区配置

た。これより下の遺物包含層はスコップ・鋤簾・手ガリ等を用いた人力により、遺物の収集を行いながら慎重に除去し、遺構の検出や掘削を行った（写真2）。

調査中は、遺構検出・遺構土層断面・遺構完掘・遺物出土状況等の写真撮影および図面作成、レーザー測量等を適宜実施し、記録保存を行った。また、詳細な地形や堆積状況を把握するため、部分的に土層断面の写真撮影や図面を作成して記録を残した。遺構の配置や分布を記録するための平面図や測量図の作成は大半を人力によって行うが、対象範囲が広い場合や遺構が多数の場合は時間と労力を省きながら正確な位置情報（絶対位置）を記録するため、空中写真測量を活用している（写真2）。

図面等の記録の他にも、客観的な記録用として写真撮影を行っている。記録用の写真撮影は6×7モノクロフィルムを主とし、35mmモノクロフィルムや同リバーサルフィルムを補完的に使用する。またデジタルカメラによる撮影も同時に行い、資料やデジタルデータベース（台帳）の作成に供する。

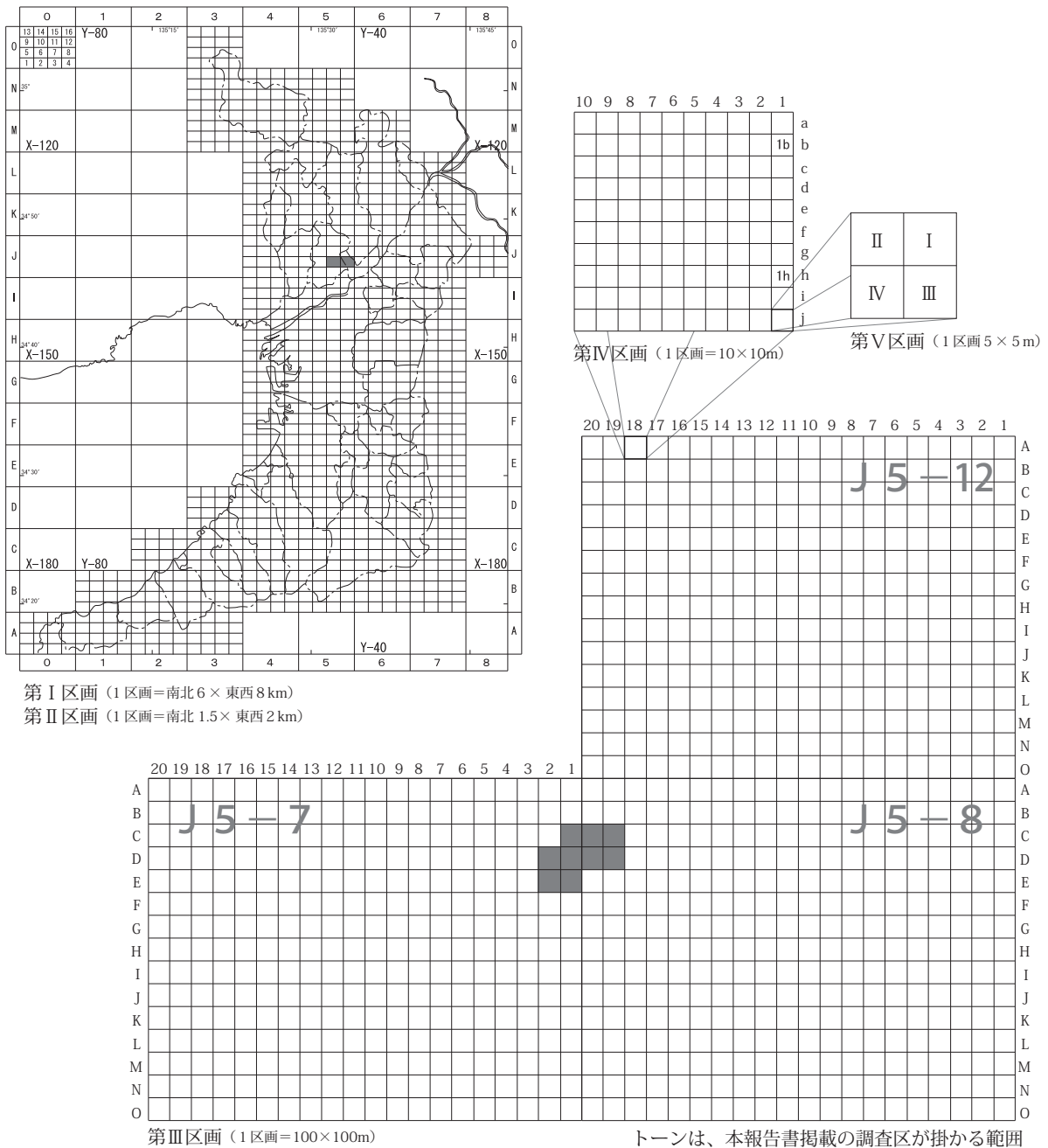


図4 地区割



写真2 調査の作業風景1

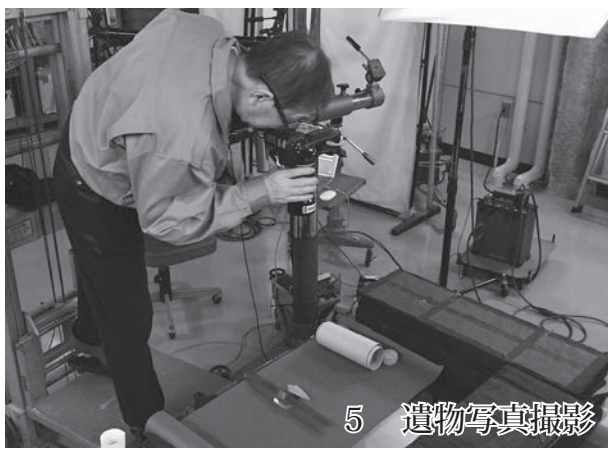


写真3 調査の作業風景2

このような現地作業によって残した記録類は、A 2 版図面90枚、フィルム379カットを数え、すべてに関する台帳や一覧表をFilemaker社Filemaker 8やMicrosoft社Excelを用いて作成し、管理している。

出土した遺物については、前述の調査マニュアルに従い、原則として世界測地系に基づいて設定した10m区画による取り上げを行った。但し、今回は小規模なトレンチが多く、一辺が10m未満のもので調査中に座標位置が不明確な場合は実際の座標位置に関わらず、各トレンチを一つの区画として取り扱うことにした。取り上げた遺物には調査区名・地区割・層位名・遺構名・出土年月日・登録番号等を記したラベルを付し、出土地点の情報を記録している。遺物は登録後にできるだけ速やかに洗浄を行い、注記を行った。また、登録番号毎に出土遺物のデジタル画像を撮影し、データベースの作成も行っている(写真2・3)。

現地において取得した図面・写真・遺物・台帳・デジタルデータ等のすべてには出自を示す位置情報を記録しており、世界測地系に基づく平面直角座標を用いた地区割を利用する(図4)。区画は、南北6km、東西8kmで分割した第Ⅰ区画、南北1.5km、東西2.0kmで分割した第Ⅱ区画、一辺100mで分割した第Ⅲ区画、一辺10mで分割した第Ⅳ区画、一辺5mの第Ⅴ区画等に分かれる。当調査区では第Ⅰ－Ⅱ区画がJ 5－7・8にまたがり、現地では第Ⅳ区画までを記載している。

なお、調査中は必要に応じて大阪府教育庁と吹田市教育委員会による現地立会を実施し、調査成果の報告を行うとともに今後の調査方針や指導を仰いだ(写真3－2)。

第2節 整理作業

現地調査が終了した平成28年11月以降は、当センターの中部調査事務所において報告書作成のための遺物整理作業を実施した。

現地において記録した図面や写真については、報告書に掲載する主要部分を抽出した後、それらをデジタル化した上で編集と浄書を行った。デジタル化においてはAdobe社PhotoshopCS6を用いてスキャニングを行い、写真については同ソフトウェアによる画質やサイズの調整を行い、図面についてはAdobe社IllustratorCS6を用いて浄書を行った。

遺物については出土した全点を確認し、その中から報告書に掲載すべきものを抽出した上で、必要なものについては接合や復元作業を実施し、手実測による図化を行った。また、図化不能なものも含めて画像情報として公開するため、当センター写真室において大判カラーや中判黒白の写真撮影を行った。作成した実測図や写真は、上記の遺構と同様の手法によりデジタル化と浄書を行った。なお、石器に関しては、スキャニングから浄書に至るすべての作業をAdobe社PhotoshopCS6により行っている。

作成したデジタル図面や写真は、Adobe社IndesignCS6を用いて報告書作成のための編集作業を行い、また同ソフトウェアを使用して原稿を執筆した。

報告書の編集作業と並行し、すべての図面や写真、遺物に関する保管収納作業も行っている。図面については、現地における記録図と合わせて遺物実測図を収納ケースに整理し、写真についても遺物写真を現場記録写真と同様にアルバムケースへ収納し、当センター写真室にて保管した。遺物については、報告書挿図や写真図版に基づいてコンテナケースに収納した。いずれも写真や遺物の各データベースに掲載情報ならびに保管情報を入力し、検索可能な状態にしている。

これらの遺物整理に関するすべての作業は、平成29年8月31日に『吹田操車場遺跡14』の報告書刊行をもって完了した。

第4章 調査の成果

第1節 基本層序と遺構面

今回の調査区は、大半が平成26（2014）年度の調査区に接することから、現地調査における基本的な層序の考え方については『吹田操車場遺跡12』を踏襲することにした。その考え方の基礎となったものは『吹田操車場遺跡10』「第6章 吹田操車場遺跡 東地区の調査成果」であり、旧吹田操車場や旧東海道線に関連する盛土や整地土を除く近代耕作土より下層を第0層から順次設定している。本節では、調査区内の代表的な層序を示す1トレンチ東壁と4トレンチ北壁の一部を使用し、現地調査において新たに得られた知見や、上記の調査成果との整合性について記しておく。

図5は1トレンチ北東壁の土層である（図版3-3）。前回の調査では上層、特に現地表付近からの攪乱が著しく、土層の連続性を追うことが困難であったが、今回は残存状態が非常に良好であり、明治期の線路より南側に広がる耕地の状況や坪境、また、これによって削平された下位の包含層や地形との関係を確認することができた。

図6は4トレンチ西部の土層の一部である（図版1・2）。これまでの調査において、調査区の西側をほぼ南北に通る谷地に向かって堆積層の分化する状況が明らかにされており、今回も同様の層序を確認した。しかし、『吹田操車場遺跡12』の調査では、谷地の堆積層と微高地上に開削される群集土坑との関係を明らかにする手がかりは得られず、谷地の水田遺構と、群集土坑を合わせた遺構面の復元では推測の域を出なかった。今回の調査では、群集土坑の一部が谷地内に検出され、土層断面や検出状況から、第8層から第7層の堆積する時期に開削されたことが明らかとなった。なお、図中では現地表面から第0層を重機により除去した後のため、層序は空白としている。

また、前回の調査において1層のみとしていた第6層は、今回の4トレンチにおける調査では上下2層に分化することが明らかとなった。但し、現地調査の時点では本書に記す第6-2層を第7層と捉えていたため、第7層、第7-2層、第7-3層の3層として記録を行っている。事後に遺構の検出状況や土層の再検討を行い、整合性を確認した結果、第6層、第7層がそれぞれ2層に分かれることとなった。

以下に、今回の調査で明らかとなった各層の概要についてまとめる。

盛土・表土 UR盛土は現代の整地に伴う層である。旧吹田操車場に関連する盛土はAからCに大別できるが、これは操車場を拡張した時期による差と考えられる。軌道敷バラスト（表土）・路盤盛土は明治期に敷設された神戸と京都を結ぶ旧東海道線に伴う層であり、いずれも分層可能な場合は連番を与える。神戸-大阪間の建設工事では厚さ30cm毎に突き固めたということであり、同様の作業による層相がみられる。操車場と路盤の盛土は、いずれも黄橙色から褐灰色の粘土・シルトを主体とするブロック土であり、地山の掘削土を利用したことが記録に残る。

第0層 旧東海道線敷設や旧吹田操車場建設以前に表土となっていた近代耕作土である。オリーブ黒色の砂質シルトを主とし、層厚は10~20cmを測る。上記の盛土に被覆されているため、当時の畝や畦の形状が良好に残存する。両者の建設着工は旧東海道線が明治9年、操車場が大正8年であり、各下に残る耕作土はそれ以前に形成されたものと区別できる。

第1層 褐色を呈する砂質シルトであり、1トレンチでは北側の第0層下に厚さ10cm前後で確認できたのみである。4トレンチでは機械掘削に際して近現代盛土とともに除去したため、図示していないが、その他の調査区も含めて概ね全域に検出された。

第2層 調査区の大半でオリーブ褐色を呈する砂質シルトである。1トレンチの北部では、黄灰色の砂礫が層序的に同層に対応することが分かった。当地周辺では第2層が断片的にしか検出できないことから、旧正雀川が近いこともあり、流入した氾濫堆積物によって耕作土が形成されなかったか、流失して残存しなかったものと推測する。調査地付近では北西から南東にかけて緩やかに下降する地形を呈し、傾斜角は6～2°を測る。これに対し、1トレンチの中央は標高が極端に低く窪んでおり、土層の欠如も著しいことから、後世に地形の改変された蓋然性が高いと考える。明確な根拠は無いが、隣接する旧東海道線を建設する際に路盤の盛土として土取りされ、後から耕作土を還元したものと想像する。1ト

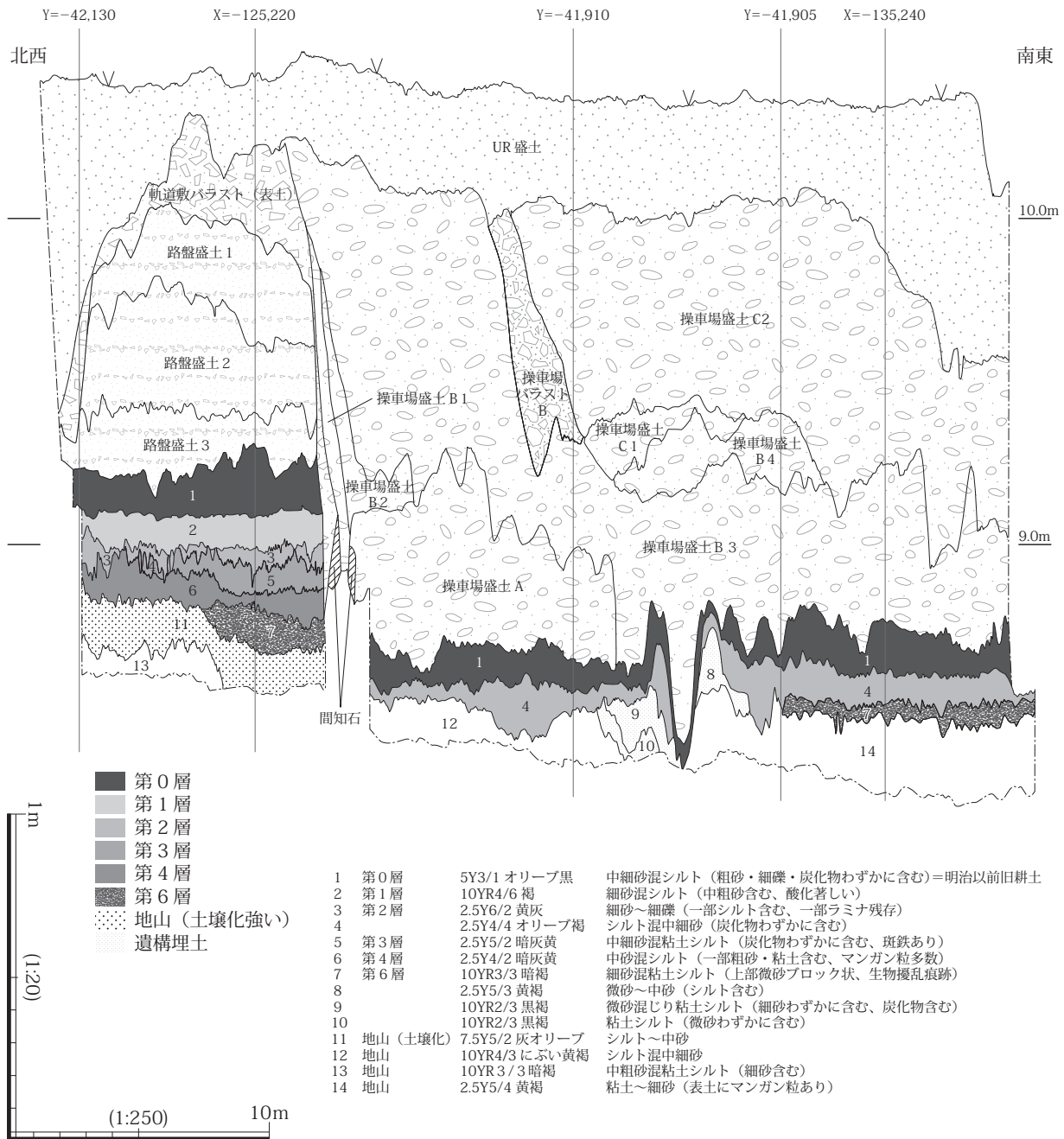


図5 1トレンチ北東壁 土層断面

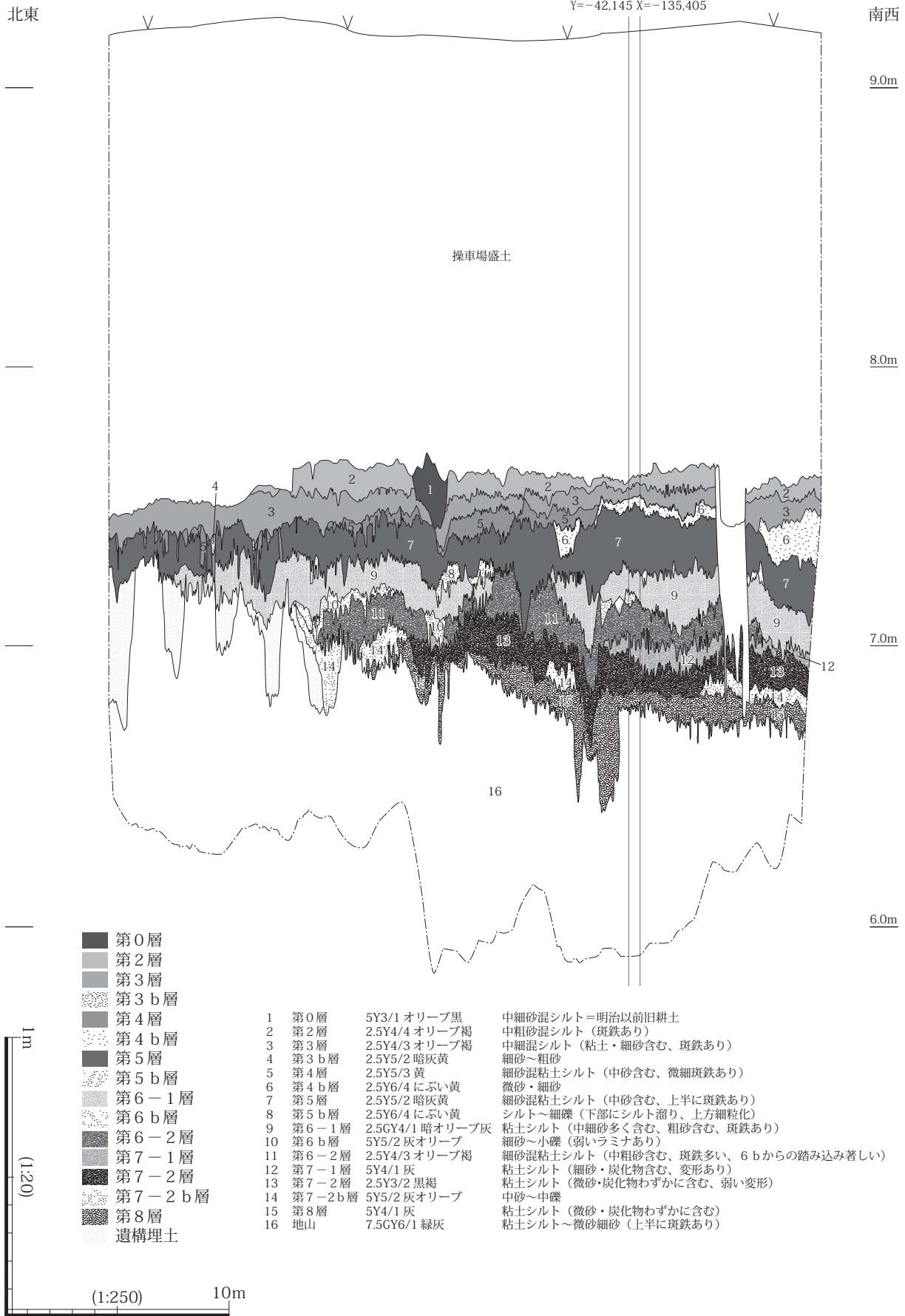


図6 4トレンチ西部 土層断面

レンチ南側に第2層相当の土層を図示しているが、実際の耕作土ではなく客土の可能性がある。

第3層 オリーブ褐色や暗灰黄色の砂質シルトである。4トレンチでは調査区のほぼ全域において検出し、第3層の基盤になったと考えられる砂礫の第3b層を局所的に確認した。

第4層 暗灰黄色や黄色を呈する砂質シルトであり、層厚は5～10cmを測る。1・4トレンチともに散見されたのみであり、第3層による攪拌作用が第4層に強く及んだ結果と考える。4トレンチでは基盤となった砂層の堆積を検出し、まとまった量の土砂が流入したことが想起される。

第5層 暗灰黄色を呈する砂質粘土シルトであり、層厚は15～20cmを測る。基盤となる第5b層はにぶい黄色を呈するシルト～細礫であるが、下の第6層との間に断片的に検出されるのみのため、第5層の攪拌時にほとんどが同層内に取り込まれたと考えられる。

第6層 4トレンチにおいては、第7層を鍵層として隣接地の層序と対照した場合、砂礫を間層に上下2層の分層が可能であることが判明した。第6-1層は暗オリーブ灰色を呈する粘土シルトである。層厚は10～15cmであり、わずかに砂の混入がみられる。基盤となる第6b層は灰オリーブ色を呈する砂礫であり、第6-2層との間にわずかに残存する。第6-2層はオリーブ褐色を呈する砂質粘土シルトであり、上層に比して砂が多く含まれる。また、下の第7層は砂分が非常に少ないため、区別は容易である。なお、同層の上面には多数の踏み込みが検出され、第6-1層における耕作の際に同層まで達したものであると思われる。一方、1トレンチでは第4層の下層に暗褐色を呈する砂質粘土シルトを検出し、第6層相当とした。同層は、基本層序における第5層や第7層、第8層とは性質が異なるため、消極法的に第6層としたもので、向後の成果によっては変更される可能性がある。

第7層 隣接の既往調査と同様、変形構造の違いにより上下2層に細分が可能である。第7-1層は灰色の粘土シルトであり、下の第7-2層に比してわずかに砂分が強く、明瞭な変形構造が認められる。5トレンチにかけての低位な範囲に広く残り、層厚は約10cmを測る。上面に第6-2層の耕作土が接することから、第7-1層の大半は上層に攪拌されたものであると思われる。第7-2層は黒褐色の粘土シルトであり、上層に比して砂分と変形構造が弱い。層厚は10～15cmを測り、上記と同様、間層に基盤となるb層が残存しないことから、上の第7-1層による攪拌を強く受けたものと推測する。下層には灰オリーブ色を呈する砂礫が遺存しており、氾濫堆積物である第7-2b層が第7-2層における攪拌を免れて残ったものと考えられる。この第7-2b層は隣接調査の第7b層に対応しており、その際は上下2層に分化が可能であったが、今回の調査では確認できなかった。

第8層 灰色の粘土シルトであり、層厚は10cm前後を測る。砂や炭化物を含み、弱いブロック状を呈する地点がみられることから、生物擾乱等による土壌化の進んだ層と考えられる。

遺構面については、包含層や遺構の残存状態が良好な場合は層毎の確認作業を実施し、それ以外は包含層をすべて除去した地山上面において遺構検出を実施することにした。したがって、各調査区における遺構面と称する多くは地山の直上面を示すものであり、埋土や出土遺物から帰属時期が判別し得る限り、遺構と攪乱の区別を行った。複数の遺構面を検出した場合、今回の調査区は分散しているものが多いことから、無理な整合は行わず、各地区における個別の状況として報告を行うことにする。

第2節 調査区域毎の遺構と遺物

本節では、検出した遺構や遺物に関する成果を報告する。今回の調査は調査区の数が多く、また小さな調査区が分散して配される場合も多いことから、全てをまとめて遺構平面図を作成すると表現できない調査区が生じ、一方、調査区毎にすると非常に煩雑で、なおかつ重複する遺構が分かりにくくなるため、遺構や景観に一定のまとまりがみられる北東・北・北西・西・南の5つの地区を設定し、関連するトレンチの成果をまとめて報告する。

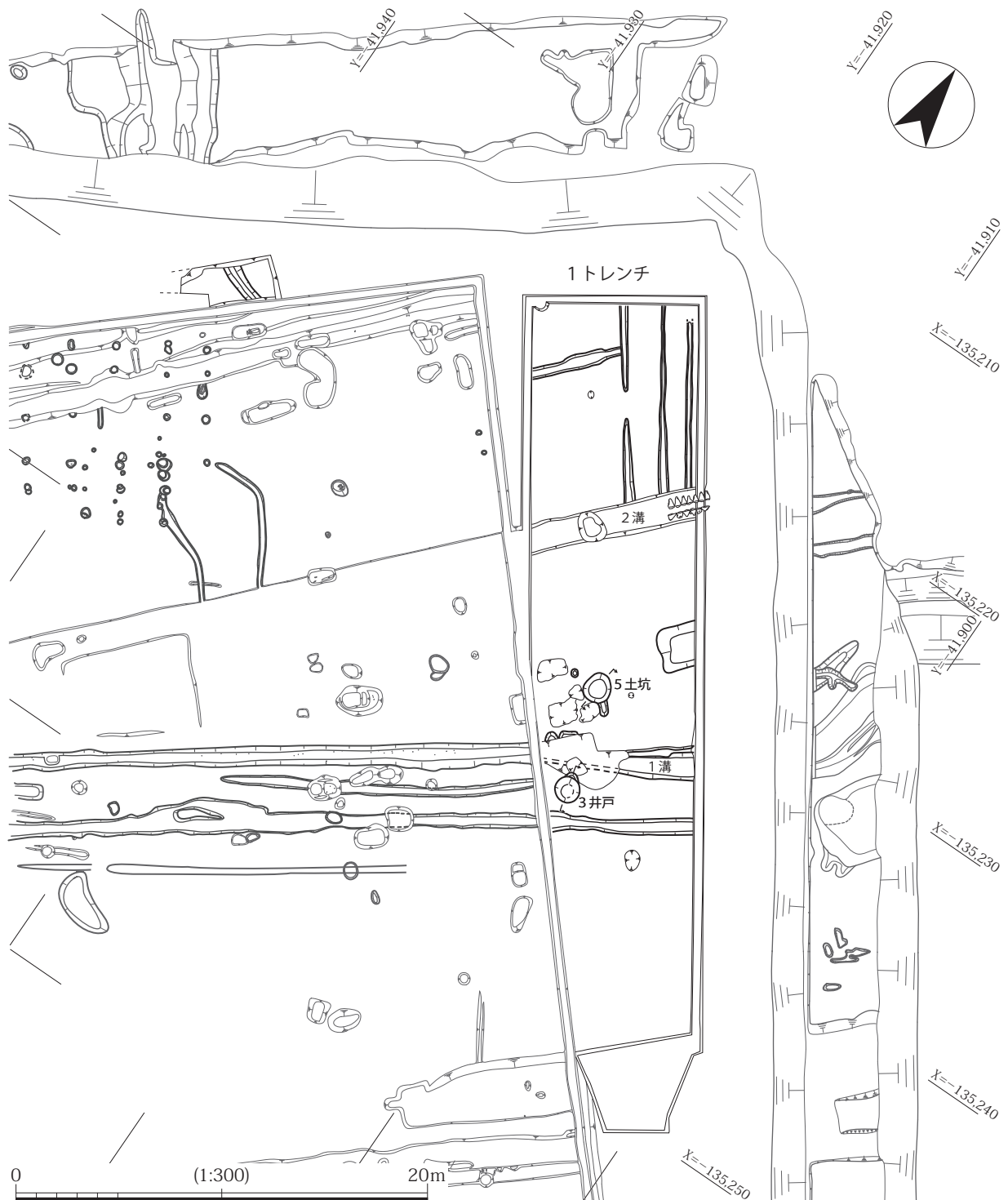


図7 北東地区 遺構平面 (第1層)

1. 北東地区<1トレンチ> (図7、図版4～5)

調査地全体の中で北東部に位置し、対象となる調査区は1トレンチのみである。調査前の現地表面は標高10.4m前後を測り、旧東海道線付近では約1.4m、それ以外では約1.6mの現代整地土や旧操車場・旧東海道線の盛土等を重機により除去した。この下層において、調査区のほぼ全域に検出した20cm前後の近世以降の旧耕作土については、引き続き重機による慎重な掘削を行った。これより下において、中世以前の耕作土や遺物包含層を10～45cm検出し、このうち5層に細分が可能であった北側の旧東海道線の下面では、部分的に層毎の遺構面を確認しながら包含層を人力により慎重に掘削した(図5)。

2溝 旧東海道線の路盤盛土の周辺を重機により除去すると、この両側に沿って走る各1条の溝を検出し、南側の2溝内から面を約30cmの間隔で向かい合わせにして並べられた間知石が1段出土した(図7、図版3)。両溝は軌道に伴う側溝と考えられ、石列は検出した一部のみを記録したが、東側の土層断面を観察すると、2溝を隔てた南北で層序や地形の大きく異なることが分かった(図版3-1・2)。北側の旧東海道線断面は、複数の包含層が累重する様子が認められるが、2溝により大きく削平された南

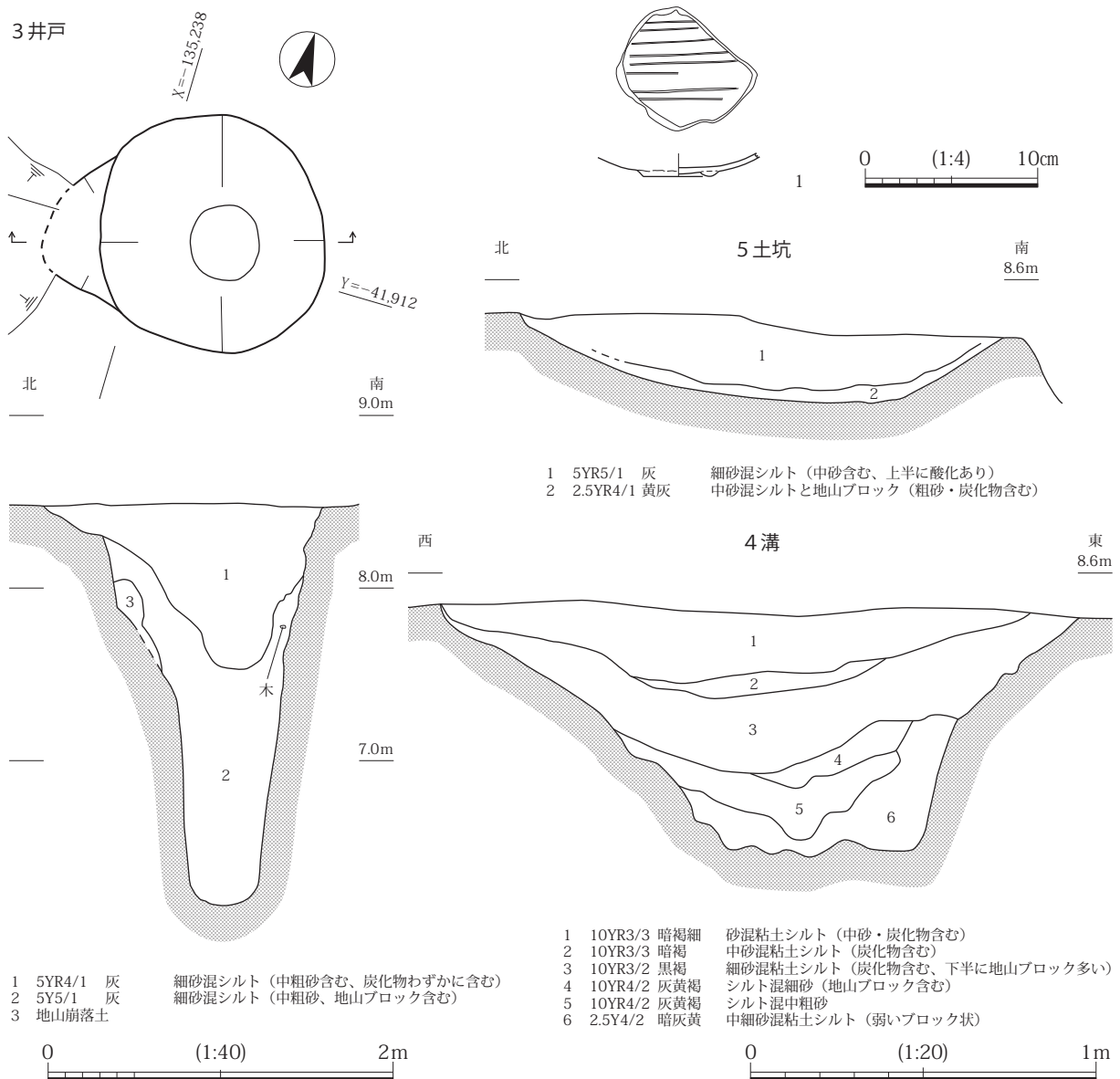


図8 北東地区 遺構断面・出土遺物 (第1層)

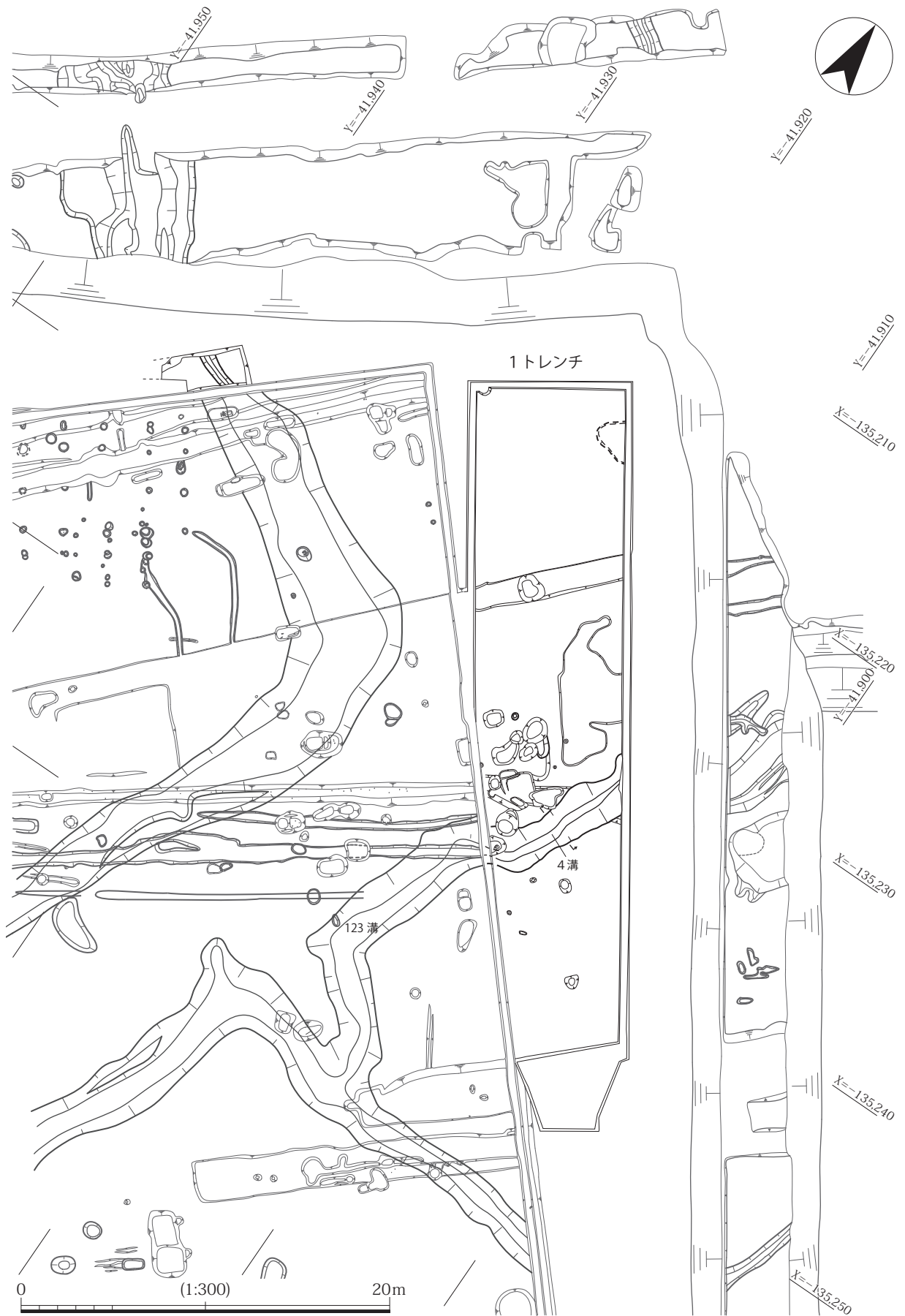


図9 北東地区 遺構平面 (地山)

側は、間知石より一段低い位置に近代以降の耕作土が確認できる。比高は約55cmである。前節において記したとおり、当該地は勾配率2～6%で南東に向かって下降する緩斜面であり、上記の段差は明らかに人為的な地形の改変による結果と考えられる。したがって、路盤下では各包含層の除去面において遺構検出を試みたが、これより以南ではすべてを除去した地山上面まで掘削を行った。

耕作溝・1溝 軌道の下面では、第1層と第2層の各上面において明瞭な耕作痕跡を検出した(図版4-1・2)。第1層上面では、1.2m前後の間隔で平行する溝を数条確認した。溝の軸方向が条里型地割に則っており、形状や配置から畝間溝と推測する(図7)。これに関連する遺構として、南東方向へ約13m離れた位置に直交する1溝がある。同溝は西接する既往の調査区から続く坪境溝であり、両肩に幅約50cmの溝畔を伴う(図5、図版3-3)。これらのことから、旧東海道線敷設の直前まで条里型地割による耕作地が残存していたことは明らかであり、線路敷設後も周辺域には同様の景観が残されていたことも分かった。

同地区の第2層上面では、上面と同様の斜交条里で一定の間隔に並ぶ耕作溝を検出し、畝間の痕跡と考えられる。第2層の耕作土からは13世紀後半の瓦器椀が出土している(図8)。

これより南側では当該期の耕作痕は確認されていないものの、1溝の周辺において検出した3井戸や5土坑、落ち込み等が、耕作地であったことを示す証左と考える(図7・8、図版4・5)。

3井戸 直径約1.3mの円形を呈し、深さ約2.3mを測る(図8、図版5-2)。埋土に第2層のブロックを含むことから、埋め戻された時期が第2層の形成後であることは明らかである。

5土坑 直径約1.4mの円形を呈し、平面形は前述の井戸に似るが、深さが約23cmと浅い(図8)。

4溝 上記より古い遺構として、トレンチの中央付近に4溝を検出した(図9、図版4-3)。この溝は『吹田操車場遺跡12』における123溝につながる遺構であり、溝の規模は上端幅約2m、深さ60～70cmを測る(図9、図版5-3)。過去の調査では、西に隣接する地点において古墳時代初頭の土師器等が出土しているが、今回の調査では遺物は確認できなかった。

1トレンチから出土した遺物は包含層のものがほとんどであり、須恵器・土師器・瓦器・瓦・陶磁器・犬釘がみられる。遺物の点数が少なく、土器の大半は細片であった。1は第2層出土の瓦器椀の底部である(図8、図版43)。13世紀の所産と考える。

2. 北地区<2・3・(1)・(5)・(6)・①～⑫トレンチ>(図11、図版6～15)

調査地の北隅付近に位置する追加①トレンチから、南西に約140m離れた追加⑫トレンチまでを対象とし、今回の調査の中では小規模な調査区が最も多く集中する地区である。なお、本地区の中央付近では埋設管と人孔設置のために幅約1mの作業溝を掘削し、遺構や遺物の有無を確認する立会を行っている。特筆すべき調査成果が認められなかったため本文中に記載していないが、文化財調査として実施済みであることを改めて記しておく(図3)。また、当該地区は狭小な調査区や攪乱に接する調査区が多いことから、土層断面の記録は省略している。大半の調査区において、現地表面から第0層の旧耕作土までの深度1.1～1.4mを重機により除去し、これより下に第1層から第3層の残存を確認した。

520溝 耕作土や遺物包含層を人力により掘削すると、最も東端に位置する①トレンチでは調査区全域に地山が確認されず、途中より暗灰色を呈する泥質土の堆積を検出した。これを除去した底面において、幅60～70cm、深さ約20cmのほぼ東西にのびる520溝を検出した(図11、図版6-1)。これは南接する『吹田操車場遺跡12』における122溝の底面の一部であり、調査区全体が同溝の遺構内に収まって

いたため、上記を埋土と気付かず掘削していたことが事後に判明した。

②・③トレンチは、いずれも現代の攪乱が地山層まで達しており、残存状態が良好ではない（図版6-2）。②トレンチでは中世以降と推定する井戸の痕跡、③トレンチでは調査区の西半において泥質土や砂の堆積をわずかに検出した。後者は、後述する531流路に関連する氾濫堆積物と推測する。

528・529溝 ④・⑤・⑥トレンチは包含層の残存状態が良好であり、複数の遺構を検出することができた。約40㎡の面積をもつ⑥トレンチでは、第2・3層を除去した面において条里型地割に則った耕作痕を確認した（図版7-1）。包含層をすべて除去した地山上面ではピット・土坑の他に528・529溝を検出し、このうちの529溝は北側に位置する⑤トレンチにおいても確認することができた（図11、図版7~9）。これらの528・529溝の平面的な位置から、それぞれ南接する『吹田操車場遺跡12』における1527・1526溝、北側の『吹田操車場遺跡10』における2024・2001溝と同一であることが明らかとなった。いずれの溝も暗色系の砂質シルトで埋没しており、底面付近には薄い砂泥の堆積層が認められることから、当時は流水していた可能性も考えられる。遺物は528溝より須恵器片が出土しているが、詳細は不明である。

531流路 528・529溝と周辺の弱い土壌化層を除去すると、⑤・⑥トレンチの東端をかすめるように北へとのびる531流路を検出した（図11）。隣接する④トレンチでは遺構がまったく検出されず、包含層の下層に調査区全体を覆う砂礫が厚く堆積することから、同トレンチが531流路の河道内に一致したものと考える（図版6-3）。同流路は『吹田操車場遺跡12』の320流路、『吹田操車場遺跡10』の2050流路と同一であり、深さ2m以上に厚く砂礫が堆積することから、遺物の有無を確認するために上層のみの掘削を行った（図版9・10）。残念ながら遺物は出土しなかったが、今回の調査により、前述の2条の溝は531流路の埋没過程の最終形ではなく、流水機能を持つ別個の遺構であることが判明した。

風倒木痕 上記の溝や流路の西岸となる北地区南側の西半では、大小の不定形な土坑を複数検出した（図11、図版10）。土坑の規模は長径0.5~3.5mまで、深さ10~55cmまでと多様であり、埋土は黒褐色の砂質シルトや地山のブロックである。周辺地盤に変形の痕跡が認められないことや、隣接する『吹田操車場遺跡12』においても当地周辺に同様の土坑を多数検出していることから、風倒木による痕跡と考えられる。なお、X=-135,276、Y=-42,996付近は周辺よりやや窪んで湿地化していたようであり、多数のヒト足跡を検出した。

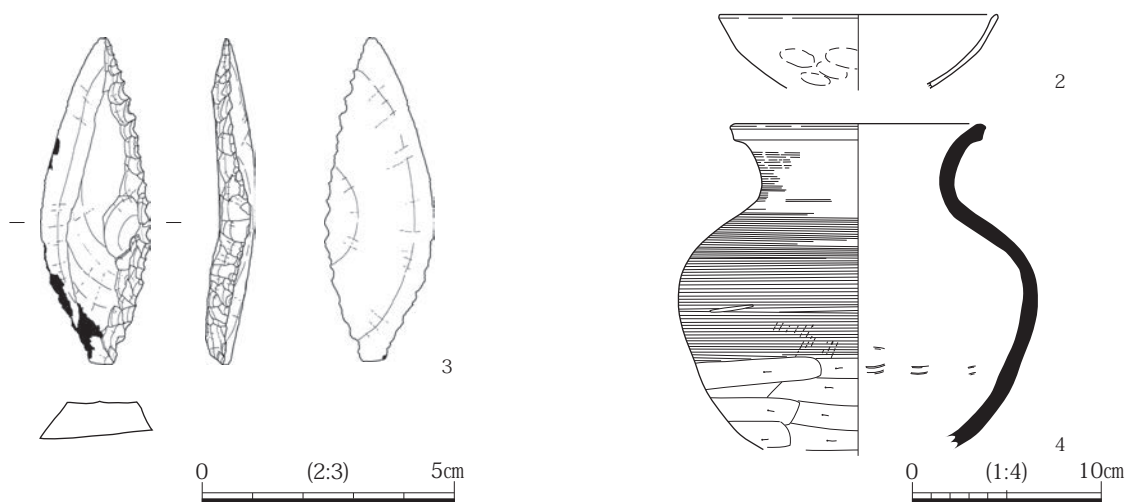


図10 北地区 出土遺物

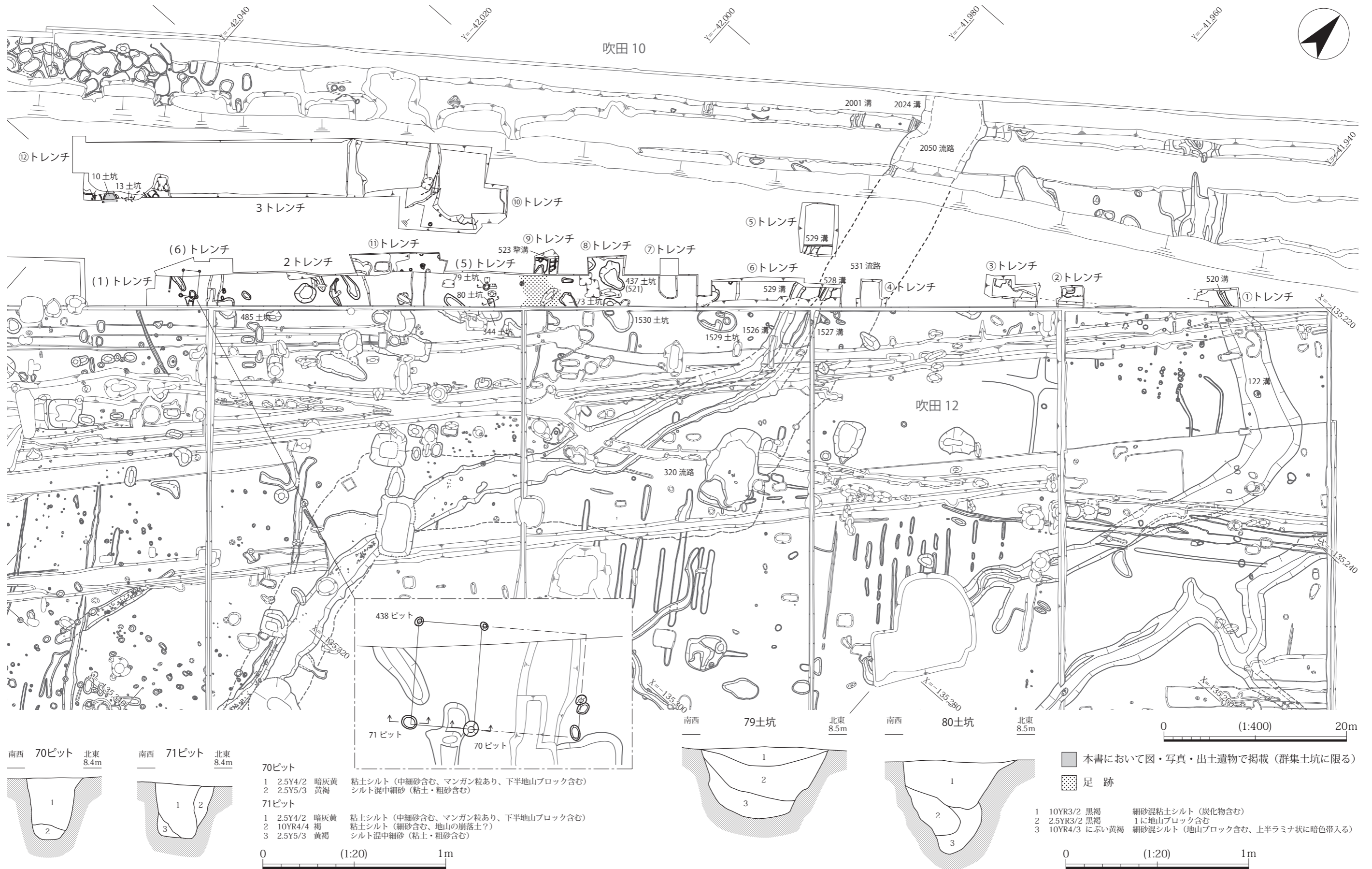


図11 北地区 遺構平面・遺構断面

ピット群 上記の遺構以外に、⑪トレンチの $X = -135,282$ 、 $Y = -42,008$ 付近と、2・(6)トレンチ西端の $X = -135,300$ 、 $Y = -42,025$ 付近において、前述の風倒木痕とは異なる埋土がみられる複数のピットを検出した(図11、図版11~13)。調査区が狭小なため詳細は不明であるが、後者では1×1間の掘立柱建物の復元が可能である。『吹田操車場遺跡12』では、当地周辺は前述までの風倒木痕が希薄となり、掘立柱建物群が形成される範囲の東限に近接することから、それらに付随する作業小屋のようなものであった可能性が考えられる。

上記までのトレンチにおける出土遺物は少なく、陶磁器・須恵器・土師器・石器等がみられる(図10、図版43)。2は⑩トレンチ第3層より出土した土師器杯、3は⑧トレンチ第2・3層から出土したナイフ形石器である。耕作土として攪拌された際に混入したものと思われる。

北西側に位置する3・⑩・⑫トレンチについては、調査区北西部分の大半が攪乱により削平されている。これは旧国鉄時代に貨物新幹線用として建設された高架に関連するものであり、その基礎部分が当地に長らく存置されていたが、北側を通る都市計画道路天道岸部線の拡幅に伴って撤去することとなり、その工事の際に大きく攪乱されたものである。同工事に関連する図面を入手していなかったため、調査では攪乱の位置を把握しながら遺跡残存部分の確認を行うことにした。

10土坑 上記の攪乱の縁辺が3トレンチ南西壁に一致したため、平面的な確認は行えなかったが、土坑を10基検出した(図11、図版14・15)。北側の『吹田操車場遺跡10』において群集土坑が検出されていることから、これらの土坑は後述の北西地区における「群集土坑」と一連のものであり、今回の検出範囲がその分布の東限であることが明らかとなった。土坑はいずれも全体像が判然としませんが、このうちの10土坑から半損した須恵器壺が出土している(図10-4、図版15・43)。古墳時代後期(6世紀後半)の所産と考える。

3. 北西地区<4・6・(2)~(4)・⑬~⑯トレンチ>(図13、図版15~26)

今回の調査の中では面積が最も広い4トレンチを中心に、東接する(2)~(4)・⑬・⑭トレンチ、西接する⑮・⑯トレンチ、南東にやや離れる6トレンチを含む調査地西側の地区である。南接する『吹田操車場遺跡12』を挟んでほぼ全域に「群集土坑」の広がる区域であり、6トレンチも一括して取り扱うことにした。本地区における調査面積の合計は約2,006㎡を測る。なお、4トレンチは施工時期や作業可能範囲の制約により、現地では複数の調査区に分割して調査を実施したが、本項では一括して取り扱う。

着手前の現地表面は標高9.2m前後を測り、現代の盛土や近代の操車場盛土、近世の旧耕作土を1.6m前後の深さで重機により掘削した(図4)。機械掘削中、調査区の北辺にほぼ沿うように幅約6mの大規模な攪乱を検出したが、これは北地区において記した「貨物新幹線用高架」の撤去に伴うものと同一である。同攪乱内については、溝・土坑・井戸等の一部や遺物が残っている可能性もあったため、周辺の平均的な遺構底面の標高まで重機による掘削を行い、遺構や遺物の確認を実施し、それ以下については存置した。攪乱以外では、ほぼ全域において近代耕作土の下に中近世以前の耕作土である第1~3層と、局所的に第4層が残存することを確認し、分層可能な箇所については各層界における遺構検出を行った。その結果、不明瞭ながらも条里型地割に則った耕作痕や段差等の地形変化と、 $X = -135,330$ 、 $Y = -42,060$ 付近、 $X = -135,360$ 、 $Y = -42,073$ 付近、 $X = -135,368$ 、 $Y = -42,107$ 付近等に井戸や土坑の集中を確認した(図版15-3)。これらの遺構は、耕作土や埋土に第1層が含まれることから、大半は近世以前のものと思われるが、埋土に第0層のブロックを含む一部の井戸については、旧操車場

建設時に人為的に埋め戻された可能性が考えられる。

当地区の第1～4層の耕作土には古代から中世にかけての多くの遺物が混在し、遺構内には他の時代の遺物が混入する状況を看取した。遺物には陶磁器・瓦器・須恵器・土製品・銭貨・石器・歯牙等が認められる(図12、図版44～46)。5は65井戸から出土した外反する口縁を持つ高麗茶碗である。黄白色の釉薬が掛けられ、いわゆる熊川茶碗こまがわと思われる。16世紀後半頃の所産か。6・7は白磁碗であり、11～12世紀前半の所産と考える。8は東播系須恵器すり鉢であり、12世紀後半から13世紀の所産である。9は口縁端部に煤の付着する瓦質土器である。10はやや大型の瓦質犬形土製品である。耳や尾の

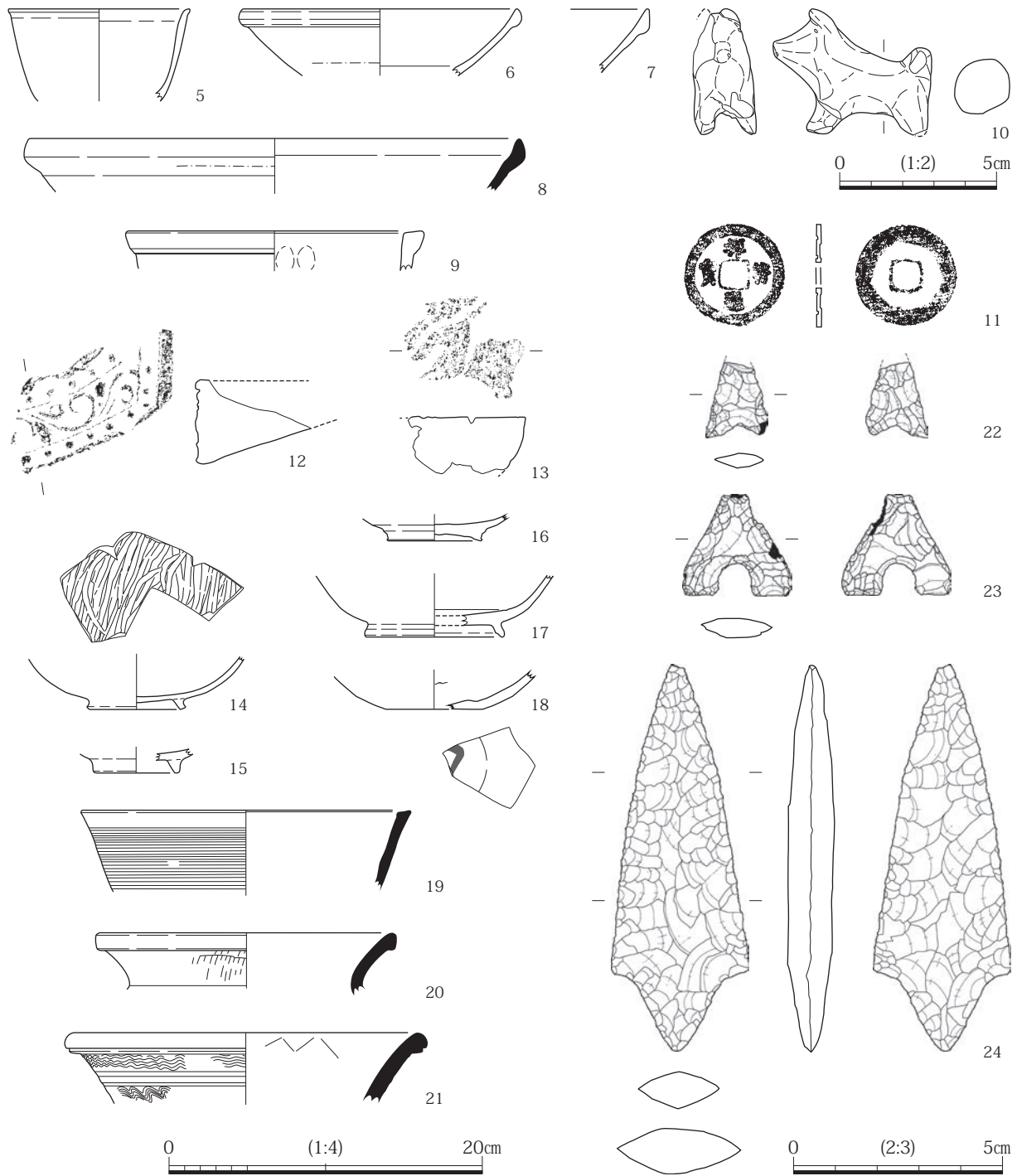


図12 北西地区 出土遺物(包含層)



図13 北西地区 遺構平面

形状から犬とみなすが、胴や頭は猪に近い。11は「祥符通寶」の銘があり、1009年に始鑄された北宋銭である。12は軒平瓦であり、七尾瓦窯6303型式の唐草文軒瓦に一致する。後期難波宮の朝堂院西側区域用に製造されたものであり、8世紀の所産である。13は地山直上で出土した鋳型と思われる土製品である。図上右端から約1.5cm幅は平割で、1条の沈線がみられる。14は11世紀頃の楠葉型瓦器碗であり、15は黒色A類の碗底部である。16は緑釉陶器の素地、17は9世紀前半から中頃と思われる近江系緑釉陶器である（原色図版2）。18は糸切底の土師器碗であり、外底面に墨書がみられる。全体が還元状態となり、熱を受けた可能性がある。19は須恵器こね鉢、20・21は須恵器壺である。7世紀後半の所産である。22・23はサヌカイト製無茎鉢、24は39土坑から出土した、縄文時代早期末から前期にかけてのサヌカイト製有舌尖頭器である。尖頭器については、同形の一回り大きなものが『吹田操車場遺跡12』の123溝から出土している。また、第3層からは馬歯が出土している（図版44-25）。

4トレンチ西端を除く本地区のほぼ全域では、第3層を除去すると灰色や灰黄色を呈する地山面が露頭し、多数の土坑を検出した（図版16・17・23）。標高は4トレンチ東端の7.74mから同西端の6.75m、南東の6トレンチでは7.10m前後を測り、ほぼ南へ向かって緩やかに下降する傾斜地を呈する。4トレンチにおけるY=-42,128以西では、5トレンチに向かって残存する第5層以下の耕作土を検出し、

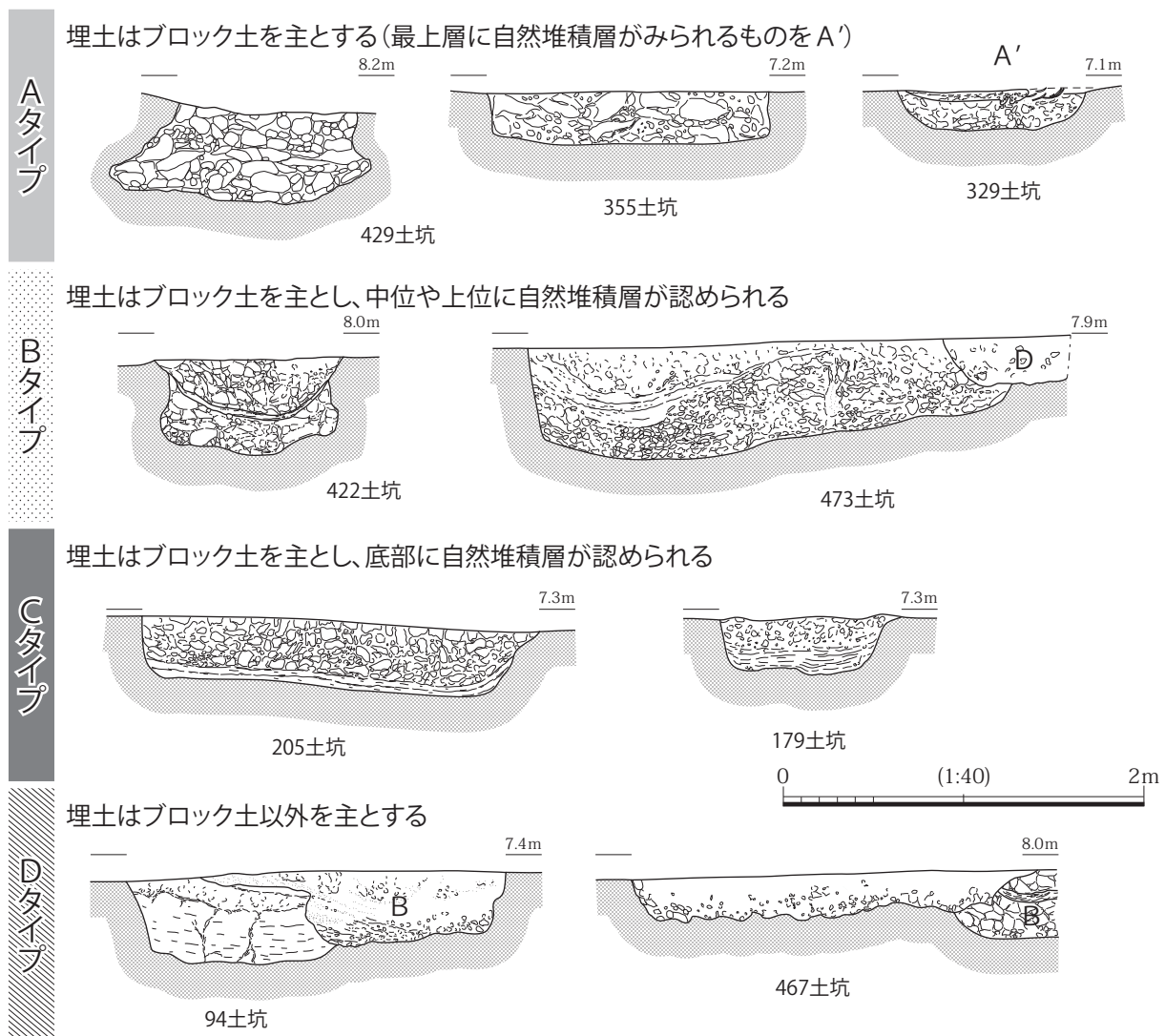
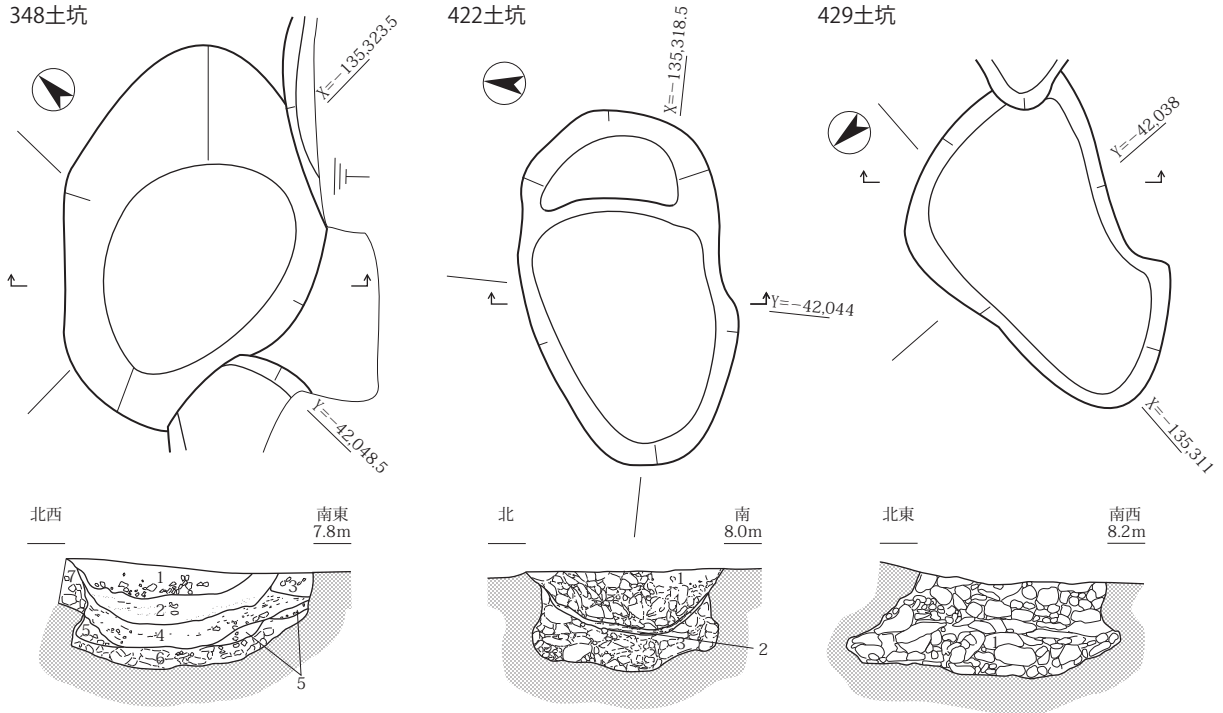


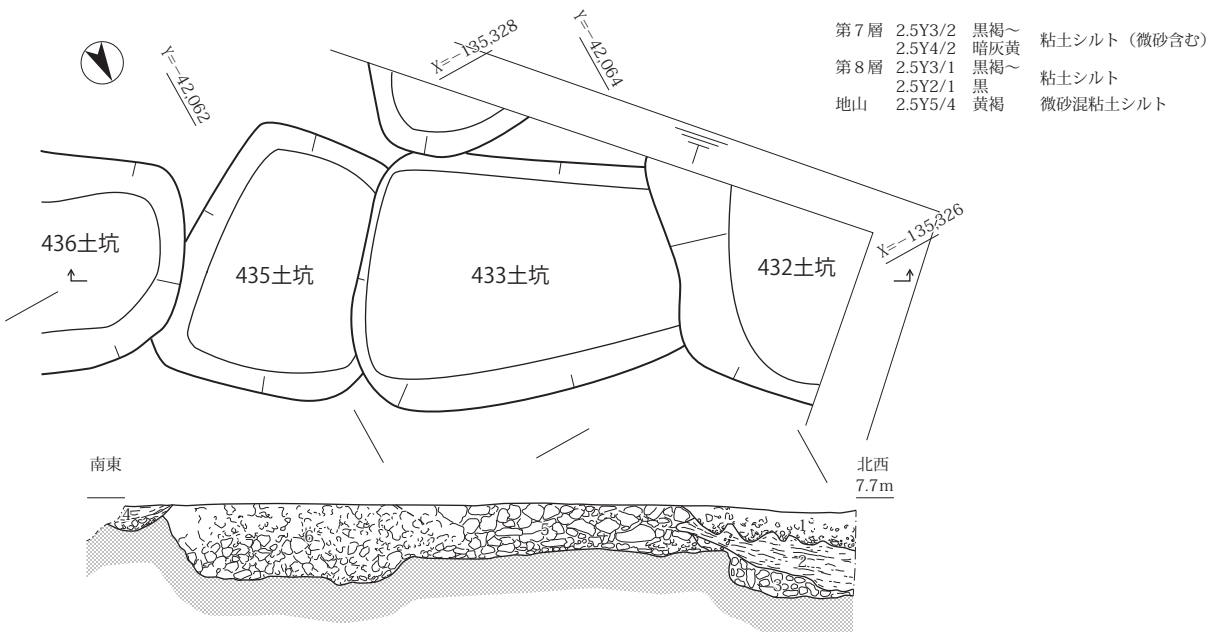
図14 群集土坑の埋土分類



- 1 2.5Y4/1 黄灰 粘土シルト (第7 b層)
- 2 2.5Y4/1 黄灰 粘土シルト (炭化物含む、ラミナあり)
- 3 2.5Y6/2 灰黄 粘土シルト (斑鉄あり) =地山ブロック
- 4 2に同じ
- 5 2.5Y5/1 黄灰 粘土シルト (地山ブロック多く含む)
- 6 2.5CY6/1 オリーブ灰 粘土~微砂 (地山ブロック状)
- 7 2.5Y5/1 黄灰 微砂混粘土シルト (地山ブロック多く含む、ブロック状)

- 1 2.5Y4/1 黄灰 粘土シルト (第7層?)と地山、第7 b+第8層のブロック土
- 2 2.5Y4/2 暗灰黄 粘土シルト (炭化物わずかに含む、ラミナあり)
- 3 地山と第7 b・8層のブロック土
- 第7 b層 5Y5/1 灰 微砂混粘土シルト
- 第8層 10YR3/1 黒褐 粘土シルト (炭化物多く含む)
- 地山 10YR5/6 黄褐 粘土シルト (酸化)
- 10YR6/1 灰 粘土シルト (非酸化)

- 1 第7層・第8層・地山のブロック土 (上・中・下位は各々第7層・第8層・地山が多くみられる)



- 第7層 2.5Y3/2 黒褐~ 粘土シルト (微砂含む)
- 2.5Y4/2 暗灰黄
- 第8層 2.5Y3/1 黒褐~ 粘土シルト
- 2.5Y2/1 黒
- 地山 2.5Y5/4 黄褐 微砂混粘土シルト

- 1 2.5Y4/2 暗灰黄 粘土シルト (微砂わずかに含む、大半に地山ブロック含む)
- 2 2.5Y4/1 黄 (上) ~ 粘土シルト (炭化物含む、ラミナあり)
- 5Y5/1 灰 (下) 微砂、粘土シルト (地山ブロックに第7・8層入る)
- 3 5Y6/2 灰オリーブ 2に同じ
- 4 2に同じ
- 5 第7・8層と地山のブロック土 (φ200mm以下のブロック)
- 6 地山と第7・8層のブロック土 (φ100mm以下のブロック)

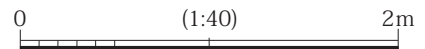
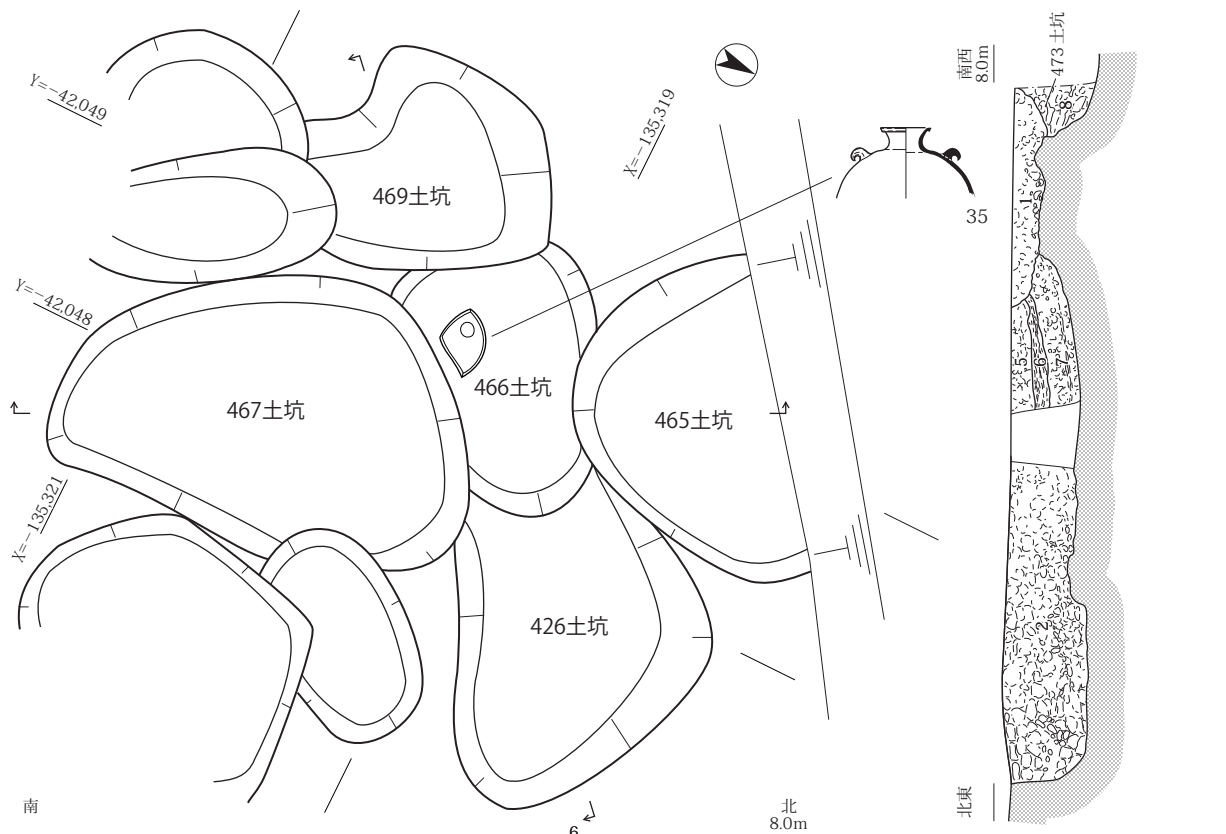
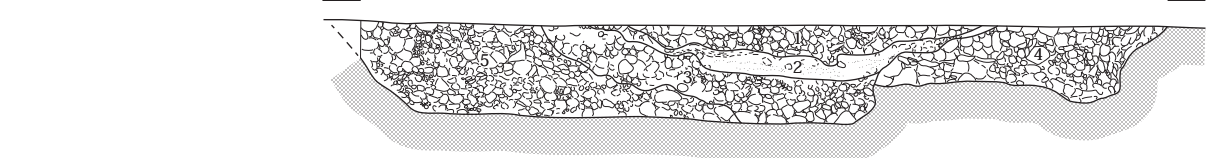
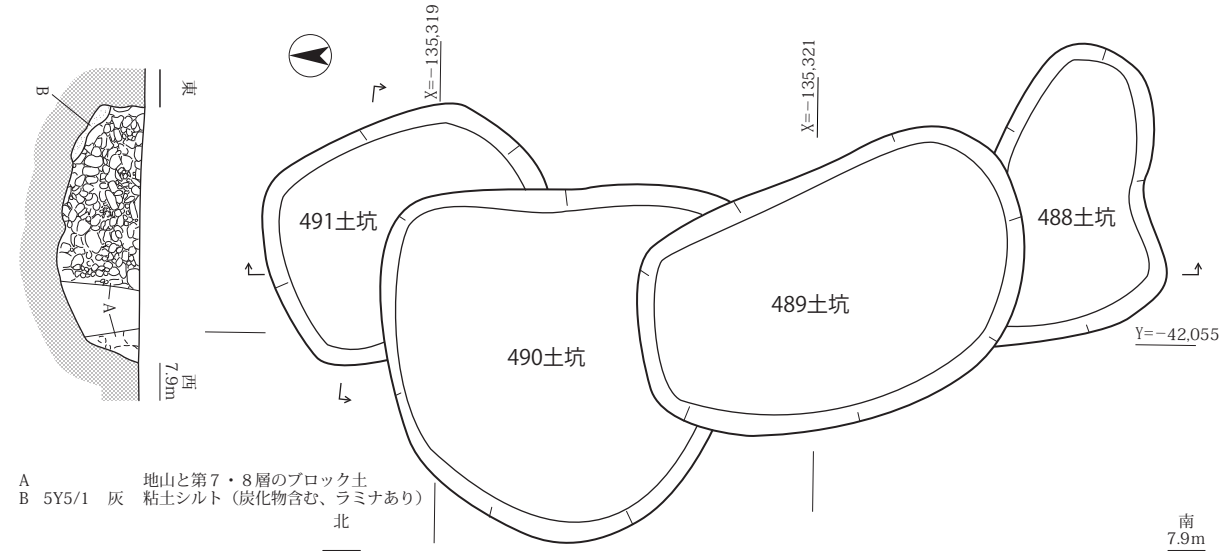


図15 群集土坑の平面・断面 (1)



- | | |
|---|--|
| 4 | 地山と第7・8層のブロック土 |
| 5 | 地山と第7・8層のブロック土 (φ200 mm以下) |
| 6 | 2.5Y4/1 灰 (上) 粘土シルト (炭化物含む、ラミナあり) |
| 7 | 2.5Y5/1 灰 (下) 黄灰 微砂混粘土シルト (地山と第7・8層のブロック土) |
| 8 | 5Y6/1 黄灰 微砂混粘土シルト (地山と第7・8層のブロック) |

- | | |
|---|--|
| 1 | 2.5Y4/2 暗灰黄 粘土シルト (微砂わずかに含む、下半に地山ブロック含む) |
| 2 | 2.5Y4/2 暗灰黄 粘土シルト (微砂わずかに含む、下半にφ100 mm以下の地山ブロック含む) |
| 3 | 2.5Y4/2 暗灰黄 粘土シルト (微砂わずかに含む、下半に地山ブロック含む) |



- | | | | |
|---|--|---|-------------------------------|
| 1 | 2.5Y4/2 暗灰黄 粘土シルト (微砂わずかに含む、下半に地山ブロック含む) | 4 | 地山と第7・8層のブロック土 |
| 2 | 5Y5/1 灰 (下) 粘土シルト (炭化物含む、ラミナあり) | 5 | 地山と第7・8層のブロック土 (第7・8層:地山≒6:4) |
| 3 | 2.5Y4/1 黄灰 (上) 粘土シルト (炭化物含む、ラミナあり) | | |
| | 5Y6/2 灰オリーブ 微砂・粘土シルト (地山ブロックに第7・8層含む) | | |

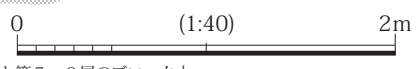
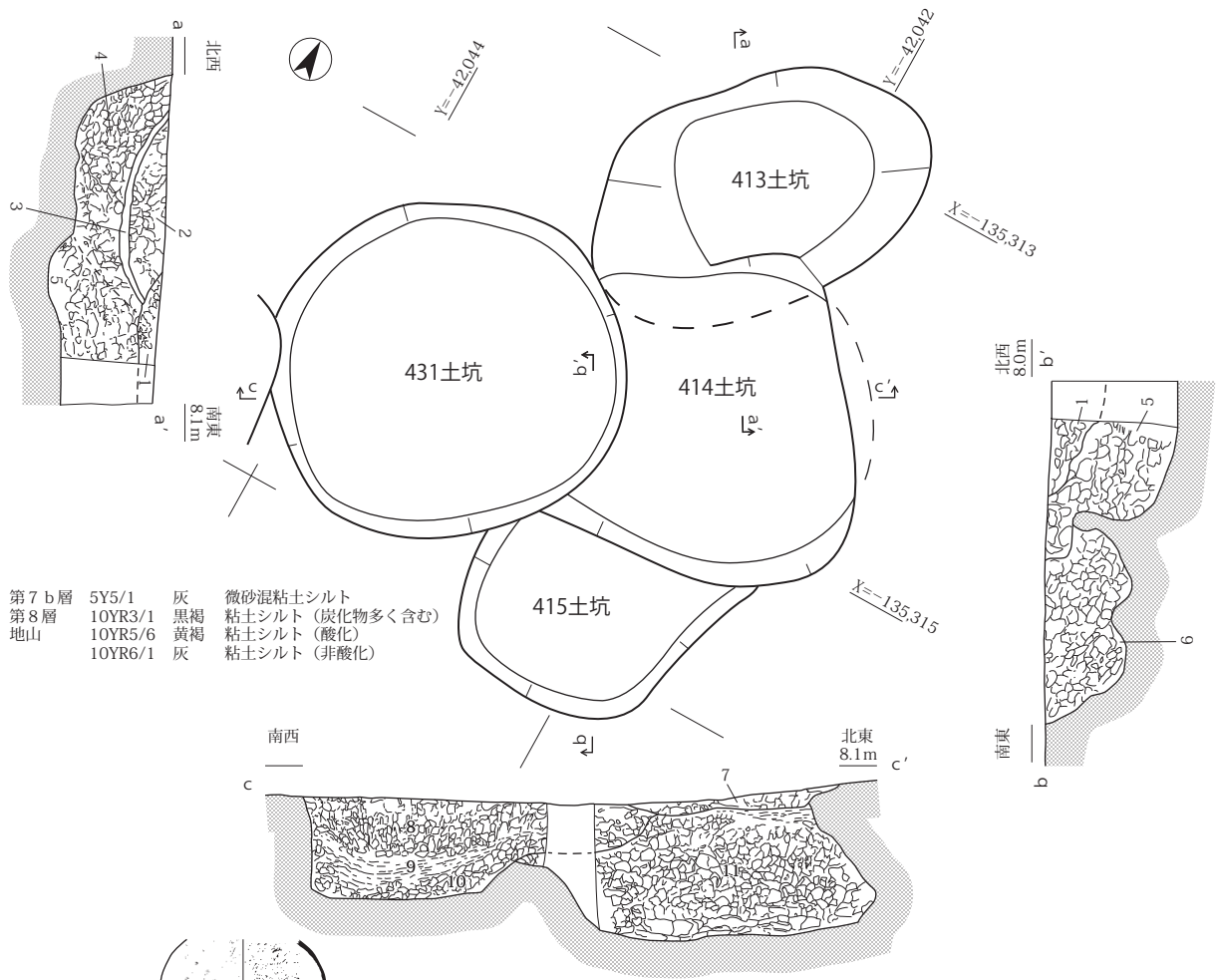
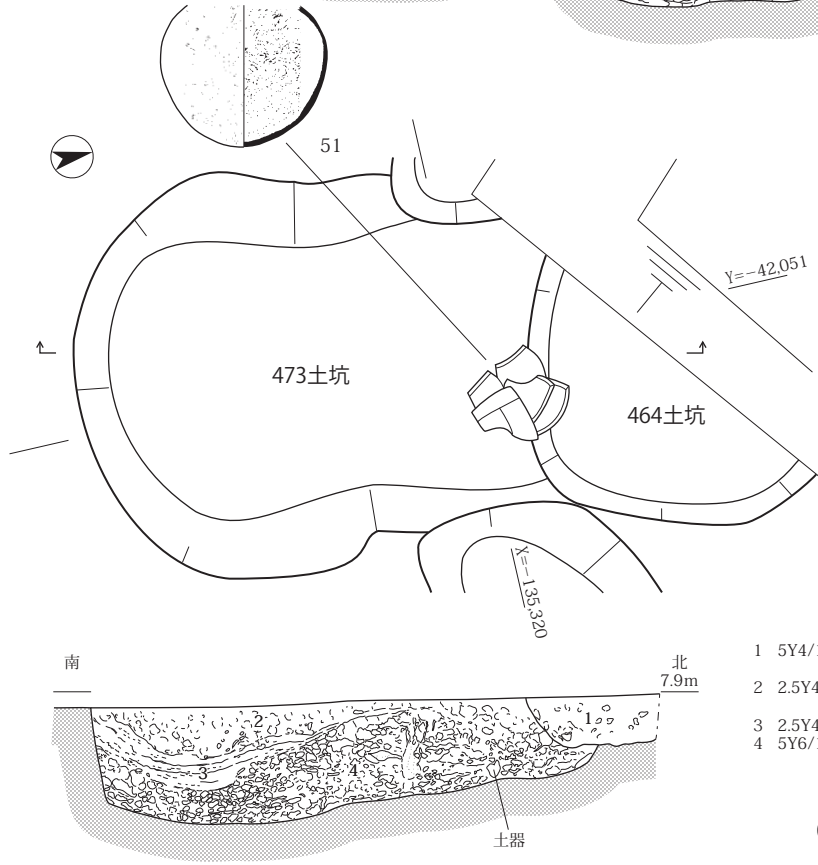


図16 群集土坑の平面・断面(2)



第7 b層 5Y5/1 灰 微砂混粘土シルト
 第8層 10YR3/1 黒褐 粘土シルト (炭化物多く含む)
 地山 10YR5/6 黄褐 粘土シルト (酸化)
 10YR6/1 灰 粘土シルト (非酸化)



1 5Y5/1 灰 微砂混粘土シルト (第7 b層のブロック土、地山ブロック含む)
 2 2.5Y4/2 暗灰黄 粘土シルト (炭化物わずかに含む、ラミナあり)
 3 2.5Y4/2 暗灰黄 粘土シルト (炭化物わずかに含む、ラミナあり、上部に地山ブロック含む)
 4 2.5Y4/2 暗灰黄 粘土シルト (炭化物わずかに含む、ラミナあり)
 5 2.5Y4/2 暗灰黄 粘土シルト (炭化物わずかに含む、ラミナあり)
 6 2.5Y4/2 暗灰黄 粘土シルト (炭化物わずかに含む、ラミナあり)
 7 2.5Y4/2 暗灰黄 粘土シルト (炭化物わずかに含む、ラミナあり、上部に地山ブロック含む)
 8 2.5Y4/2 暗灰黄 粘土シルト (炭化物わずかに含む、ラミナあり)
 9 2.5Y4/2 暗灰黄 粘土シルト (炭化物わずかに含む、ラミナあり)
 10 2.5Y4/2 暗灰黄 粘土シルト (炭化物わずかに含む、ラミナあり)
 11 2.5Y4/2 暗灰黄 粘土シルト (炭化物わずかに含む、ラミナあり)

1 5Y4/1 灰 微砂混シルト (粘土・地山ブロック含む、ブロック状)
 2 2.5Y4/2 暗灰黄 粘土シルト (微砂わずかに含む、下半に地山ブロック含む)
 3 2.5Y4/1 黄灰 粘土シルト (炭化物含む、ラミナあり)
 4 5Y6/1 灰 微砂混粘土シルト (地山と第7・8層のブロック)

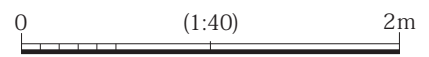
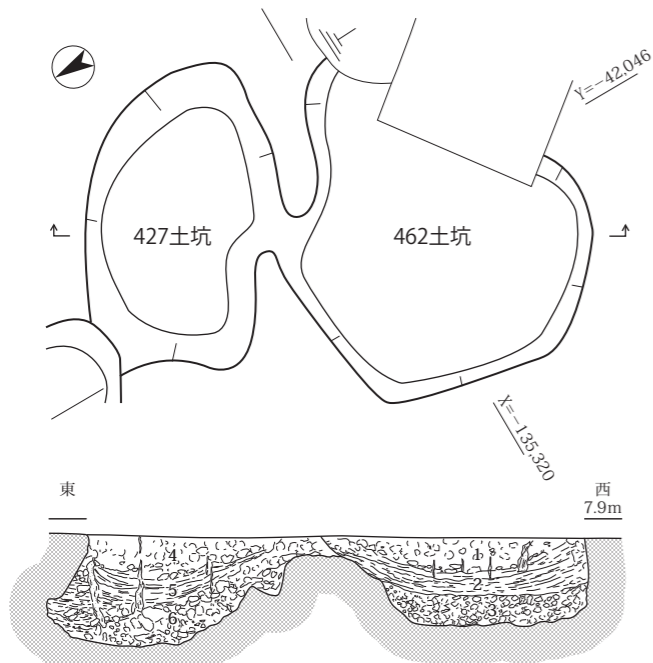
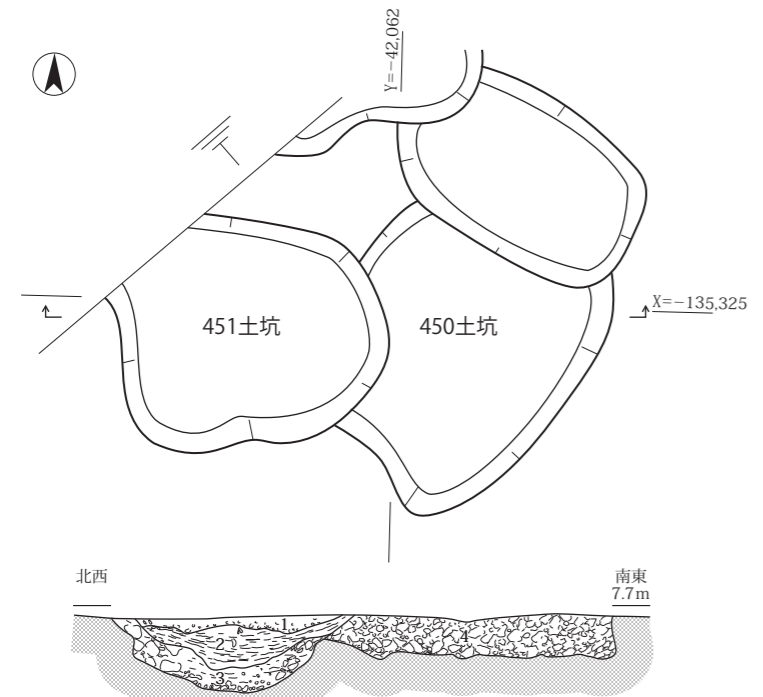


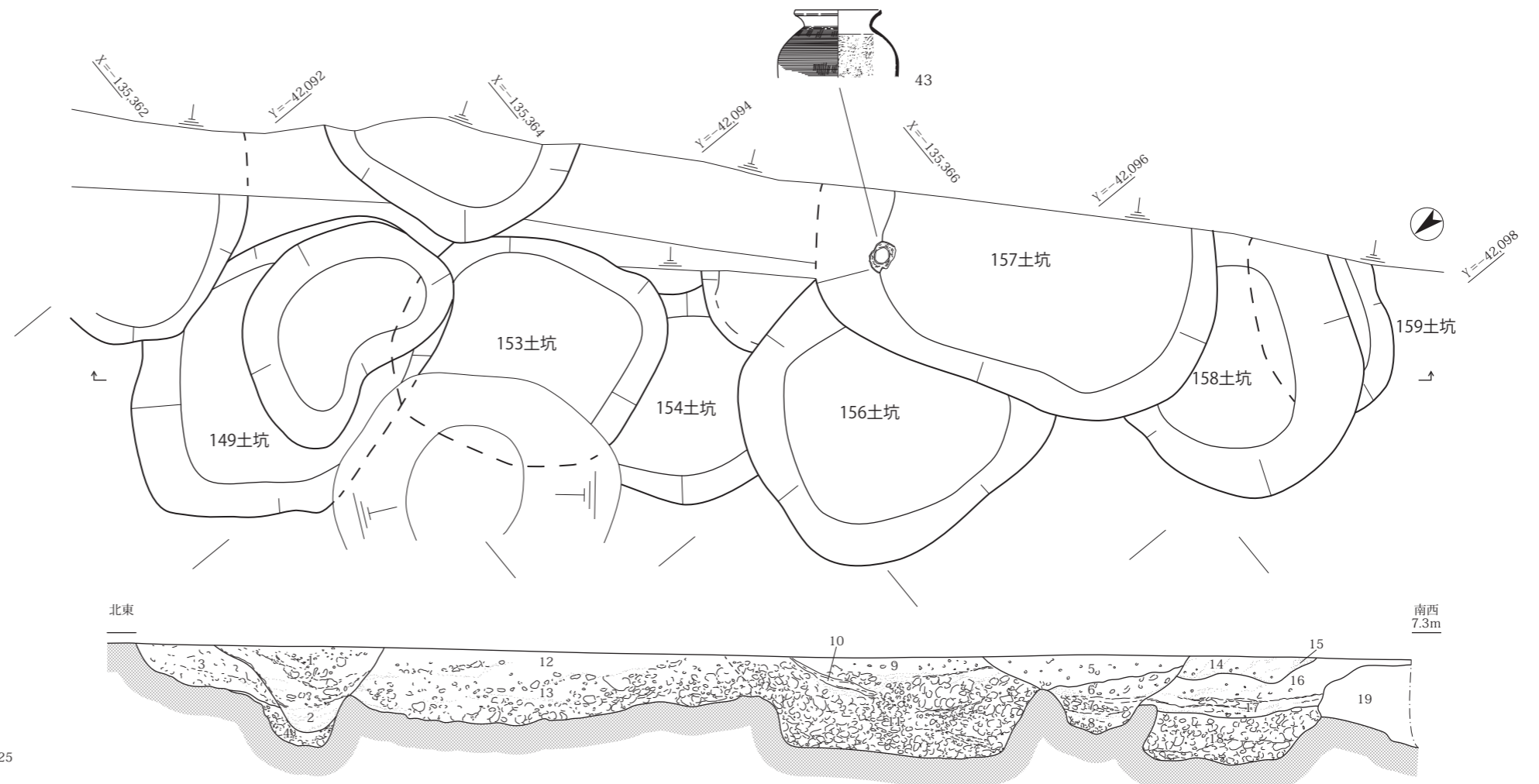
図 17 群集土坑の平面・断面 (3)



- 1 2.5Y4/2 暗灰黄 粘土シルト (微砂わずかに含む、下半に地山ブロック含む)
- 2 5Y5/1 灰 (下) ~ 粘土シルト (炭化物含む、ラミナあり)
- 3 2.5Y4/1 黄灰 (上) 微砂・粘土シルト (地山ブロックに第7・8層ブロック入る)
- 4 5Y6/2 灰オリーブ 粘土シルト (微砂わずかに含む、下半に地山ブロック含む)
- 5 2.5Y4/2 暗灰黄 粘土シルト (炭化物含む、ラミナあり)
- 6 5Y5/1 灰 (下) ~ 粘土シルト (炭化物含む、ラミナあり)
- 7 2.5Y4/1 黄灰 (上) 微砂・粘土シルト (第7・8層やや多い)
- 8 5Y6/2 灰オリーブ



- 1 2.5Y4/2 暗灰黄 粘土シルト (微砂わずかに含む、下半に地山ブロック含む)
- 2 5Y5/1 灰 (下) ~ 粘土シルト (炭化物含む、ラミナあり)
- 3 2.5Y4/1 黄灰 (上) 地山崩落土と第7・8層のブロック土
- 4 2.5Y6/3 にぶい黄 粘土シルト (地山)



- 1 2.5Y3/2 黒褐 粘土・シルト (微砂含む、φ100mm大 地山ブロック)
- 2 2.5Y3/2 黒褐 地山と1のブロック土 (ラミナあり、細砂~粗砂含む)
- 3 2.5Y5/2 灰黄褐 粘土シルト~微砂 (弱いラミナあり、変形?) 上半やや暗い
- 4 2.5Y3/2 黒褐 粘土シルトと地山ブロック土 (炭化物含む)
- 5 2.5Y5/2 暗灰黄 中粗砂混粘土シルト (炭化物・地山ブロックわずかに含む)
- 6 2.5Y4/2 暗灰黄 微砂混粘土シルト (炭化物・地山ブロックわずかに含む)
- 7 5Y4/1 灰 粘土シルト (炭化物わずかに含む、弱いラミナあり)
- 8 2.5Y4/1 黄灰 中粗砂混粘土シルト (中に水成堆積あり、炭化物層、他はブロック状)
- 9 10YR4/2 灰黄褐 中細砂混粘土シルト (地山ブロック・炭化物含む)
- 10 10YR4/2 灰黄褐 粘土シルト (炭化物含む、弱いラミナあり)
- 11 5Y5/1 灰 粘土シルト・地山のブロック土 (炭化物わずかに含む)
- 12 2.5Y3/2 黒褐 粘土シルトと地山のブロック土 (中粗砂、炭化物含む)
- 13 5GY6/1 オリーブ灰 粘土シルト (1含む、ほぼ地山ブロックのみ)
- 14 2.5Y5/2 暗灰黄 中粗砂混粘土シルト (地山ブロック含む)
- 15 10YR6/4 にぶい黄橙 細砂~粗砂
- 16 2.5Y3/2 黒褐 粘土シルト (微砂含む、わずかに変形)
- 17 2.5Y3/2 黒褐 粘土シルト~中砂 (炭化物含む、ラミナあり)
- 18 2.5Y4/1 黄灰 粘土シルトと地山のブロック土 (炭化物含む)
- 19 2.5Y5/2 暗灰黄 細砂混粘土シルト

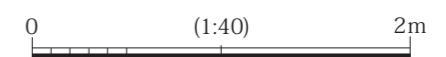
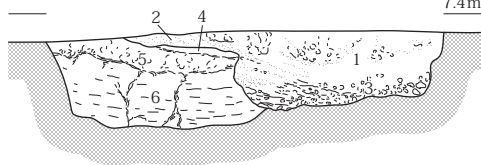
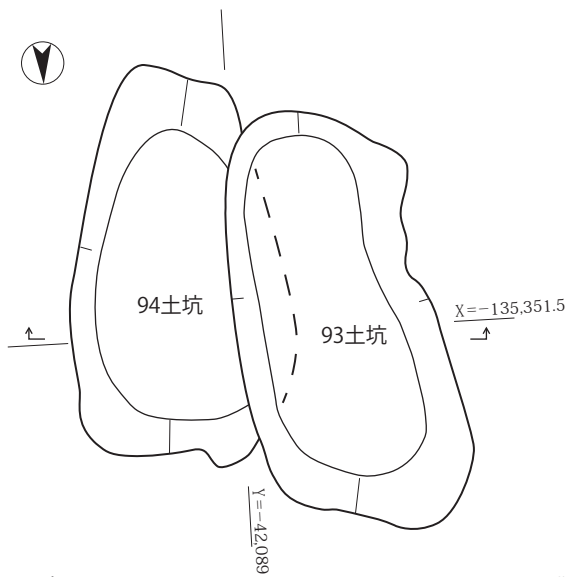
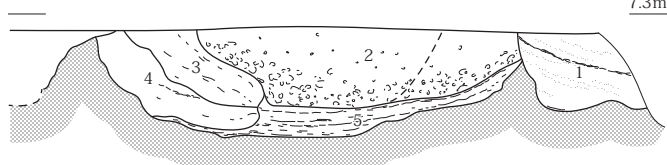
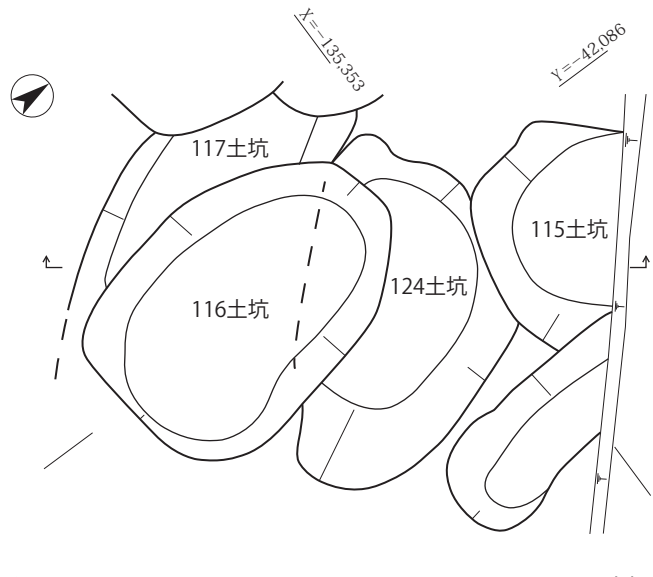


図 18 群集土坑の平面・断面 (4)

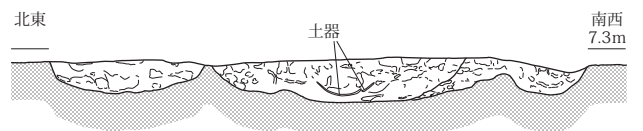
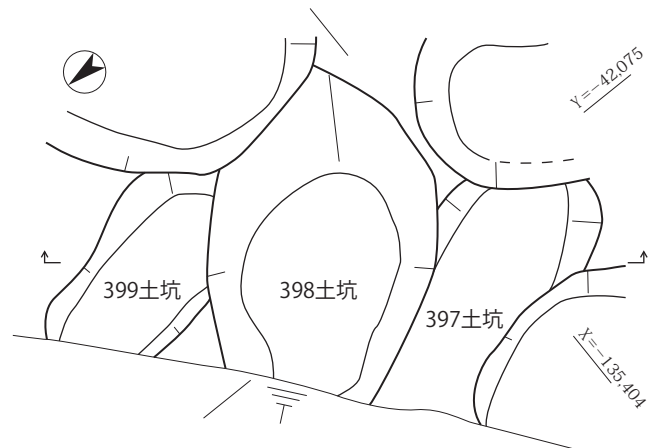
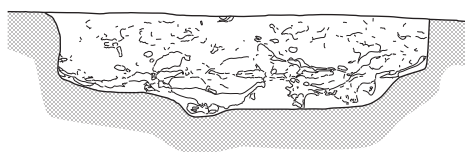
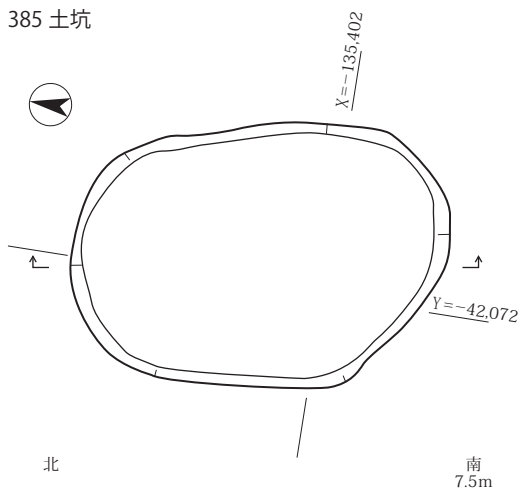


- | | | | |
|---|---------|-----|---------------------------------|
| 1 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄 | 粘土シルトのブロック土
(2と地山ブロック含む) |
| 2 | 2.5Y5/2 | 暗灰黄 | 細砂～粗砂 |
| 3 | 10Y5/1 | 灰 | 粘土シルトのブロック土
(炭化物・微砂含む) |
| 4 | 2.5Y6/2 | 灰黄 | 粘土シルト (下面に炭化物ラミナ状) |
| 5 | 2.5Y6/2 | 灰黄 | 粘土シルト
(炭化物わずかに含む、変形?弱いブロック状) |
| 6 | 2.5Y5/2 | 暗灰黄 | 粘土シルト
(微砂・炭化物含む、弱いラミナあり) |



- | | | | |
|---|---------|-----|-----------------------------|
| 1 | 2.5Y5/2 | 暗灰黄 | 粘土シルト (中に炭化物層、ラミナあり) |
| 2 | 2.5Y5/2 | 暗灰黄 | 微砂混粘土シルト (地山ブロック多く含む、ブロック状) |
| 3 | 2.5Y5/2 | 暗灰黄 | 粘土シルト (炭化物わずかに含む、ラミナあり) |
| 4 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄 | 粘土シルト (炭化物わずかに含む、弱いラミナ) |
| 5 | 2.5Y4/1 | 黄灰 | 粘土シルト (炭化物多く含む、ラミナ状) |

385 土坑



いずれも地山と第7～第8層のブロック土

地山と第7～8層のブロック土
4トレンチ西部における第7-2b層と第8層、および第7-1・2層に酷似

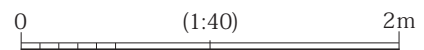
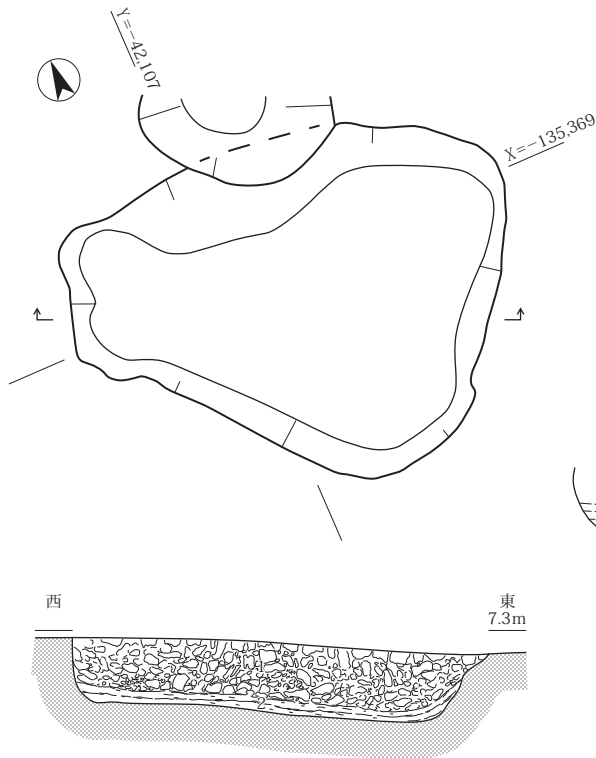


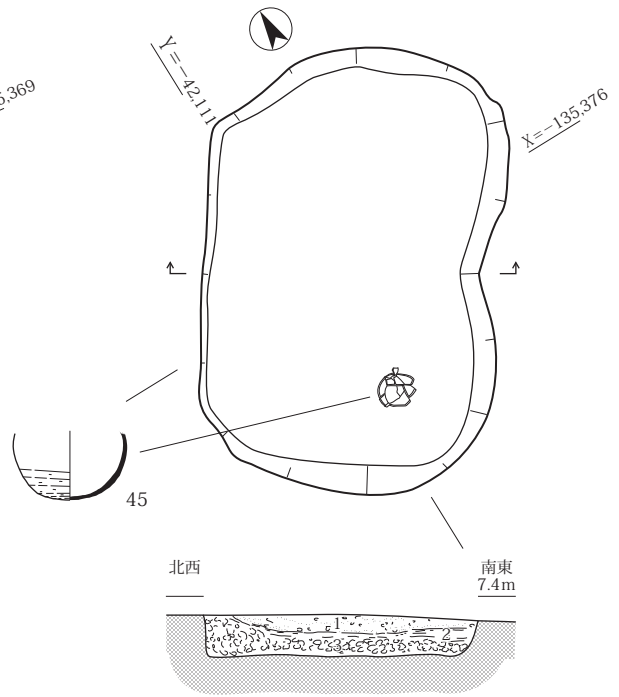
図 19 群集土坑の平面・断面 (5)

205土坑



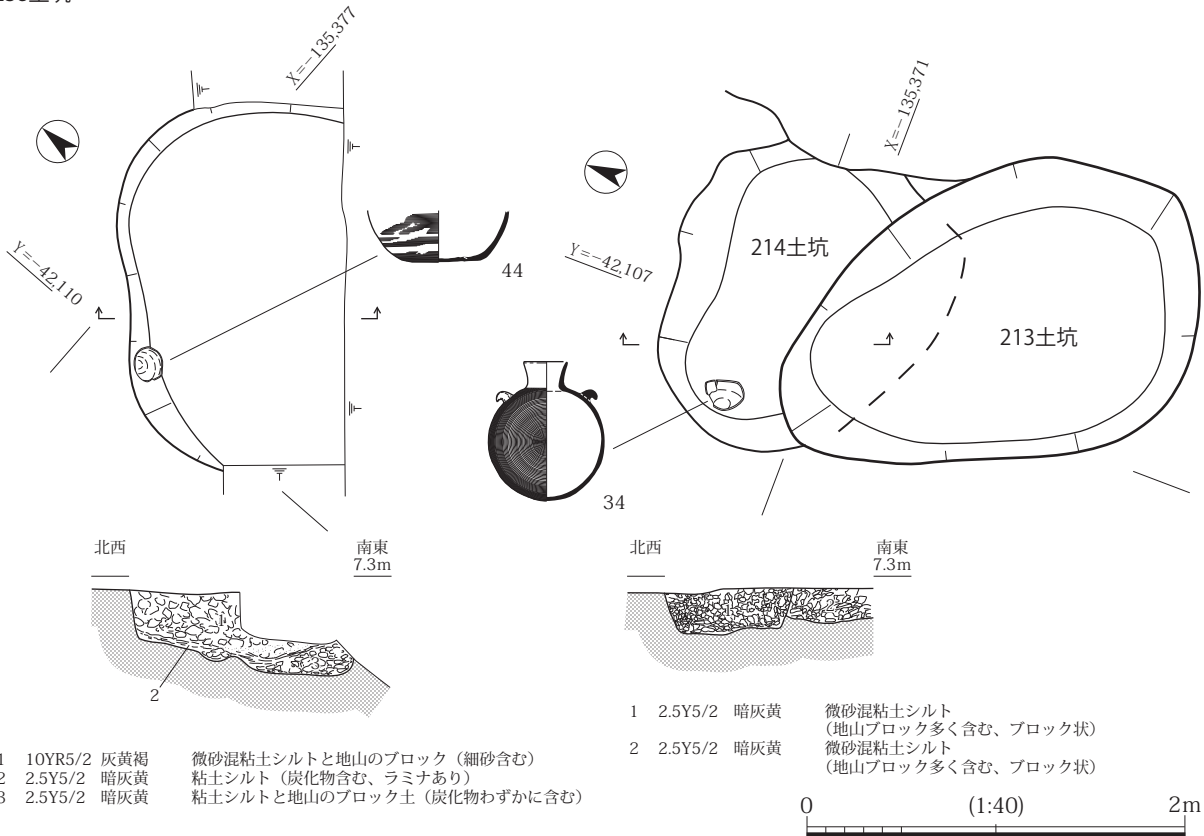
- 1 2.5Y5/2 暗灰黄 微砂混粘土シルト (地山ブロック含む、ブロック状)
- 2 2.5Y5/2 暗灰黄 粘土シルト (炭化物含む、ラミナあり)

239土坑



- 1 2.5Y5/2 灰黄褐 シルト～細砂 (粘土シルトブロック含む)
- 2 2.5Y5/2 暗灰黄 粘土シルト (炭化物含む、ラミナあり)
- 3 2.5Y6/2 灰黄 粘土シルト (地山、ブロック状)

238土坑



- 1 10YR5/2 灰黄褐 微砂混粘土シルトと地山のブロック (細砂含む)
- 2 2.5Y5/2 暗灰黄 粘土シルト (炭化物含む、ラミナあり)
- 3 2.5Y5/2 暗灰黄 粘土シルトと地山のブロック土 (炭化物わずかに含む)

- 1 2.5Y5/2 暗灰黄 微砂混粘土シルト (地山ブロック多く含む、ブロック状)
- 2 2.5Y5/2 暗灰黄 微砂混粘土シルト (地山ブロック多く含む、ブロック状)

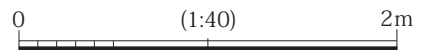


図 20 群集土坑の平面・断面 (6)

本地区の特徴でもある群集土坑は、これらの耕作土をすべて除去した第8層上面において検出されることが分かった。最も西に位置する378～380土坑は、埋土に第7b・8層や地山のブロックを含むことから、第7b層の堆積した後に土坑が開削されたことが明らかとなった。他の土坑の埋土も大半はブロック土であるが、そこに含まれる土塊と同質の土壌が周辺の地盤に残存しないことから、これまでは帰属面の詳細が判然としないものが多かった。今回の調査において土坑の埋土に符合する土壌の存在を確認できたことから、群集土坑の層序的な位置や関係を改めて把握することが可能となった。翻れば、出土遺物が非常に僅少なために帰属時期の判然としなかった第5～8層について、およその時期比定が可能となった。なお、第5層以下の耕作土に伴う遺構の調査成果については、本地区内ではあるものの、遺構面や地形の連続性を鑑み、後述する西地区で合わせて行うことにする。

検出した土坑は、西限が $Y = -42,146$ 、東限が前述の北地区における $Y = -42,033$ 付近であり、東西約55mの幅でほぼ南北方向の範囲に広がる(図13)。今回の調査において検出した土坑の総数は、前述の北地区を合わせると483基に達する。吹田操車場遺跡の中の特定の地区において、ほぼ隙間無く同様の土坑が密集して検出されることから、他の一般的な土坑と区別して「群集土坑」と呼称されるようになったものである。群集土坑に関する詳細な説明については、既刊の『吹田操車場遺跡Ⅲ』『吹田操車場遺跡10』を参照されたい。遺構の形状としては平面に円形・隅丸方形・不定形、断面に方形・逆台形・台形等といった複数の種類が認められ、遺構の埋土についても地山のブロック土を主としていくつかに分類が可能であるものの、明確なグループや統一性はみられないとされる。今回の調査では、『吹田操車場遺跡12』における埋土A～Dの分類にしたがい、図14に示す5種の基準を作成した。Aタイプは埋土がブロック土のみで構成されるものである(図版20-4、同25-5)。このうち埋土上面にわずかに水成堆積が認められるものはA'タイプとして区別した。Bタイプは主にブロック土で構成されるが、埋土の中位や上位に間層として明確な水成堆積が認められるものである(図版20-3、同21-4)。Cタイプはブロック土の下層に水成堆積があり、概ね上下2層に分かれているものである(図版26-2)。Dタイプは埋土がブロック土以外で構成されるか、ブロック土を含む程度のものである(図版25-8)。これによりほぼすべての群集土坑の埋土を区分し、遺構の規模等を含めた各個の情報を巻末の付表「遺構一覧」に記しているの、詳細については同表を参照されたい。また、埋土の分類に関しては、第4章において既往の調査成果と合わせた検討を行っており、本項では調査区毎に抽出した代表的な群集土坑に関する報告を行う。

当地区の北東端に位置する(2)～(4)トレンチは、地山検出面の標高が7.3～8.0mを測り、特に標高の高い場所において遺構の残存状態が良好である。

348・422・429土坑 いずれも深さが50cm以上に達し、非常に残りの良い群集土坑の一群である(図15、図版20-2～4)。348・422土坑は逆台形の埋土中位に水成堆積層がみられるBタイプ、429土坑はフラスコ状の断面を呈し、埋土は第7層から地山のブロック土から成るAタイプである。348土坑は須恵器壺の口縁部片(図23-38、図版48)、422土坑は須恵器横瓶体部片(図24-48、図版49)が出土しており、いずれも6世紀後半の所産と考える。

432・433・435土坑 $X = -135,327$ 、 $Y = -42,063$ 付近に位置し、重複する群集土坑である(図15)。遺構検出時には埋土の平面的な様子から3基に区分したものであり、断面観察を行ったところ、433・435土坑の埋土はいずれもAタイプで掘方の区別は不明瞭ではあるもののブロックの粒度に違いが認められること、432土坑は水成堆積を含むBタイプであることが判明し、平面と断面が整合する好例であ

る。ここではAからBの順に掘削されたことが分かる。

426・465～467・469土坑 X＝－135,319、Y＝－42,048付近に位置する群集土坑である（図16）。深さ18～46cmを測り、埋土はA・B・Dタイプが認められる。断面の観察により、Aタイプの426土坑が最も古く、次いでBタイプの466土坑、その後にAタイプ465土坑やDタイプ467・469土坑が掘削されたことが分かる。466土坑から須恵器提瓶片（図23－35、図版21－8・47）が出土しており、6世紀後半の所産と考える。

488～491土坑 X＝－135,320、Y＝－42,055付近に位置する群集土坑である（図16、図版21－5）。検出時に4基の土坑と認識したものであり、断面観察において埋土Aタイプの488・491土坑が先行し、その後Bタイプを含む490・489土坑が掘削されたことが分かった。但し、後出の土坑2基は底面の標高が同じであることから、同一遺構における埋土の違いを平面的に区別しただけの可能性も考えられる。

413～415・431土坑 X＝－135,314.5、Y＝－42,042付近に位置する（図17、図版21－1・2）。深度35～75cmを測り、各土坑の底面が明確に区別できることから、残存状態は非常に良好である。平面と断面の観察により415、414、413、431の順に掘削されたことが明らかであり、埋土は415がAタイプ、414がA'タイプ、413・431がBタイプとなっている。

464・473土坑 X＝－135,320、Y＝－42,051付近に位置し、埋土中位に水成堆積の残るBタイプの473土坑が埋没した後に、Dタイプの464土坑が掘削されている（図17、図版21－4）。473土坑から須恵器甕体部片が出土している（図24－51、図版49）。

427・462土坑 X＝－135,319.5、Y＝－42,046付近に位置し、深度46～58cmを測る残存状態の良好な群集土坑である（図18、図版20－8）。いずれも埋土がBタイプであり、深さ10cmほどの浅い連結部分の断面から、427土坑が先行すると分かった。

450・451土坑 X＝－135,325、Y＝－42,062付近に位置し、平面と断面によると、450、451の順に掘削されたことが明らかである（図18、図版21－6）。450土坑は深度20cm前後で埋土がAタイプ、451土坑は深度40cm以上を測り、埋土がBタイプである。

28・51・56・424土坑 この他、当該区では51・56・424土坑から須恵器杯身（図23－31・30・32、図版47）、28土坑から須恵器壺（図23－39、図版48）、⑭トレンチの532土坑から須恵器壺や甕（図23－41、図版48）が出土している。

149・153・154・156～159土坑 X＝－135,365.5、Y＝－42,095付近に位置する群集土坑である（図18、図版24－3・25－2・3）。埋土Aタイプの153・154土坑が最も古く、Bタイプの149・156～158土坑が後出する。156～159土坑は83溝の埋土上面に重複して検出したことから、同溝より後出することが明らかであり、また、土坑内にみられる水成堆積層が83溝内に残存する埋土のいずれにも一致しないことから、群集土坑の掘削時に83溝が機能していなかったものと考えられる。また、156・158土坑の埋土では他の土坑に検出されない砂層の堆積を確認しており、他と異なる時期に開口していた蓋然性が高く、群集土坑の形成を考える上で大きな手がかりになるものである。なお、157土坑から須恵器壺の上半が出土しており、6世紀中頃から後半の所産と考える（図23－43、図版48）。

93・94土坑 X＝－135,351.5、Y＝－42,089付近に位置する隅丸長方形の土坑である（図19、図版25）。先行する94土坑は、ブロックがほとんどみられない埋土のためDタイプとするが、下半が水成堆積であることからCタイプの可能性も考えられる。93土坑は前述の156・158土坑と同様の砂層を埋土に含んでおり、両者の開口時期は近似する可能性がある。

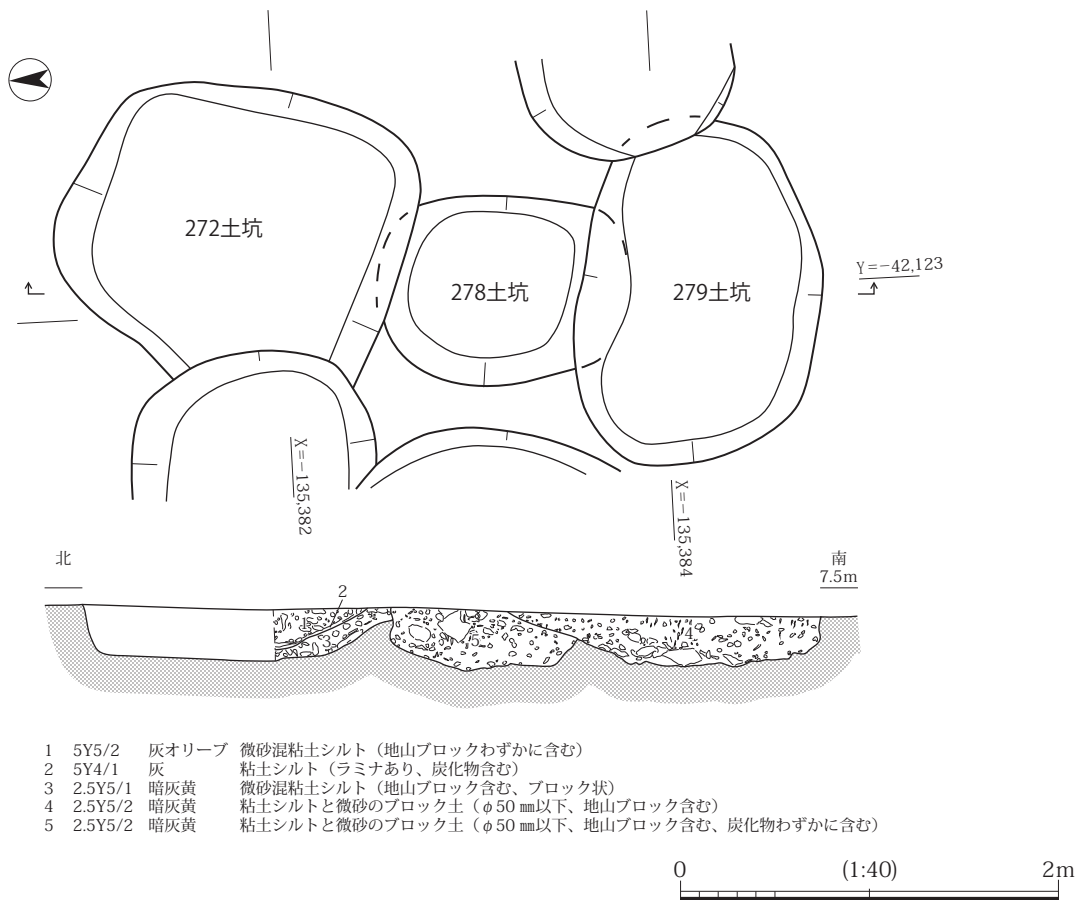
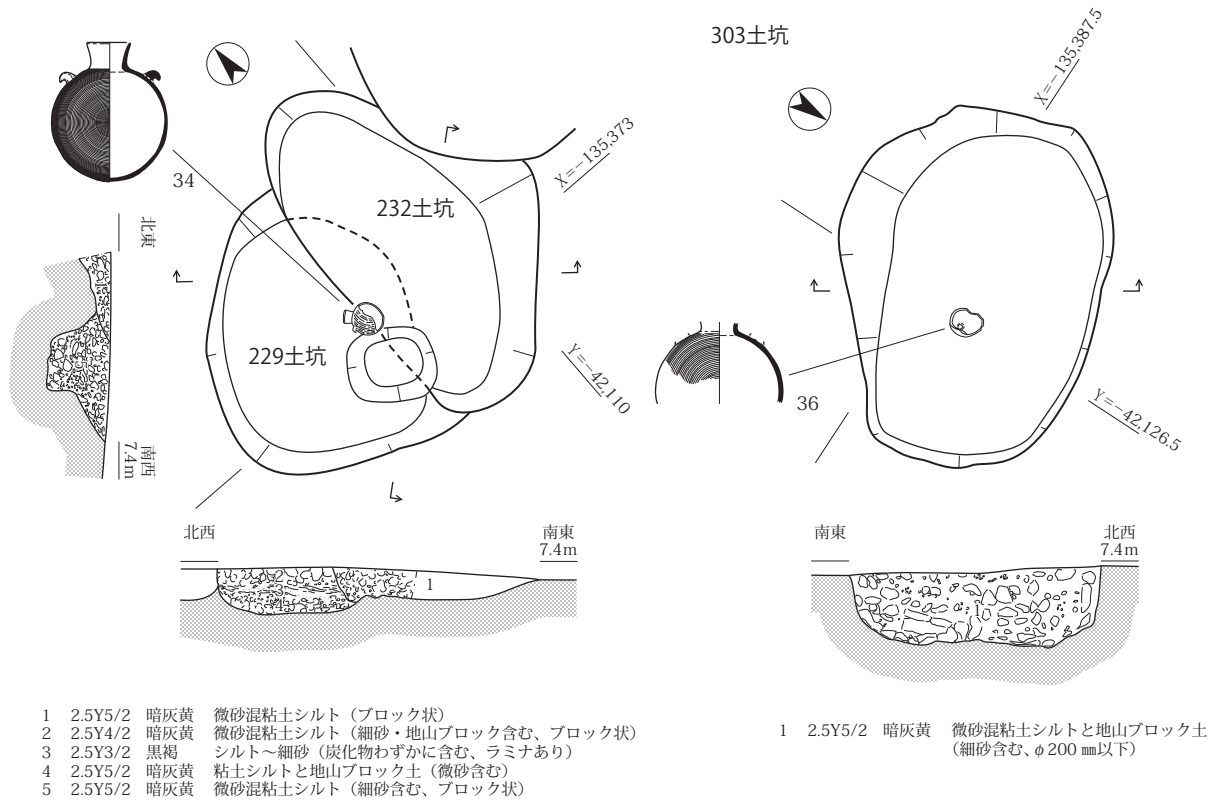
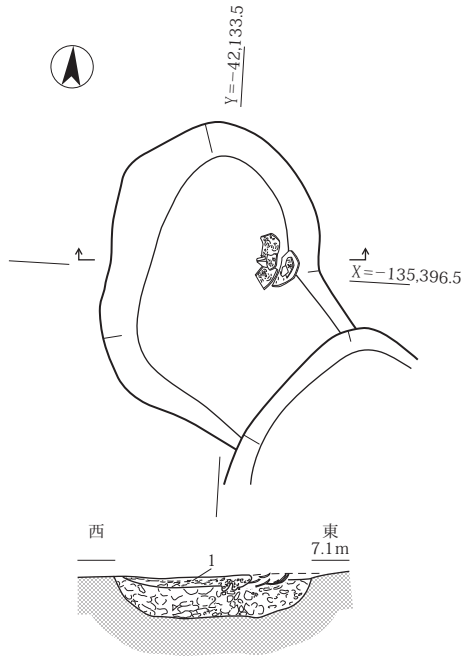
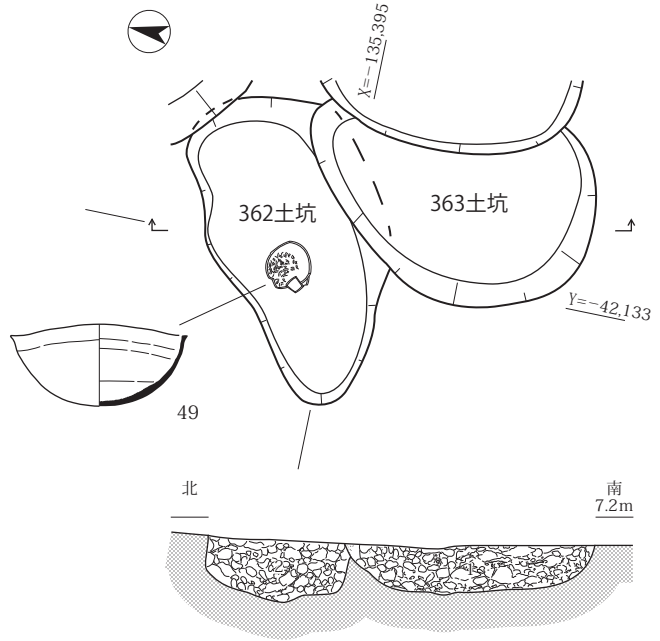


図 21 群集土坑の平面・断面 (7)

329土坑

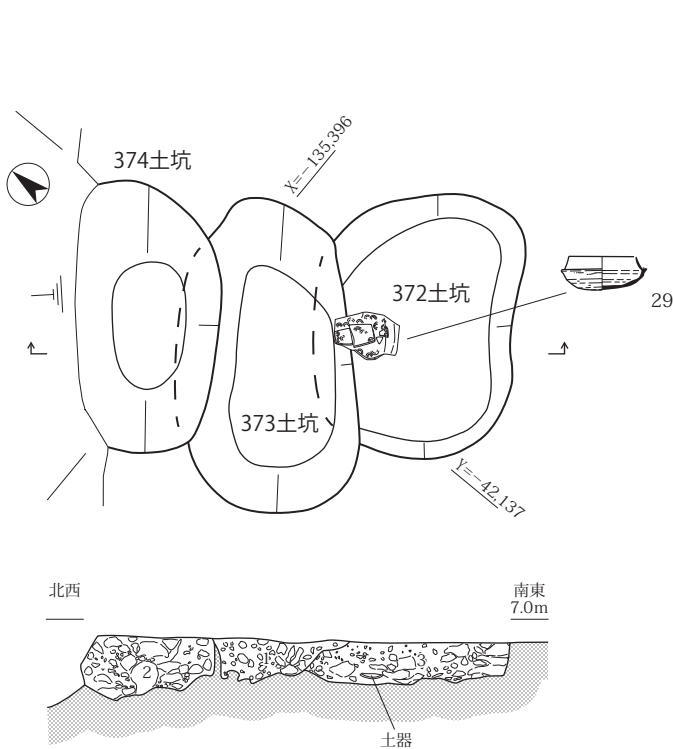


- 1 5Y4/1 灰 粘土シルト
(炭化物含む、ラミナあり、地山ブロックわずかに含む)
- 2 7.5Y5/1 灰 微砂混粘土シルト (地山ブロック土)

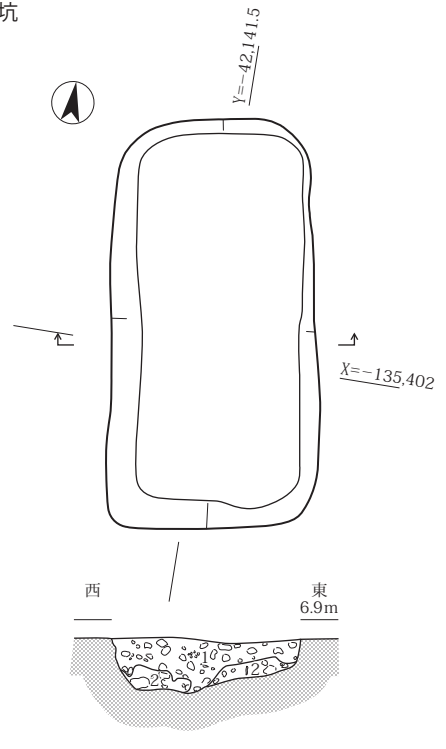


- 1 2.5Y4/1 黄灰 粘土シルトのブロック土 (地山ブロックやや多い)
- 2 2.5Y5/2 暗灰黄 シルト混微砂 (炭化物わずかに含む、微細ブロック状) と
5Y6/2 灰オリーブ 粘土シルト・微細 (地山) のブロック土

378土坑



- 1 5Y4/1 灰 粘土シルト (微砂含む) と
7.5Y6/1 灰 粘土シルト (地山) のブロック土
- 2 5Y4/1 灰 粘土シルト (微砂含む) と
7.5Y6/1 灰 粘土シルト (地山) のブロック土
- 3 5Y4/1 灰 粘土シルト (微砂含む) と
7.5Y6/1 灰 粘土シルト (地山) のブロック土



- 1 2.5Y4/1 黄灰 粘土シルトのブロック土
- 2 5Y5/1 灰 粘土シルトのブロック土

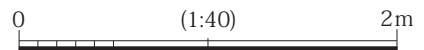


図 22 群集土坑の平面・断面 (8)

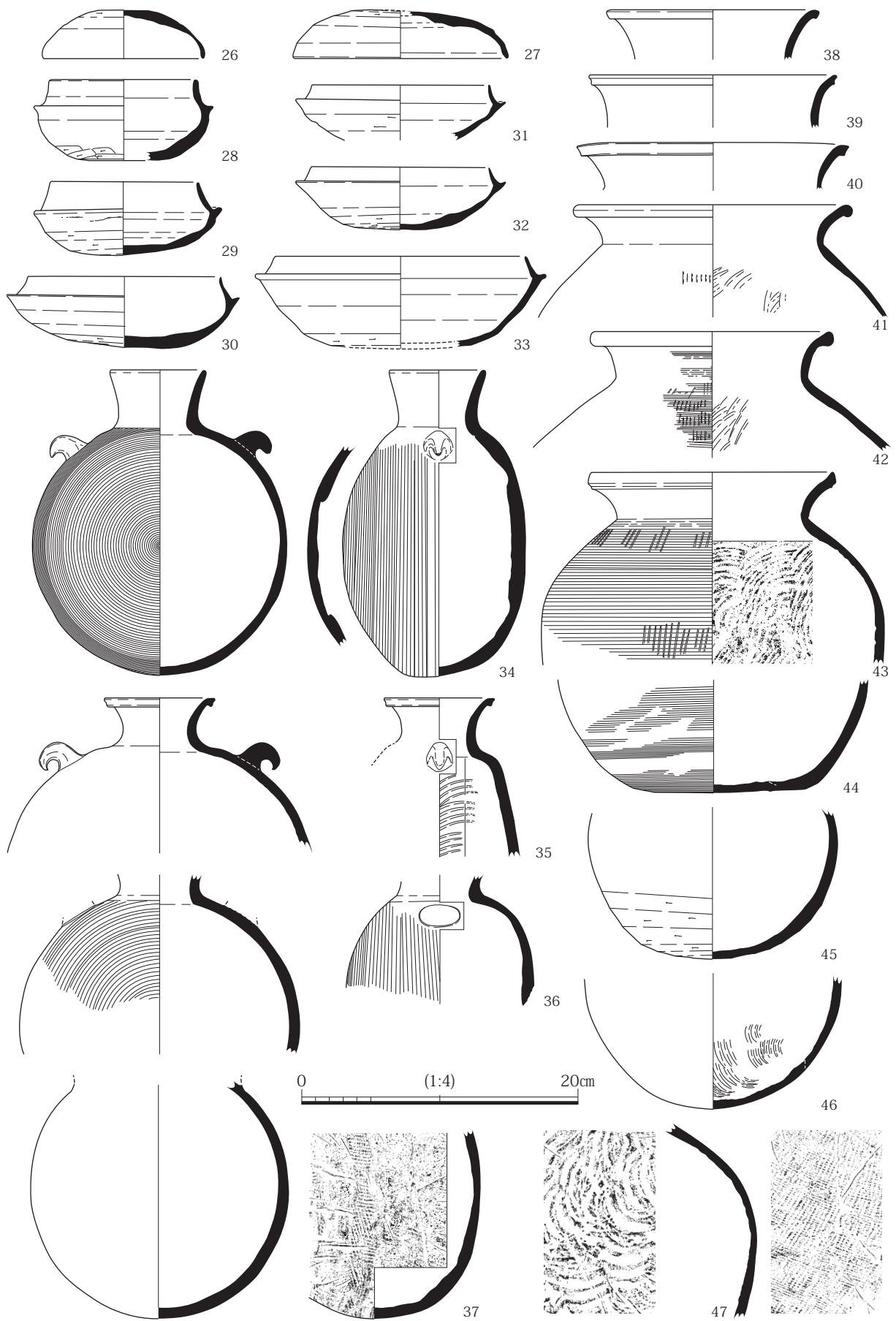


图 23 群集土坑 出土遺物 (1)

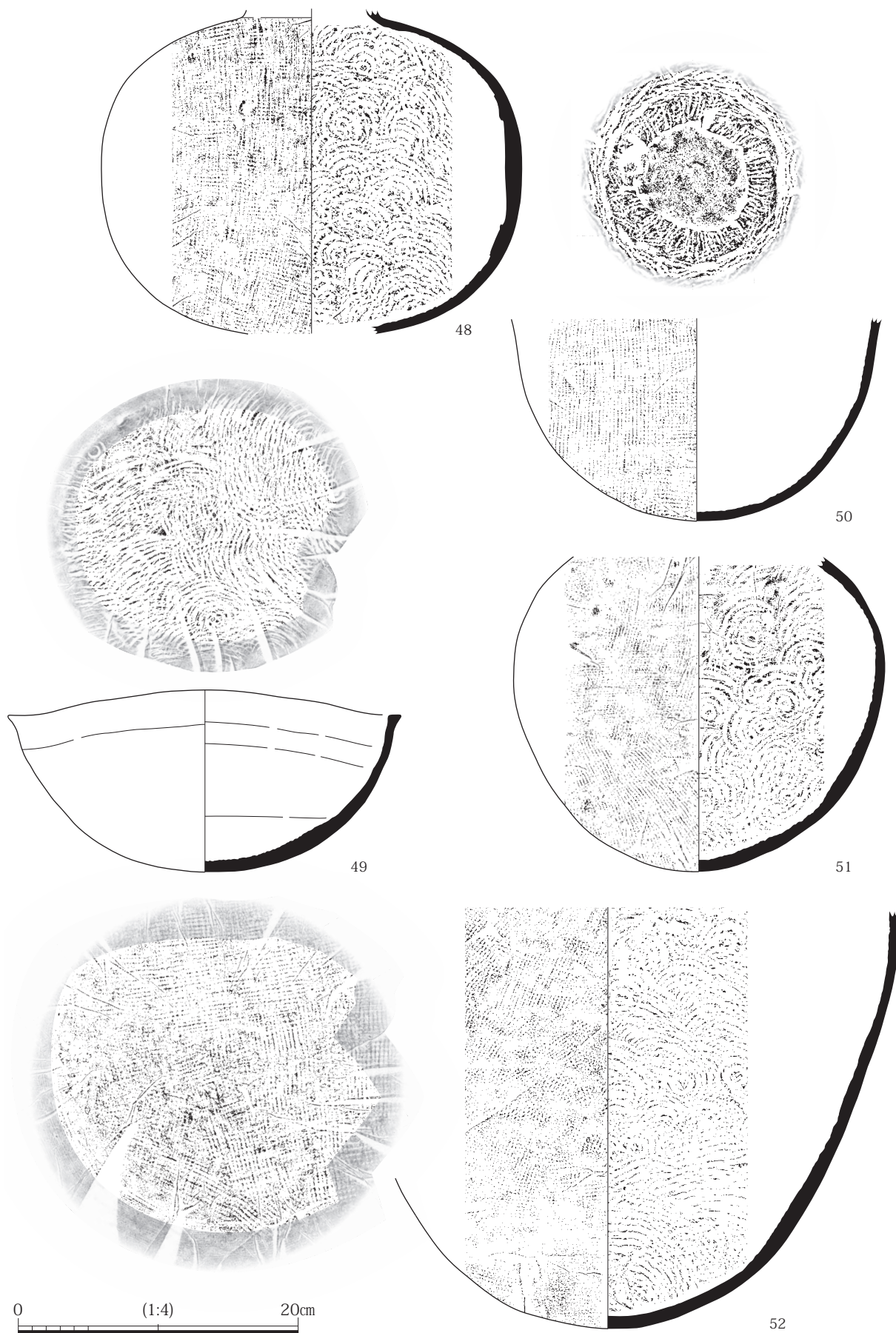


图 24 群集土坑 出土遺物 (2)

115～117・124土坑 X＝－135,353.5、Y＝－42,086付近に位置する。平面検出時は2基の土坑と考えたが、掘削を行った結果、底面において4基を確認した(図19、図版25)。しかし、埋土の断面を観察したところ、116・117・124土坑では明確な埋土の区別が困難であり形状と整合しない典型的な事例である。群集土坑全体としては少ない例であり、最終的に埋没する段階までいずれの土坑も開口していたため、形状は3基分であるが、埋土が一つになったものと思われる。なお、遺構の切り合いについては、底面の状況から推測したものである。

385土坑 6トレンチのX＝－135,402.5、Y＝－42,072付近に位置し、最大深度が54cmを測る、残存状態の良好な土坑である(図19、図版33－3)。埋土は典型的なAタイプであり、掘削当時の旧表土が埋土の下半、地山ブロックが上半にまとまっており、ブロック単位も揃っていることから、人為的に埋め戻した様子が分かる好例である。

この他には、近隣の381・390土坑の異なる遺構から出土した須恵器杯身が接合している(図23－28、図版47)。やや小振りで器壁が厚く、同時期では他に例をみない特徴的な器形を呈する。酷似する土器が茨木市総持寺遺跡より出土している。

397～399土坑 6トレンチのX＝－135,403、Y＝－42,075付近に位置する。上記の385土坑に近接し、埋土も同様のAタイプと思われるが、深度が23cm以内と浅く、遺構の上部を大きく削平された可能性がある。このうち398・399土坑から須恵器甕の底部片が2個体分出土しており、399土坑の遺物を図示する(図24－50、図版33・49)。

205・214・238・239土坑 4トレンチの83溝左岸にまとまって検出した群集土坑の一部である。標高は7.2～7.5mを測り、土坑の深度が30cm前後と浅いことから、後世の耕作による削平を受けたものと思われる(図20)。断面の観察により、205土坑はCタイプ、214土坑はAタイプ(図版26－6)、238・239土坑はBタイプの埋土(図版27－1、同26－8)であることが分かった。いずれの土坑からも須恵器が出土しており、238・239土坑から甕の底部(図23－44・45、図版49)、205・214土坑から提瓶がみつまっている(図23－37・34、図版48・47)。このうち205土坑の遺物は北西に近接する196・201土坑、214土坑の遺物は西に約5m離れた229土坑の、それぞれの出土遺物と接合することが判明し、群集土坑の並存関係や形成過程を知る上で重要な手がかりとなっている。

229・232土坑 X＝－135,373、Y＝－42,110.5付近に位置する。埋土はいずれも同じBタイプであるが、断面の観察により、229土坑の埋没後に232土坑が掘削されたことが明らかとなった(図21、図版26－7)。先述のとおり、229土坑出土の須恵器提瓶は体部に欠損がみられたが、東に離れた214土坑から出土した破片と接合し、ほぼ完形に復元が可能である(図23－34、図版47)。体部中央に残る細長い孔から、やや鋭利な道具で打ち割られた可能性が考えられる。6世紀後半の所産である。

272・278・279土坑 X＝－135,383、Y＝－42,123付近、83溝の西方20～40mに位置する群集土坑の一群の中にある。前述の一群とは幅約5mの空白地帯を隔てるため、異なるグループの群集土坑と考えられるが、今回の調査では南側の『吹田操車場遺跡12』における166溝からの続きはみつけれず、旧地表が削平されたものとする。埋土の観察により、278・279土坑がAタイプで先行して掘削され、272土坑がBタイプで後出することが分かった。

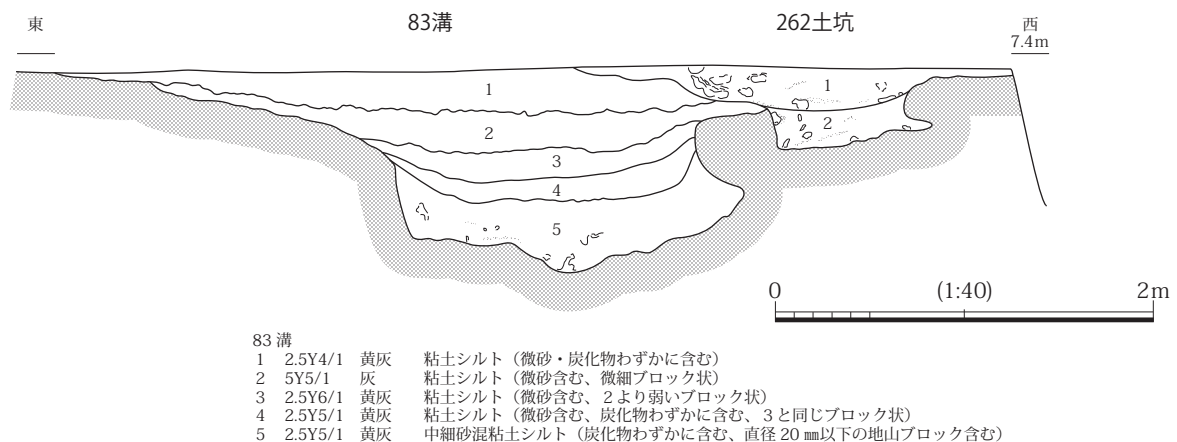
303土坑 X＝－135,387.5、Y＝－42,126.5付近に位置する。深さ約42cmを測り、埋土はAタイプの残存状態が良好な土坑である(図21、図版27－3)。遺構内から須恵器提瓶の体部片と壺の口縁部片が出土している(図23－36・42、図版48)。

329・362・363土坑 X=-135,396、Y=-42,133付近に位置する。329土坑は埋土の大半がブロック土であるが、最上層に薄い水成堆積を検出し、Aタイプの亜種としてA'と区別した(図22)。図化には至らなかったが、須恵器甕の体部片がブロック土の上面に接したまま水成堆積層に埋没した状態で出土しており、人為的に埋め戻した直後に投棄された可能性が考えられる。362・363土坑はいずれも埋土がAタイプであり、このうち362土坑の底面付近から須恵器鉢が出土している(図22、図版26-4)。内外底面にタタキ目を残す珍しい個体である(図24-49、図版49)。

372~374・378土坑 群集土坑の中でも最も西端に位置する一群である。372~374土坑はX=-135,397、Y=-42,137付近にあり、埋土はいずれもAタイプで、重複して掘削される。このうち372土坑の底面付近からは須恵器杯身や甕体部片が出土しており、6世紀後半の所産と考える(図23-29、図版47)。この須恵器杯身については、北東に約4m離れた355土坑より出土した破片と接合しており、希少な例となっている。378土坑は後述する調査区西側に広がる谷地内に検出した土坑である(図22、図版32-2・3)。当初は検出状況から墓壙か通常の土坑である可能性を考えたが、埋土を観察した結果、他の群集土坑と同様のブロック土で埋積されていること、さらに西側で群集土坑と近似する楕円形の379・380土坑を検出したことから(図版32-4・5)、群集土坑の一つとして捉えることにした。埋土の分類はAタイプであるが、東側で多くみられる群集土坑と異なり、谷地特有の泥質土のブロックが多く含まれることから、当地点で試験的に掘削を行ったものの、効率が悪い等の理由でこれ以上西側には掘削を拡大しなかったものと推測する。

この他、当該区では202・219土坑の異なる遺構からみつかった須恵器壺底部が接合したもの(図23-46、図版48)や、291土坑から須恵器杯身(図23-33、図版47)、317土坑から須恵器杯身(図23-27、図版47)、333土坑から須恵器甕底部(図24-52、図版49)が出土している。

83溝 群集土坑が当地区に開削される古墳時代後期以前の状況については、あまり定かではない。これは群集土坑の形成によってほぼ全域の旧地表が乱されるため、当時の遺構や土壌が残存しないことによるものであり、唯一確認できた遺構としては、X=-135,358、Y=-42,097付近に位置する83溝である(図13、図版23-3・4、同24-1)。溝の規模は幅7.0~8.0m、深さ0.85~1.15mを測り、北側の攪乱内に残存する底面を含むと検出した長さは32mを超える。南側は『吹田操車場遺跡12』の468溝につながり、北側も調査区外へと続く。埋土はブロック状の粘土シルトを主とし、底部付近には



- | | | |
|------|------------|---|
| 83 溝 | | |
| 1 | 2.5Y4/1 黄灰 | 粘土シルト (微砂・炭化物わずかに含む) |
| 2 | 5Y5/1 灰 | 粘土シルト (微砂含む、微細ブロック状) |
| 3 | 2.5Y6/1 黄灰 | 粘土シルト (微砂含む、2より弱いブロック状) |
| 4 | 2.5Y5/1 黄灰 | 粘土シルト (微砂含む、炭化物わずかに含む、3と同じブロック状) |
| 5 | 2.5Y5/1 黄灰 | 中細砂混粘土シルト (炭化物わずかに含む、直径20mm以下の地山ブロック含む) |

- | | | |
|--------|-------------|-----------------------------------|
| 262 土坑 | | |
| 1 | 2.5Y4/2 暗灰黄 | 中細砂混粘土シルトブロック (地山ブロック含む) |
| 2 | 2.5Y3/2 黒褐 | 粘土シルトと中細砂ブロック (直径30mm以下の地山ブロック含む) |

図25 北西地区 83溝断面

砂や地山のブロックが多く含まれる（図25、図版24-2）。また、溝の法面下位には処々に洗掘の痕跡が認められ、埋土下半の土質と合わせて考えると、当初は流水状態にあったと推測できる。それが徐々に滞水し、ほぼ埋没した頃に北側の262土坑や南側の156～159土坑等が掘削されたと考えられる。南に40mほど離れた過去の調査区域では群集土坑が本溝を避けて配されていることは明らかであり、これらのことから、群集土坑と83溝は並存した蓋然性が高く、同溝が埋没する前後のある程度の期間にわたり、群集土坑が形成されたと推測する。なお、埋土の中層付近から、外面疑格子で内面同心円の叩き目を残す8～9世紀代の須恵器甕の小片が出土しており、わずか1点であるため混入の可能性を否定できないが、溝の埋没時期が大きくなる可能性もあり、向後の調査成果に期待する。

4. 西地区<4・5・⑰トレンチ>（図26～28、図版27～32）

調査区の西端、4トレンチの西部や追加の⑰トレンチから5トレンチ全体にかけて、南北約60mの範囲が相当する。標高9.1～9.5mの現地表面から約2.0mの深さを重機により掘削し、操車場造成時の盛土や近世耕作土を除去した。これより下層において、前述の北西地区と同様に第1～3層の残存をほぼ全域に認めたものの、現代の攪乱が著しく、各耕作土の面的な広がりにはあまり良好ではなかったことから調査は遺物の採集のみとした。中世の耕作土と考えられる第3層を除去すると、第4層が良好に残存する状況を確認できたため、以下の各層において遺構検出を行った。

第4層上面（図版27-7） 北側の4トレンチ西端において幅60cm前後の257溝を検出した。深さは10cm程度と浅く、第3層と異なる青灰色粘質土を埋土とすることから、同面の遺構と考えた。他に明確な遺構は認められなかったが、同溝が真北より東へ約54°振ることから、当地域に広がる嶋下郡南部条里（真北より約33°西に振る）にほぼ直交することが明らかである。この溝の延長上には拳大の自然石が出土しており、高まりとしては検知されなかったが、おそらく畦畔等に伴う水路の痕跡と推測する。

第5層上面（図版28-1） 第4層の基盤となった砂層が厚く堆積しており、遺構面の残存状態は良好であった。4トレンチでは幅約1.0mの533畦畔と、その分岐点周辺に分布する氾濫堆積物による破堤された状況を確認した（図版27-8）。南側の5トレンチでは、南東端にて畦畔らしき痕跡を検出した以外に、北西端で534耕作痕と多数の足跡を検出した（図版28-3・4）。耕作痕は真北より西へ約40°振った方向を軸に、幅15～20cmの間隔で凹凸を繰り返して並ぶ。周辺には多数のヒトや牛の足跡が認められることから、犁耕等によって形成された溝と推測する。水田面の標高は4トレンチ側を高所として、7.40～7.14mを測る。なお、4トレンチの第5層より、須恵器杯身の破片が出土している（図28-53、図版45）。杯B高台であり、7世紀後半頃の所産と思われる。

第6層上面（図版29-1） 第5層の基盤となるシルト～細礫により被覆され、遺構面の残存状態は良好であるが、粗い砂礫による浸食痕も各所に認められる。遺構面の標高は7.26～6.97mを測り、4トレンチ側の東寄りが最高所、5トレンチ南端が最低所となる。なお、4トレンチでは第6層が砂礫層を挟む上下2層に分化したが、5トレンチでは間層が認められなかったため単層として捉えた。

4トレンチでは、南接する『吹田操車場遺跡12』の調査区へと続く、砂礫が堆積する複数の浸食痕を検出した。上下いずれの面においても、周辺にヒト・牛の足跡を多数検出したことから、人為が及んでいたことは明らかである。特に下位の第6-2層上面では、既往の調査区と方向を同一にする535浸食痕や、幹線に接続する支線の207畦畔を検出した（図26、図版29-3）。5トレンチでは、4トレンチと同様に浸食による下刻で形成された308水みちや、わずかに残った309畦畔を検出した（図版29-

2)。調査区の南端にみられる落ち込み状の536浸食溝は、東接する既往の調査区における畦畔の破堤部分に方向が一致しており、氾濫堆積物の広がりを見せる。畦畔等の遺構は地形に沿って形成されたものがほとんどであり、条里型地割等を指向した形跡は認められない。少なくとも第6層の段階では、当地に条里制が施行されていなかったと推察できる。

第7-1層上面(図版30-1) 基本層序でも示した通り現地では3層に細分して調査を行ったが、最

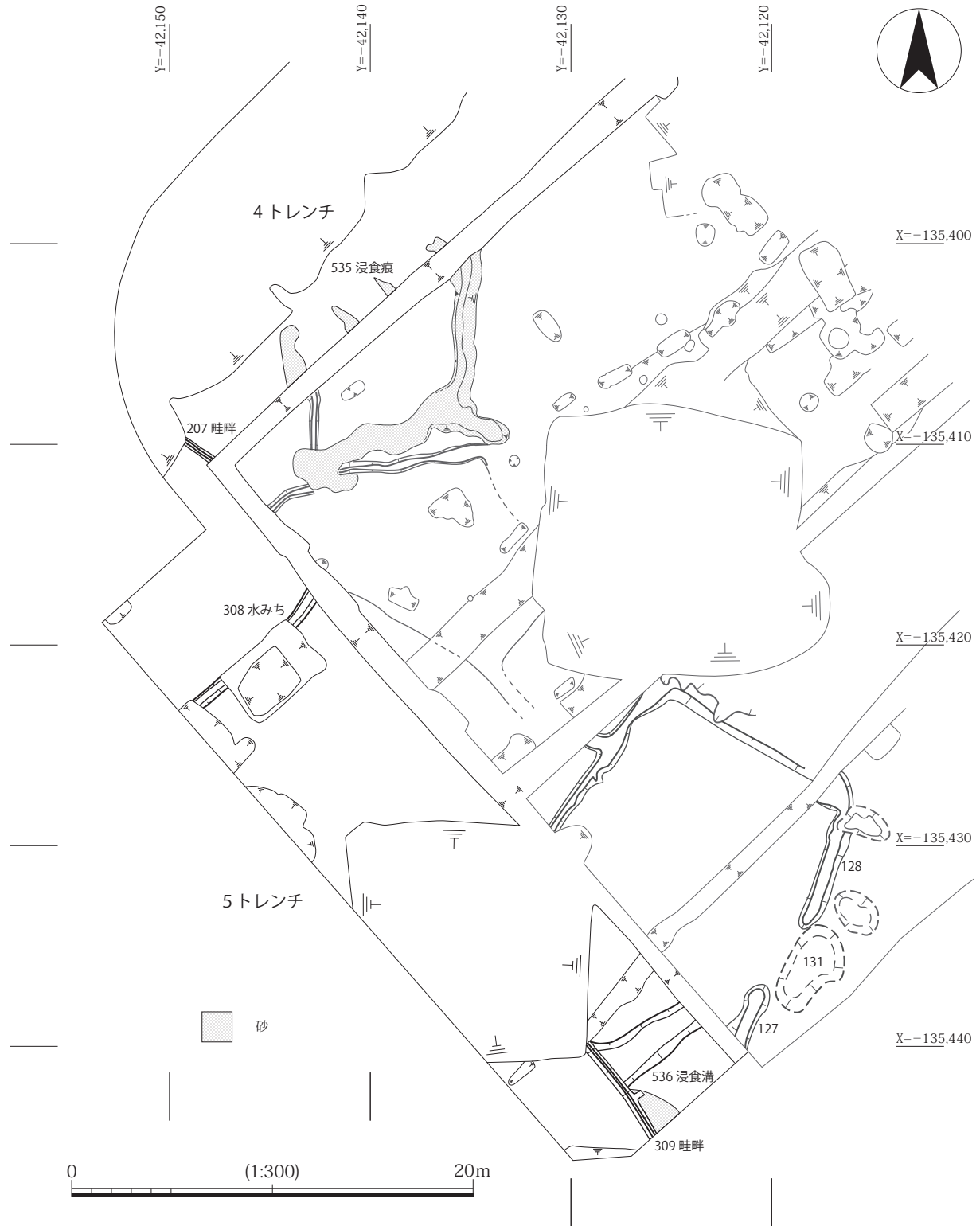


図 26 西地区 遺構平面(第6-2層上面)

上層は周辺の調査成果における第6層に相当することが判明し、現地における第7-2・3層を本書では第7-1・2層と読み変える。

第7-1層上面は標高7.10~6.77mを測り、南・西に向かって緩やかに下降する地形を呈する。遺構面の大半は上層である第6-2層が直接覆うことから、地表面は攪拌による削平を受けるものの、わずかに残る氾濫堆積物やその痕跡が検出されたため畦畔を特定できた。検出した遺構は、畦畔・段差・浸

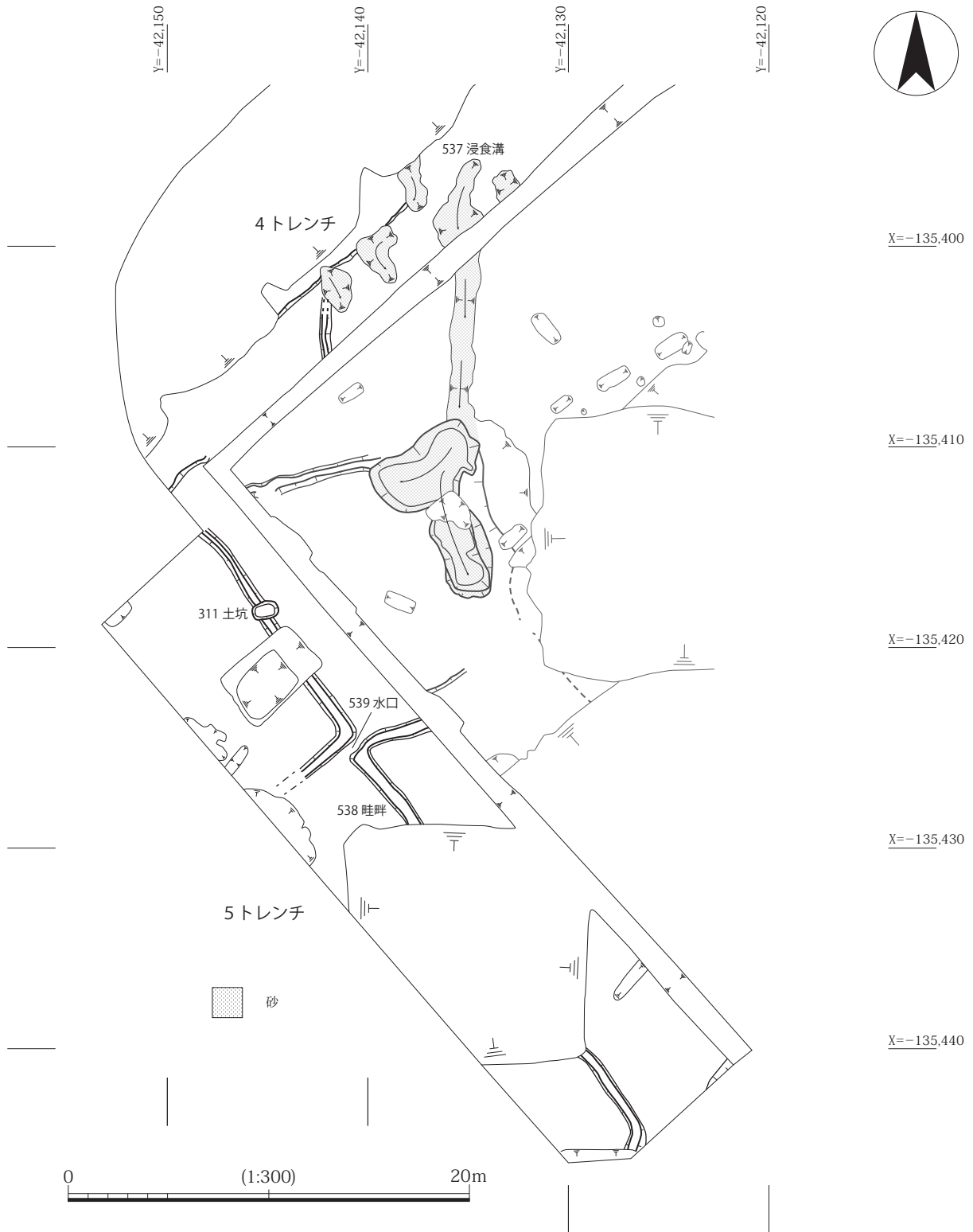


図 27 西地区 遺構平面 (第7-1層上面)

食痕・水口である（図27）。4トレンチでは、畦畔とその名残と思われる段差や、周辺に浸食痕や足跡を検出した（図版30-2・3）。畦畔や段差については不明であるが、537浸食溝は既往の調査区に連続することから、一連の水流による攪乱と推測する。5トレンチでは、真北より西へ約36° 振った方向の538畦畔を検出した。ほぼ直線的に南と北からのびる538畦畔は、 $X = -135,425$ 、 $Y = -42,140$ 付近にて各々がL字状に屈曲し、接続部分は浅く溝状を呈して539水口を形成する（図版30-4）。調

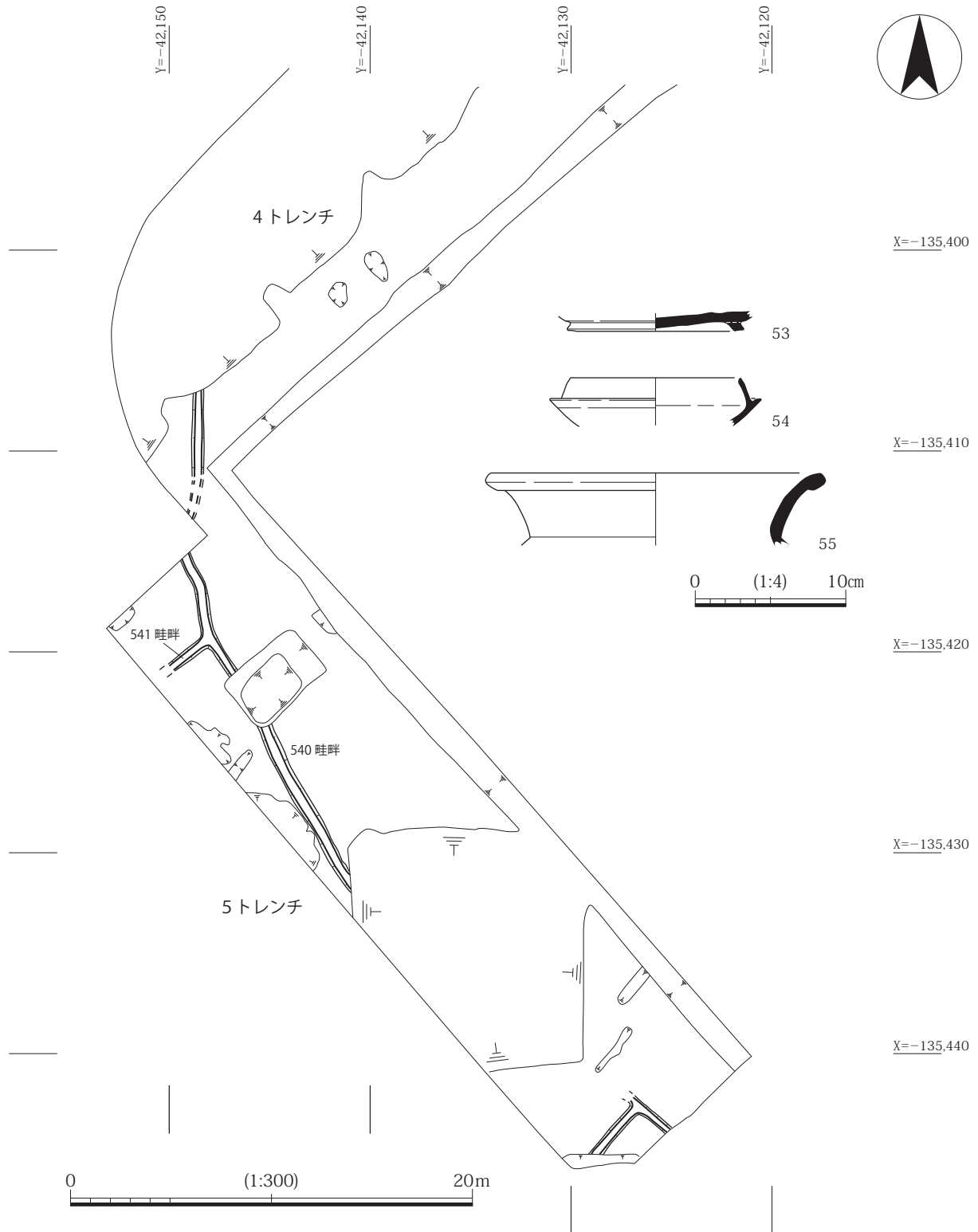


図 28 西地区 遺構平面（第7-2層上面）、第5・7層出土遺物

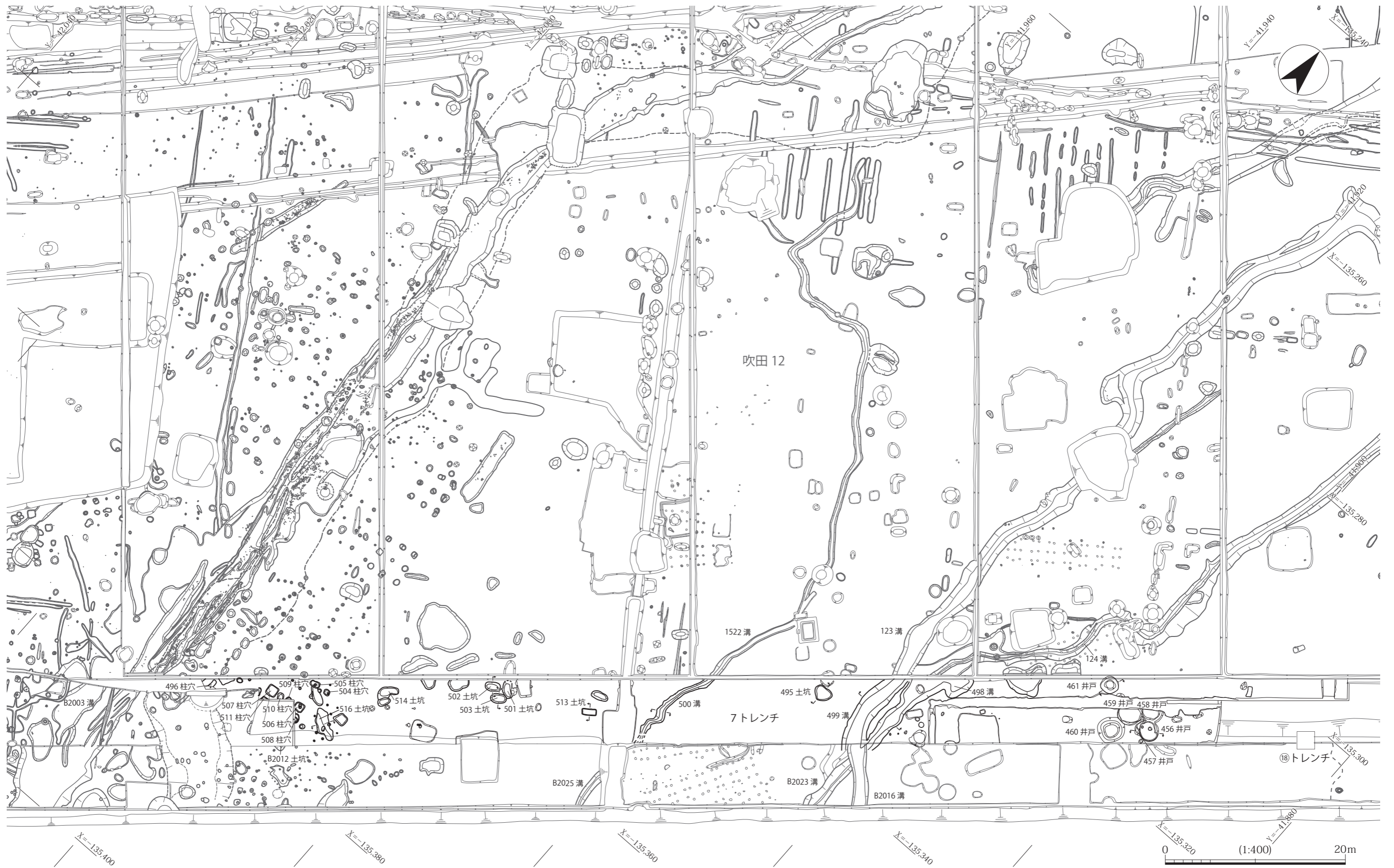


図 29 南地区 遺構平面

査区の南端部においても同様の形状が認められることから、この組み合わせで水田の区画が形成されたと考えられる。なお、北側の311土坑は畦畔上の浅い落ち込みであり、埋土が砂とシルトのブロックであったことから、水口あるいは小さく破堤した跡と推測する。

第7-2層上面(図版31-1) 標高6.97~6.75mを測り、南・西に向かって緩やかに傾斜する。ほぼ全域において間層を挟まず、上層の第7-1層が上面を直接被覆するため、本来の地表面は残存していないと考えられた。精査の結果、上面と異なる配置の畦畔を検出したことから、当該面の遺構として捉えることにした(図28)。畦畔は、4トレンチ西端から5トレンチにかけてのびる幹線の540畦畔と、そこから分岐する支線の541畦畔がみられる(図版31-2・3)。遺構面では無数のヒト足跡や生痕を検出したが、他に遺構は認められなかった。検出した畦畔ではこれらの足跡が非常に希薄で、頂部は砂礫が薄く堆積して酸化が著しい。

これらの第7層からは、図28-54・55に示す須恵器が出土している(図版45)。54は杯身、55は甕の破片である。このようにわずかな出土遺物ではあるものの、第5層は7世紀後半、第7層は6世紀後半頃の地表面であったと推測できる。

第8層上面は標高6.79~6.41mを測る。4トレンチでは、前述の北西地区において記した378~380土坑を検出したが、その他や5トレンチでは遺構はまったく認められなかった(図版32-1)。

5. 南地区<7・⑧トレンチ>(図29、図版34~42)

調査区の南東に位置し、用地外である南側の遊歩道までの間隙に設定された幅約7m、長さ約117mの7トレンチを中心とする地区である。7トレンチの西端については、本体の建設工事と既往の調査区との間に幅約1m、長さ約20mの未調査部分が残存していたことが現地で分かったため、緊急的に調査範囲を拡張し、遺構と遺物の確認を行った。また、7トレンチの東側に位置する⑧トレンチでは、周辺の調査区につながる遺構面を複数確認できたものの、遺構や遺物は検出しなかった。

調査前の現地表面は、南側の遊歩道との間に段差が存在するため、標高9.7~10.7mと大きな幅がある。まず、重機により1.5~2.5mの現代と旧操車場の盛土や近世の耕作土を除去し、これより下に中世以前の耕作土や包含層が厚さ10cm程度に残存することを確認したため、これらの層を人力により掘削し、遺構や遺物を検出した。中世以前の耕作土と包含層については最大3層の存在を確認したが、いずれも薄層で面的な広がりを追跡することは困難であり、多くの地点においてすでに地山が露頭していたことから、地山上面まで掘削した上ですべての時期の遺構を検出することにした。

検出した遺構は、溝・井戸・土坑・ピット・掘立柱建物に伴う柱穴等である。

同地区の東半は遺構の分布が散漫であり、溝以外の井戸・土坑・耕作痕はすべて中世以降のものである。456~461井戸 井戸は7トレンチの東端周辺に複数基が集中しており、最後に埋め戻されたものは456井戸で近世以降と考えられる。人力掘削による遺構底面の確認は深度が大きくなるため非常に危険なことから、調査の最終段階に重機による下層確認を行うこととなった。井戸の多くは検出面から深度3.5~4.3m、標高3.5~4.5m付近で底面に達したが、中には重機の掘削限界まで行っても底面を確認できないものもあった(図版35)。いずれの井戸も底部付近に出土遺物がみられなかったため明確な時期は不明であるが、456~461井戸では同一地点に繰り返し開削していることや、古い井戸では埋土に基本層序の第2・3層のブロック土を多く含むものがあることから、初現は中世期に遡る可能性があると考えられる。なお、北接する『吹田操車場遺跡12』の調査区内では、同地点を通る条里方向に井戸や土坑

が多数検出されており、その位置が坪境から半町＝30歩の距離に一致することから、当地周辺には^{はおり}半折型地割が施行されていたものと推測する。

501～503・513・515土坑 7トレンチの中央から西半にかけて検出した土坑群である（図29・30、図版36）。土坑の形状は、513土坑を除くといずれも隅丸長方形を呈し、長軸が1.5～2.0m、短軸が0.8m前後、深さ約0.3mを測る。一方、513土坑は平面がほぼ長方形を呈し、他に比してやや小振りである。501～503土坑は、いずれの埋土も地山の小ブロックを含む中砂混シルトと同一であることから、同時期に掘削された蓋然性が高い。一方の513・515土坑等は、埋土が地山ブロックと砂混シルトのブロック土であり、両者には若干の違いがあることから、複数時期にわたって掘削された土坑と考えられる。なお、出土遺物は認められず、詳細な時期や性格については不明である。既往の調査例を含めると、同種の土坑は坪境や主要な畦畔の近辺に分布することから、耕作に伴う灌漑用施設等の関連遺構である可能性が考えられる。

7トレンチの西端から拡張部付近では、ピットや柱穴、土坑をまとめて検出した（図29、図版37－4）。同地点は、北側の『吹田操車場遺跡12』において多数の掘立柱建物を検出した地区に隣接しており、そのうちの掘立柱建物22につながる柱穴の検出と、建物の規模・形状の確定が期待されていた。掘立柱建物22 検出した504・505柱穴は既調査区の掘立柱建物22の南辺から南東隅に相当するものであり、東辺の間柱は認められなかったが、同建物が2間×5間の間仕切を持つ片廂側柱建物であることが確定した。504柱穴は55×64cm、505柱穴は58×105cmの隅丸方形を呈し、深さ15～20cmを測る。検出したいずれの柱穴も柱根は遺存せず、柱痕跡と柱当たりを検出したのみである。遺物としては、504柱穴より須恵器杯蓋、505柱穴より脚付椀の破片が出土している（図33－57・62、図版50）。過去の調査において出土した須恵器杯身による7世紀中頃という知見とも一致しており、建物の年代を示す資料と考えられる。

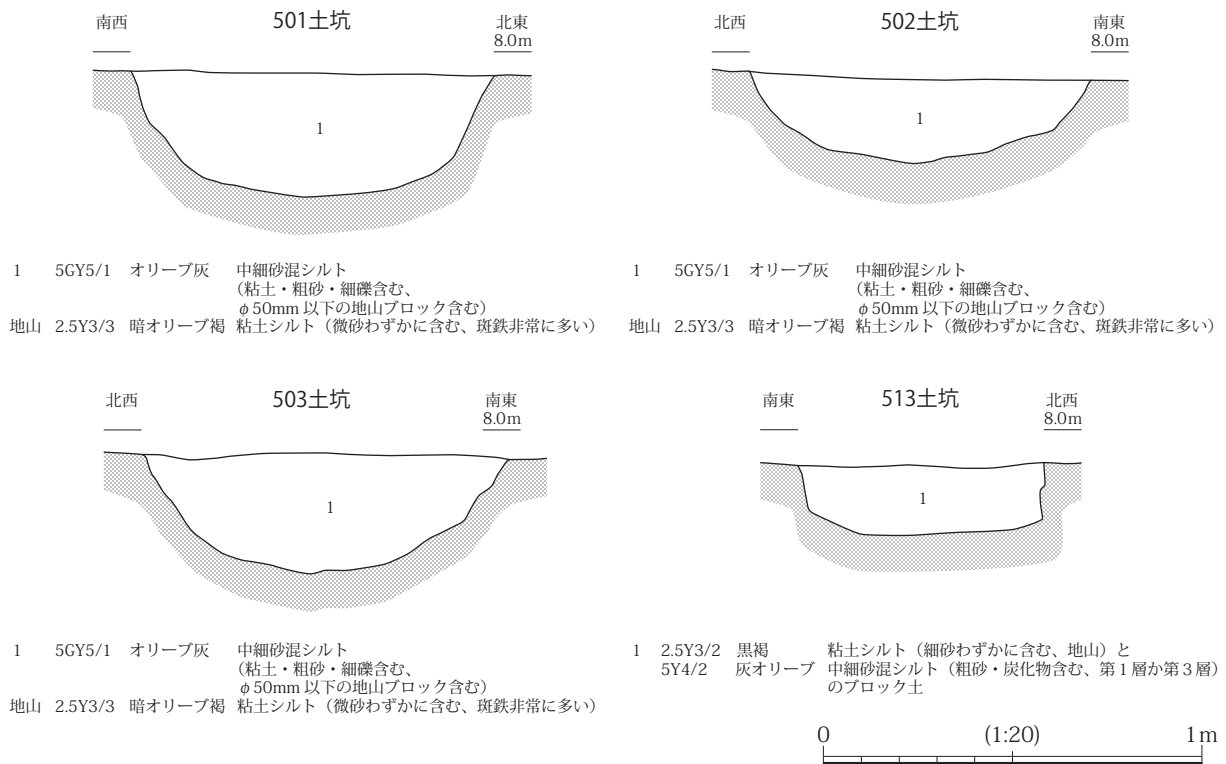
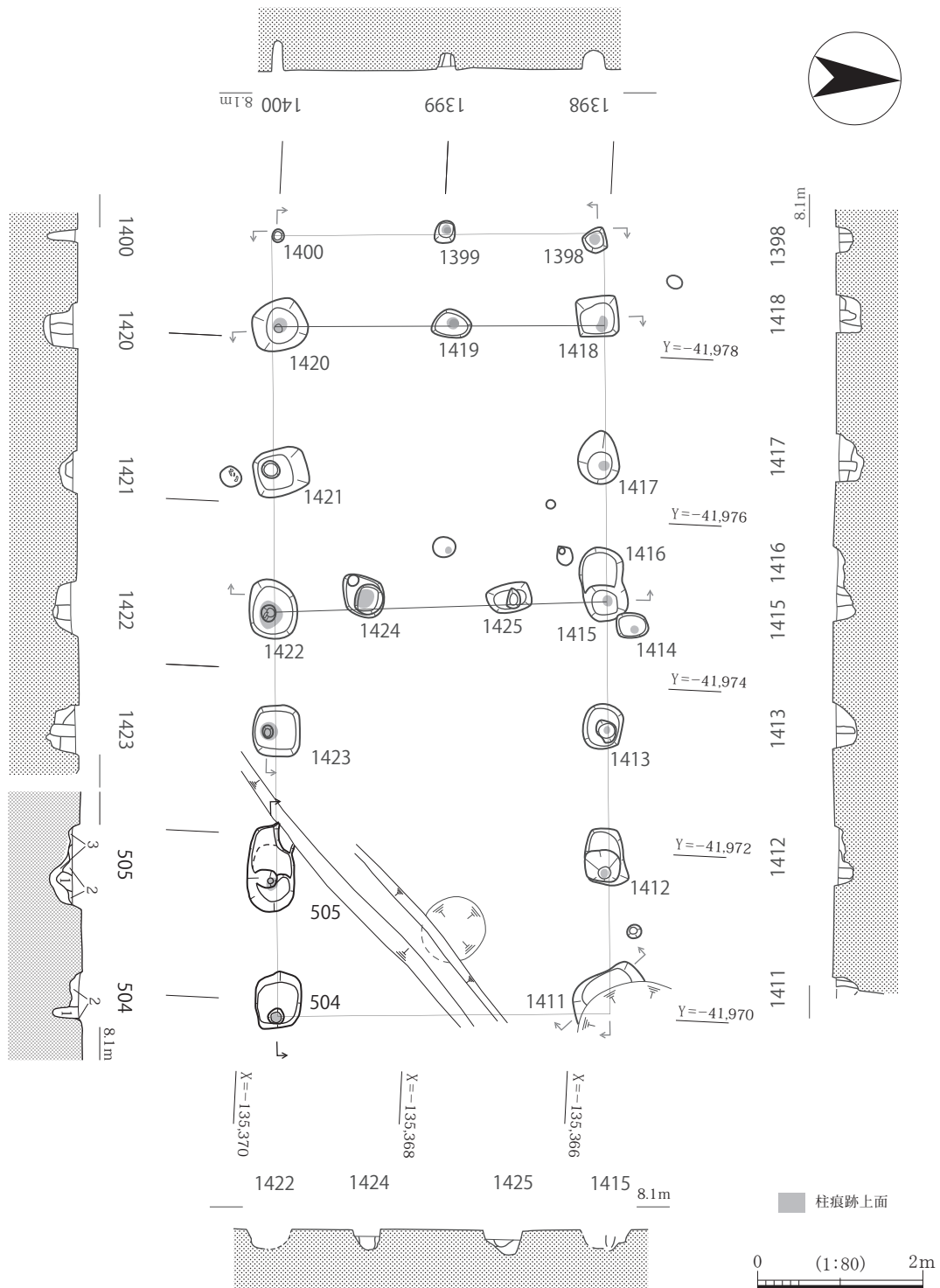


図30 南地区 501～503・513土坑断面



504 柱穴
 1 2.5Y3/2 黒褐 中細砂混粘土シルト（炭化物わずかに含む、下半砂質強い）
 2 2.5Y3/3 暗オリーブ褐 中粗砂混粘土シルト（φ20mm以下の炭化物含む）

505 柱穴
 1 2.5Y3/2 黒褐 細砂混粘土シルト（中砂、炭化物含む、弱いブロック状）
 2 2.5Y3/2 黒褐 粘土シルト（細砂、炭化物わずかに含む、ブロック状）
 3 2.5Y4/2 暗灰黄 粘土シルト（細砂わずかに含む）

図 31 南地区 掘立柱建物 22（『吹田操車場遺跡 12』） 平面・断面

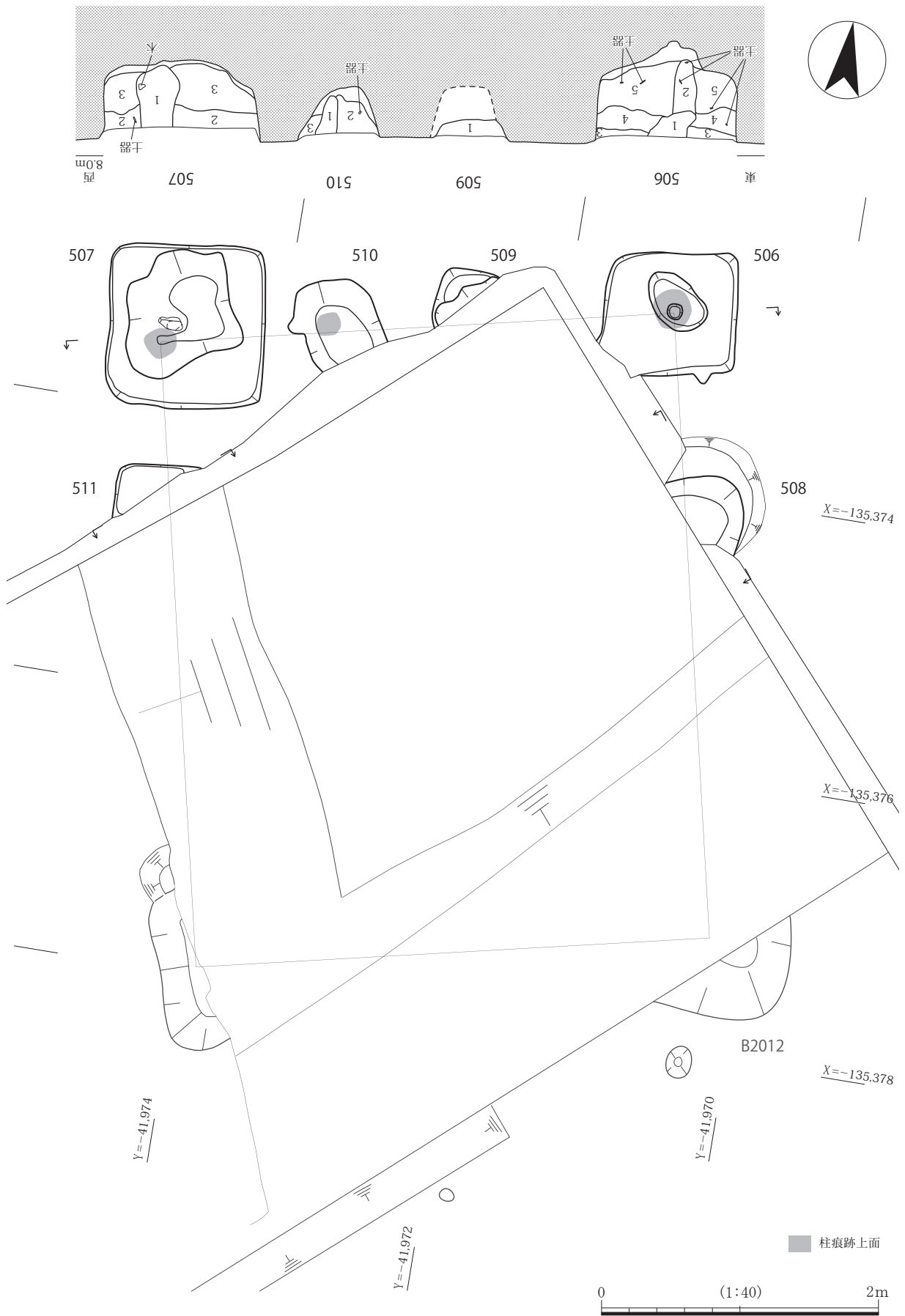
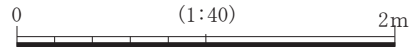
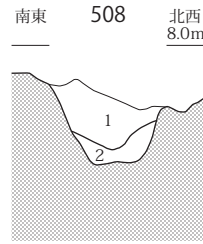
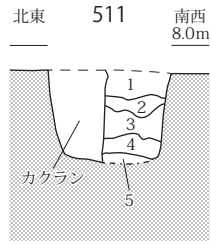


图 32 南地区 掘立柱建物 1 平面·断面



- 506 柱穴
 1 2.5Y4/2 暗灰黄 細砂混シルト (炭化物わずかに含む)
 2 1・3・4 のブロック土
 3 2.5Y3/2 黒褐 中細砂混粘土シルト (炭化物、地山ブロック含む、ブロック状)
 4 10YR3/2 黒褐 中細砂混粘土シルト (炭化物含む、弱いブロック状)
 5 10YR2/2 黒褐 中細砂混粘土シルト (炭化物、粗砂わずかに含む) と
 2.5Y4/3 オリーブ褐 細砂混粘土シルト (地山) のブロック土
- 507 柱穴
 1 2 と 2.5Y4/2 暗灰黄 中粗砂混シルトのブロック土
 2 2.5Y3/2 黒褐 中細砂混粘土シルト (粗砂、細礫、炭化物含む、ブロック状)
 3 10YR2/2 黒褐 中細砂混粘土シルト (炭化物・粗砂わずかに含む) と
 2.5Y4/3 オリーブ褐 細砂混粘土シルト (地山) のブロック土
- 508 柱穴
 1 10YR2/2 黒褐 中粗砂混シルト (炭化物含む、焼土粒わずかに含む)
 2 2.5Y4/3 オリーブ褐 中粗砂混粘土シルト (細礫含む、炭化物わずかに含む、弱いブロック状)
- 509 柱穴
 1 10YR2/2 黒褐 中粗砂混シルト (炭化物含む)
 2.5Y4/3 オリーブ褐 細砂混粘土シルト (地山) のブロック土
- 510 柱穴
 1 2・3 のブロック土
 2 10YR3/2 黒褐 中細砂混粘土シルト (炭化物、地山ブロック含む)
 3 2.5Y4/3 オリーブ褐 中粗砂混粘土シルト (地山に 2 含む、ブロック状)
- 511 柱穴
 1 2.5Y3/2 黒褐 細砂混粘土シルト (粗砂・炭化物含む、ブロック状)
 2 2.5Y3/2 黒褐 中粗砂混シルト (炭化物・細礫わずかに含む)
 3 10YR2/2 黒褐 細砂混粘土シルト (炭化物わずかに含む)
 4 10YR2/2 黒褐 中細砂混粘土シルト (炭化物・粗砂わずかに含む) と
 2.5Y4/3 オリーブ黒 細砂混粘土シルト (地山) のブロック
 5 2.5Y4/2 暗灰黄 シルト混粗砂・細礫 (地山の崩落土?)

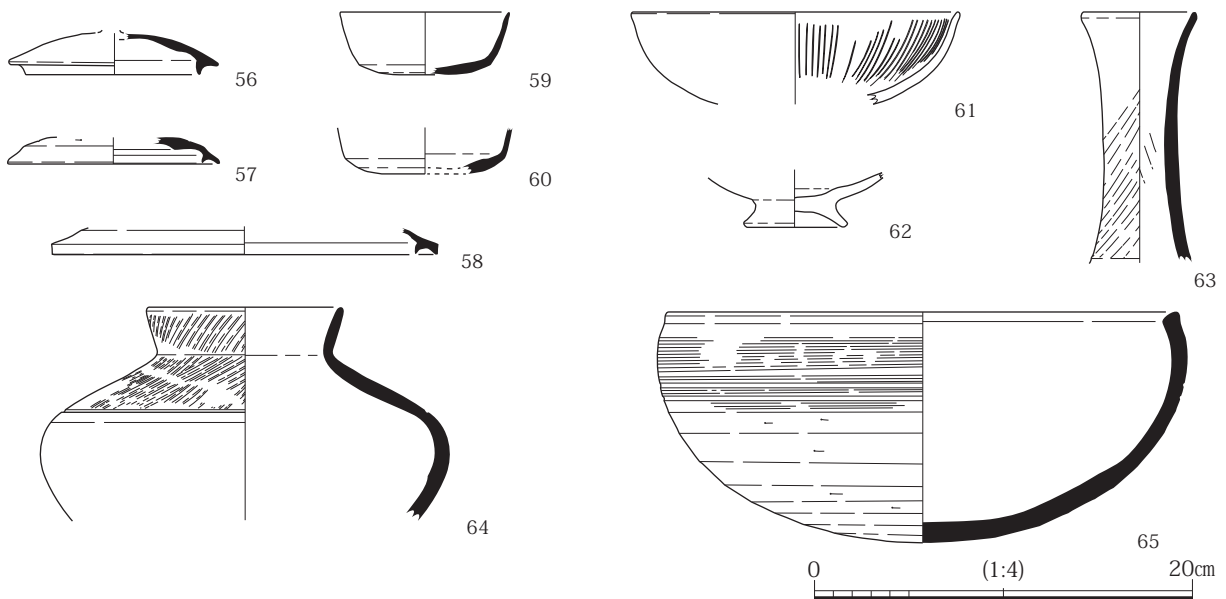


図 33 掘立柱建物 1 遺構断面・土色、掘立柱建物 1・22 関連遺物

掘立柱建物1 掘立柱建物22より南に約6m離れた地点において、調査区の境界付近に複数の柱穴を検出した(図29、図版37-4)。506・507柱穴は一辺が1mを超える隅丸方形を呈し、北辺が前述の掘立柱建物22の長軸方向にほぼ平行することや、その軸線上および直交方向にも柱穴を検出したことから、新たな掘立柱建物と認識した(図32・33、図版39・40)。掘立柱建物1とするものは、軸方向がN-10°-Wであり、北辺の間柱である509・510柱穴に対し、直交する東西両辺の508・511柱穴がやや大型で形状が整う。南側の『吹田操車場遺跡10』における09-3調査のB2012土坑他が同建物の南側隅柱の位置に一致することから、梁行3.7m、桁行4.3m前後の規模に復元が可能である。北側の隅柱である506柱穴は87×97cm、507柱穴は113×117cm、深さ約60cmを測り、直径15~20cmの柱が据えられた痕跡を確認した。また、507柱穴では、柱痕跡の下部より乳児頭大の赤瑪瑙自然石が出土しており、根石として利用されたものと推測する。

遺物は柱穴や周辺の包含層から土師器・須恵器の細片が出土している。そのうち図化し得たものは、

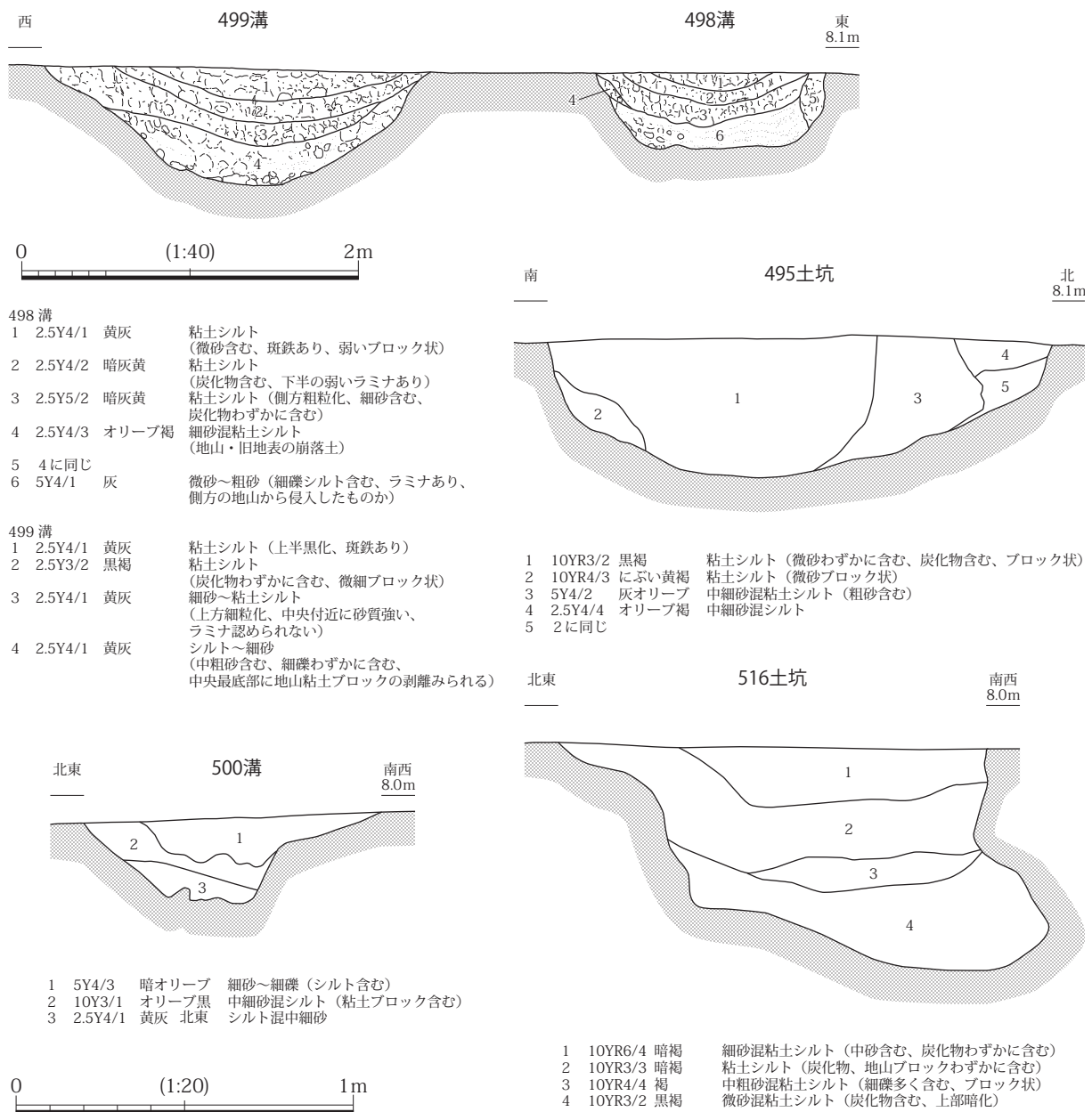


図34 南地区 498・499・500溝、495・516土坑 断面

506柱穴の須恵器杯身、507柱穴の須恵器杯蓋であり、7世紀前半から中頃の所産と思われる（図33-60・58、図版50）。

496柱穴（掘立柱建物23） 上記の掘立柱建物を検出した地点より南西に位置する7トレンチ拡張部では、遺構や遺物がまとまって出土した。遺構には井戸・土坑・ピットがあり、そのうちの496柱穴は、北接する『吹田操車場遺跡12』における掘立柱建物23の東側柱の1つであることが判明した（図29、図版41-1）。人力による掘削作業が困難な緊急調査であったため、残念ながら遺構の詳細は不明である。この周辺の包含層からはまとまった量の遺物が出土しており、そのうちの図示したものは、須恵器杯身・杯蓋・鉢・長頸壺・短頸壺、土師器鉢である（図33-56・59・61・63~65、図版50）。多数の遺物片が出土する状況は、『吹田操車場遺跡12』の320溝や『吹田操車場遺跡10』のB2003溝に酷似しており、一連の遺物を採集したものと考えられる。いずれも7世紀前半末葉から後半中葉にかけての所産である。

500溝 7トレンチのほぼ中央に検出した500溝は、幅55~95cm、深さ約30cmを測り、断面が逆台形を呈し、最終的に砂礫層で埋没する（図29・34、図版37）。ほぼ南北方向に沿って調査区外へと伸びており、南は『吹田操車場遺跡10』のB2025溝、北は『吹田操車場遺跡12』の1522溝につながる。遺構内部から遺物の出土がみられない点は既往の調査と同様であり、時期等の詳細は不明である。しかし、500溝の上流となる北側の既調査区では、320流路や1527溝に接近していることから、これらの溝が同様に7世紀後半頃に埋没した古代の溝と推測する。

498・499溝 南地区における古い段階の遺構としては、 $X = -135,330$ 、 $Y = -41,9224$ 付近において検出した498・499溝がある（図29・34、図版41・42）。いずれも既往の調査区である南側の『吹田操車場遺跡10』と北側の『吹田操車場遺跡12』に続く遺構があり、498溝はB2023溝と124溝、499溝はB2016溝と123溝にそれぞれ接続する。これまでの調査成果により、両溝は時期の異なる別の遺構であり、499溝に対して498溝の先行することが明らかである。498溝は幅1.1m前後、深さ約45cmを測り、埋土の最下層から縄文土器の細片が出土したが、細片のため詳細は不明である。これまでの調査においても、122溝の東端で大量のサヌカイト剥片等が出土しており、当該期の遺構として齟齬はない。西側に位置する499溝は幅2.1m前後、深さ約70cmを測り、遺物の出土は認められなかった。過去の調査では尖頭器から須恵器までの複数時期の多様な遺物が出土しており、正確な帰属時期は不明であるが、調査地全体の平面的な配置をみると、西側に位置する『吹田操車場遺跡12』の320溝にほぼ平行していることから、同様の時期に存在した可能性が考えられる。

495・516土坑 上記以外には、7トレンチの西半を中心として、495・516土坑のような平面が不定形を呈する土坑を複数検出した（図29・34）。これらの土坑の多くは、掘方が一方に偏ったり、埋土に旧表土のブロックが含まれたりしており、その特徴から、前出の北地区における風倒木の痕跡と同一のものとする。また、柱穴やピット等といった古代の遺構が、これらの土坑の埋没後に掘削されることから、古代の集落が形成される以前は、周辺一帯が樹木の自生する環境であったと想像できる。

第5章 総括

第1節 概要

今回の調査は、平成26（2014）年度に実施した調査範囲の外縁部に位置することから、既知の調査成果の検証と整合を念頭に行った。実施した調査の総面積は4,253㎡を測り、検出した遺構は付番したもので541基、出土した遺物は12箱を数える。調査成果の大半はこれまでの知見を裏付ける形となったが、一部では新しい所見を得られたものもあり、本章では全体の概要、群集土坑、掘立柱建物の3点に絞り、これまでの調査成果を含めたまとめを行うことにする。

本調査における古い段階の遺物としては、⑧トレンチのナイフ形石器や7トレンチ 498溝の縄文土器、4トレンチ 39土坑の有舌尖頭器や包含層に含まれる複数の石鏃等が出土しており、前回の調査と酷似する成果が得られた。一般的にはあまり出土頻度の高くないナイフ形石器や有舌尖頭器が、いずれの調査でもみつまっている状況は、縄文時代以前から一定程度の人為が及んでいたことを強く示唆するものといえる。しかし一方では遺物を伴う人為的な遺構がまったく認められず、当該期に相当する遺構としては2トレンチや7トレンチにおける風倒木痕と思われる自然遺構しかみられない点では過去の調査から同様であり、基本的に当地周辺は草木の繁茂する豊かな自然環境にあったと推測される。前述のようなヒトの流入した痕跡は、狩猟等を行う生業域として当地一帯を一時的に利用した結果と考えられよう。今回の調査では弥生時代の資料はみつからなかったが、これまでの調査においても出土例が非常に僅かであり、前述のような周辺環境は弥生時代を通して古墳時代中期頃まで続いていたと推測できる。

古墳時代中期に入ると、北側に1kmほど離れた千里丘陵一帯において須恵器生産の開始されたことが明らかであり、それよりやや遅れて、調査地西部の一帯に群集土坑の大規模な掘削が行われたと考えられる。今回の調査では約470基の土坑を検出しており、これまでの調査成果と合わせると、当地周辺だけで2,000基以上に達することが分かった。須恵器窯址群から非常に近い立地であり、稼働時期がほぼ同じであることから、これらの群集土坑は窯業生産拡大に伴う粘土取り用穴として捉える説が最も有力であるが、未だ詳細は不明のままである。今回の調査では、これまでも指摘されてきた埋土の違いに注目し、土坑の掘削時期や配置を考える上で貴重な手がかりになるという新たな見解を示すことができた。

飛鳥時代から平安時代にかけては、過去に多数の掘立柱建物を検出したエリアの南側において、関連する柱穴や新たな建物跡を検出することができた。これより東側では遺構・遺物ともに出土頻度が極端に低くなることから、今回の発見例が調査地の掘立柱建物群の東・南限を示し、これより東側には耕作地が広がっていたものと推測する。

第2節 古墳時代以降の群集土坑

調査地周辺で検出した群集土坑は古墳時代後期以降に掘削されたと考えられ、現代の地下道による攪乱や未調査部分のために一部が不明ではあるものの、 $Y = -42,030$ 座標ライン付近より西側のみ分布することが明らかとなった(図35)。図によると、調査地周辺に検出した群集土坑は、岸辺駅北側ロータリー付近におけるエリア③と、空白地帯を挟んだ北側に広がる大きな一群に分かれて形成されたことが明らかである。北側の群集土坑の範囲は東西約110m、南北180m以上を測り、中央を南北に通る83

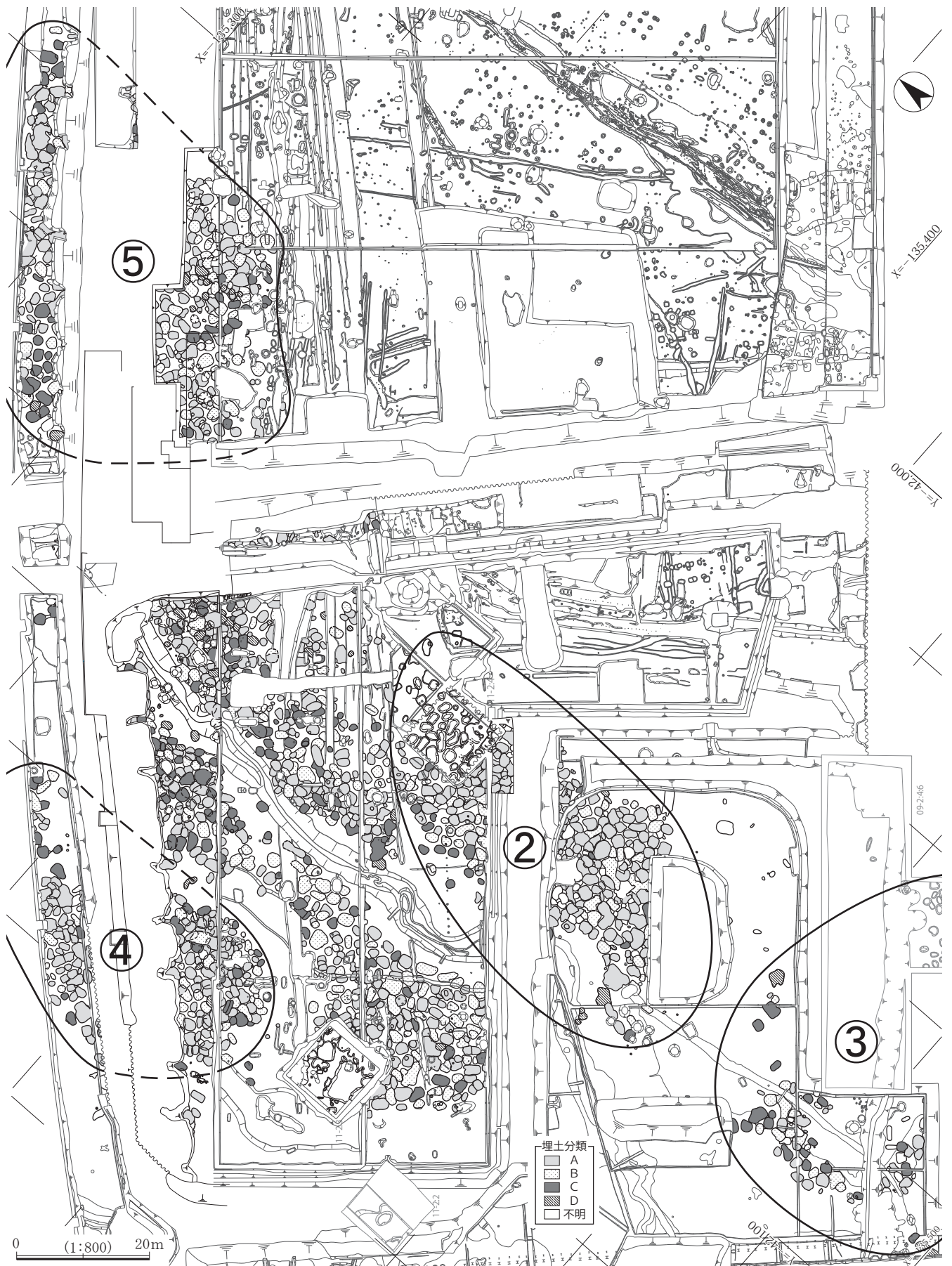


図 35 調査区周辺における群集土坑の埋土分類別分布状況（『吹田操車場遺跡 12』を加筆修正）

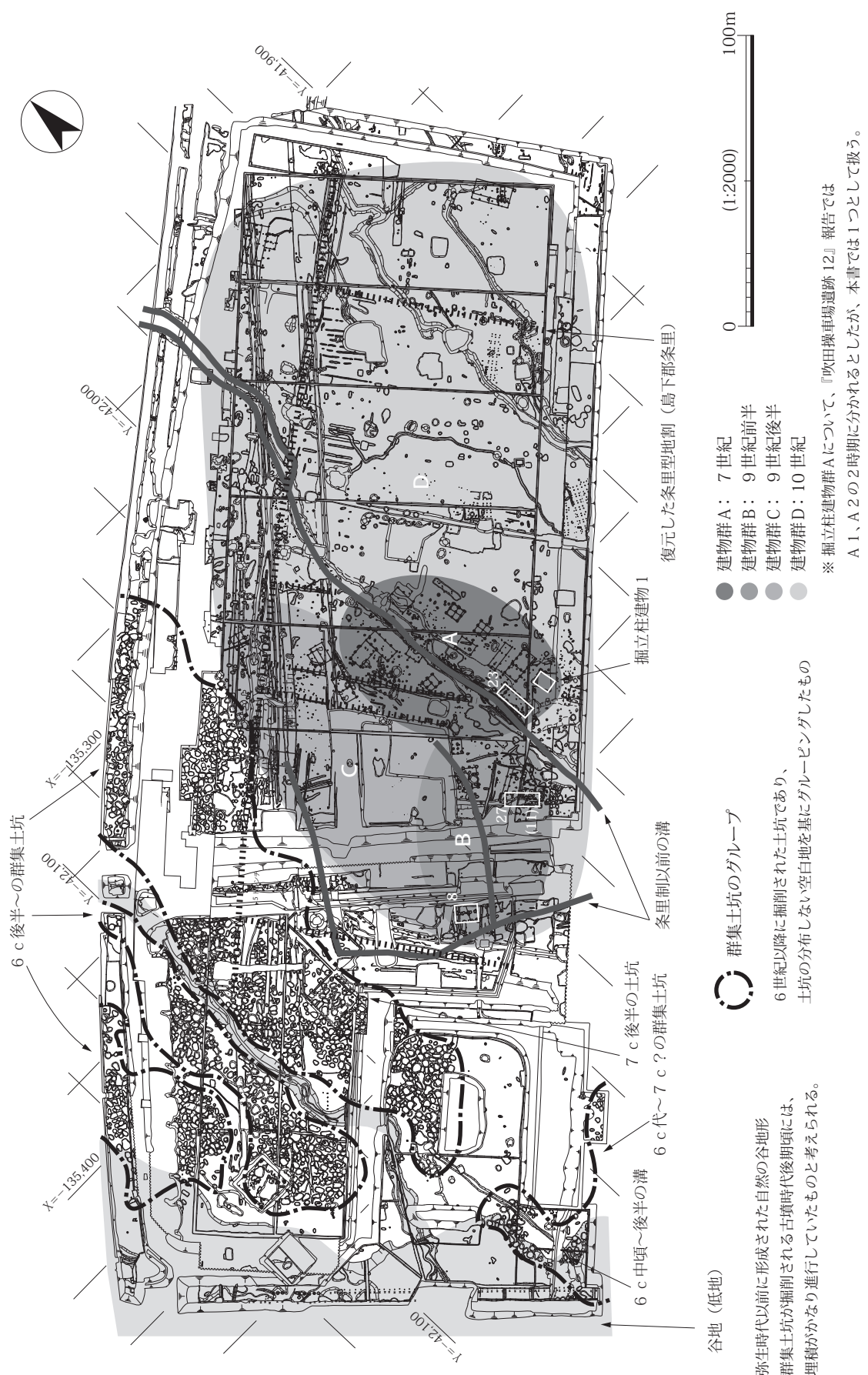
溝（『吹田操車場遺跡12』468溝）の両側に分布する様子が看取され、この群集土坑の一群を形成した要因が同溝であった可能性も指摘できる。

『吹田操車場遺跡12』の第6章 総括では、この83（468）溝の埋土と群集土坑の重複関係から、遺構の形成時期について簡単な検討を行っているが、今回の調査成果により若干の修正と追加を行いたい。今回の調査では、群集土坑の一部に83溝の埋土上面から掘削されたものが存在することを確認した。一方、過去の調査では同溝の埋土除去後に検出した土坑が存在することから、この溝が完全に埋没する時期を前後するように群集土坑の掘削されたことが明らかとなった。過去に提示したように、同溝の埋没に群集土坑の掘削に伴う排土が影響していたとするならば、群集土坑の形成期間はある程度の長期に及んだ可能性も考えられる。

群集土坑の埋土に違いが生じる要因として、『吹田操車場遺跡12』の調査では土坑の掘削から埋没までの経過時間の違いがあると考え、開口した土坑に排土を集積する作業工程で掘削範囲を展開していったものと想定した結果、概ねA、B、Cの順に掘削されたと推測できることを示した。

今回、調査区の北寄りに位置する(2)～(4)トレンチのように、遺構の深度が40cmを超えるような残存状態の非常に良好な群集土坑を調査し、深度の浅い土坑との埋土断面を比較した結果、遺構の残存状態によっては、埋土分類上のAとBの判別は非常に困難であるということが分かった。深度が浅い場合、埋土の観察からAに区分したとしても、その上層に水成堆積が無かったとは断定できず、Bであった可能性を排除できないというものである。これは今回の調査で新たにみつかった埋土のA'が発端となっており、検出面に残る水成堆積層が埋土の最上層か、あるいは中間層かの違いだけでA'とBの異なる分類結果が生じるという問題である。これに対し、水成堆積層が底面にみられるCや埋土の基盤がブロック土ではないDは、AやBとは明らかに異なる埋土であり、総体的にはA・B、C・Dがそれぞれ近似の関係にあると捉えることができる。これらのことから改めて埋土分類の分布を概観してみると、A・Bは数基程度の小さなまとまりを形成しながら群集土坑分布範囲のほぼ全域に広がっているのに対し、C・Dは83溝周辺に多く点在する傾向が認められる(図35)。また、埋土A、B、C、Dの順に複数の土坑がまとまりを形成する率の低下する傾向が看取され、Dはほぼ単基で散見される土坑であることが分かった。前述のような掘削工程の想定と合わせて検討すると、当初はAのようにある程度まとまった範囲で掘削を行っていたものが、掘り進めるうちに施工可能な場所が限られるようになり、最終的にわずかに残った間隙を縫うように掘削されたものと考えられる。

これまでの検討において、埋土の各分類における時間(帰属時期)の同一性については明らかにしてこなかった。これは土坑内から出土する遺物量が極端に少なく、各遺構の帰属時期を明確にできないためであり、その状況は現在もあまり変わっていない。したがって上記におけるAからDへの掘削の流れは、全域的なものと捉えていいのか、狭い範囲に限った局地的なものかは、これまでのところ曖昧なままであった。4トレンチの中央付近に検出した214・229土坑と196・201・205土坑、西部の372・355土坑では、これまでの調査ではほとんどみられなかった群集土坑間の遺物の接合を確認した。いずれの事例も6m以内の限られた範囲の中に位置する土坑から出土した須恵器提瓶や杯身であった。これらの遺物が出土した土坑は、それぞれが同じ分類の埋土であったことから、一定の狭い範囲に存在する埋土の分類が同じ群集土坑については、同時期に開口していた可能性の高いことが分かった。2,000基を超える大量の土坑の中で、しかも出土点数の少ない遺物について、異なる遺構の接合関係を確認できたことは、群集土坑の形成過程を検討する上で非常に貴重な成果といえる。群集土坑から出土する遺物は、



群集土坑のグループ
 6世紀以降に掘削された土坑であり、土坑の分布しない空白地を基にグルーピングしたもの

● 建物群A: 7世紀
 ● 建物群B: 9世紀前半
 ● 建物群C: 9世紀後半
 ● 建物群D: 10世紀

※ 掘立柱建物群Aについて、『吹田操車場遺跡 12』報告ではA1、A2の2時期に分かれるとしたが、本書では1つとして扱う。

谷地 (低地)

弥生時代以前に形成された自然の谷地形
 群集土坑が掘削される古墳時代後期頃には、埋積がかなり進行していたものと考えられる。

図36 調査地周辺の土地利用

遺構の時期確定だけでなく、その分布や形成を考える材料として注目すべきものであり、向後の調査成果に期待したい。

第3節 古代の掘立柱建物群

『吹田操車場遺跡12』では、飛鳥時代から平安時代にかけて築かれた多数の掘立柱建物を検出し、建物を計画的に配置した集落が当地に存在したことを明らかにした。これまでに検出した建物数は29棟であり、それらは7世紀代と9～10世紀の2つの時期に分かれるが、建物の集中する区域の一部が後世の溜池により大きく攪乱されていることや、8世紀代の一括遺物を含む井戸がみつまっていることから、間断なく継続的に集落の営まれていた可能性があることを指摘した。また、みつかった掘立柱建物は出土した遺物や建物の方向・規模等により5つのグループ（＝建物群）に分けることが可能であり、古い段階は概ね正方位を意識して建設されていた建物が、最終段階には当地域に特徴的な島下郡南部条里（斜行条里）の方向に一致するように変化したと考えた。

今回の調査では、南地区の7トレンチ西端付近が当該の集落域に含まれ、以前に検出した掘立柱建物22に関連する柱穴以外に、新たな掘立柱建物1を検出した。この建物1は調査区南端において一部を検出したのみであるため全体像が不明ではあるものの、隅柱として一辺1m以上の大型掘方を有し、その隅柱を含む建物北辺がやや小振りな間柱を挟む3間であることが分かった。『吹田操車場遺跡10』において図示されている土坑2基が、同建物の南側隅柱に相当する蓋然性が高いことから、建物規模を推測した場合、桁行4.5m未満、梁行3.7m、棟方向N-13°-Wの掘立柱建物になると考えられる。

同じ集落域の中で同様の規模の掘方を持つ建物は、『吹田操車場遺跡12』における掘立柱建物8、掘立柱建物23、掘立柱建物27（掘立柱建物11『吹田操車場遺跡10』）の3棟のみであり、全体の1割程度しかないことから、何らかの意味を持つ建物であった可能性が考えられる。また、掘立柱建物23は7世紀代、掘立柱建物8・27は9世紀代と、それぞれ異なる建物群に属すと思われ、今回検出した掘立柱建物1の帰属時期を同様に検討すると、7世紀代の建物群に含まれるものと考えられる。

このような掘方に関しては、同時期に存在したと思われる他の建物と比較しても、深度にはほとんど差がないことや、柱痕跡にみられる使用材の太さにも違いが認められないことから、意図的に掘方の規模を大きくしたものと推測する。特定の建物に対する固定された設計思想のような制度的なものか、あるいは瓦屋根等といった上屋構造の違いによるといった物理的なものか、具体的な要因は不明であるが、明確に他者と区別されていることは明らかである。

図36は、『吹田操車場遺跡12』の報告書において作成した「吹田操車場遺跡14-1周辺の土地利用」のうち、今回の調査区周辺のみを抜粋し、加筆修正したものである。これまでのことから、7世紀代と9～10世紀の各段階における建物群について、他の掘立柱建物と区別された建物が少なくとも2棟ずつ存在したことが分かった。これらの建物は所属する建物群の中でも南や西の端部に配置されており、集落の中でも低地あるいは河川側となる下手に建てられている点は注目される。これらの建物が対外を意識して建設された可能性を示しており、当集落の性格を考える上での一つの手掛かりとなるであろう。これは『吹田操車場遺跡12』において示したとおり、当地の集落が中央政権や半島との強い関係を持ち、窯業生産やその流通に関連する集団によって形成された可能性とも矛盾しておらず、今後の調査により、より具体的な当地の歴史が解明されることを期待する。

付表 遺構一覧・遺物一覧

一覧表凡例

1. 遺物番号は、挿図および図版に示す番号に一致する。
2. 遺構一覧に記載する遺構は、調査ならびに整理過程において遺構名(番号)を付与したものであり、検出した遺構のすべてではない。
3. 図版No、挿図Noにおける「原●」は原色図版番号を示す。
4. 遺構一覧における単位はすべてmである。
5. 遺構一覧内の数値における小数点以下の違いは、計測対象とした図面の精度によるものである。第2位のもの原図が100分の1以下の平板測量図、第3位の上ものは100分の1以上の遺構平面図や断面図、もしくは空中写真測量図を用いた。
6. 遺構一覧の「深さ」における「+」表記は、水田畦畔等の高まりを呈する遺構の高さを表す。
7. 遺構一覧における数値は、□表記のものが復元数値、()表記のものが不完全な実測数値を示す。
8. 軸方向における「N-数値-●」表記は、座標北(N)から●(西の場合はW、東の場合はE)に向かって何度傾いているかを示したものである。
9. 1つの遺構が調査区をまたぐ場合、名称が重複する例が生じてしまった。整理作業において▲▲に統一した際は、備考に「▲▲に併合」と示す。
10. 備考における「埋土●」は、群集土坑に限定して行った埋土分類を示したものである。
11. 備考における「建物●」は、建物を構成する柱穴に関して属する掘立柱建物の番号を示したものである。
12. 掘立柱建物については、柱穴等の遺構の集合体であるため、本一覧には記載していない。
13. 遺物一覧については、本書の第4章に掲載するすべての遺物を対象とし、未掲載のものは除外する。
14. 遺構名・包含層においては、遺構面や包含層名に冠する「第」を省略する。
15. 遺物一覧における単位はすべてcmである。
16. 遺物一覧における数値は、()表記のものが残存数値(実測値)を示す。
17. 口径、底径については、完形品に限らず、原形を復元可能なものはすべて数値を記す。この場合、完形品との区別は行っていない。
18. 備考における「g」は重量の単位である。

遺構一覧

遺構名	トレンチ	位置(座標)	長辺・軸・径	短辺・軸・径	幅		検出面からの深さ		底の標高値 (T.P.+)	軸方向 N-°-○	備考	
					最大	最小	最深(高)	最浅(低)				
1	溝	1	X=-135.235 Y=-41.910	(8.35)	—	1.15	0.95	不明	0.40	8.40	N-60-E	
2	溝	1	X=-135.226 Y=-41.917	(9.15)	—	1.62	1.40	不明	1.60	8.85	N-41-E	
3	井戸	1	X=-135.238.4 Y=-41.912	1.55	1.35	—	—	2.33	—	6.16	—	
4	溝	1	X=-135.237 Y=-41.924.5	(8.35)	—	2.45	0.90	0.71	0.62	7.78	N-15-E	
5	土坑	1	X=-135.233.5 Y=-41.913.5	1.45	1.30	—	—	0.23	—	8.24	—	
6	土坑	3	X=-135.294 Y=-42.034.4	0.90	(0.45)	—	—	不明	—	不明	—	
7	土坑	3	X=-135.295.5 Y=-42.035	0.90	(0.55)	—	—	不明	—	不明	—	
8	土坑	3	X=-135.294.5 Y=-42.035.3	(1.00)	(0.50)	—	—	不明	—	不明	—	
9	土坑	3	X=-135.295.5 Y=-42.034.5	0.65	(0.45)	—	—	不明	—	不明	—	
10	土坑	3	X=-135.298.8 Y=-42.038.3	1.50	(0.60)	—	—	0.634	—	7.439	—	
11	溝	3	X=-135.273 Y=-42.014	(5.80)	—	2.00	1.15	不明	0.343	7.598	N-32-W	
12	土坑	3	X=-135.300.5 Y=-42.040	(1.05)	(0.60)	—	—	0.588	—	7.503	—	
13	土坑	3	X=-135.297.6 Y=-42.036.7	(0.70)	(0.15)	—	—	0.430	—	7.521	—	
14	土坑	3	X=-135.296.5 Y=-42.035.5	(1.25)	(0.25)	—	—	0.541	—	7.560	—	
15	土坑	3	X=-135.299.6 Y=-42.039.2	0.85	(0.65)	—	—	0.449	—	7.642	—	
16	土坑	3	X=-135.298.1 Y=-42.037.4	(0.70)	(0.15)	—	—	0.192	—	7.888	—	
17	土坑	4	X=-135.328.5 Y=-42.059.2	1.35	(1.20)	—	—	—	—	—	—	
18	土坑	4	X=-135.330.7 Y=-42.056.8	0.20	0.15	—	—	—	—	—	—	
19	土坑	4	X=-135.330 Y=-42.057.8	0.28	0.25	—	—	—	—	—	—	
20	溝	4	X=-135.329 Y=-42.057.8	(3.30)	—	0.20	0.15	—	—	—	N-29-W	
21	溝	4	X=-135.331.8 Y=-42.062.5	3.25	—	0.45	0.15	—	—	—	N-60-E	
22	土坑	4	X=-135.333.3 Y=-42.063.5	0.60	0.50	—	—	—	—	—	—	
23	土坑	4	X=-135.333.6 Y=-42.064.2	(1.05)	0.45	—	—	—	—	—	—	
24	土坑	4	X=-135.328.7 Y=-42.057.2	0.55	0.42	—	—	—	—	—	—	
25	土坑	4	X=-135.331.5 Y=-42.059	2.40	(1.85)	—	—	—	—	—	—	
26	土坑	4	X=-135.326 Y=-42.056	[1.96]	1.75	—	—	0.27	—	7.44	—	埋土C
27	土坑	4	X=-135.327 Y=-42.058	2.81	1.89	—	—	0.26	—	7.39	—	埋土A
28	土坑	4	X=-135.327.6 Y=-42.056.3	[1.35]	1.15	—	—	0.335	—	7.38	—	埋土B
29	土坑	4	X=-135.327.5 Y=-42.055	[2.16]	1.31	—	—	0.39	—	7.38	—	埋土C
30	土坑	4	X=-135.328.6 Y=-42.053.6	(1.30)	(0.70)	—	—	0.21	—	7.46	—	埋土A
31	土坑	4	X=-135.328.7 Y=-42.059.7	(1.79)	[1.62]	—	—	0.42	—	7.48	—	埋土B
32	土坑	4	X=-135.329.2 Y=-42.060.5	(1.20)	1.14	—	—	0.19	—	7.46	—	埋土A
33	土坑	4	X=-135.329.7 Y=-42.057.7	[2.45]	1.95	—	—	0.36	—	7.36	—	埋土B
34	土坑	4	X=-135.330.5 Y=-42.055.7	(1.35)	(0.40)	—	—	0.14	—	7.51	—	埋土A
35	土坑	4	X=-135.330 Y=-42.061.5	2.46	(2.39)	—	—	0.30	—	7.15	—	埋土A
36	土坑	4	X=-135.331.3 Y=-42.062.8	1.02	[0.80]	—	—	0.29	—	7.30	—	埋土A
37	土坑	4	X=-135.331 Y=-42.061.6	2.74	0.94	—	—	1.15	—	7.43	—	埋土A'
38	土坑	4	X=-135.331.2 Y=-42.060	2.05	[1.70]	—	—	0.41	—	7.21	—	埋土A
39	土坑	4	X=-135.331.4 Y=-42.058.6	(1.20)	(1.10)	—	—	0.41	—	7.33	—	埋土A
40	土坑	4	X=-135.331.5 Y=-42.057.5	[1.25]	(0.65)	—	—	0.20	—	7.41	—	埋土B
41	土坑	4	X=-135.332.1 Y=-42.061.7	[1.70]	[1.30]	—	—	0.19	—	7.41	—	埋土A
42	土坑	4	X=-135.333.2 Y=-42.060.3	1.46	0.94	—	—	0.22	—	7.44	—	埋土A
43	土坑	4	X=-135.332.5 Y=-42.063.5	1.35	0.95	—	—	0.29	—	7.36	—	埋土A'
44	土坑	4	X=-135.333.9 Y=-42.062.6	0.85	0.55	—	—	0.08	—	7.38	—	埋土A'
45	土坑	4	X=-135.334.3 Y=-42.061.8	[0.90]	[0.85]	—	—	不明	—	不明	—	埋土A
46	土坑	4	X=-135.334.6 Y=-42.061	(1.6)	(0.8)	—	—	0.27	—	7.37	—	埋土B
47	土坑	4	X=-135.333.3 Y=-42.065	1.74	1.38	—	—	0.59	—	6.99	—	埋土B
48	土坑	4	X=-135.333.7 Y=-42.064.2	1.92	1.52	—	—	0.42	—	7.19	—	埋土A'
49	土坑	4	X=-135.335.8 Y=-42.063	2.02	1.44	—	—	0.64	—	7.05	—	埋土B

遺構一覧

遺構名	トレンチ	位置(座標)	長辺・軸・径	短辺・軸・径	幅		検出面からの深さ		底の標高値 (T.P.+)	軸方向 N-°-○	備考	
					最大	最小	最深(高)	最浅(低)				
50	土坑	4	X=-135,336.4 Y=-42,063.2	(1.10)	[0.80]	—	—	不明	—	不明	—	埋土A
51	土坑	4	X=-135,335 Y=-42,067.2	2.02	1.54	—	—	0.42	—	7.19	—	埋土C
52	土坑	4	X=-135,335.5 Y=-42,066.2	(3.41)	0.89	—	—	0.36	—	7.27	—	埋土A'
53	土坑	4	X=-135,335 Y=-42,064.8	1.96	[0.89]	—	—	0.27	—	7.34	—	埋土A
54	土坑	4	X=-135,336.2 Y=-42,065.2	[1.60]	(1.35)	—	—	0.39	—	7.22	—	埋土A
55	土坑	4	X=-135,336.9 Y=-42,065.4	0.95	[0.85]	—	—	不明	—	不明	—	埋土A
56	土坑	4	X=-135,337.8 Y=-42,064	1.62	(0.60)	—	—	0.51	—	7.12	—	埋土A
57	土坑	4	X=-135,338.4 Y=-42,065.8	[1.50]	(0.65)	—	—	0.24	—	7.35	—	埋土A
58	土坑	4	X=-135,327 Y=-42,055.8	(1.10)	(0.80)	—	—	不明	—	不明	—	埋土不明
59	土坑	4	X=-135,352.4 Y=-42,086.3	0.95	0.65	—	—	—	—	—	—	
60	土坑	4	X=-135,353.4 Y=-42,089.3	1.15	1.08	—	—	—	—	—	—	
61	土坑	4	X=-135,354.5 Y=-42,090.5	1.95	1.25	—	—	—	—	—	—	
62	井戸	4	X=-135,355.8 Y=-42,099	2.00	(1.95)	—	—	—	—	—	—	
63	井戸	4	X=-135,357.5 Y=-42,098.8	1.20	1.15	—	—	—	—	—	—	
64	井戸	4	X=-135,357.9 Y=-42,098.2	[1.55]	(1.45)	—	—	—	—	—	—	
65	井戸	4	X=-135,358.5 Y=-42,099.5	2.50	2.00	—	—	—	—	—	—	
66	井戸	4	X=-135,360 Y=-42,098.5	1.00	0.90	—	—	—	—	—	—	
67	井戸	4	X=-135,357 Y=-42,096	2.05	1.65	—	—	—	—	—	—	
68	井戸	4	X=-135,359 Y=-42,095.5	1.50	0.75	—	—	—	—	—	—	
69	井戸	4	X=-135,362 Y=-42,095	1.65	1.35	—	—	—	—	—	—	
70	ピット	2	X=-135,301 Y=-42,023.7	0.35	0.31	—	—	0.34	—	8.01	—	
71	ピット	2	X=-135,302 Y=-42,025	0.32	0.25	—	—	0.29	—	8.02	—	
72	ピット	2	X=-135,299.2 Y=-42,021	0.40	0.20	—	—	0.09	—	8.19	—	
73	土坑	(5)	X=-135,275 Y=-41,992.5	2.10	1.35	—	—	—	—	—	—	
74	土坑	4	X=-135,355 Y=-42,083	(0.95)	(0.60)	—	—	0.299	—	6.97	—	埋土不明
75	土坑	4	X=-135,355.5 Y=-42,082	0.85	(0.70)	—	—	0.159	—	7.113	—	埋土不明
76	土坑	4	X=-135,356.5 Y=-42,081.5	1.25	(0.45)	—	—	0.175	—	7.072	—	埋土不明
77	土坑	4	X=-135,357.5 Y=-42,080	0.64	(0.32)	—	—	0.167	—	7.125	—	埋土不明
78	土坑	4	X=-135,358 Y=-42,079.7	(5.50)	(0.30)	—	—	0.355	—	6.937	—	埋土不明
79	土坑	(5)	X=-135,279.5 Y=-42,000.4	0.50	0.45	—	—	—	—	—	—	
80	土坑	(5)	X=-135,280.3 Y=-41,998.8	(0.60)	0.45	—	—	0.51	—	7.85	—	
81	井戸	4	X=-135,366 Y=-42,107	2.80	2.40	—	—	—	—	—	—	
82	井戸	4	X=-135,367 Y=-42,108.8	0.70	0.60	—	—	—	—	—	—	
83	溝	4	X=-135,355 Y=-42,097	27.50	—	6.30	3.40	1.15	0.83	6.08	N-5-E	
84	土坑	4	X=-135,348.3 Y=-42,090	1.55	1.35	—	—	0.44	—	6.72	—	埋土B
85	土坑	4	X=-135,349.5 Y=-42,091	1.50	0.25	—	—	0.36	—	6.84	—	埋土A
86	土坑	4	X=-135,350 Y=-42,091.8	[1.10]	0.81	—	—	0.28	—	6.98	—	埋土A
87	土坑	4	X=-135,349.4 Y=-42,089.5	(0.85)	(0.35)	—	—	0.16	—	7.12	—	埋土A
88	土坑	4	X=-135,351 Y=-42,091	2.35	[1.55]	—	—	0.40	—	6.84	—	埋土B
89	土坑	4	X=-135,350.3 Y=-42,089.4	(0.98)	0.94	—	—	0.18	—	7.14	—	埋土A
90	土坑	4	X=-135,351.5 Y=-42,092.3	[1.72]	[1.15]	—	—	0.31	—	6.93	—	埋土A
91	土坑	4	X=-135,352.2 Y=-42,091.8	[1.15]	[9.20]	—	—	0.23	—	7.04	—	埋土A
92	土坑	4	X=-135,351.5 Y=-42,090.5	[1.34]	[1.15]	—	—	0.42	—	6.86	—	埋土B
93	土坑	4	X=-135,351.5 Y=-42,089.5	2.16	1.07	—	—	0.55	—	6.76	—	埋土B
94	土坑	4	X=-135,351.8 Y=-42,088.7	2.04	0.90	—	—	0.50	—	6.77	—	埋土D
95	土坑	4	X=-135,350.3 Y=-42,088.3	(1.24)	0.68	—	—	0.18	—	7.02	—	埋土B
96	土坑	4	X=-135,350.7 Y=-42,087.7	(1.40)	1.12	—	—	0.35	—	6.82	—	埋土A
97	土坑	4	X=-135,351 Y=-42,087	(1.30)	(0.58)	—	—	0.28	—	6.89	—	埋土A
98	土坑	4	X=-135,352.5 Y=-42,087.8	[1.20]	1.10	—	—	不明	—	不明	—	埋土不明

遺構一覧

遺構名	トレンチ	位置 (座標)	長辺・軸・径	短辺・軸・径	幅		検出面からの深さ		底の標高値 (T.P.+)	軸方向 N-°-○	備考	
					最大	最小	最深(高)	最浅(低)				
99	土坑	4	X=-135,364 Y=-42,096	[1.80]	[1.80]	—	—	不明	—	不明	—	埋土A
100	土坑	4	X=-135,352.8 Y=-42,089.5	[1.45]	[1.10]	—	—	0.21	—	7.03	—	埋土A
101	土坑	4	X=-135,358 Y=-42,091	[1.80]	1.35	—	—	0.41	—	6.87	—	埋土C
102	土坑	4	X=-135,353.4 Y=-42,092	1.18	(0.90)	—	—	0.40	—	6.87	—	埋土B
103	土坑	4	X=-135,352 Y=-42,093.8	(1.10)	(0.80)	—	—	不明	—	不明	—	埋土不明
104	土坑	4	X=-135,353.5 Y=-42,093.3	0.88	0.76	—	—	0.06	—	7.21	—	埋土D
105	土坑	4	X=-135,352 Y=-42,086	0.50	0.45	—	—	0.20	—	7.02	—	埋土不明
106	土坑	4	X=-135,355.8 Y=-42,092.5	2.02	1.45	—	—	0.33	—	6.82	—	埋土A
107	土坑	4	X=-135,354.5 Y=-42,092.5	1.64	[1.42]	—	—	0.37	—	6.89	—	埋土A
108	土坑	4	X=-135,354 Y=-42,091.5	1.24	(0.75)	—	—	不明	—	不明	—	埋土A
109	土坑	4	X=-135,355.5 Y=-42,091	(1.75)	(1.50)	—	—	0.52	—	6.76	—	埋土A
110	土坑	4	X=-135,354 Y=-42,090	(0.60)	0.56	—	—	不明	—	不明	—	埋土D
111	土坑	4	X=-135,353.8 Y=-42,088.2	0.65	(0.35)	—	—	0.04	—	6.99	—	埋土A
112	土坑	4	X=-135,353.5 Y=-42,087.5	[1.35]	1.22	—	—	0.36	—	6.78	—	埋土B
113	土坑	4	X=-135,352.8 Y=-42,087	1.16	[0.70]	—	—	不明	—	不明	—	埋土A
114	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	113土坑に併合
115	土坑	4	X=-135,352.5 Y=-42,085.5	1.25	(0.75)	—	—	0.42	—	6.78	—	埋土D
116	土坑	4	X=-135,354 Y=-42,086	1.75	1.12	—	—	5.80	—	6.66	—	埋土C
117	土坑	4	X=-135,354 Y=-42,086.8	(1.15)	(0.40)	—	—	5.10	—	6.69	—	埋土D
118	土坑	4	X=-135,355.4 Y=-42,089.3	[1.45]	[1.25]	—	—	不明	—	不明	—	埋土B
119	土坑	4	X=-135,356.3 Y=-42,089	1.94	1.45	—	—	0.50	—	6.78	—	埋土D
120	土坑	4	X=-135,355 Y=-42,088	2.48	1.85	—	—	0.35	—	6.77	—	埋土B
121	土坑	4	X=-135,353.5 Y=-42,084.6	(1.12)	0.50	—	—	0.23	—	6.94	—	埋土A
122	土坑	4	X=-135,354 Y=-42,083.5	(1.95)	(1.85)	—	—	0.33	—	6.83	—	埋土A
123	土坑	4	X=-135,355 Y=-42,084.5	(1.16)	0.85	—	—	0.19	—	6.87	—	埋土B
124	土坑	4	X=-135,353.5 Y=-42,085.5	1.75	[1.10]	—	—	不明	—	不明	—	埋土C
125	土坑	4	X=-135,356 Y=-42,086	2.45	(1.90)	—	—	0.39	—	6.67	—	埋土A
126	土坑	4	X=-135,356.5 Y=-42,086.8	1.20	0.88	—	—	0.44	—	6.77	—	埋土B
127	土坑	4	X=-135,356.5 Y=-42,087.5	1.00	[0.85]	—	—	不明	—	不明	—	埋土A
128	土坑	4	X=-135,357 Y=-42,083	[1.30]	1.25	—	—	0.22	—	7.04	—	埋土A
129	土坑	4	X=-135,357.3 Y=-42,088.8	1.05	0.70	—	—	0.20	—	7.07	—	埋土C
130	土坑	4	X=-135,358 Y=-42,088	0.88	(0.60)	—	—	0.15	—	7.11	—	埋土A
131	土坑	4	X=-135,358.5 Y=-42,088.7	[1.10]	(0.85)	—	—	0.16	—	7.06	—	埋土B
132	土坑	4	X=-135,359.5 Y=-42,089.4	—	—	—	—	—	—	—	—	埋土A 133土坑上面
133	土坑	4	X=-135,360 Y=-42,090	2.14	(1.70)	—	—	0.35	—	6.84	—	埋土C
134	土坑	4	X=-135,359.5 Y=-42,090	—	—	—	—	—	—	—	—	埋土B 133土坑上面
135	土坑	4	X=-135,358.5 Y=-42,090	(0.80)	(0.68)	—	—	0.19	—	7.03	—	埋土D
136	土坑	4	X=-135,358 Y=-42,089.5	[1.10]	0.80	—	—	0.25	—	6.97	—	埋土不明
137	土坑	4	X=-135,357.3 Y=-42,090	1.35	1.15	—	—	0.33	—	6.93	—	埋土B
138	土坑	4	X=-135,356.7 Y=-42,091.5	1.58	[0.75]	—	—	0.39	—	6.87	—	埋土A
139	土坑	4	X=-135,356.5 Y=-42,093.5	1.50	1.12	—	—	0.36	—	6.85	—	埋土A
140	土坑	4	X=-135,357.3 Y=-42,093.5	[1.45]	[1.06]	—	—	不明	—	不明	—	埋土A
141	土坑	4	X=-135,358 Y=-42,093	(1.98)	(0.80)	—	—	0.11	—	6.85	—	埋土A
142	土坑	4	X=-135,358 Y=-42,095	2.60	(2.14)	—	—	0.32	—	6.73	—	埋土B
143	土坑	4	X=-135,358.5 Y=-42,093.8	(1.16)	(0.40)	—	—	0.17	—	7.02	—	埋土A
144	土坑	4	X=-135,359.5 Y=-42,094	1.51	1.28	—	—	0.33	—	6.86	—	埋土B
145	土坑	4	X=-135,360 Y=-42,094.5	1.46	(0.74)	—	—	不明	—	不明	—	埋土B
146	土坑	4	X=-135,360 Y=-42,092.7	[1.52]	0.85	—	—	0.27	—	6.92	—	埋土A'
147	土坑	4	X=-135,360.6 Y=-42,091.5	(1.20)	[1.05]	—	—	0.35	—	6.84	—	埋土A

遺構一覧

遺構名	トレンチ	位置 (座標)	長辺・軸・径	短辺・軸・径	幅		検出面からの深さ		底の標高値 (T.P.+)	軸方向 N-°-○	備考	
					最大	最小	最深(高)	最浅(低)				
148	土坑	4	X=-135,361.5 Y=-42,092	(1.50)	1.30	—	—	0.41	—	6.78	—	埋土D
149	土坑	4	X=-135,362 Y=-42,093.5	2.20	1.90	—	—	0.74	—	6.44	—	埋土B
150	土坑	4	X=-135,363.5 Y=-42,093	1.76	(1.06)	—	—	0.69	—	6.52	—	埋土A
151	土坑	4	X=-135,361 Y=-42,095	[1.95]	1.70	—	—	0.56	—	6.60	—	埋土C
152	土坑	4	X=-135,362.5 Y=-42,095.7	(0.84)	(0.35)	—	—	不明	—	不明	—	埋土不明
153	土坑	4	X=-135,363 Y=-42,094.3	[1.84]	[1.55]	—	—	0.51	—	6.67	—	埋土A
154	土坑	4	X=-135,363.5 Y=-42,095	1.44	0.76	—	—	0.35	—	6.79	—	埋土A
155	土坑	4	X=-135,364.5 Y=-42,095	(0.78)	(0.25)	—	—	0.11	—	7.04	—	埋土不明
156	土坑	4	X=-135,364 Y=-42,097	(1.42)	(0.74)	—	—	不明	—	不明	—	埋土B
157	土坑	4	X=-135,366 Y=-42,096	[2.40]	(1.36)	—	—	0.69	—	6.45	—	埋土B
158	土坑	4	X=-135,366.5 Y=-42,097.5	(1.72)	[1.42]	—	—	0.54	—	6.61	—	埋土B
159	土坑	4	X=-135,367.5 Y=-42,097.5	1.14	[0.84]	—	—	0.76	—	6.49	—	埋土B
160	土坑	4	X=-135,351.5 Y=-42,100	(1.55)	(1.00)	—	—	0.12	—	7.11	—	埋土C
161	土坑	4	X=-135,353 Y=-42,098.5	2.15	(1.16)	—	—	0.34	—	6.83	—	埋土A
162	土坑	4	X=-135,366 Y=-42,101	1.65	1.25	—	—	0.37	—	6.68	—	埋土D
163	土坑	4	X=-135,356.5 Y=-42,101	(1.30)	(0.35)	—	—	0.13	—	7.17	—	埋土A
164	土坑	4	X=-135,357.3 Y=-42,102	(1.50)	(0.38)	—	—	0.23	—	7.07	—	埋土A
165	土坑	4	X=-135,358 Y=-42,103	(1.28)	(0.45)	—	—	0.18	—	7.11	—	埋土A
166	土坑	4	X=-135,358.3 Y=-42,102.2	0.68	0.62	—	—	0.32	—	6.95	—	埋土D
167	土坑	4	X=-135,358.8 Y=-42,101.3	0.41	0.35	—	—	0.25	—	6.99	—	埋土D
168	土坑	4	X=-135,358.6 Y=-42,101	0.34	0.32	—	—	0.12	—	7.12	—	埋土D
169	土坑	4	X=-135,357.2 Y=-42,105.5	0.85	(0.70)	—	—	0.09	—	7.17	—	埋土A
170	土坑	4	X=-135,357.3 Y=-42,104.6	(0.25)	(0.14)	—	—	不明	—	不明	—	埋土不明
171	土坑	4	X=-135,358 Y=-42,104.5	1.42	(0.62)	—	—	0.18	—	7.11	—	埋土C
172	土坑	4	X=-135,359 Y=-42,103	1.45	(0.65)	—	—	0.27	—	7.00	—	埋土B
173	土坑	4	X=-135,359.5 Y=-42,104	[2.02]	(0.80)	—	—	0.21	—	7.02	—	埋土B
174	土坑	4	X=-135,360.5 Y=-42,104.7	[1.05]	0.58	—	—	0.20	—	7.03	—	埋土C
175	土坑	4	X=-135,361.5 Y=-42,102.5	1.75	1.15	—	—	0.34	—	6.89	—	埋土D
176	土坑	4	X=-135,362 Y=-42,103.5	1.88	1.34	—	—	0.18	—	7.03	—	埋土B
177	土坑	4	X=-135,362 Y=-42,105.8	(2.14)	(0.95)	—	—	0.29	—	6.94	—	埋土C
178	土坑	4	X=-135,362.5 Y=-42,104.7	[1.45]	[0.8]	—	—	0.12	—	7.11	—	埋土A
179	土坑	4	X=-135,363.8 Y=-42,103.8	1.56	1.08	—	—	0.31	—	6.93	—	埋土C
180	土坑	4	X=-135,363.1 Y=-42,105.5	1.30	0.68	—	—	0.17	—	7.04	—	埋土C
181	土坑	4	X=-135,364 Y=-42,105	1.36	0.98	—	—	0.75	—	6.48	—	埋土D
182	土坑	4	X=-135,363 Y=-42,106.8	(0.70)	(0.32)	—	—	0.09	—	7.12	—	埋土C
183	土坑	4	X=-135,363.5 Y=-42,106.5	[1.45]	0.85	—	—	0.15	—	7.06	—	埋土B
184	土坑	4	X=-135,364.5 Y=-42,105.8	[1.90]	1.25	—	—	0.27	—	6.97	—	埋土B
185	土坑	4	X=-135,365 Y=-42,103.8	1.52	0.92	—	—	0.27	—	6.98	—	埋土D
186	土坑	4	X=-135,365.7 Y=-42,104.5	1.72	0.84	—	—	0.27	—	6.97	—	埋土A
187	土坑	4	X=-135,366.3 Y=-42,105.3	1.32	1.18	—	—	0.14	—	7.09	—	埋土C
188	土坑	4	X=-135,366.8 Y=-42,103	1.52	[1.00]	—	—	0.21	—	6.99	—	埋土A
189	土坑	4	X=-135,367.3 Y=-42,103.8	1.72	[1.10]	—	—	0.40	—	6.82	—	埋土A
190	土坑	4	X=-135,367.2 Y=-42,104.8	1.58	1.45	—	—	0.40	—	6.83	—	埋土B
191	土坑	4	X=-135,368 Y=-42,102.5	1.44	1.10	—	—	0.10	—	6.88	—	埋土C
192	土坑	4	X=-135,368.8 Y=-42,103.2	1.58	[0.80]	—	—	0.10	—	6.86	—	埋土C
193	土坑	4	X=-135,368.8 Y=-42,104.3	1.55	1.34	—	—	0.43	—	6.78	—	埋土B
194	土坑	4	X=-135,364 Y=-42,107.5	1.18	(0.50)	—	—	0.09	—	7.19	—	埋土A
195	土坑	4	X=-135,364.3 Y=-42,107.2	0.72	(0.35)	—	—	0.09	—	7.15	—	埋土A
196	土坑	4	X=-135,365 Y=-42,108.5	1.56	(0.82)	—	—	0.18	—	7.10	—	埋土C

遺構一覧

遺構名	トレンチ	位置(座標)	長辺・軸・径	短辺・軸・径	幅		検出面からの深さ		底の標高値 (T.P.+)	軸方向 N-°-O	備考	
					最大	最小	最深(高)	最浅(低)				
197	土坑	4	X=-135,365.5 Y=-42,109.5	1.42	(0.58)	—	—	1.10	—	7.22	—	埋土A
198	土坑	6	X=-135,404.5 Y=-42,074.8	[1.20]	1.90	—	—	0.146	—	6.961	—	埋土不明
199	土坑	4	X=-135,366.4 Y=-42,110	(1.00)	(0.50)	—	—	0.08	—	7.25	—	埋土A
200	土坑	4	X=-135,367 Y=-42,109	[1.94]	[1.55]	—	—	0.25	—	7.08	—	埋土A
201	土坑	4	X=-135,367 Y=-42,107.7	[1.28]	(0.86)	—	—	0.26	—	7.06	—	埋土C
202	土坑	4	X=-135,367.8 Y=-42,106.5	[1.78]	1.06	—	—	0.21	—	7.02	—	埋土A
203	土坑	4	X=-135,368 Y=-42,107.6	(1.02)	0.85	—	—	0.14	—	7.11	—	埋土B
204	土坑	4	X=-135,368.3 Y=-42,105.7	(1.40)	(0.95)	—	—	0.22	—	7.01	—	埋土A
205	土坑	4	X=-135,369.4 Y=-42,106.5	2.28	[1.62]	—	—	0.37	—	6.61	—	埋土C
206	土坑	4	X=-135,357 Y=-42,080.5	0.40	(0.35)	—	—	0.56	—	7.187	—	埋土不明
207	畦畔	4	X=-135,410.4 Y=-42,148.5	(1.60)	—	0.4	0.35	+0.069	+0.032	7.211	N-51-W	
208	土坑	4	X=-135,370.7 Y=-42,105	2.48	[2.32]	—	—	0.35	—	6.81	—	埋土C
209	土坑	4	X=-135,372 Y=-42,104.5	1.65	[1.00]	—	—	0.19	—	6.99	—	埋土A
210	土坑	4	X=-135,373 Y=-42,105	(2.80)	(1.15)	—	—	0.29	—	6.87	—	埋土A
211	土坑	4	X=-135,373.3 Y=-42,106	[1.60]	[1.35]	—	—	不明	—	不明	—	埋土C
212	土坑	4	X=-135,373.8 Y=-42,107	1.76	1.6	—	—	0.33	—	6.91	—	埋土A
213	土坑	4	X=-135,372 Y=-42,106.4	2.34	1.54	—	—	0.13	—	7.05	—	埋土A
214	土坑	4	X=-135,371 Y=-42,106.7	1.75	[1.32]	—	—	0.24	—	6.99	—	埋土A
215	土坑	4	X=-135,370.5 Y=-42,108	1.88	[1.50]	—	—	0.26	—	6.98	—	埋土B
216	土坑	4	X=-135,370 Y=-42,109	[2.12]	1.90	—	—	不明	—	不明	—	埋土C
217	土坑	4	X=-135,368.4 Y=-42,108.7	1.78	1.74	—	—	0.34	—	6.99	—	埋土A
218	土坑	4	X=-135,367.5 Y=-42,109.7	1.25	[0.70]	—	—	0.18	—	7.15	—	埋土A
219	土坑	4	X=-135,367.5 Y=-42,110.5	[1.44]	(1.26)	—	—	0.23	—	7.18	—	埋土B
220	土坑	4	X=-135,369 Y=-42,110	1.45	0.86	—	—	0.20	—	7.15	—	埋土C
221	土坑	4	X=-135,368.5 Y=-42,111	[1.75]	1.02	—	—	0.19	—	7.17	—	埋土C
222	土坑	4	X=-135,368 Y=-42,111.8	0.76	(0.30)	—	—	0.14	—	7.24	—	埋土A
223	土坑	4	X=-135,370 Y=-42,111.7	—	—	—	—	—	—	—	—	第4層下面遺構 (足跡)
224	土坑	4	X=-135,370.6 Y=-42,113	1.24	0.84	—	—	0.18	—	7.18	—	埋土A
225	土坑	4	X=-135,370.8 Y=-42,110.5	[1.12]	[1.00]	—	—	0.30	—	7.05	—	埋土A
226	土坑	4	X=-135,371.4 Y=-42,111	1.38	1.24	—	—	0.30	—	7.05	—	埋土A
227	土坑	4	X=-135,372 Y=-42,112	[1.56]	1.24	—	—	0.17	—	7.16	—	埋土A
228	土坑	4	X=-135,373 Y=-42,113.5	1.44	1.38	—	—	0.12	—	7.18	—	埋土A
229	土坑	4	X=-135,372.8 Y=-42,111	[1.70]	[1.24]	—	—	0.25	—	7.12	—	埋土B
230	土坑	4	X=-135,372 Y=-42,109	1.46	0.94	—	—	0.28	—	6.98	—	埋土A
231	土坑	4	X=-135,372 Y=-42,109.5	[1.45]	[1.45]	—	—	0.30	—	7.01	—	埋土A
232	土坑	4	X=-135,372.6 Y=-42,110.3	[1.94]	[1.54]	—	—	0.17	—	7.18	—	埋土B
233	土坑	4	X=-135,372.2 Y=-42,108	1.24	[1.12]	—	—	0.34	—	6.92	—	埋土A
234	土坑	4	X=-135,373.3 Y=-42,108.5	0.92	0.56	—	—	0.21	—	7.06	—	埋土B
235	土坑	4	X=-135,374.5 Y=-42,109.5	1.80	1.14	—	—	0.22	—	7.06	—	埋土A
236	土坑	4	X=-135,375 Y=-42,108.3	[1.25]	1.05	—	—	0.23	—	7.01	—	埋土C
237	土坑	4	X=-135,376 Y=-42,108.5	1.64	(1.48)	—	—	0.23	—	7.01	—	埋土C
238	土坑	4	X=-135,377.2 Y=-42,109.5	(1.90)	(1.22)	—	—	0.43	—	6.78	—	埋土B
239	土坑	4	X=-135,376 Y=-42,111	2.36	1.46	—	—	0.22	—	7.08	—	埋土B
240	土坑	4	X=-135,374 Y=-42,111.7	1.66	1.26	—	—	0.18	—	7.13	—	埋土A
241	土坑	4	X=-135,374.2 Y=-42,113	1.46	0.98	—	—	0.15	—	7.16	—	埋土A
242	土坑	4	X=-135,373.5 Y=-42,116	(1.38)	(0.48)	—	—	0.11	—	7.19	—	埋土A
243	土坑	4	X=-135,373.7 Y=-42,115.3	2.38	[1.48]	—	—	0.10	—	7.20	—	埋土C
244	欠番											
245	土坑	4	X=-135,375 Y=-42,115	2.12	1.34	—	—	0.16	—	7.15	—	埋土C

遺構一覧

遺構名	トレンチ	位置 (座標)	長辺・軸・径	短辺・軸・径	幅		検出面からの深さ		底の標高値 (T.P.+)	軸方向 N-°-○	備考	
					最大	最小	最深(高)	最浅(低)				
246	土坑	4	X=-135,375.8 Y=-42,116.5	1.80	1.24	—	—	0.17	—	7.11	—	埋土A
247	土坑	4	X=-135,376 Y=-42,113	2.58	1.36	—	—	0.18	—	7.13	—	埋土C
248	土坑	4	X=-135,378 Y=-42,112.3	1.92	1.48	—	—	0.32	—	6.94	—	埋土C
249	土坑	4	X=-135,380 Y=-42,112.4	(1.26)	(0.42)	—	—	0.30	—	6.95	—	埋土A
250	土坑	4	X=-135,380.5 Y=-42,114	(1.98)	1.54	—	—	0.22	—	7.14	—	埋土A
251	土坑	4	X=-135,378.5 Y=-42,114.4	1.80	1.58	—	—	0.19	—	7.09	—	埋土A
252	土坑	4	X=-135,377.4 Y=-42,114	2.06	1.20	—	—	0.12	—	7.13	—	埋土A
253	欠番											
254	土坑	4	X=-135,375 Y=-42,118.5	(2.56)	1.42	—	—	0.44	—	6.84	—	埋土A
255	土坑	4	X=-135,377 Y=-42,120	—	—	—	—	—	—	—	—	足跡
256	土坑	4	X=-135,379.5 Y=-42,118	2.40	0.62	—	—	0.29	—	7.06	—	埋土D
257	溝	4	X=-135,402.5 Y=-42,142.5	14.20	—	1.60	0.50	—	—	—	N-53-E	
258	土坑	4	X=-135,369 Y=-42,112	1.38	1.08	—	—	0.30	—	7.09	—	埋土A
259	土坑	4	X=-135,370 Y=-42,103	0.72	0.70	—	—	0.18	—	6.78	—	埋土A
260	土坑	4	X=-135,370.5 Y=-42,102	[1.36]	[1.16]	—	—	0.26	—	6.72	—	埋土C
261	土坑	4	X=-135,371 Y=-42,102.7	(1.10)	(0.90)	—	—	不明	—	不明	—	埋土B
262	土坑	4	X=-135,351.5 Y=-42,097.3	1.02	(0.58)	—	—	0.42	—	6.88	—	埋土不明
263	土坑	4	X=-135,349 Y=-42,089	(1.44)	(1.04)	—	—	0.62	—	6.74	—	埋土A'
264	土坑	4	X=-135,360 Y=-42,102	0.48	0.32	—	—	0.11	—	7.11	—	埋土D
265	土坑	4	X=-135,370 Y=-42,113.7	(2.42)	(0.42)	—	—	0.39	—	6.88	—	埋土A
266	土坑	4	X=-135,381.5 Y=-42,115.5	1.44	0.88	—	—	0.06	—	7.27	—	埋土A
267	土坑	4	X=-135,379 Y=-42,121.5	0.98	(0.23)	—	—	0.14	—	7.19	—	埋土A
268	土坑	4	X=-135,379.2 Y=-42,121	0.68	0.42	—	—	0.09	—	7.24	—	埋土A
269	土坑	4	X=-135,380.4 Y=-42,121	1.78	1.32	—	—	0.32	—	7.02	—	埋土A
270	土坑	4	X=-135,389.5 Y=-42,131	(1.18)	[1.14]	—	—	不明	—	不明	—	埋土A
271	土坑	4	X=-135,380 Y=-42,123.7	(1.55)	(0.42)	—	—	0.15	—	7.18	—	埋土A
272	土坑	4	X=-135,382 Y=-42,122.5	1.63	1.15	—	—	0.26	—	7.11	—	埋土B
273	土坑	4	X=-135,382 Y=-42,121.7	(1.55)	1.05	—	—	0.30	—	7.11	—	埋土A
274	土坑	4	X=-135,382 Y=-42,121.3	[1.80]	0.89	—	—	2.50	—	7.15	—	埋土C
275	土坑	4	X=-135,380.5 Y=-42,125	(0.54)	(0.54)	—	—	0.22	—	7.11	—	埋土A
276	土坑	4	X=-135,381 Y=-42,124.6	(0.80)	(0.36)	—	—	0.22	—	7.12	—	埋土A
277	土坑	4	X=-135,382 Y=-42,124	(1.32)	1.30	—	—	0.25	—	7.08	—	埋土C
278	土坑	4	X=-135,381.3 Y=-42,123	[1.32]	1.00	—	—	0.33	—	7.06	—	埋土A
279	土坑	4	X=-135,384 Y=-42,123	[1.84]	1.65	—	—	0.27	—	7.18	—	埋土A
280	土坑	4	X=-135,383 Y=-42,124.4	[1.80]	(1.10)	—	—	0.25	—	7.07	—	埋土C
281	土坑	4	X=-135,384.4 Y=-42,125.5	(1.60)	(0.75)	—	—	0.29	—	7.03	—	埋土A
282	土坑	4	X=-135,383.5 Y=-42,121.5	1.38	1.12	—	—	0.28	—	7.05	—	埋土A
283	土坑	4	X=-135,384 Y=-42,120	2.06	1.28	—	—	0.32	—	7.03	—	埋土C
284	土坑	4	X=-135,385.5 Y=-42,119.5	1.22	1.00	—	—	0.25	—	7.06	—	埋土A
285	土坑	4	X=-135,385 Y=-42,120.5	[1.90]	[1.14]	—	—	0.19	—	7.10	—	埋土A
286	土坑	4	X=-135,385 Y=-42,121.5	1.65	[1.44]	—	—	0.30	—	7.04	—	埋土A
287	土坑	4	X=-135,386 Y=-42,120	(1.30)	(1.20)	—	—	不明	—	不明	—	埋土A
288	土坑	4	X=-135,386.3 Y=-42,121	[1.40]	[0.90]	—	—	0.21	—	7.09	—	埋土A
289	土坑	4	X=-135,387 Y=-42,121.5	[1.40]	[1.40]	—	—	0.18	—	7.11	—	埋土A
290	土坑	4	X=-135,387.5 Y=-42,121	[1.40]	(1.20)	—	—	不明	—	不明	—	埋土A
291	土坑	4	X=-135,385 Y=-42,124	[2.10]	[1.00]	—	—	0.31	—	7.01	—	埋土A
292	土坑	4	X=-135,387 Y=-42,123	[2.60]	[2.30]	—	—	0.37	—	6.95	—	埋土B
293	土坑	4	X=-135,388 Y=-42,125	[1.54]	1.34	—	—	0.36	—	6.87	—	埋土不明
294	土坑	4	X=-135,385.5 Y=-42,122.3	[1.54]	[0.74]	—	—	不明	—	不明	—	埋土A

遺構一覧

遺構名	トレンチ	位置 (座標)	長辺・軸・径	短辺・軸・径	幅		検出面からの深さ		底の標高値 (T.P.+)	軸方向 N-°-○	備考	
					最大	最小	最深(高)	最浅(低)				
295	土坑	4	X=-135,385.7 Y=-42,126	[1.94]	1.19	—	—	0.33	—	7.00	—	埋土A
296	土坑	4	X=-135,387 Y=-42,125	[1.96]	1.40	—	—	0.25	—	7.08	—	埋土C
297	土坑	4	X=-135,388.3 Y=-42,124	[1.63]	(0.90)	—	—	不明	—	不明	—	埋土A
298	土坑	4	X=-135,388.4 Y=-42,122.3	(1.74)	[1.72]	—	—	0.30	—	6.93	—	埋土A
299	土坑	4	X=-135,387 Y=-42,130	(2.30)	(1.20)	—	—	0.53	—	6.74	—	埋土A
300	土坑	4	X=-135,386 Y=-42,129	(1.03)	(0.60)	—	—	0.41	—	6.87	—	埋土A
301	土坑	4	X=-135,387 Y=-42,128.5	0.98	0.92	—	—	0.31	—	6.96	—	埋土B
302	土坑	4	X=-135,386 Y=-42,128	(1.12)	(0.62)	—	—	0.34	—	6.97	—	埋土A
303	土坑	4	X=-135,387.5 Y=-42,127	1.96	1.34	—	—	0.41	—	6.94	—	埋土A
304	土坑	4	X=-135,389 Y=-42,126.5	1.42	0.72	—	—	0.30	—	6.97	—	埋土D
305	土坑	4	X=-135,388.4 Y=-42,126.2	[1.24]	0.82	—	—	0.20	—	7.08	—	埋土A
306	土坑	4	X=-135,391 Y=-42,126.5	(2.14)	1.24	—	—	0.25	—	6.93	—	埋土A
307	土坑	4	X=-135,389.5 Y=-42,125	[2.36]	1.32	—	—	0.27	—	6.96	—	埋土B
308	水みち	5	X=-135,419 Y=-42,144	(7.90)	—	0.70	0.60	0.135	0.111	6.981	N-48-E	
309	畦畔	5	X=-135,442 Y=-42,127.5	(5.80)	—	0.50	0.45	+0.056	+0.052	7.033	N-37-W	
310	土坑	4	X=-135,391 Y=-42,125	(1.80)	(1.00)	—	—	0.27	—	6.95	—	埋土A
311	土坑	5	X=-135,418 Y=-42,145	1.3	0.9	—	—	不明	—	不明	—	
312	土坑	4	X=-135,390 Y=-42,124	(1.62)	(0.94)	—	—	0.22	—	7.01	—	埋土A
313	土坑	4	X=-135,389 Y=-42,130	1.78	(1.25)	—	—	0.27	—	6.95	—	埋土B
314	土坑	4	X=-135,388 Y=-42,129.2	(0.84)	0.84	—	—	0.27	—	6.96	—	埋土B
315	土坑	4	X=-135,389 Y=-42,128.5	1.92	1.60	—	—	0.36	—	6.91	—	埋土A
316	土坑	4	X=-135,391 Y=-42,131.3	(1.54)	1.38	—	—	0.34	—	6.77	—	埋土B
317	土坑	4	X=-135,391.4 Y=-42,133	(1.48)	1.38	—	—	0.34	—	6.77	—	埋土A
318	土坑	4	X=-135,392.5 Y=-42,135	[2.28]	(0.98)	—	—	0.29	—	6.84	—	埋土B
319	土坑	4	X=-135,392 Y=-42,128	(1.46)	[1.44]	—	—	0.29	—	6.89	—	埋土A
320	土坑	4	X=-135,392.5 Y=-42,128.8	(1.34)	(1.12)	—	—	0.29	—	6.86	—	埋土A
321	土坑	4	X=-135,393.5 Y=-42,129.5	(1.40)	(0.65)	—	—	0.24	—	6.91	—	埋土D
322	土坑	4	X=-135,390.3 Y=-42,128.4	1.36	1.08	—	—	0.36	—	6.86	—	埋土B
323	土坑	4	X=-135,391 Y=-42,129.3	1.46	[1.34]	—	—	0.33	—	6.86	—	埋土A
324	土坑	4	X=-135,392 Y=-42,130	1.64	1.34	—	—	0.33	—	6.86	—	埋土B
325	土坑	4	X=-135,392.5 Y=-42,132	1.48	0.98	—	—	0.51	—	7.30	—	埋土A
326	土坑	(2)	X=-135,334.6 Y=-42,068.7	(0.55)	(0.40)	—	—	0.341	—	7.463	—	埋土B
327	土坑	(2)	X=-135,334.1 Y=-42,067.1	(0.55)	(0.40)	—	—	0.279	—	7.536	—	埋土A
328	土坑	(2)	X=-135,333.3 Y=-42,067.3	(0.75)	(0.20)	—	—	0.057	—	7.701	—	埋土A?
329	土坑	4	X=-135,396.5 Y=-42,133.5	1.58	1.14	—	—	0.22	—	6.79	—	埋土A'
330	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	47土坑に併合
331	土坑	(2)	X=-135,331.3 Y=-42,064.5	(1.55)	(0.90)	—	—	0.274	—	7.400	—	埋土A
332	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	35土坑に併合
333	土坑	(2)	X=-135,328.2 Y=-42,061.1	[1.79]	1.19	—	—	0.237	—	7.450	—	埋土B
334	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	31土坑に併合
335	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	27土坑に併合
336	土坑	(2)	X=-135,325.3 Y=-42,057.6	2.13	1.66	—	—	0.234	—	7.437	—	埋土A
337	土坑	(2)	X=-135,324.3 Y=-42,055.5	2.31	1.29	—	—	0.273	—	7.418	—	埋土A
338	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	26土坑に併合
339	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	29土坑に併合
340	土坑	(2)	X=-135,327.5 Y=-42,053.3	(2.10)	0.95	—	—	0.135	—	7.555	—	埋土C
341	土坑	(2)	X=-135,325 Y=-42,050.3	(1.40)	1.40	—	—	0.578	—	7.463	—	埋土B
342	土坑	(2)	X=-135,325.6 Y=-42,050.5	(1.15)	(0.65)	—	—	0.244	—	7.515	—	埋土B
343	土坑	(2)	X=-135,325 Y=-42,051	(1.45)	(0.85)	—	—	0.308	—	7.451	—	埋土A
344	土坑	4	X=-135,396 Y=-42,135	1.58	0.88	—	—	0.26	—	6.75	—	埋土A
345	土坑	(2)	X=-135,324.7 Y=-42,050	(1.99)	1.13	—	—	0.172	—	7.415	—	埋土A

遺構一覧

遺構名	トレンチ	位置 (座標)	長辺・軸・径	短辺・軸・径	幅		検出面からの深さ		底の標高値 (T.P.+)	軸方向 N-°-○	備考	
					最大	最小	最深(高)	最浅(低)				
346	土坑	(2)	X=-135,324.4 Y=-42,049.1	(1.10)	(0.40)	—	—	0.114	—	7.401	—	埋土C
347	土坑	(2)	X=-135,323.3 Y=-42,049.4	0.95	(0.20)	—	—	0.257	—	7.332	—	埋土A
348	土坑	(2)	X=-135,323.5 Y=-42,048.5	2.00	1.45	—	—	0.645	—	6.944	—	埋土B
349	土坑	(2)	X=-135,321.9 Y=-42,047	[1.75]	1.15	—	—	0.386	—	6.946	—	埋土B
350	土坑	(2)	X=-135,322.9 Y=-42,047	(1.75)	(0.25)	—	—	0.146	—	7.186	—	埋土C
351	土坑	(2)	X=-135,321.9 Y=-42,046	1.35	(1.20)	—	—	0.313	—	7.021	—	埋土不明
352	土坑	(2)	X=-135,322.6 Y=-42,047.4	[1.05]	[0.70]	—	—	0.319	—	7.013	—	埋土A
353	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	462土坑に併合
354	土坑	(2)	X=-135,322.4 Y=-42,048.3	(1.20)	(0.35)	—	—	0.194	—	7.395	—	埋土A?
355	土坑	4	X=-135,394 Y=-42,134	2.08	1.55	—	—	0.28	—	6.82	—	埋土A
356	土坑	4	X=-135,393.5 Y=-42,135.5	(0.98)	(0.25)	—	—	0.24	—	6.79	—	埋土A
357	土坑	4	X=-135,393 Y=-42,132.7	1.24	0.82	—	—	0.24	—	6.84	—	埋土B
358	土坑	4	X=-135,394 Y=-42,130.5	1.72	[1.28]	—	—	0.36	—	6.76	—	埋土B
359	土坑	4	X=-135,394 Y=-42,132	1.24	1.08	—	—	0.33	—	6.78	—	埋土A
360	土坑	4	X=-135,395.5 Y=-42,131	(1.88)	(0.48)	—	—	不明	—	不明	—	埋土A
361	土坑	4	X=-135,395.5 Y=-42,132	1.42	[0.96]	—	—	0.32	—	6.79	—	埋土A
362	土坑	4	X=-135,394.8 Y=-42,133	1.65	[0.95]	—	—	0.33	—	6.75	—	埋土A
363	土坑	4	X=-135,395.5 Y=-42,132.5	[1.65]	[1.21]	—	—	0.26	—	6.79	—	埋土A
364	土坑	4	X=-135,396.5 Y=-42,132.3	(0.66)	(0.24)	—	—	不明	—	不明	—	埋土不明
365	土坑	4	X=-135,397.3 Y=-42,133	(1.34)	(0.50)	—	—	0.18	—	6.78	—	埋土不明
366	土坑	4	X=-135,395 Y=-42,136	2.14	(1.65)	—	—	0.46	—	6.57	—	埋土A
367	土坑	4	X=-135,397.8 Y=-42,135	[1.50]	1.36	—	—	0.18	—	6.76	—	埋土A
368	土坑	4	X=-135,398 Y=-42,136	1.42	[1.16]	—	—	0.18	—	6.64	—	埋土A
369	土坑	4	X=-135,396.7 Y=-42,135	[1.12]	0.88	—	—	0.16	—	6.79	—	埋土A
370	土坑	4	X=-135,399.5 Y=-42,136.4	(1.44)	1.38	—	—	0.28	—	6.56	—	埋土A
371	土坑	4	X=-135,398.3 Y=-42,137	1.24	0.92	—	—	0.18	—	6.64	—	埋土A
372	土坑	4	X=-135,397 Y=-42,136.5	1.42	[1.12]	—	—	0.22	—	6.55	—	埋土A
373	土坑	4	X=-135,396.5 Y=-42,137	1.68	[0.98]	—	—	0.23	—	6.61	—	埋土A
374	土坑	4	X=-135,396 Y=-42,137.4	1.44	(0.71)	—	—	0.35	—	6.55	—	埋土A
375	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	51土坑に併合
376	土坑	4	X=-135,397 Y=-42,140	(1.98)	1.22	—	—	0.31	—	6.62	—	埋土C
377	土坑	4	X=-135,397.5 Y=-42,140.2	(1.78)	(0.40)	—	—	0.09	—	6.81	—	埋土不明
378	土坑	4	X=-135,401.8 Y=-42,141.5	2.17	1.10	—	—	0.29	—	6.51	—	埋土A
379	土坑	4	X=-135,403.2 Y=-42,143.5	1.58	1.00	—	—	0.34	—	6.45	—	埋土A
380	土坑	4	X=-135,402.9 Y=-42,144.7	2.18	(1.04)	—	—	0.39	—	6.41	—	埋土A
381	土坑	6	X=-135,401 Y=-42,070	(1.68)	(1.12)	—	—	0.383	—	6.812	—	埋土A
382	土坑	6	X=-135,402.8 Y=-42,071	(0.95)	(0.30)	—	—	不明	—	不明	—	埋土不明
383	土坑	6	X=-135,403.3 Y=-42,071.4	(0.58)	(0.25)	—	—	不明	—	不明	—	埋土不明
384	土坑	6	X=-135,400.4 Y=-42,071	(0.98)	(0.30)	—	—	不明	—	不明	—	埋土A
385	土坑	6	X=-135,401.5 Y=-42,071.8	2.03	1.40	—	—	0.530	—	6.750	—	埋土A
386	土坑	6	X=-135,400.5 Y=-42,072.4	(0.65)	(0.30)	—	—	0.291	—	6.909	—	埋土A
387	土坑	6	X=-135,400.4 Y=-42,073	(0.54)	(0.35)	—	—	0.281	—	6.881	—	埋土B
388	土坑	6	X=-135,400.5 Y=-42,073.5	(0.58)	(0.28)	—	—	0.250	—	6.912	—	埋土A
389	土坑	6	X=-135,400.5 Y=-42,073	不明	不明	—	—	不明	—	不明	—	埋土A
390	土坑	6	X=-135,401.5 Y=-42,073	1.60	1.12	—	—	0.237	—	6.862	—	埋土A
391	土坑	6	X=-135,403.3 Y=-42,073.2	2.10	1.60	—	—	0.352	—	6.725	—	埋土A
392	土坑	6	X=-135,404 Y=-42,072.2	(0.98)	(0.45)	—	—	不明	—	不明	—	埋土不明
393	土坑	6	X=-135,404.6 Y=-42,072.9	(0.68)	(0.35)	—	—	不明	—	不明	—	埋土不明
394	土坑	6	X=-135,404.8 Y=-42,073.5	(1.98)	(0.90)	—	—	0.38	—	6.727	—	埋土A

遺構一覧

遺構名	トレンチ	位置(座標)	長辺・軸・径	短辺・軸・径	幅		検出面からの深さ		底の標高値 (T.P.+)	軸方向 N-°-○	備考	
					最大	最小	最深(高)	最浅(低)				
395	土坑	6	X=-135,406 Y=-42,074.4	(0.92)	(0.35)	—	—	不明	—	不明	—	埋土不明
396	土坑	6	X=-135,405.5 Y=-42,075	1.86	1.42	—	—	0.255	—	6.859	—	埋土A
397	土坑	6	X=-135,403.5 Y=-42,075.3	(1.50)	(0.60)	—	—	0.210	—	7.030	—	埋土A
398	土坑	6	X=-135,403 Y=-42,074.7	(1.60)	1.34	—	—	0.230	—	7.020	—	埋土A
399	土坑	6	X=-135,402.3 Y=-42,074.3	(1.08)	(0.60)	—	—	0.170	—	7.065	—	埋土A
400	土坑	6	X=-135,404 Y=-42,076.2	(1.15)	(1.05)	—	—	0.202	—	6.945	—	埋土A
401	土坑	6	X=-135,405 Y=-42,077.3	(1.60)	(1.15)	—	—	0.163	—	6.951	—	埋土A
402	土坑	6	X=-135,406 Y=-42,077.1	(0.98)	(0.38)	—	—	不明	—	不明	—	埋土A
403	土坑	6	X=-135,406.3 Y=-42,076.5	(1.60)	(1.30)	—	—	0.182	—	6.896	—	埋土A
404	土坑	6	X=-135,407 Y=-42,075.6	(1.30)	(0.50)	—	—	不明	—	不明	—	埋土不明
405	土坑	6	X=-135,400.4 Y=-42,069.3	(1.00)	(0.80)	—	—	不明	—	不明	—	埋土不明
406	土坑	6	X=-135,399.2 Y=-42,069.3	0.92	(0.60)	—	—	不明	—	不明	—	埋土不明
407	土坑	(3)	X=-135,311.8 Y=-42,036.7	1.25	[0.85]	—	—	0.433	—	7.571	—	埋土B
408	土坑	(3)	X=-135,310.5 Y=-42,037.5	2.37	2.00	—	—	0.560	—	7.410	—	埋土B
409	土坑	(3)	X=-135,313 Y=-42,040	[1.36]	[1.10]	—	—	不明	—	不明	—	埋土A
410	土坑	(3)	X=-135,312 Y=-42,041.4	(0.92)	0.90	—	—	0.648	—	7.370	—	埋土B
411	土坑	(3)	X=-135,314 Y=-42,039	1.90	1.60	—	—	0.496	—	7.482	—	埋土A'
412	土坑	(3)	X=-135,314.7 Y=-42,040.3	0.75	0.55	—	—	0.453	—	7.539	—	埋土A
413	土坑	(3)	X=-135,313 Y=-42,042.3	(1.80)	(1.05)	—	—	0.490	—	7.510	—	埋土B
414	土坑	(3)	X=-135,314.5 Y=-42,042	(1.90)	1.65	—	—	0.670	—	7.170	—	埋土A'
415	土坑	(3)	X=-135,316 Y=-42,042	1.46	(1.05)	—	—	0.460	—	7.460	—	埋土A
416	土坑	(3)	X=-135,315.5 Y=-42,041	(1.50)	(0.85)	—	—	0.362	—	7.582	—	埋土B
417	土坑	(3)	X=-135,316.5 Y=-42,042.5	(1.70)	1.55	—	—	0.545	—	7.438	—	埋土A
418	土坑	(3)	X=-135,317 Y=-42,042	(1.35)	1.05	—	—	0.513	—	7.428	—	埋土A
419	土坑	(3)	X=-135,315.5 Y=-42,045	1.70	(1.15)	—	—	0.520	—	7.450	—	埋土A
420	土坑	(3)	X=-135,316.6 Y=-42,044.5	1.45	0.85	—	—	0.435	—	7.533	—	埋土B
421	土坑	(3)	X=-135,312 Y=-42,040	1.75	0.90	—	—	0.670	—	7.330	—	埋土A
422	土坑	(3)	X=-135,318 Y=-42,044	1.85	1.05	—	—	0.538	—	7.429	—	埋土B
423	土坑	(3)	X=-135,320 Y=-42,044	1.38	0.90	—	—	0.742	—	7.224	—	埋土A
424	土坑	(3)	X=-135,316 Y=-42,046.5	(1.70)	(0.75)	—	—	0.510	—	7.426	—	埋土A
425	土坑	(3)	X=-135,317.6 Y=-42,046.7	1.45	1.10	—	—	0.531	—	7.409	—	埋土B
426	土坑	(3)	X=-135,318 Y=-42,047	0.60	0.25	—	—	不明	—	不明	—	埋土A
427	土坑	(3)	X=-135,319 Y=-42,045.5	1.85	1.35	—	—	0.590	—	7.330	—	埋土B
428	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	462土坑に併合
429	土坑	(3)	X=-135,311 Y=-42,038	(1.10)	(1.00)	—	—	0.480	—	7.570	—	埋土A
430	土坑	(3)	X=-135,318 Y=-42,042	(1.75)	(0.40)	—	—	0.104	—	7.850	—	埋土B
431	土坑	(3)	X=-135,315 Y=-42,043.5	1.85	1.70	—	—	0.561	—	7.399	—	埋土B
432	土坑	(4)	X=-135,326 Y=-42,064.5	(2.10)	(0.95)	—	—	0.450	—	7.170	—	埋土B
433	土坑	(4)	X=-135,326.9 Y=-42,063.3	(1.45)	1.20	—	—	0.280	—	7.380	—	埋土A
434	土坑	(4)	X=-135,327.9 Y=-42,063.2	(0.95)	(0.40)	—	—	0.081	—	7.574	—	埋土A
435	土坑	(4)	X=-135,327.7 Y=-42,062.5	1.45	1.30	—	—	0.420	—	7.270	—	埋土A
436	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	333土坑と併合 (図・写真有り)
437	土坑	(5)	X=-135,270 Y=-41,990	3.49	2.54	—	—	0.52	—	7.95	—	
438	ピット	(6)	X=-135,300 Y=-42,026.5	0.25	0.25	—	—	0.15	—	8.04	—	
439	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	336土坑に併合
440	土坑	(4)	X=-135,323.4 Y=-42,057.9	1.55	1.15	—	—	0.301	—	7.441	—	埋土A
441	土坑	(4)	X=-135,325.4 Y=-42,059.7	1.90	1.35	—	—	0.273	—	7.469	—	埋土不明
442	土坑	(4)	X=-135,320.6 Y=-42,057	1.85	[1.40]	—	—	0.198	—	7.572	—	埋土A
443	土坑	(4)	X=-135,320.7 Y=-42,058.5	[2.70]	(1.15)	—	—	0.354	—	7.416	—	埋土A

遺構一覧

遺構名	トレンチ	位置(座標)	長辺・軸・径	短辺・軸・径	幅		検出面からの深さ		底の標高値 (T.P.+)	軸方向 N-°-○	備考	
					最大	最小	最深(高)	最浅(低)				
444	土坑	(4)	X=-135,321.8 Y=-42,059.4	(1.20)	[1.20]	—	—	0.288	—	7.393	—	埋土A
445	土坑	(4)	X=-135,322.9 Y=-42,060	1.55	1.20	—	—	0.328	—	7.362	—	埋土A'
446	土坑	(4)	X=-135,325.9 Y=-42,059.8	(1.10)	0.85	—	—	0.100	—	7.562	—	埋土A
447	土坑	(4)	X=-135,325.4 Y=-42,059.7	0.65	0.55	—	—	0.198	—	7.491	—	埋土A?
448	土坑	(4)	X=-135,324.7 Y=-42,059.9	2.00	0.70	—	—	0.290	—	7.391	—	埋土A
449	土坑	(4)	X=-135,324.5 Y=-42,061.5	1.35	0.90	—	—	0.271	—	7.419	—	埋土不明
450	土坑	(4)	X=-135,325.8 Y=-42,062	1.40	1.20	—	—	0.230	—	7.420	—	埋土A
451	土坑	(4)	X=-135,325.5 Y=-42,063	1.35	1.15	—	—	0.410	—	7.240	—	埋土B
452	土坑	(4)	X=-135,324.2 Y=-42,062.5	(1.20)	(0.40)	—	—	0.077	—	7.613	—	埋土A'
453	土坑	(4)	X=-135,323.4 Y=-42,061.5	(0.60)	(0.10)	—	—	0.039	—	7.651	—	埋土A
454	土坑	(4)	X=-135,327.3 Y=-42,060.7	(0.70)	(0.25)	—	—	0.104	—	7.558	—	足跡
455	土坑	(4)	X=-135,326.8 Y=-42,060.2	(0.55)	(0.40)	—	—	0.110	—	7.552	—	埋土A
456	井戸	7	X=-135,313 Y=-41,898.5	2.30	2.00	—	—	1.09	—	7.01	—	
457	井戸	7	X=-135,312.5 Y=-41,900	(1.20)	(0.24)	—	—	0.27	—	7.82	—	
458	井戸	7	X=-135,311 Y=-41,900	(2.30)	(1.05)	—	—	1.27	—	6.85	—	
459	井戸	7	X=-135,313 Y=-41,901.5	3.29	(1.80)	—	—	1.03	—	7.10	—	
460	井戸	7	X=-135,315 Y=-41,902	3.00	2.64	—	—	0.91	—	7.19	—	
461	井戸	7	X=-135,311.5 Y=-41,905	1.80	1.85	—	—	1.35	—	6.72	—	
462	土坑	(4)	X=-135,319.7 Y=-42,046.1	1.89	1.62	—	—	1.480	—	7.210	—	埋土B
463	土坑	(4)	X=-135,319.8 Y=-42,046.5	1.15	0.70	—	—	0.294	—	7.635	—	埋土A
464	土坑	(4)	X=-135,319.6 Y=-42,050.5	(0.70)	0.65	—	—	0.270	—	7.600	—	埋土D
465	土坑	(4)	X=-135,318.9 Y=-42,050.1	1.50	(0.96)	—	—	0.320	—	7.610	—	埋土A
466	土坑	(4)	X=-135,319.2 Y=-42,048.7	1.10	(0.82)	—	—	0.370	—	7.540	—	埋土B
467	土坑	(4)	X=-135,320.5 Y=-42,047.9	2.25	1.40	—	—	0.250	—	7.620	—	埋土D?
468	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	349土坑に併合
469	土坑	(4)	X=-135,320.2 Y=-42,049.2	1.30	1.17	—	—	1.180	—	7.710	—	埋土D
470	土坑	(4)	X=-135,321.1 Y=-42,048.8	1.00	0.60	—	—	0.429	—	7.452	—	埋土D
471	土坑	(4)	X=-135,322 Y=-42,048.5	1.10	0.90	—	—	0.446	—	7.719	—	埋土D?
472	土坑	(4)	X=-135,321.4 Y=-42,049.3	1.27	0.80	—	—	0.380	—	7.510	—	埋土A
473	土坑	(4)	X=-135,321.1 Y=-42,051	2.67	1.50	—	—	0.620	—	7.206	—	埋土B
474	土坑	(4)	X=-135,318.4 Y=-42,053.2	(1.45)	(0.50)	—	—	0.174	—	7.656	—	埋土A
475	土坑	(4)	X=-135,317.4 Y=-42,054	(1.30)	(0.40)	—	—	0.094	—	7.736	—	埋土A'
476	土坑	(4)	X=-135,323.4 Y=-42,050	1.20	1.10	—	—	0.464	—	7.369	—	埋土D
477	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	345土坑に併合
478	土坑	(4)	X=-135,322.5 Y=-42,051.5	1.00	0.80	—	—	0.270	—	7.563	—	埋土A
479	土坑	(4)	X=-135,323.1 Y=-42,051.5	[1.55]	1.10	—	—	0.271	—	7.537	—	埋土A
480	土坑	(4)	X=-135,321.4 Y=-42,052.8	1.85	1.40	—	—	0.192	—	7.616	—	埋土A
481	土坑	(4)	X=-135,324.9 Y=-42,051.5	0.65	0.40	—	—	0.199	—	7.585	—	埋土A
482	土坑	(4)	X=-135,324 Y=-42,052.8	0.60	0.37	—	—	0.360	—	7.410	—	埋土A
483	ピット	(4)	X=-135,325.5 Y=-42,053.2	0.50	0.34	—	—	0.220	—	7.570	—	
484	土坑	(4)	X=-135,323.9 Y=-42,052.8	0.80	(0.53)	—	—	0.290	—	7.480	—	埋土A
485	土坑	(4)	X=-135,322.9 Y=-42,053	1.04	0.80	—	—	0.290	—	7.480	—	埋土D
486	土坑	(4)	X=-135,325 Y=-42,054.3	1.20	(0.70)	—	—	0.170	—	7.618	—	埋土A
487	土坑	(4)	X=-135,318.7 Y=-42,056.5	(1.15)	(0.50)	—	—	0.085	—	7.685	—	埋土A
488	土坑	(4)	X=-135,322.4 Y=-42,053.7	1.60	1.50	—	—	0.390	—	7.350	—	埋土A
489	土坑	(4)	X=-135,326.8 Y=-42,060.2	2.40	1.30	—	—	0.530	—	7.230	—	埋土B
490	土坑	(4)	X=-135,319.5 Y=-42,055.32	(2.00)	1.80	—	—	0.480	—	7.260	—	埋土A
491	土坑	(4)	X=-135,318.3 Y=-42,054.5	1.40	0.36	—	—	0.330	—	7.470	—	埋土A
492	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	337土坑に併合
493	土坑	(4)	X=-135,322.4 Y=-42,055.9	(1.40)	1.40	—	—	0.273	—	7.469	—	埋土A

遺構一覧

遺構名	トレンチ	位置 (座標)	長辺・軸・径	短辺・軸・径	幅		検出面からの深さ		底の標高値 (T.P.+)	軸方向 N-°-○	備考	
					最大	最小	最深(高)	最浅(低)				
494	土坑	(4)	X=-135,319.5 Y=-42,052.2	1.50	(0.35)	—	—	0.237	—	7.593	—	埋土C
495	土坑	7	X=-135,333 Y=-41,928.5	2.00	1.50	—	—	0.41	—	7.57	—	
496	柱穴	7	X=-135,377 Y=-41,980.5	(0.92)	0.40	—	—	—	—	—	—	旧建物 23
497	井戸	7	X=-135,330 Y=-41,917	1.95	1.50	—	—	0.88	—	7.11	—	
498	溝	7	X=-135,330 Y=-41,921	10.00	—	6.5	1.3	0.64	0.55	7.33	N-0-E	
499	溝	7	X=-135,330 Y=-41,924	10.00	—	2.7	2.1	0.72	0.70	7.18	N-8-W	
500	溝	7	X=-135,345 Y=-41,941	10.00	—	1.04	0.34	0.36	0.30	7.55	N-8-E	
501	土坑	7	X=-135,356 Y=-41,955	(1.90)	0.96	—	—	0.33	—	7.62	—	
502	土坑	7	X=-135,357 Y=-41,957	1.65	9.00	—	—	0.22	—	7.63	—	
503	土坑	7	X=-135,357.5 Y=-41,955	1.75	0.95	—	—	0.32	—	7.62	—	
504	柱穴	7	X=-135,369.5 Y=-41,970	0.72	0.64	—	—	0.31	—	7.61	—	旧建物 22
505	柱穴	7	X=-135,369.5 Y=-41,971.5	1.12	0.70	—	—	0.34	—	7.57	—	旧建物 22
506	柱穴	7	X=-135,372.7 Y=-41,971.5	0.98	1.08	—	—	0.60	—	7.31	—	建物 1
507	柱穴	7	X=-135,373.5 Y=-41,975	1.24	1.22	—	—	0.55	—	7.34	—	建物 1
508	柱穴	7	X=-135,374 Y=-41,971	1.10	(0.44)	—	—	0.48	—	7.37	—	建物 1
509	柱穴	7	X=-135,373 Y=-41,973	(0.68)	(0.24)	—	—	0.16	—	7.64	—	建物 1
510	柱穴	7	X=-135,373.2 Y=-41,973.6	(0.68)	0.64	—	—	0.34	—	7.56	—	建物 1
511	柱穴	7	X=-135,374.7 Y=-41,974.8	(0.61)	(0.48)	—	—	0.44	—	7.40	—	建物 1
512	土坑	7	X=-135,366 Y=-41,959	2.80	2.00	—	—	0.11	—	7.81	—	
513	土坑	7	X=-135,352 Y=-41,947	1.60	0.65	—	—	0.19	—	7.72	—	
514	土坑	7	X=-135,365 Y=-41,965	2.40	0.88	—	—	0.74	—	7.18	—	
515	土坑	7	X=-135,350 Y=-41,947	1.90	0.75	—	—	0.33	—	7.58	—	
516	土坑	7	X=-135,373 Y=-41,968	3.74	1.28	—	—	0.65	—	7.22	—	風倒木
517	土坑	7	X=-135,371 Y=-41,970	(2.20)	1.00	—	—	0.74	—	7.15	—	風倒木
518	ピット	7	X=-135,373 Y=-41,967.7	0.58	0.32	—	—	0.31	—	6.96	—	
519	ピット	7	X=-135,375 Y=-41,978	0.68	0.4	—	—	0.08	—	7.41	—	
520	溝	①	X=-135,227 Y=-41,939	14.2	—	0.80	0.60	0.20	—	7.90	N-24-W	
521	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	437土坑に併合
522	土坑	⑨	X=-135,272.5 Y=-41,997	(1.30)	(0.40)	—	—	0.18	—	8.26	—	
523	犁溝	⑨	X=-135,273.5 Y=-41,997	(1.70)	—	0.30	0.45	不明	—	不明	N-35-W	
524	ピット	⑩	X=-135,282.3 Y=-42,007	0.55	0.40	—	—	0.150	—	8.269	—	
525	ピット	⑩	X=-135,281.3 Y=-41,008	(0.40)	(0.20)	—	—	0.135	—	8.298	—	
526	ピット	⑩	X=-135,280.4 Y=-42,006.5	(0.35)	(0.20)	—	—	0.090	—	8.365	—	
527	ピット	⑩	X=-135,283.5 Y=-42,008	0.30	0.30	—	—	0.078	—	8.282	—	
528	溝	⑥	X=-135,255 Y=-41,971	(1.60)	—	1.80	0.85	0.37	0.41	8.19	N-17-W	
529	溝	⑤⑥	X=-135,257 Y=-41,974.5	(2.30)	—	1.15	1.35	0.35	0.38	8.19	N-15-W	
530	ピット	⑩	X=-135,278 Y=-42,010	0.38	0.38	—	—	0.22	—	8.22	—	
531	流路	⑤⑥	X=-135,255 Y=-41,972	7.60	—	(3.20)	(1.30)	0.77	0.28	7.55	N-24-W	
532	土坑	⑭	X=-135,323 Y=-42,066.5	—	—	—	—	—	—	7.26	—	
533	畦畔	4	X=-135,395.5 Y=-42,133	(10.8)	—	0.90	0.40	+ 0.15	+ 0.09	7.396	N-67-E	
534	耕作痕	5	X=-135,419 Y=-42,148	—	—	—	—	—	—	7.295	—	
535	浸食痕	4	X=-135,403 Y=-42,140	10.7	(2.20)	1.20	0.40	0.107	0.070	7.036	—	
536	浸食溝	5	X=-135,440 Y=-42,126	(4.70)	—	2.80	1.60	0.56	0.30	6.940	N-56-E	
537	浸食溝	4	X=-135,398 Y=-42,135.5	(4.60)	—	2.50	0.80	0.098	0.064	6.838	N-11-E	
538	畦畔	5	X=-135,419 Y=-42,145	(37.8)	—	0.90	0.55	+ 0.040	+ 0.022	6.985	N-32-W	
539	水口	5	X=-135,425 Y=-42,140.8	—	—	0.50	—	0.030	—	6.896	—	
540	畦畔	5	X=-135,424 Y=-42,145	(18.8)	—	0.90	0.60	+ 0.055	+ 0.004	6.920	N-24-W	
541	畦畔	5	X=-135,420 Y=-42,149	(2.30)	—	0.55	0.45	+ 0.041	—	6.898	N-126-W	

遺物一覧

遺物 番号	挿図 番号	図版 番号	種 別	器 形	調査 区名	遺構名 包含層	法量(単位cm)			残存率 (%)	調整・観察・材質等 (→はヘカズリ方向)	外面色調	備 考	時 期
							口径・長	底径・幅	器高・厚					
1	8	43	瓦器	椀	1	2層	—	3.90	(1.10)	10	外摩滅 内:ミガキ,見込み平行暗文	2.5Y7/1 灰白		13C中頃~
2	10	43	土師器	杯身	⑩	3層	[14.60]	—	(3.90)	10	外:指押 内:摩滅	10YR7/4 にぶ い黄橙		
3	10	43	石器	ナイフ形	⑧	2・3層	6.50	2.20	0.80	99	二上山サカト		重さ10.60g	
4	10	43	須恵器	壺	11	10土坑	12.60	—	(17.20)	50	外:姪後姪,底部ヘカズリ, 口縁部歪み 内:回転テ,姪後テ 消し	N6/ 灰	TK43(Ⅱ中頃)	6C後半
5	12	44	輸入陶器	茶碗	4	65井戸	[11.60]	—	(5.90)	15	内外施釉	2.5Y7/3 浅黄	高麗・熊川?	16C後半
6	12	45	白磁	碗	4	2層	[17.60]	—	(4.30)	15	外:露胎部に回転テ 内:施釉	5Y7/1 灰白		12C前半
7	12	45	白磁	碗	4	3層	不明	—	(4.10)	5	内外施釉	5Y7/2 灰白		11C?
8	12	44	須恵器	すり鉢	4	2層	[21.40]	—	(3.40)	5	内外コテ,口縁部に自然 釉付着	N6/ 灰	東播系	12C後半 ~13C
9	12	45	瓦質土器	鉢?	(4)	4層	[18.60]	—	(2.30)	5	外:強いコテ,剥落? 内:指押	2.5Y7/2 灰黄	被熱双付着	14C頃
10	12	44	土製品	犬形	4	1層	4.00	2.00	5.00	80	工具痕?あり		瓦質	
11	12	44	銭貨	祥符通寶	4	1層	2.50	—	0.10	100		7.5Y5/1 灰		
12	12	46	瓦	唐草文 軒平	4	3層	—	—	5.35	10	へりによる成形痕	N4/ 灰	後期難波宮朝堂院 西側区域用,七尾 瓦窯6303型式	8C
13	12	46	土製品	鋳型	4	3層	7.30	—	—	5	沈線あり	5Y4/1 灰		
14	12	44	瓦器	椀	4	3層	—	(5.90)	(3.20)	10	内外ヘカキ	N4/ 灰	楠葉型	11C
15	12	44	黒色土器	椀(A類)	4	3層	—	[5.20]		5	内外摩滅	5YR6/4 にぶ い橙		10C後半
16	12	45	緑釉陶器	碗	(4)	3層	—	5.80	(1.40)	15	外:回転テ・ヘカズリ,削り 出し高台 内:回転テ,ミガキ	5Y7/1 灰白	緑釉陶器の素地?	
17	12	原2 46	緑釉陶器	碗	4	3層	—	(8.80 ~8.90)	3.90	20	内外施釉	5GY7/6 (leaf green)	近江系	9C前半? 中頃
18	12	46	土師器	杯	4	3層	—	[6.00]	2.10	5	内外テ,糸切り底	2.5Y8/1 灰白	外底部に墨書	
19	12	45	須恵器	こね鉢	(4)	2層	[21.00]	—	(5.20)	5	外:姪後テ 消し 内:回転テ	2.5Y7/2 灰黄	Ⅱ後半	6C後半
20	12	45	須恵器	甕		3層	[18.80]	—	(3.60)	5	外:姪後コテ 内:自然釉付着	5Y5/1 灰		
21	12	45	須恵器	甕	(4)	2~4層	[22.00]	—	(4.50)	5	内外回転テ 外:凹線2条,波状文 内:工具痕(文様?)	7.5Y5/1 灰		5C後半?
22	12	46	石器	無茎石鏃	4	3層	(1.80)	1.50	0.30	80	二上山サカト		重さ0.80g	
23	12	46	石器	無茎石鏃	4	3層	2.90	2.50	0.45	95	二上山サカト		重さ2.20g	
24	12	46	石器	有舌 尖頭器	4	39土坑	9.20	3.30	1.00	99	二上山サカト		重さ28.40g	
25	—	44	骨歯	馬	4	3層	3.66	2.50	1.05	—				
26	23	47	須恵器	蓋	4	3層	[11.40]	—	(3.50)	30	外:回転ヘカズリ(→)後テ, 回転テ 内:回転テ	N7/ 灰白		
27	23	47	須恵器	蓋	4	317土坑	[15.60]	—	(3.50)	50	外:回転ヘカズリ(→),回転テ 内:回転テ(螺旋状)	7.5Y5/1 灰	千里産か	6C後半
28	23	47	須恵器	杯H身	6	390土坑	[10.20]	—	(5.85)	30	外:回転テ,静止カズリ(←) 後テ 消し 内:回転テ	N6/ 灰	381土坑と接合	
29	23	47	須恵器	杯H身	4	372土坑	[10.80]	—	5.30	55	外:回転テ,回転ヘカズリ (←) 内:回転テ,見込みに静止 テ	N6/ 灰		
30	23	47	須恵器	杯H身	4	56土坑	14.00	—	5.20	100	外:回転テ,回転ヘカズリ後 テ 内:回転テ,テ	N6/ 灰		6C後半
31	23	47	須恵器	杯H身	4	51土坑	12.90	—	(4.00)	30	外:回転テ,回転ヘカズリ (←) 内:回転テ	N6/ 灰		
32	23	47	須恵器	杯H身	4	424土坑	12.90	—	4.55	95	外:回転テ,回転ヘカズリ (→) 内:回転テ,テ	N6/ 灰~ 2.5Y7/1 灰白		6C後半
33	23	47	須恵器	杯H身	4	291土坑	[18.0]	—	(6.55)	30	外:回転テ,回転ヘカズリ (→) 内:回転テ	N5/ 灰		6C後半
34	23	47	須恵器	提瓶	4	229土坑	6.80	—	22.10	95	外:回転テ,回転テ 内:回転テ,テ	N4/ 灰	214土坑と接合	
35	23	47	須恵器	提瓶	(4)	466土坑	7.80	—	(11.50)	20	外:回転テ,テ 内:回転テ,同心円当具痕	10Y6/1 灰		
36	23	48	須恵器	提瓶	4	303土坑	—	—	(13.00)	30	外:回転テ,回転テ,内: 回転テ,テ	N7/ 灰白		
37	41	48	須恵器	提瓶	4	196土坑	—	—	(17.00)	30	外:平行姪後回転テ,格 子状姪後回転テ 内:テ, 回転テ		201・205土坑と接 合	
38	23	48	須恵器	壺	(2)	348土坑	[14.60]	—	(3.65)	5	内外回転テ	5Y7/1 灰白		
39	23	48	須恵器	甕	4	28土坑	[16.80]	—	(3.80)	5	内外回転テ	N6/ 灰		6C中頃?

遺物一覽

遺物番号	挿図番号	図版番号	種別	器形	調査区名	遺構名 包含層	法量(単位cm)			残存率 (%)	調整・観察・材質等 (→はハツスリ方向)	外面色調	備考	時期
							口径・長	底径・幅	器高・厚					
40	23	48	須恵器	甗	4	358土坑	[19.60]	—	(3.40)	5	内外回転テ	N3/ 灰		7C後半?
41	23	48	須恵器	甗	⑭	532土坑	[14.90]	—	(8.20)	10	内外摩滅, 外: 舂? 内: 同心円当具痕	10YR8/2 灰白		
42	23	48	須恵器	甗	4	303土坑	[17.00]	—	(8.40)	5	外: 回転テ, 舂後舂 内: 回転テ, 同心円当具痕	N6/ 灰		6C中頃～後半
43	23	48	須恵器	甗	4	157土坑	17.40	—	(13.90)	30	外: 回転テ, 平行舂後回転テ 内: 回転テ, 同心円当具痕	10Y7/1 灰白		
44	23	49	須恵器	壺	4	238土坑	[18.00]	—	(11.00)	30	外: 回転テ, 回転ハツスリ (←) 内: 回転テ, テ	N7/ 灰白	外面剥落=被熱?	
45	23	49	須恵器	壺	4	239土坑	[18.60]	—	(9.80)	30	外: 摩滅, 内: 同心円当具痕 後テ	2.5Y7/2 灰黄		
46	23	48	須恵器	壺	4	202土坑	—	11.00	—	10	外: 回転テ後テ 内: 回転テ, テ	N5/ 灰	219土坑と接合	
47	—	48	須恵器	甗	⑭	532土坑	—	—	(14.10)	5	外: 舂後舂 内: 同心円当具痕	2.5Y5/2 暗灰黄		
48	24	49	須恵器	横瓶	4	422土坑	[30.00]	—	(23.10)	40	外: 回転テ, 平行舂後舂 内: 回転テ, 同心円当具 痕, テ	5PB5/1 青灰		
49	24	49	須恵器	鉢	4	362土坑	[28.00]	—	13.00	60	外: 舂, 格子状舂 内: 回転テ, 同心円当具痕	N6/1 灰		
50	24	49	須恵器	甗	6	399土坑	[26.40]	—	(14.50)	20	外: 格子状舂後一部テ消 し 内: 同心円当具痕, 底部に入 テ付着	10Y7/1 灰白		
51	24	49	須恵器	甗	(4)	473土坑	[26.60]	—	(22.50)	30	外: 格子状舂後回転テ 内: 同心円当具痕	N6/1 灰		
52	24	49	須恵器	甗	(2)	333土坑	—	—	(29.80)	20	外: 舂後舂テ, 底部に焼 き台痕跡 内: 同心円当具痕, 上部にテ 消し	N5/ 灰		
53	28	45	須恵器	杯B身	4	5層	—	[11.00]	—	10	内外回転テ, 削り出し高 台	N6/ 灰		
54	28	45	須恵器	杯H身	4	7層	[12.20]	—	(3.25)	5	内外回転テ	N6/ 灰		
55	28	45	須恵器	甗	4	7層	[22.00]	—	(4.80)	5	内外回転テ	N4/ 灰		6C後半?
56	33	50	須恵器	蓋	7	鉢4掘削	[9.00]	—	(2.10)	85	外: 回転ハツスリ後テ, 回転 テ, 内: 回転テ	N6/ 灰	拡張部	6C後半～ 7C前半
57	33	50	須恵器	杯G蓋	7	504柱穴	[11.00]	—	(1.35)	20	外: 回転ハツスリ(→), 回転テ 内: 回転テ	N6/ 灰	建物22(14-1), 飛鳥Ⅱ?	
58	33	50	須恵器	杯蓋	7	507柱穴	[20.40]	—	(1.40)	5	外: 回転ハツスリ(←), 回転テ 内: 回転テ	N6/ 灰	建物1, 飛鳥Ⅲ	
59	33	50	須恵器	杯G身	7	鉢4掘削	[9.00]	—	(3.30)	40	外: 回転テ, ハツ切り後テ 内: 回転テ	7.5Y6/1 灰	拡張部	7C後半
60	33	50	須恵器	杯G身	7	506柱穴	—	[4.60]	(2.50)	10	外: 回転テ・ハツスリ, 底部 静止テ消し, 内: 回転テ	5Y6/1 灰	建物1, 飛鳥Ⅱ～ Ⅲ?	
61	33	50	土師器	杯C	7	鉢4掘削	[17.02]	—	(4.90)	25	外: 摩滅, 内: 放射状暗文	7.5YR6/6 橙	拡張部	7C後半?
62	33	50	土師器	脚杯	7	505柱穴	—	[5.00]	(2.60)	10	内外摩滅	10YR6/6 明黄褐	建物22(14-1)	
63	33	50	須恵器	長頸壺	7	鉢4掘削	[6.00]	—	(13.30)	20	内外自然袖付着, 外: 回転 テ, 成形時ねじり上げ, 内: 回転テ, テ	7.5Y4/1 灰	拡張部	7C後半～ 8C
64	33	50	須恵器	短頸壺	7	鉢4掘削	[10.20]	—	(11.20)	20	外: 平行舂後回転テ, 回 転ハツスリ(←), 沈線1条, 内: 回転テ	5Y7/1 灰白	拡張部	
65	33	50	須恵器	鉢	7	鉢4掘削	[26.80]	—	12.20	50	外: 舂, 回転ハツスリ(←), 沈 線2条 内: 回転テ, 摩滅	2.5Y7/2 灰黄	拡張部	
66	—	50	石	根石	7	507柱穴	7.70	15.80	7.30	100			建物1, 重さ1,450g	

写 真 图 版

1. 土層断面
(4トレンチ東路北壁)
(南東から)



2. 土層断面
(4トレンチ西部北壁)
(北から)



3. 土層断面
(4トレンチ西部北壁)
(北西から)



図版 2

土層断面



1. 土層断面
(4トレンチ西部北壁)
(北から)



2. 土層断面
(4トレンチ西部北壁)
(北から)



3. 土層断面
(4トレンチ西部北壁)
(北西から)

1. 旧東海道線 2 溝近接
(1 トレンチ)
(南西から)



2. 旧東海道線・土層断面
(1 トレンチ) (南から)

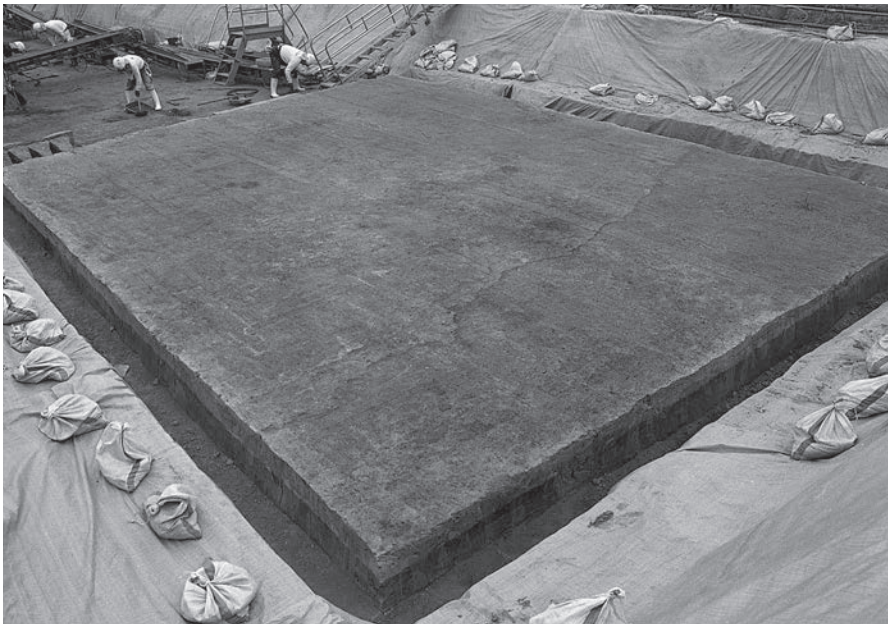


3. 坪境・1 溝断面
(1 トレンチ) (西から)

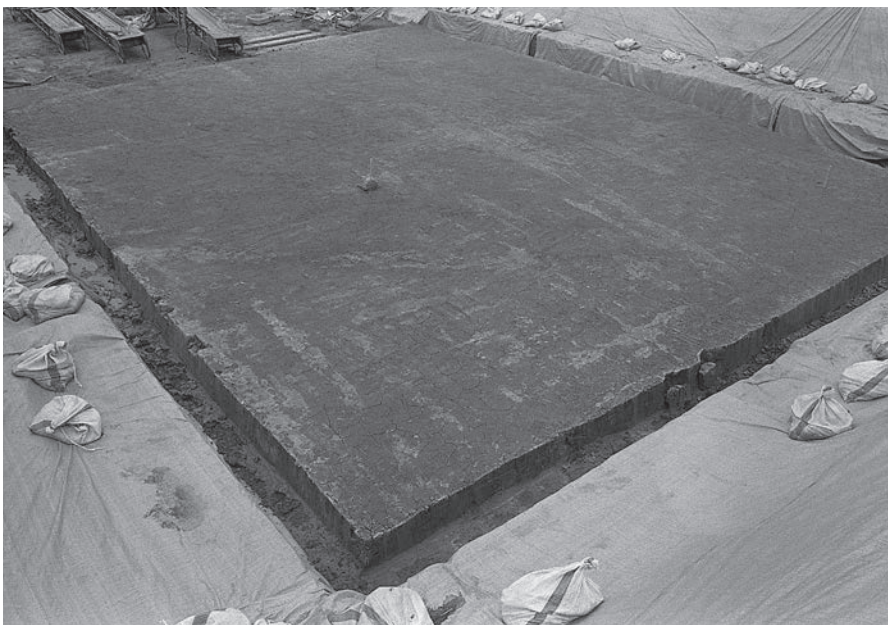


図版 4

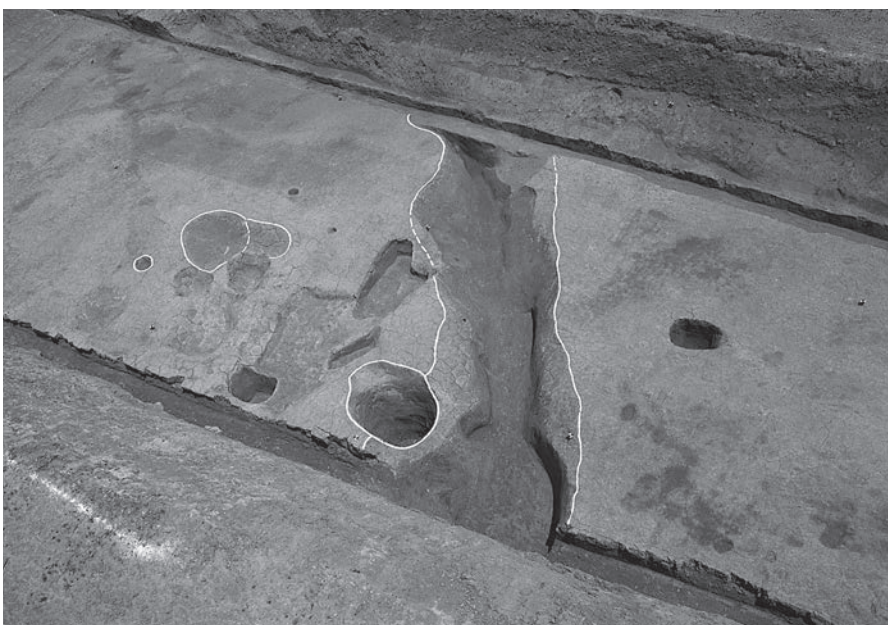
1
ト
レ
ン
チ



1. 第1層下面
(1トレンチ北部)
(北から)



2. 第3層下面
(1トレンチ北部)
(北から)



3. 4溝・3井戸近接
(1トレンチ)
(南西から)



1. 遺構全景 (1トレンチ)
(南東から)



2. 3井戸断面
(1トレンチ)
(南西から)



3. 4溝断面 (1トレンチ)
(南西から)

図版 6

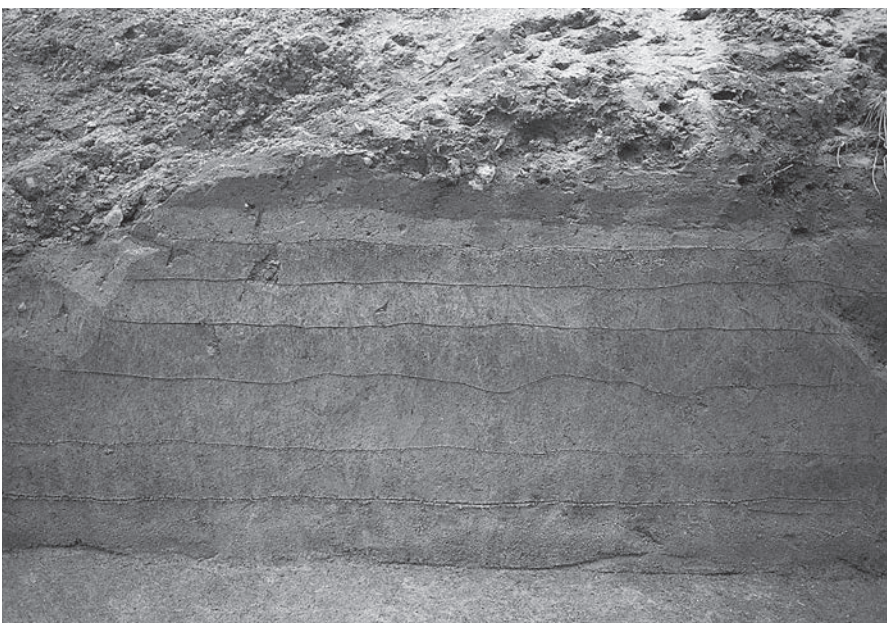
①
・
③
・
④
トレンチ



1. 520溝近接、北壁断面
(①トレンチ)
(南東から)



2. 遺構全景 (③トレンチ)
(東から)



3. 北西壁断面 (④トレンチ)
(南東から)



1. 第2・3層下面
(⑥トレンチ)
(南西から)



2. 528・529溝検出状況
(⑥トレンチ)
(南から)

図版 8

⑥
・
⑤
トレンチ



1. 528・529溝近接、
531流路検出状況
(⑥トレンチ)
(南から)



2. 529溝検出状況
(⑤トレンチ)
(西から)



3. 529溝近接 (⑤トレンチ)
(北から)



1. 遺構全景 (⑥トレンチ)
(南西から)



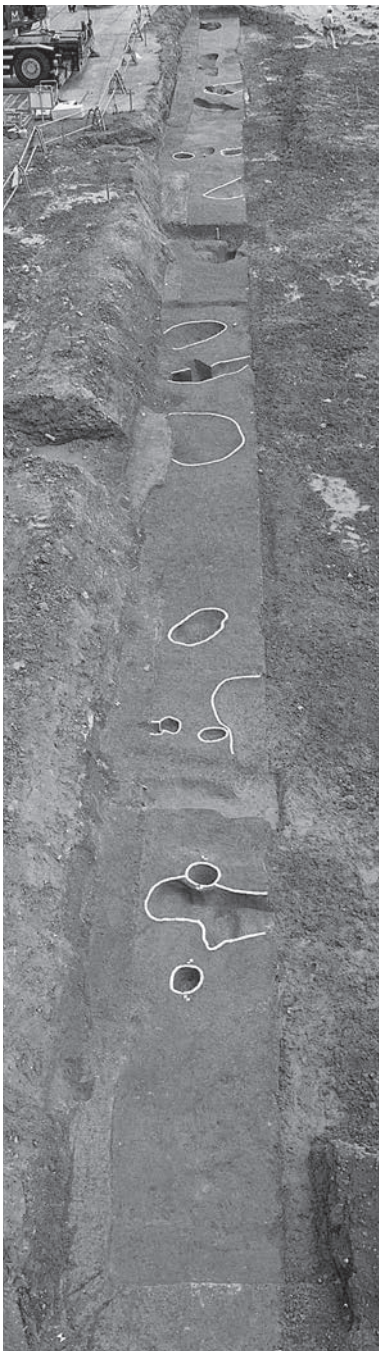
2. 531流路近接 (⑥トレンチ)
(東から)

図版 10

⑤
・
(1)
・
(5)
・
2
トレンチ



1. 531流路近接
(⑤トレンチ)
(北西から)



3. 遺構全景 ((1)トレンチ)
(南西から)



4. 遺構全景 ((5)トレンチ)
(北東から)

2. 遺構全景 (2トレンチ) (南西から)

1. 70・71ピット検出状況
(2トレンチ) (南から)



2. 70・71ピット周辺近接
(2トレンチ) (南から)



3. 遺構全景 ((6)トレンチ)
(西から)

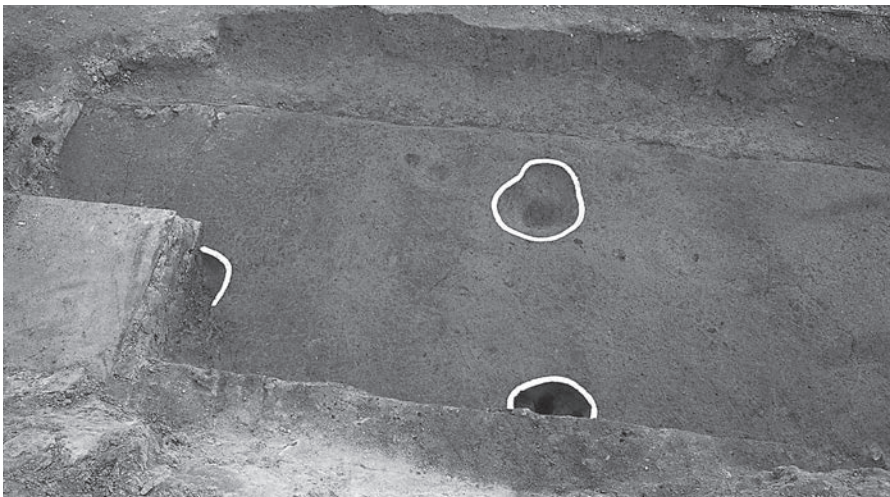


図版 12

⑪・⑩トレンチ



1. 遺構全景 (⑪トレンチ)
(南西から)



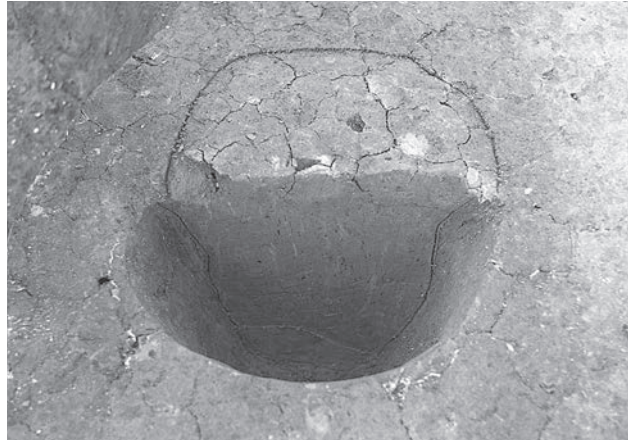
2. 524・527ピット
(⑪トレンチ)
(北西から)



3. 遺構全景 (⑩トレンチ)
(西から)



1. 71ピット断面 (2トレンチ) (南東から)



2. 70ピット断面 (2トレンチ) (南東から)

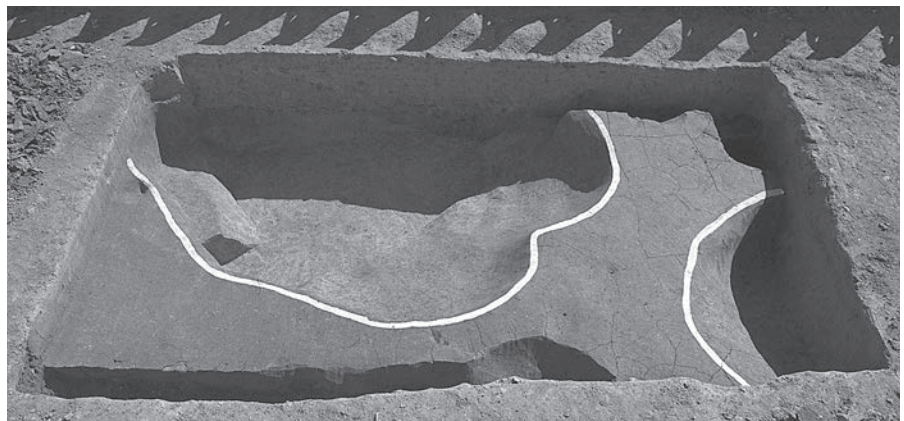


3. 438ピット断面 ((6)トレンチ) (南東から)



4. 79土坑断面 (2トレンチ) (南東から)

5. 遺構全景 (⑧トレンチ)
(北西から)



6. 遺構全景 (⑨トレンチ)
(北西から)



図版 14

⑨・3トレンチ

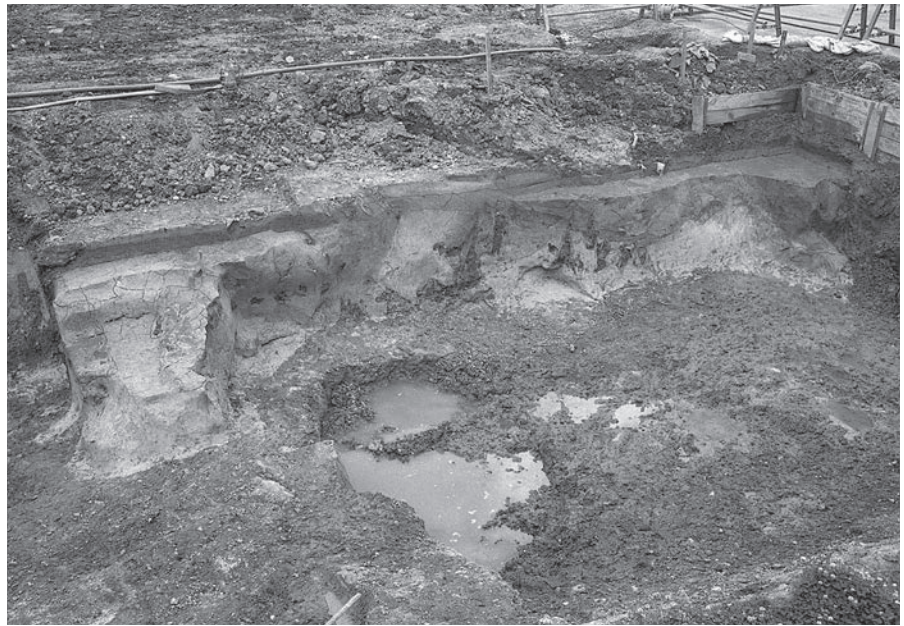


1. 523犁溝断面
(⑨トレンチ)
(南東から)



2. 遺構全景 (3トレンチ)
(南西から)

1. 群集土坑検出状況
(3トレンチ) (北から)



2. 10土坑断面・遺物出土
状況 (3トレンチ)
(北から)



3. 第1層下面
(4トレンチ東部)
(北東から)



図版 16

4
・
(2)
・
(3)
トレンチ



1. 群集土坑検出状況
(4トレンチ東部)
(北東から)



2. 群集土坑検出状況
(2トレンチ)
(北東から)



3. 群集土坑検出状況
(3トレンチ)
(北東から)

1. 群集土坑検出状況
(4)トレンチ)
(北東から)



2. 遺構全景
(4トレンチ東部)
(西から)



3. 遺構全景 ((2)トレンチ) (南西から)



図版 18

(3)
・
(4)
トレンチ



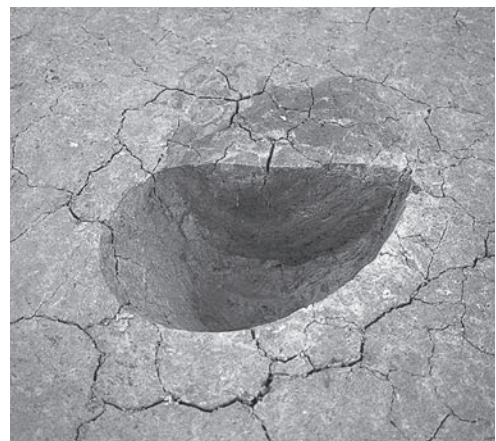
1. 遺構全景 ((3)トレンチ)
(南西から)



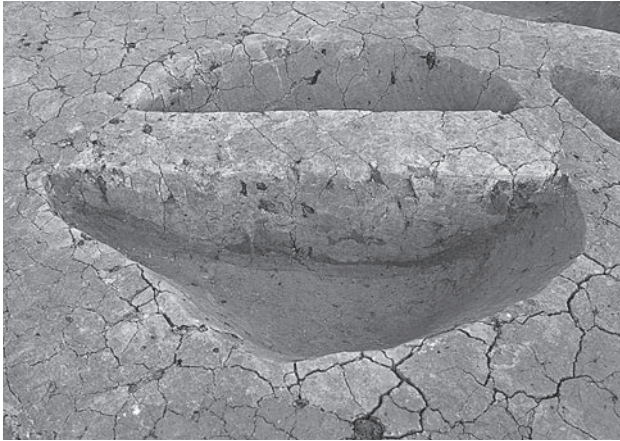
2. 遺構全景 ((4)トレンチ)
(西から)



3. 481~483ピット検出状況 ((4)トレンチ) (北西から)



4. 483ピット断面 ((4)トレンチ) (西から)



1. 485土坑断面 ((4)トレンチ) (西から)



2. 33土坑断面 (4トレンチ東部) (南西から)



3. 49土坑断面 (4トレンチ東部) (南東から)



4. 51土坑断面 (4トレンチ東部) (南から)



5. 56土坑断面 (4トレンチ東部) (南西から)



6. 56土坑遺物出土状況 (4トレンチ東部) (南から)



7. 332・333土坑検出状況 ((2)トレンチ) (南東から)



8. 333土坑遺物出土状況 ((2)トレンチ) (南から)

図版 20

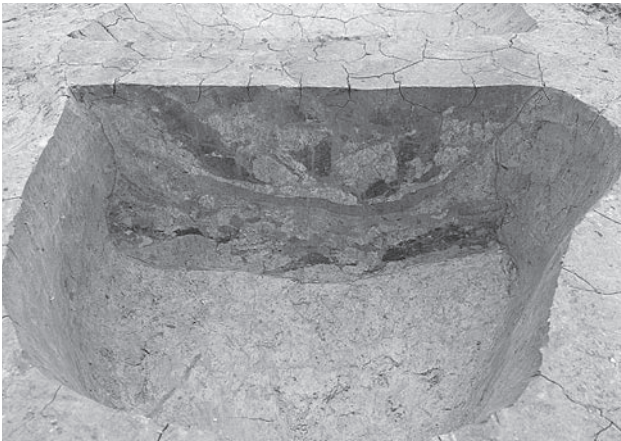
(2)
・
(3)
・
(4)
トレンチ



1. 349土坑断面 ((2)トレンチ) (南から)



2. 348土坑断面 ((2)トレンチ) (西から)



3. 422土坑断面 ((3)トレンチ) (西から)



4. 429土坑断面 ((3)トレンチ) (北西から)



5. 408土坑断面 ((3)トレンチ) (南から)



6. 421・408土坑断面 ((3)トレンチ) (東から)



7. 419・420土坑断面 ((3)トレンチ) (南から)



8. 427・462土坑断面 ((4)トレンチ) (北西から)



1. 413・414・431土坑断面 ((3)トレンチ) (南西から)



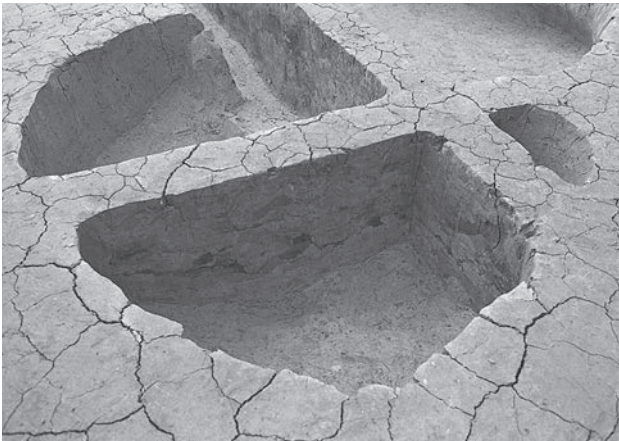
2. 413・414・431土坑断面 ((3)トレンチ) (東から)



3. 472土坑断面 ((4)トレンチ) (北西から)



4. 473・464土坑断面 ((4)トレンチ) (東から)



5. 491土坑断面 ((4)トレンチ) (北から)



6. 451・450土坑断面 ((4)トレンチ) (南から)



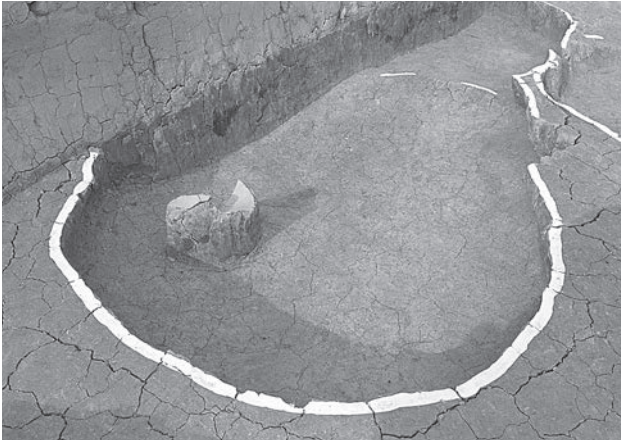
7. 422土坑遺物出土状況 ((3)トレンチ) (南から)



8. 466土坑遺物出土状況 ((4)トレンチ) (北から)

図版 22

4
・
(4)
ト
レン
チ



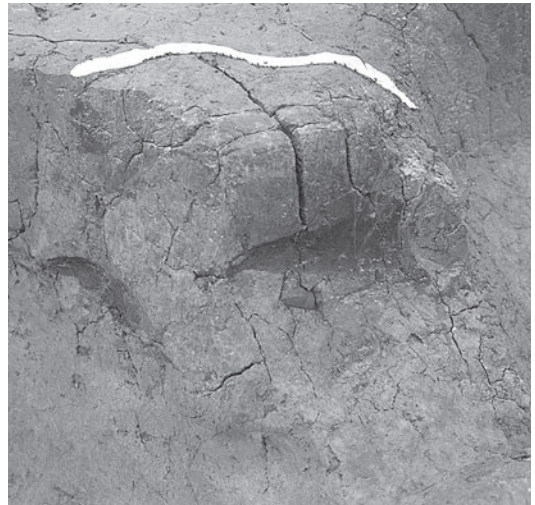
1. 445土坑遺物出土状況 ((4)トレンチ) (南から)



2. 473土坑遺物出土状況 ((4)トレンチ) (北から)



3. 489～491土坑検出状況 ((4)トレンチ) (南東から)



5. 39土坑遺物出土状況 (4トレンチ東部) (南西から)



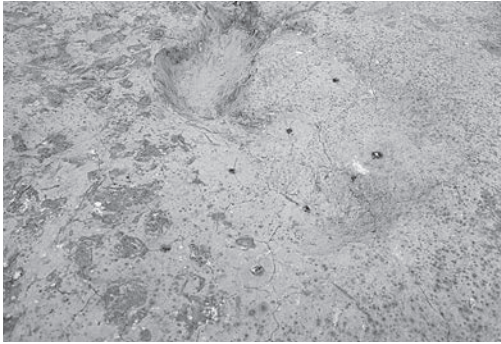
4. 489～491土坑断面 ((4)トレンチ) (西から)



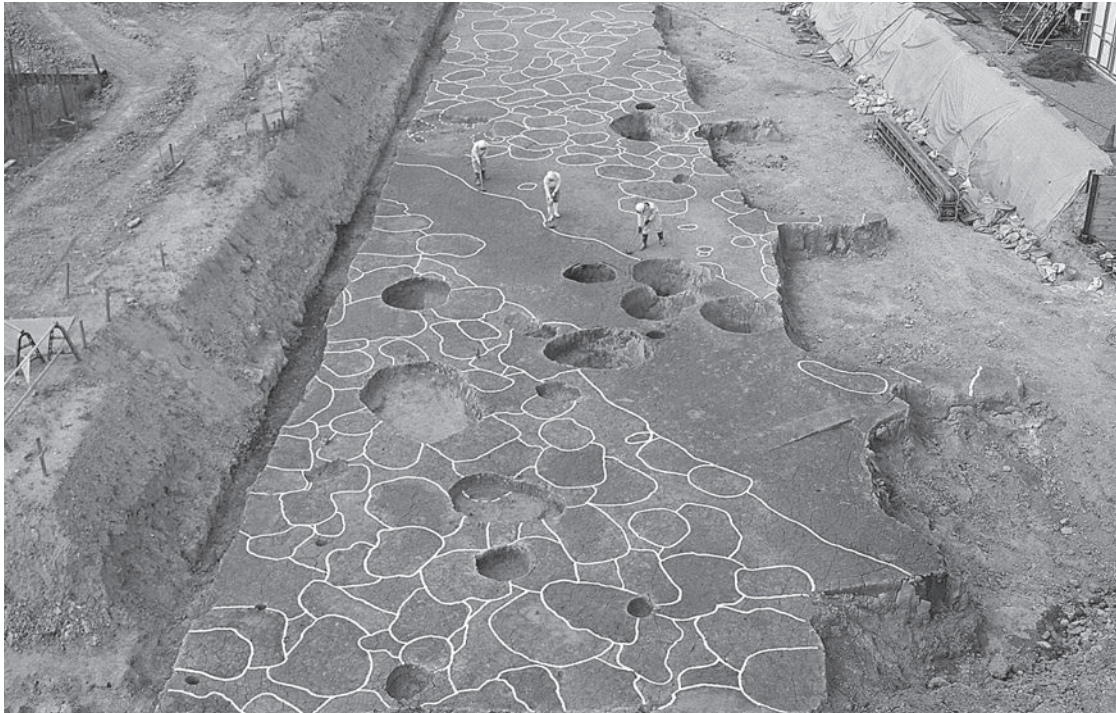
6. 81井戸断面 (4トレンチ中央) (南から)



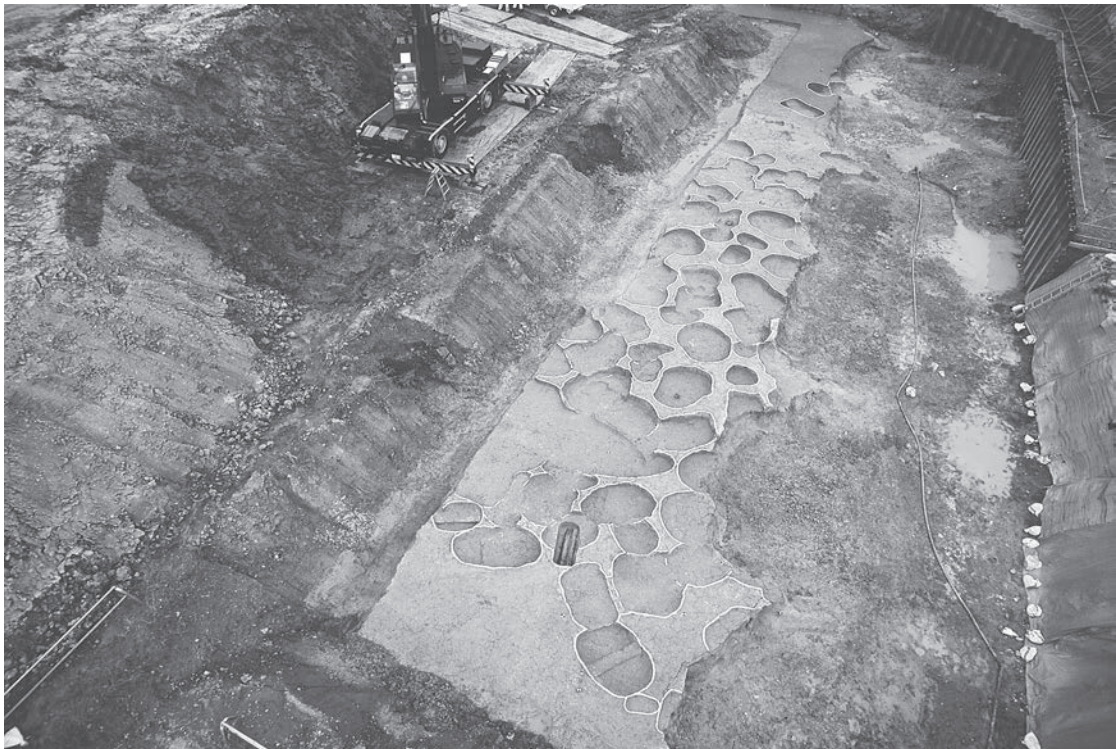
7. 62井戸断面 (4トレンチ中央) (南から)



1. 杭列検出状況(4トレンチ西部)(北東から) 2. 遺構全景(4トレンチ拡張部)(南西から)



3. 群集土坑・83溝検出状況(4トレンチ中央)(北東から)



4. 遺構全景(4トレンチ西部)(南東から)

図版 24

4
ト
レ
ン
チ



1. 83溝周辺近接 (4トレンチ中央) (南から)



2. 83溝断面 (4トレンチ中央) (北から)



3. 149・153・154・156~159土坑断面 (4トレンチ中央) (西から)



1. 263土坑断面 (4トレンチ中央) (北東から)



2. 158・159土坑断面 (4トレンチ中央) (北から)



3. 158・159土坑断面 (4トレンチ中央) (北西から)



4. 248土坑検出状況 (4トレンチ中央) (南西から)



5. 355土坑断面 (4トレンチ中央) (南から)



6. 358・321土坑断面 (4トレンチ中央) (南から)



7. 115~117・124土坑断面 (4トレンチ中央) (東から)



8. 100・94・93土坑断面 (4トレンチ中央) (北から)

図版 26

4
ト
レ
ン
チ



1. 161土坑断面（4トレンチ中央）（南東から）



2. 179土坑断面（4トレンチ中央）（南東から）



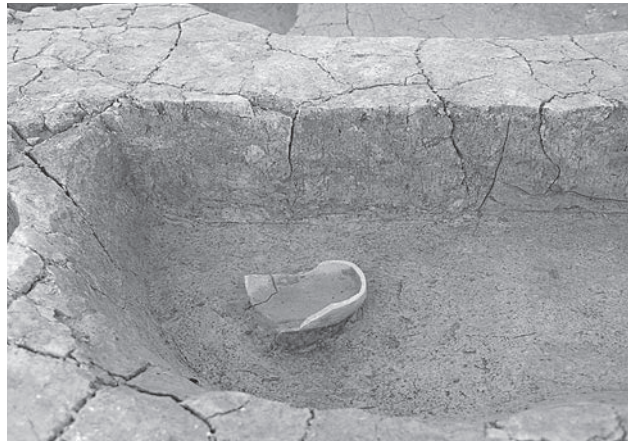
3. 361土坑断面（4トレンチ西部）（南から）



4. 362・363土坑断面（4トレンチ西部）（西から）



5. 362土坑遺物出土状況（4トレンチ西部）（西から）



6. 214土坑断面・遺物出土状況（4トレンチ中央）（西から）



7. 229・232土坑断面・遺物出土状況（4トレンチ中央）（西から）



8. 239土坑断面・遺物出土状況（4トレンチ中央）（南西から）



1. 238土坑断面・遺物出土状況(4トレンチ中央)(南西から)



2. 157土坑遺物出土状況(4トレンチ中央)(西から)



3. 303土坑断面・遺物出土状況(4トレンチ中央)(北東から)



4. 土層断面(⑰トレンチ)(南東から)



5. 第7-1層上面(⑰トレンチ)(南から)



6. 第7-2層上面(⑰トレンチ)(南から)



7. 第4層 257溝検出状況(4トレンチ西部)(南東から)



8. 第5層 533畦畔・足跡検出状況(4トレンチ西部)(南西から)

図版 28

5
ト
レン
チ



1. 第5層 遺構全景 (5トレンチ)
(南東から)



2. 畦畔痕跡検出状況 (5トレンチ)
(西から)



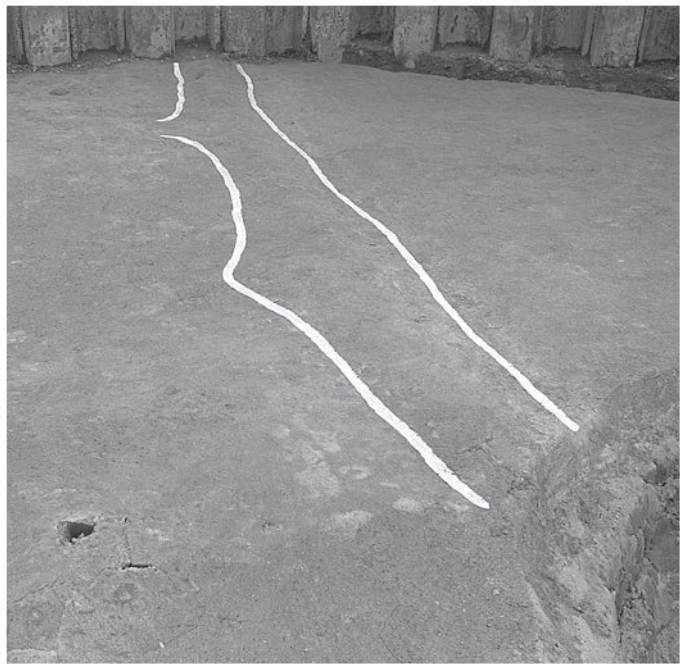
3. 534耕作痕検出状況 (5トレンチ) (南から)



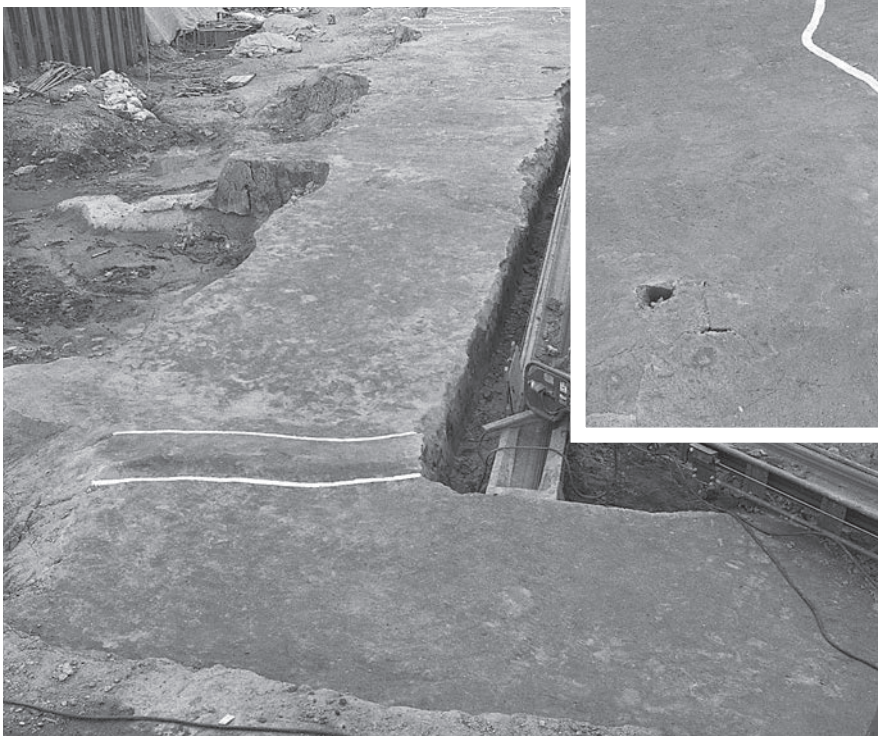
4. 534耕作痕・足跡近接 (5トレンチ) (南東から)



1. 第6層 遺構全景 (5トレンチ)
(南東から)



2. 308畦畔・足跡近接
(5トレンチ)
(北から)



3. 207畦畔・535浸食痕近接 (4トレンチ) (南西から)

図版 30

4・5トレンチ



1. 第7-1層 遺構全景 (5トレンチ) (南東から)



2. 537 浸食溝検出状況(4トレンチ)(北東から)



3. 足跡検出状況 (4トレンチ) (南から)



4. 538畦畔・539水口近接 (5トレンチ) (南西から)



1. 第7-2層 遺構全景
(5トレンチ) (南東から)



2. 540畦畔近接 (4トレンチ)
(南から)



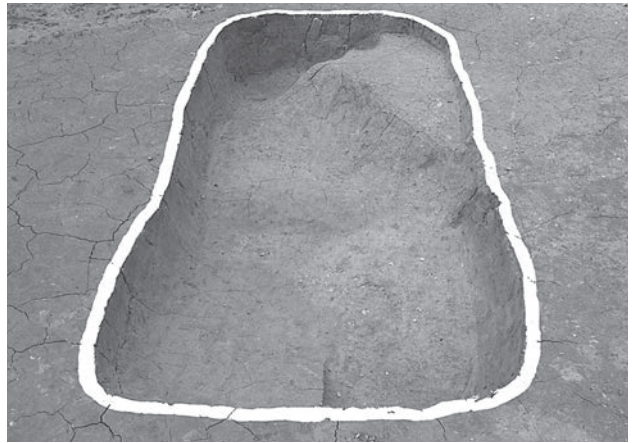
3. 540・541畦畔近接
(5トレンチ) (北西から)



1. 第8層 遺構全景 (4・5トレンチ) (南から)



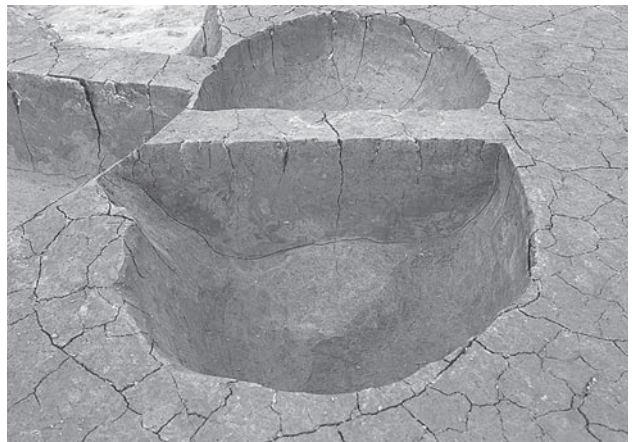
2. 378土坑断面 (4トレンチ) (南から)



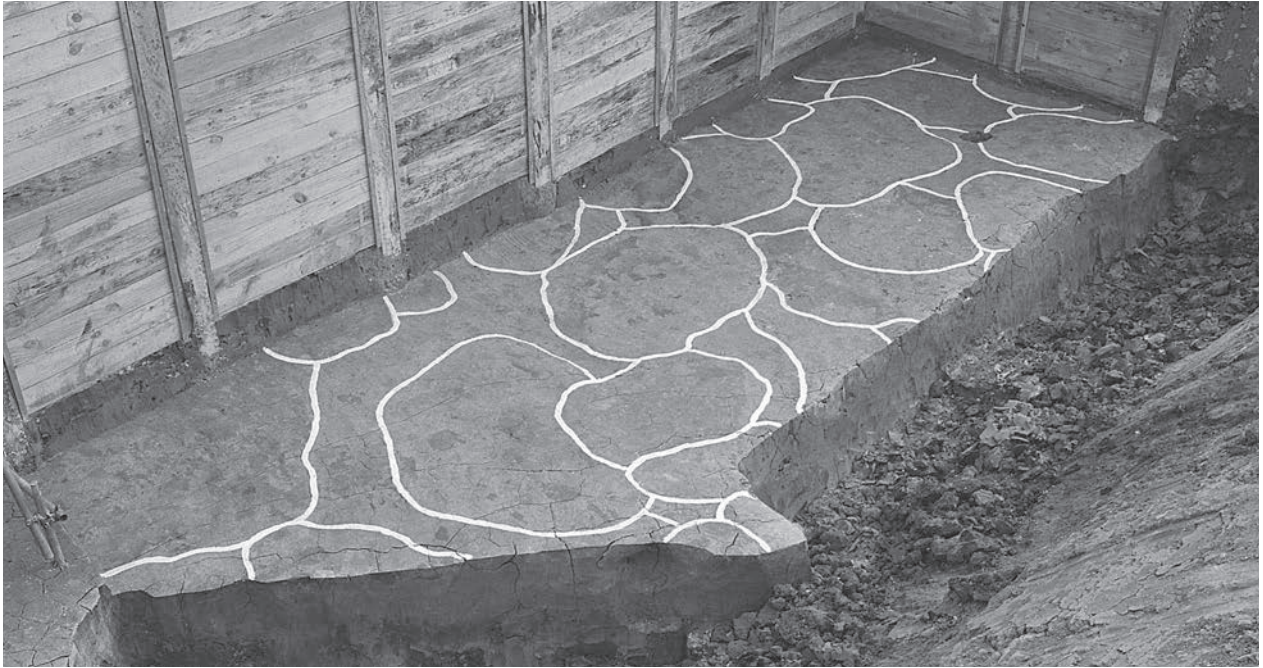
3. 378土坑近接 (4トレンチ) (南西から)



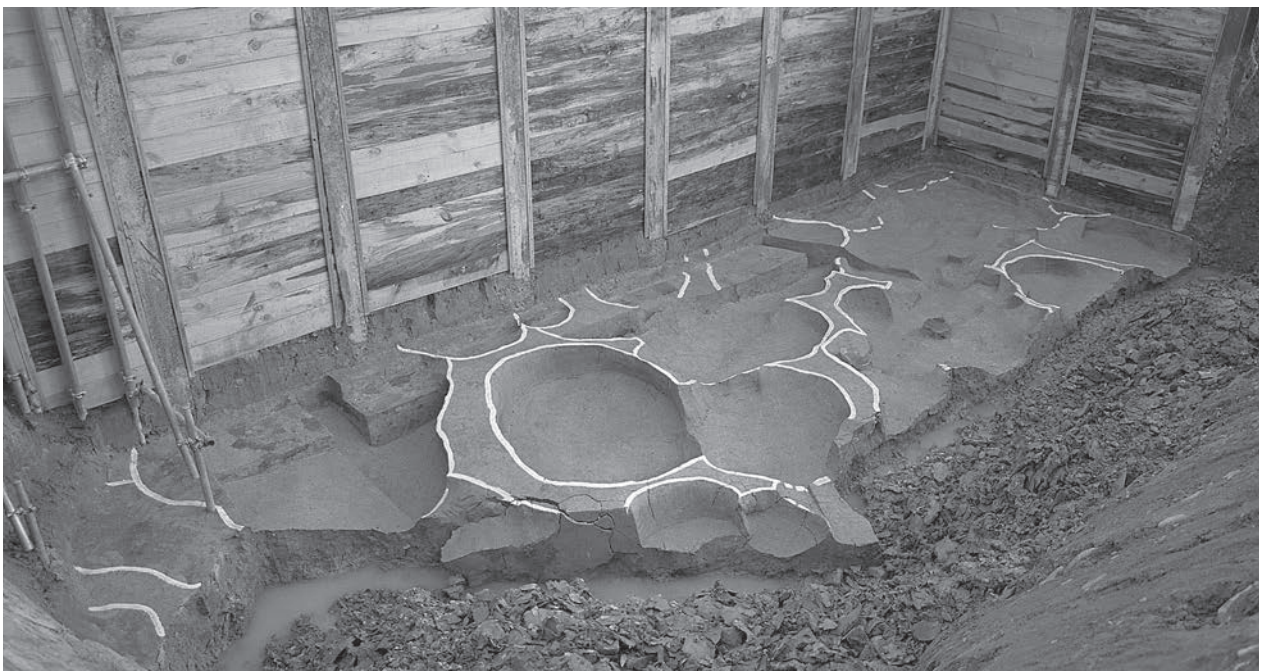
4. 380土坑断面 (4トレンチ) (南西から)



5. 379土坑断面 (4トレンチ) (南から)



1. 群集土坑検出状況（6トレンチ）（北から）



2. 遺構全景（6トレンチ）（北から）



3. 385土坑断面（6トレンチ）（西から）



4. 399土坑断面・遺物出土状況（6トレンチ）（西から）

図版 34

7
ト
レ
ン
チ



1. 遺構全景（7トレンチ東半）（西から）



2. 遺構全景（7トレンチ西半）（北東から）

1. 461井戸周辺 (7トレンチ)
(北西から)



2. 456井戸断面 (7トレンチ)
(北西から)



3. 461井戸断面 (7トレンチ)
(北西から)



図版 36

7
ト
レ
ン
チ



1. 501～503土坑検出状況
(7トレンチ)
(南西から)

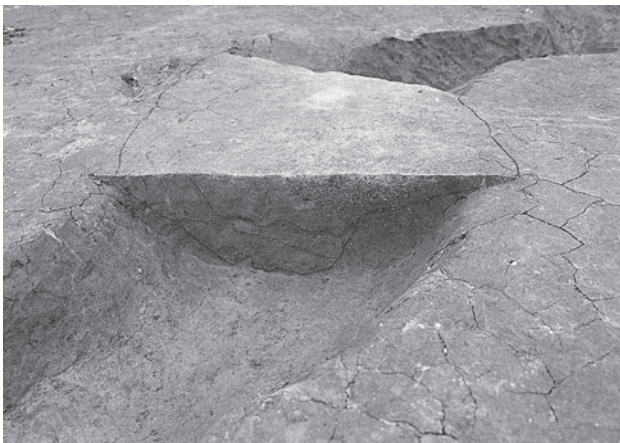
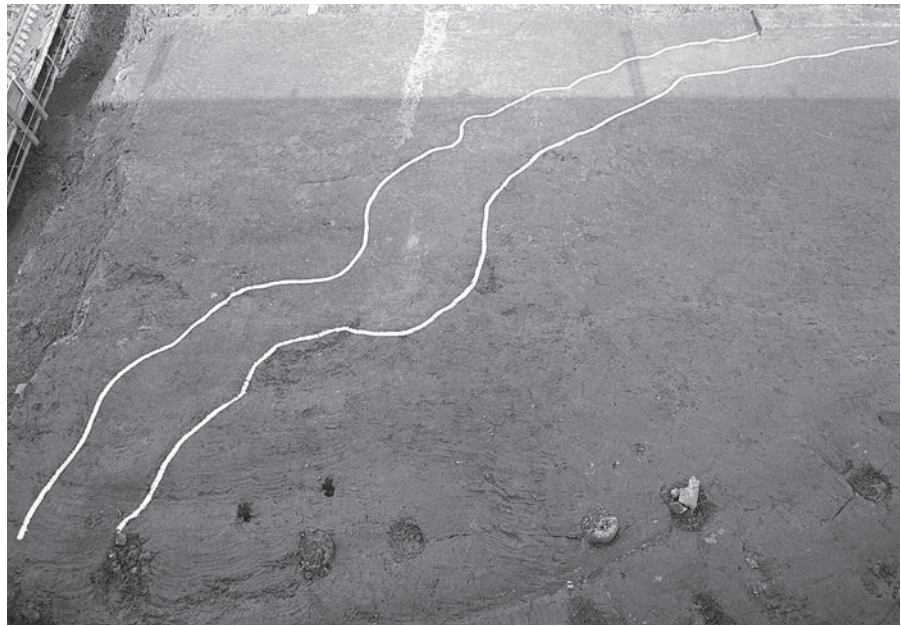


2. 501～503土坑断面
(7トレンチ)
(南西から)



3. 501～503土坑近接
(7トレンチ)
(南西から)

1. 500溝検出状況
(7トレンチ)
(南東から)



2. 500溝断面 (7トレンチ) (北西から)



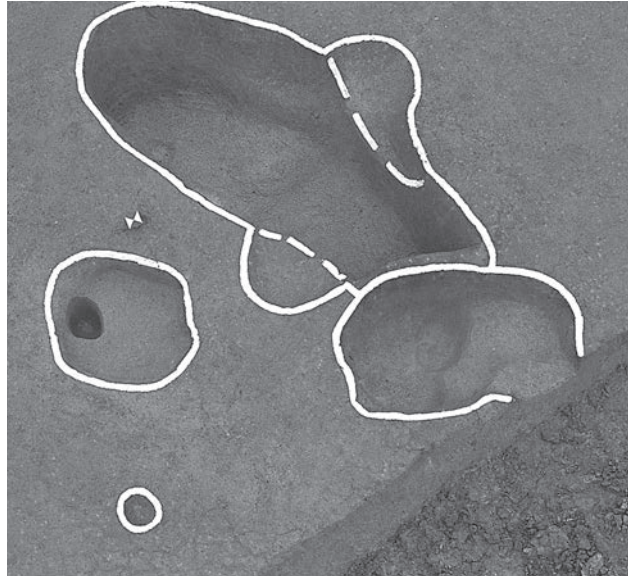
3. 513土坑断面 (7トレンチ) (北東から)



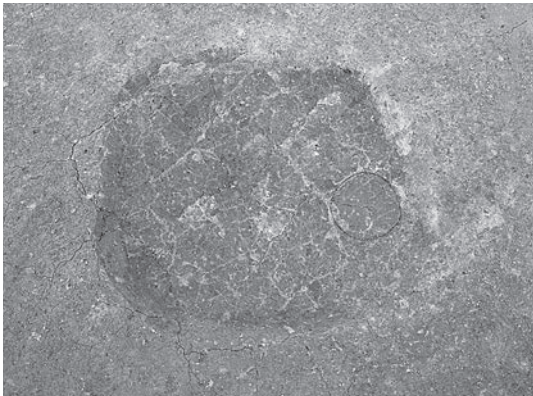
4. 掘立柱建物22・1周辺 (7トレンチ) (北から)

図版 38

7トレンチ
(掘立柱建物)

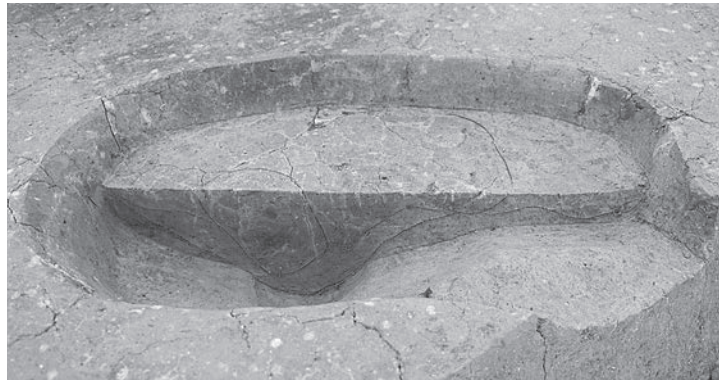


1. 掘立柱建物 22 検出状況 (7トレンチ) (北東から) 2. 掘立柱建物 22 近接 (7トレンチ) (北から)



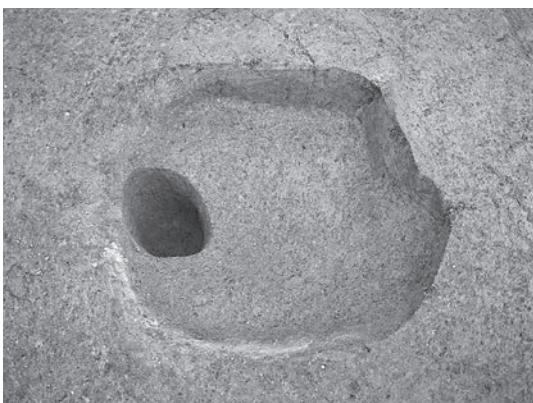
3. 504柱穴検出状況 (7トレンチ) (南から)

6. 505柱穴検出状況 (7トレンチ) (南から)



4. 504柱穴断面 (7トレンチ) (北から)

7. 505柱穴断面 (7トレンチ) (北から)



5. 504柱穴近接 (7トレンチ) (北から)

8. 505柱穴近接 (7トレンチ) (北から)



1. 掘立柱建物1 検出状況 (7トレンチ) (北から)



2. 506柱穴検出状況 (7トレンチ) (北から)



5. 507柱穴検出状況 (7トレンチ) (北から)



3. 506柱穴断面 (7トレンチ) (北から)



6. 507柱穴断面 (7トレンチ) (北から)



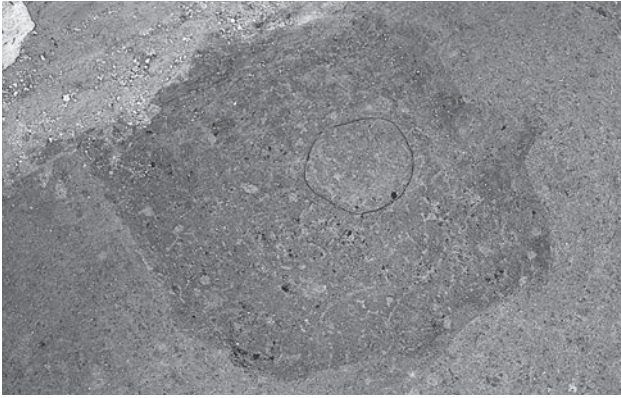
4. 506柱穴近接 (7トレンチ) (北から)



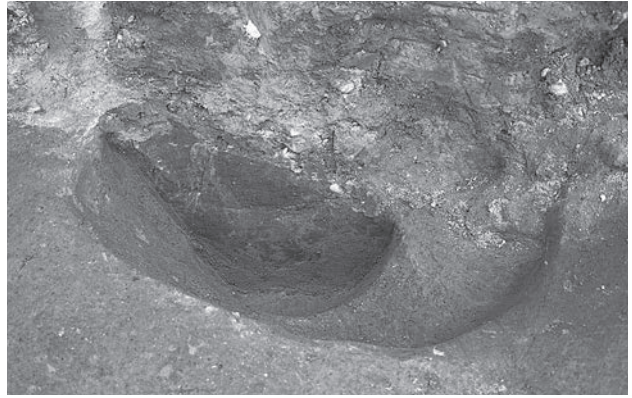
7. 507柱穴近接 (7トレンチ) (北から)

図版 40

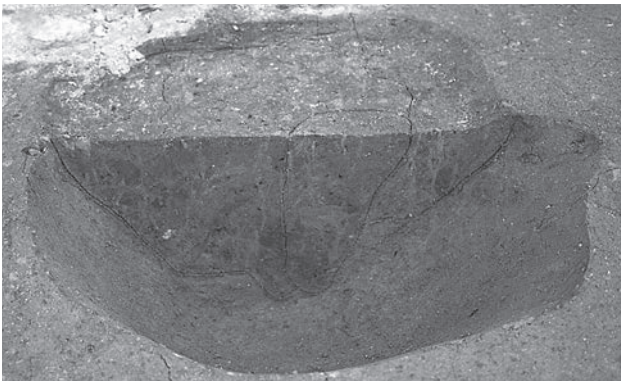
7トレンチ
(掘立柱建物)



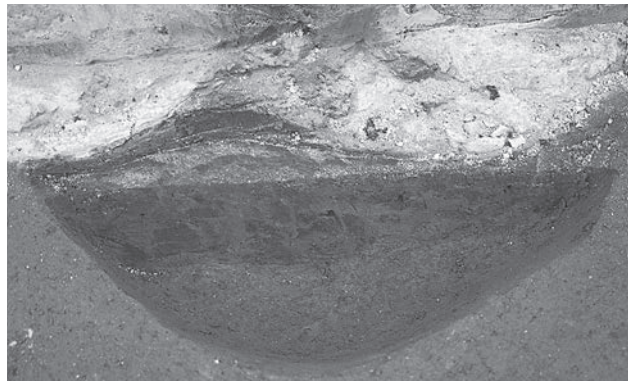
1. 510柱穴検出状況 (7トレンチ) (北から)



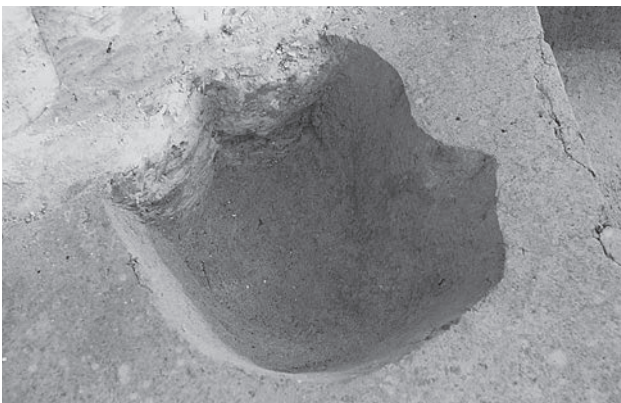
4. 508柱穴断面 (7トレンチ) (北から)



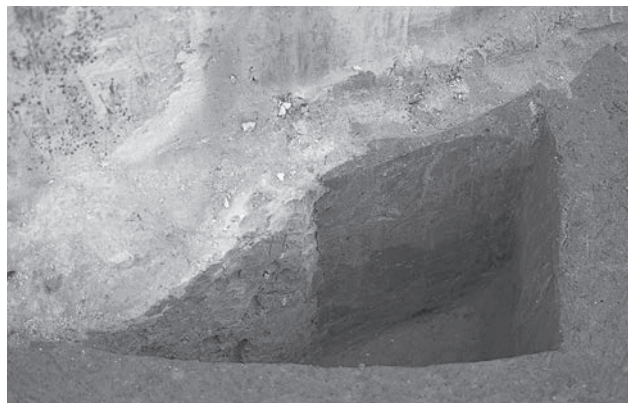
2. 510柱穴断面 (7トレンチ) (北から)



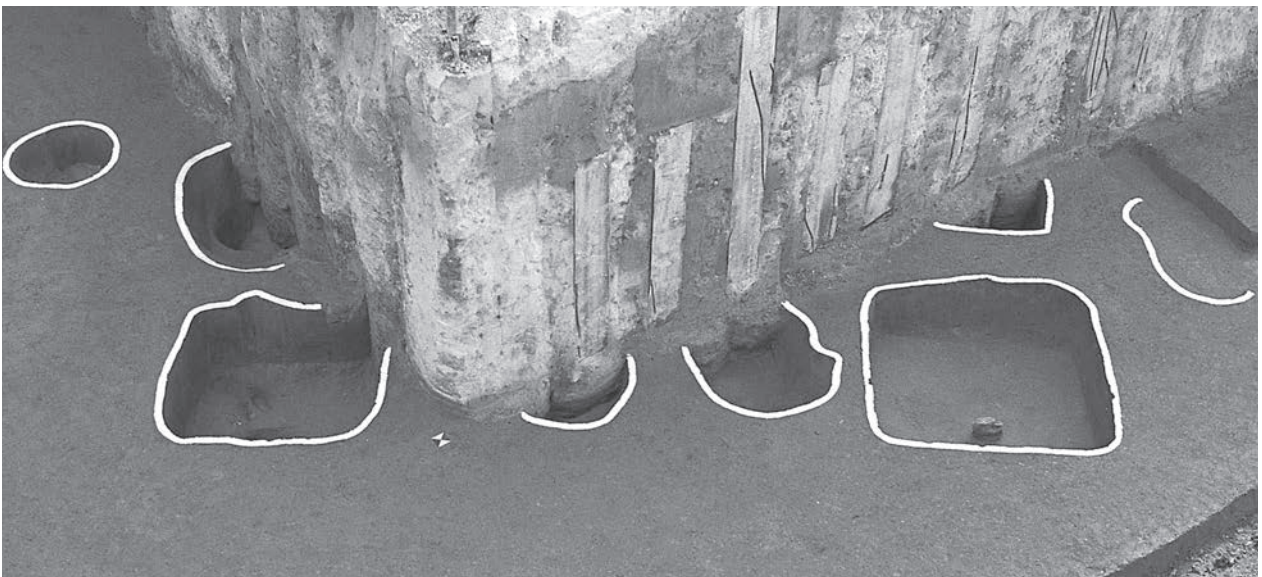
5. 509柱穴断面 (7トレンチ) (北西から)



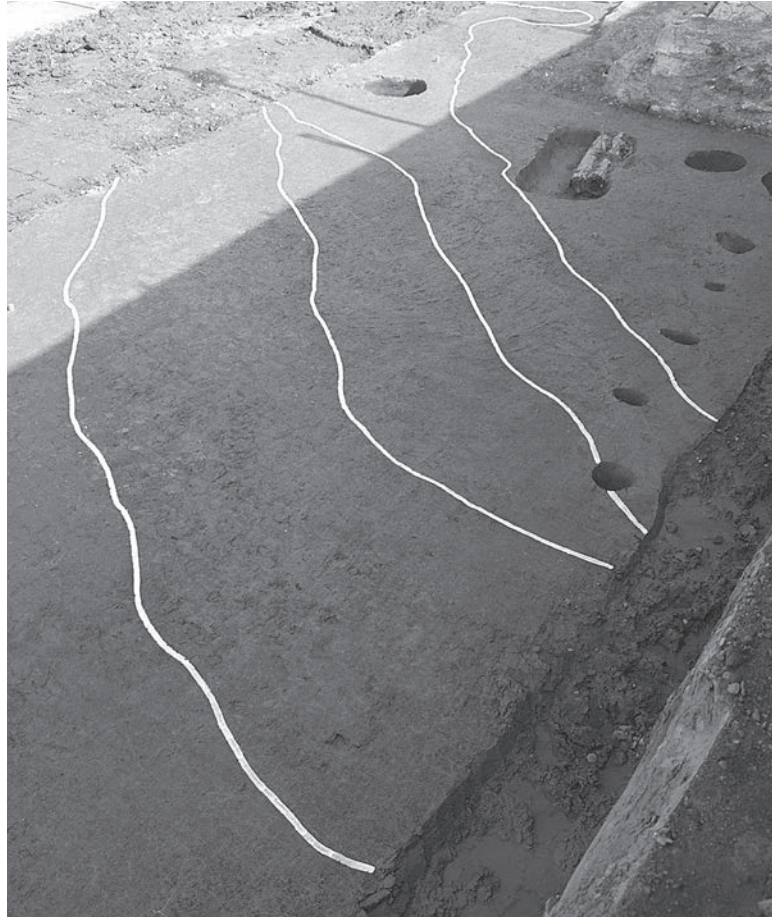
3. 510柱穴近接 (7トレンチ) (北から)



6. 511柱穴断面 (7トレンチ) (北から)



7. 掘立柱建物1完掘状況 (7トレンチ) (北から)



1. 遺構検出状況(7トレンチ拡張部)(南西から) 2. 498・499溝検出状況(7トレンチ)(南から)



3. 498・499溝近接(7トレンチ)(北から)

図版 42

7・^⑩トレンチ



1. 498溝断面 (7トレンチ)
(南から)



2. 499溝断面 (7トレンチ)
(南から)

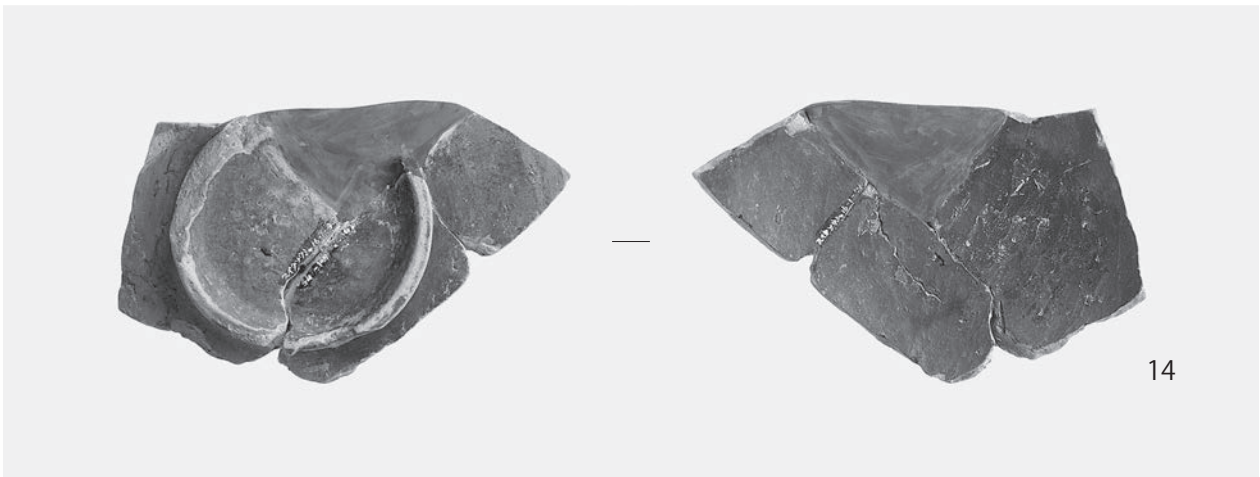
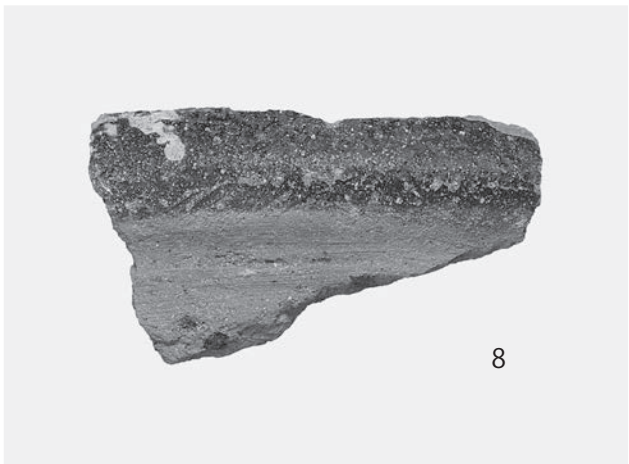
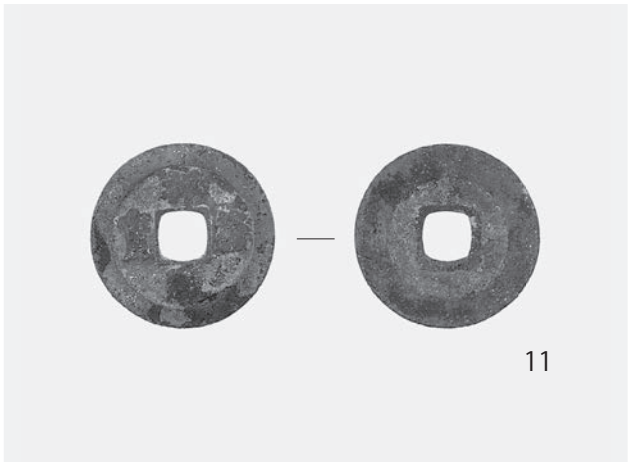


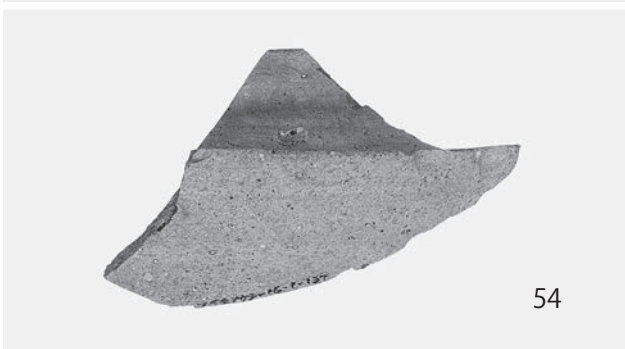
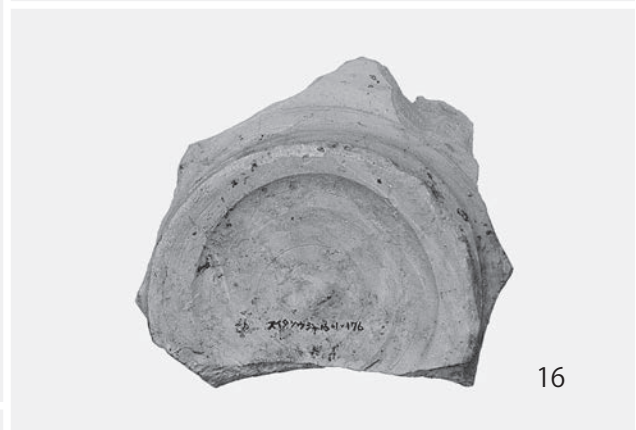
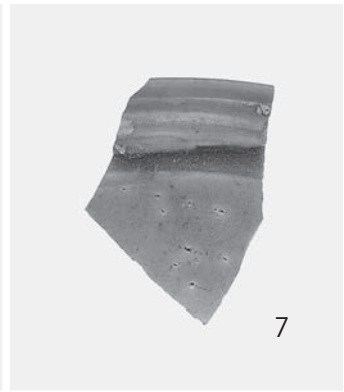
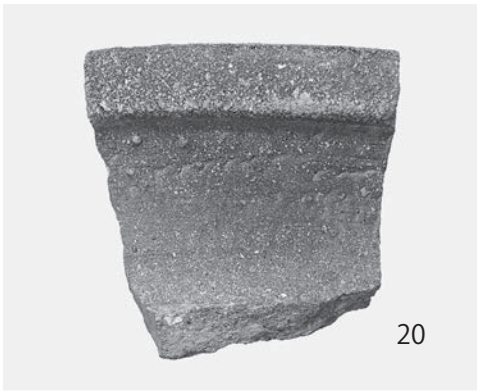
3. 遺構全景 (⑩トレンチ)
(南東から)



図版 44

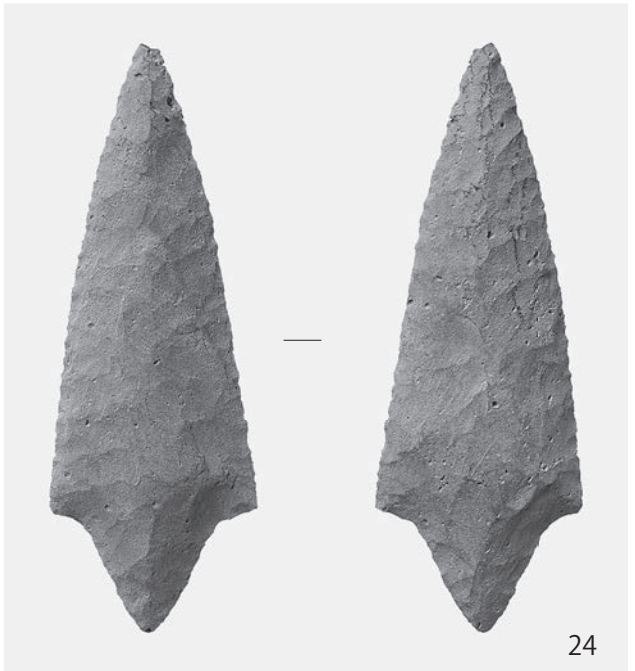
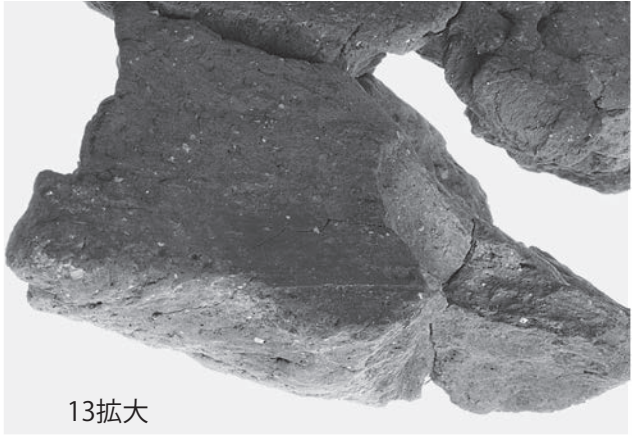
4
ト
レン
チ
出
土
遺
物





図版 46

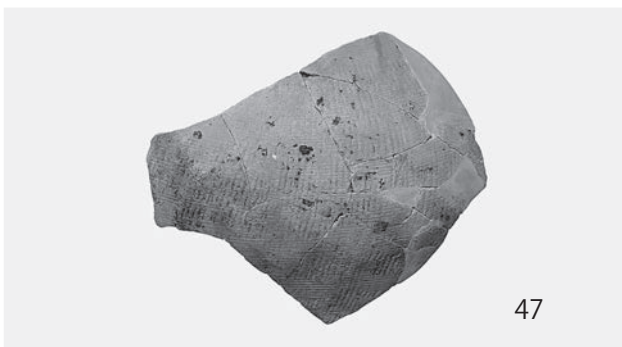
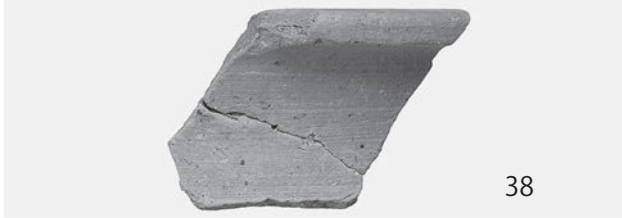
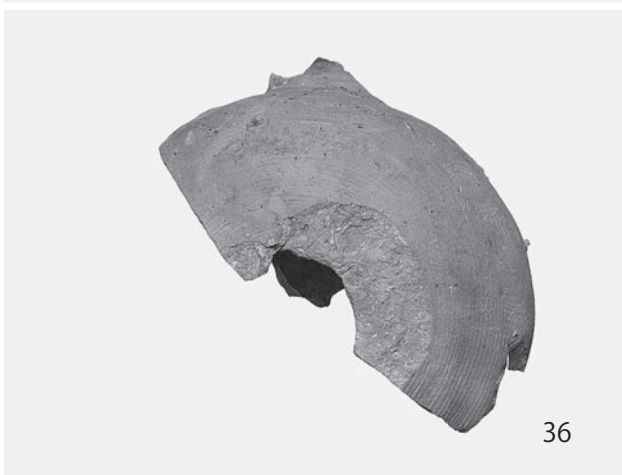
4
ト
レン
チ
出
土
遺
物

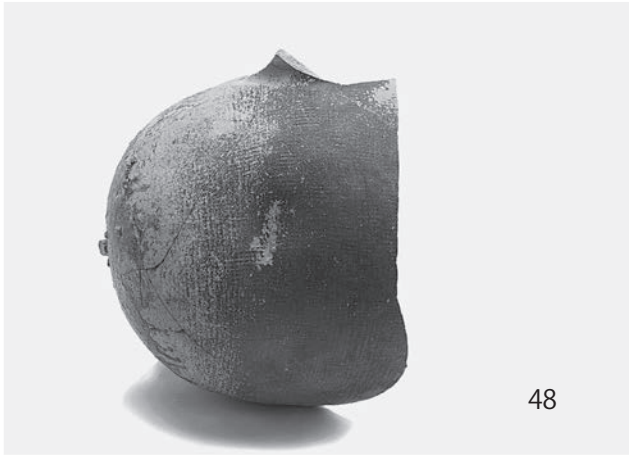




図版 48

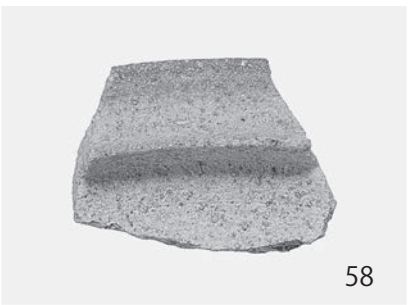
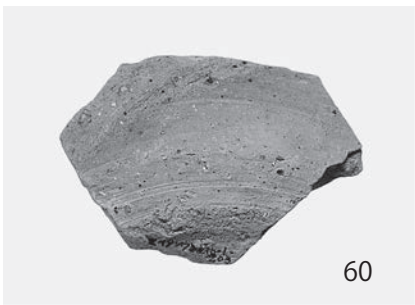
4・(2)・⑭トレンチ出土遺物





図版 50

フトレンチ出土遺物



報 告 書 抄 録

ふりがな	すいたそうしゃじょういせき 14						
書名	吹田操車場遺跡 14						
副書名	国立循環器病研究センター建替整備事業に伴う吹田操車場遺跡発掘調査						
巻次数							
シリーズ名	公益財団法人 大阪府文化財センター調査報告書						
シリーズ番号	第 284 集						
編著者名	亀井 聡、佐伯 博光						
編集機関	公益財団法人 大阪府文化財センター						
所在地	〒 590-0105 大阪府堺市南区竹城台 3 丁 21 番 4 号 Tel 072 - 299 - 8791						
発行年月日	2017 年 8 月 31 日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		緯度・経度	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡 番号			(㎡)	
すいたそうしゃじょう 吹田操車場 遺跡	おおさかふすいたし 大阪府吹田市 きしべしんまち 岸部新町	27205	73	北緯 34° 46'45.3" 東経 135° 32'28.3"	平成27年 5 月 9 日～ 平成27年 11 月 25 日	4,253	国立循環器病研究 センター建替整備
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項	
吹田操車場 遺跡	集落	縄文 弥生 古墳 古代 古中 世	耕作溝・坪境溝・畦畔・ 流路・溝・土坑・群集土坑・ 井戸・ピット・掘立柱建 物		陶磁器・輸入陶磁器・瓦器・ 黒色土器・緑釉陶器・土師 器・須恵器・瓦・土製品・ 銭貨・根石・石鏃・有舌尖 頭器・ナイフ形石器・馬歯・ 鉄滓	古墳時代後期以降に掘削さ れた群集土坑を約470基、 掘立柱建物の一部を検出し た。	
要 約	国立循環器病研究センター建替整備事業に伴う発掘調査の追加であり、現地では弥生時代の土坑や溝、古墳時代後期以降に掘削された群集土坑、飛鳥・奈良時代と思われる掘立柱建物、古代から中世にかけての耕作地等を確認し、平成26(2014)年度に実施した調査成果を拡充することができた。掘立柱建物で構成される飛鳥時代から平安時代にかけての集落では、新たな建物を検出し、その範囲や景観に関する新たな知見が得られた。また、今回の調査成果により、この区域でみつかった群集土坑の総数は2000基以上に達することが明らかとなった。						

公益財団法人 大阪府文化財センター発掘調査報告書 第 284 集

吹田操車場遺跡 14

国立循環器病研究センター建替整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

発行年月日／2017 年 8 月 31 日

編集・発行／公益財団法人 大阪府文化財センター
大阪府堺市南区竹城台 3 丁 21 番 4 号

印刷・製本／株式会社 明新社
奈良県奈良市南京終町 3 丁目 464 番地

